

本人調査 編

2 調査結果

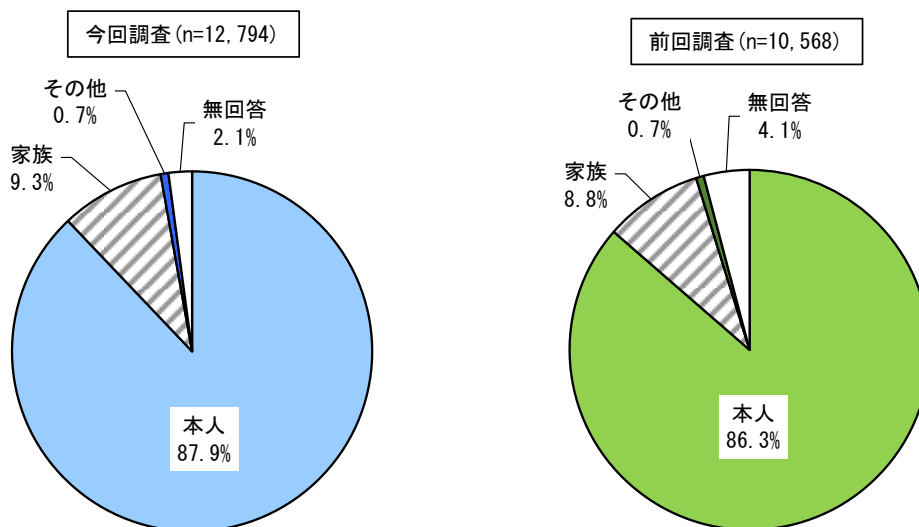
(1) 調査回答者の基本属性

問1 記入者

問 この調査票をご記入されるのはどなたですか。(○はひとつ)

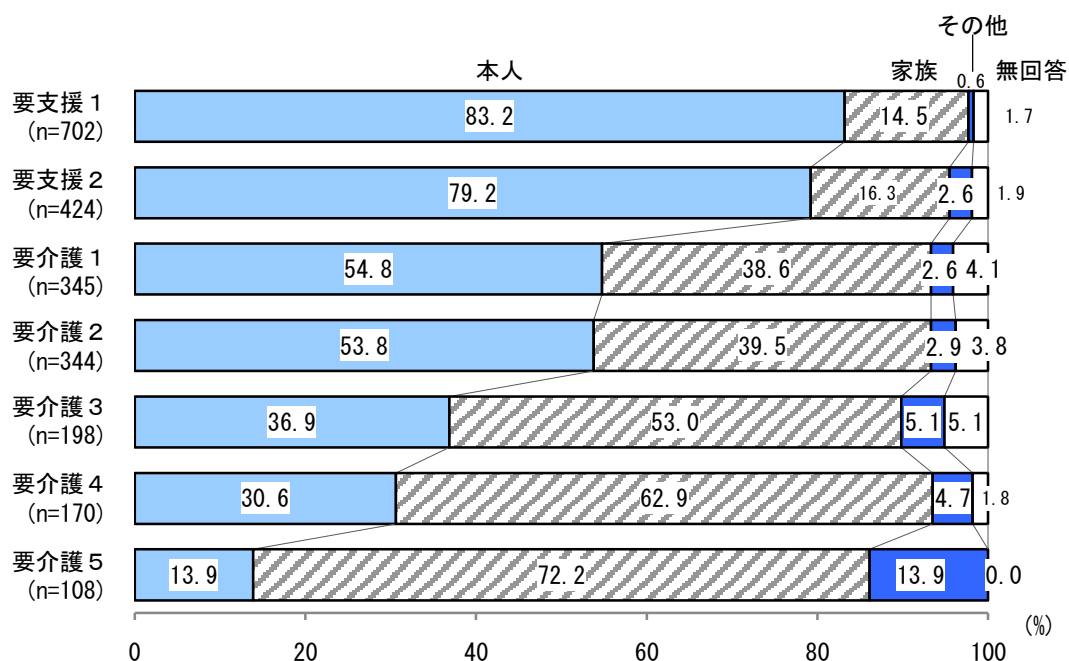
記入者は、「本人」が87.9%、「家族」が9.3%となっている。前回調査と同様に、8割以上の方は、ご本人が調査に協力いただいている。(問1)

【問1 記入者（経年比較）】



介護度別でみると、介護度が上がるほど「本人」が記入の割合は下がっており、要介護3以上では、5割以上の方が「家族」等の協力による回答となっている。(問1-a)

【問1-a 記入者（介護度別）】



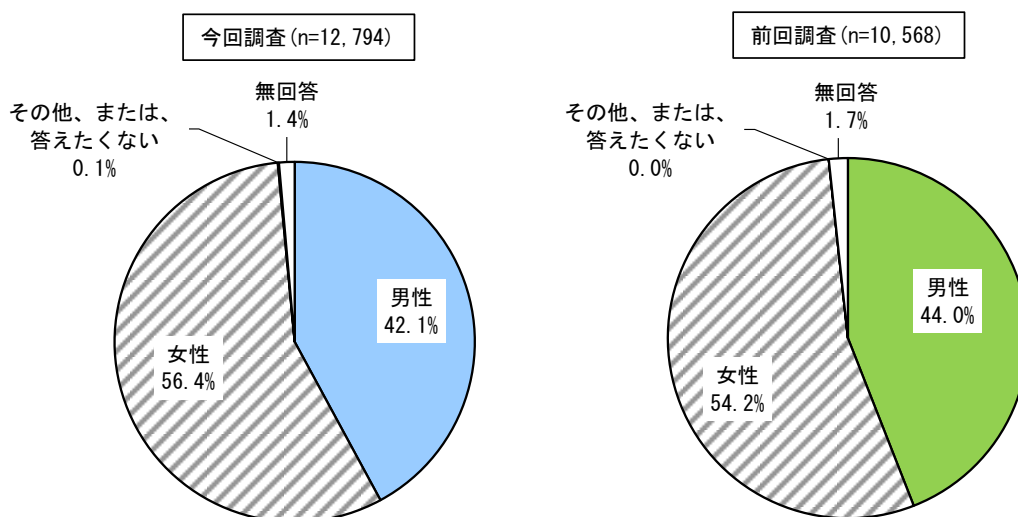
問 2（1） 本人の性別

あなた（あて名ご本人：以降の質問も同じ）の性別、年齢などについておうかがいします。
あなたの性別をお答えください。（○はひとつ）

本人の性別では、「男性」より「女性」のほうが多くなっている。

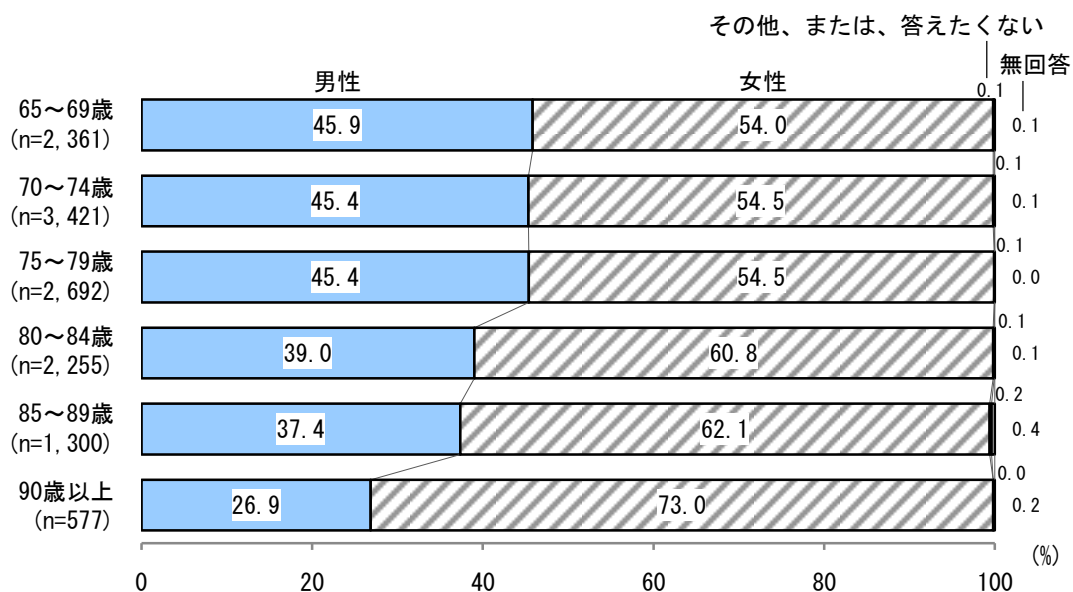
前回調査と比較すると、回答者の性別の割合は、概ね前回調査と同様となっている。（問2(1)）

【問 2(1) 本人の性別（経年比較）】



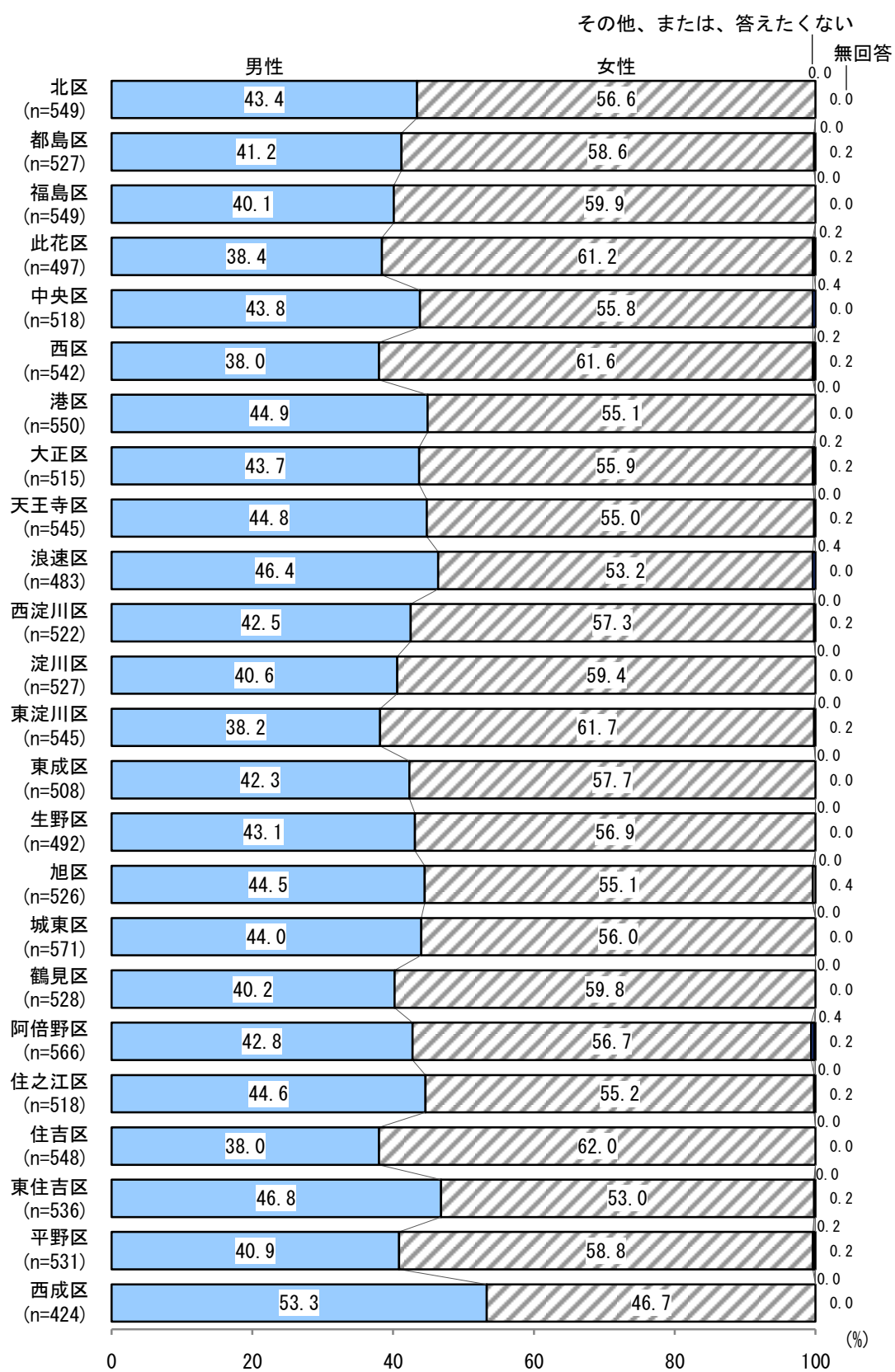
年齢別にみると、高齢になるほど、男性の割合が低くなっている。（問2(1)-a）

【問 2(1)-a 本人の性別（年齢別）】



居住区別でみると、男性は西成区（53.3%）で過半数を占めており、それ以外の区については女性のほうが多くなっている。（問2(1)-b）

【問 2 (1)-b 本人の性別（居住区別）】



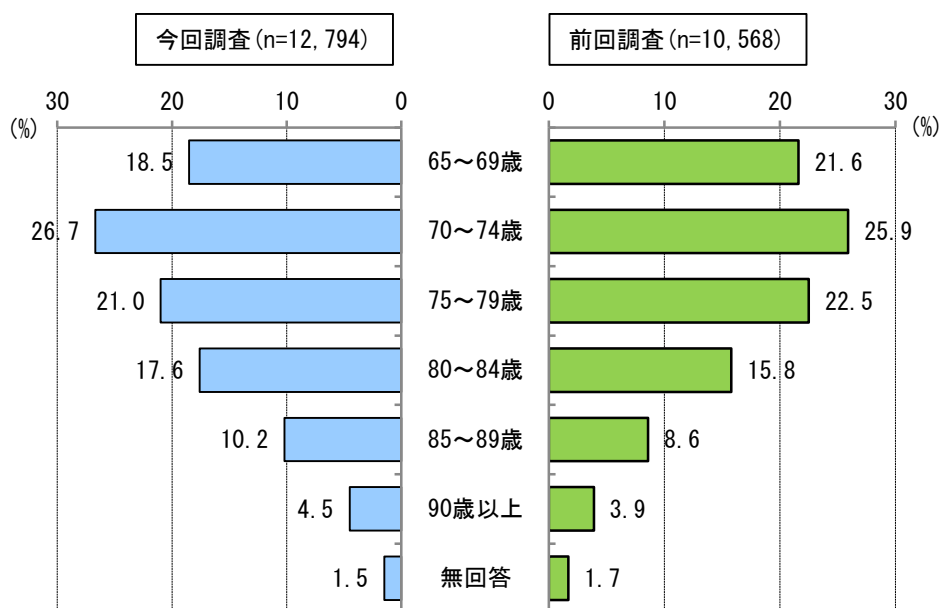
問 2（2） 本人の年齢

あなたの年齢をお答えください。（○はひとつ）

本人の年齢では、後期高齢者（75歳以上）が53.3%と5割を超えており、前期高齢者（65～74歳）は45.2%となっている。

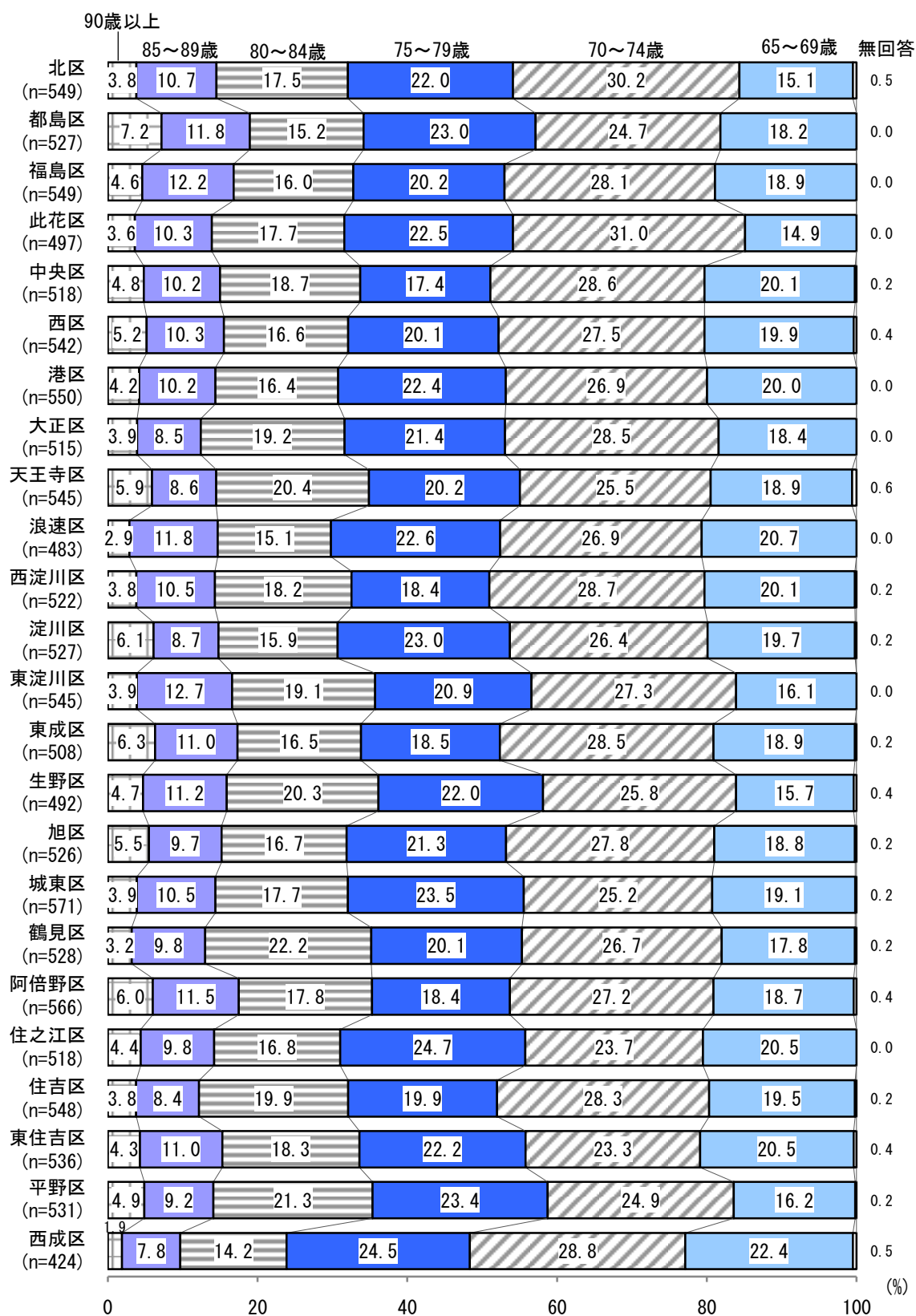
前回調査と比較すると、「65～69歳」の割合が減少し、80歳以上の年代の割合がやや増えており、平均年齢が上がっている。（問2(2)）

【問 2(2) 本人の年齢（経年比較）】



居住区別にみると、後期高齢者は平野区（58.8%）が最も高く、次いで生野区（58.2%）、都島区（57.2%）となっている。逆に後期高齢者の割合が最も低い区は、西成区（48.4%）で、次いで西淀川区（50.9%）、中央区（51.1%）となっている。（問2(2)-a）

【問2(2)-a 本人の年齢（居住区別）】

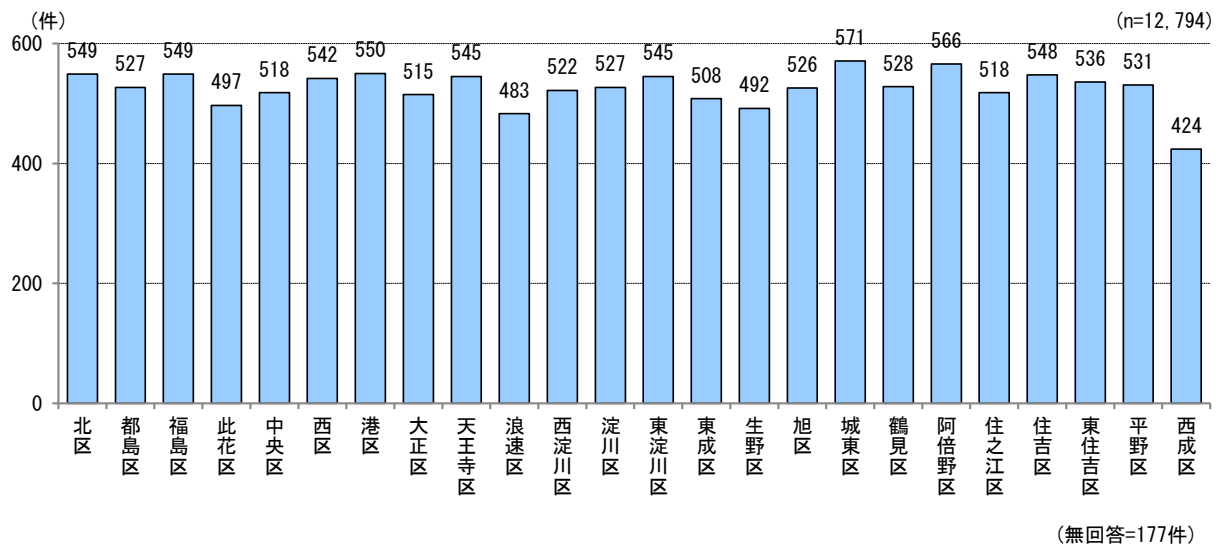


問 2（3） 居住区

あなたのお住まいの区はどちらですか。（○はひとつ）

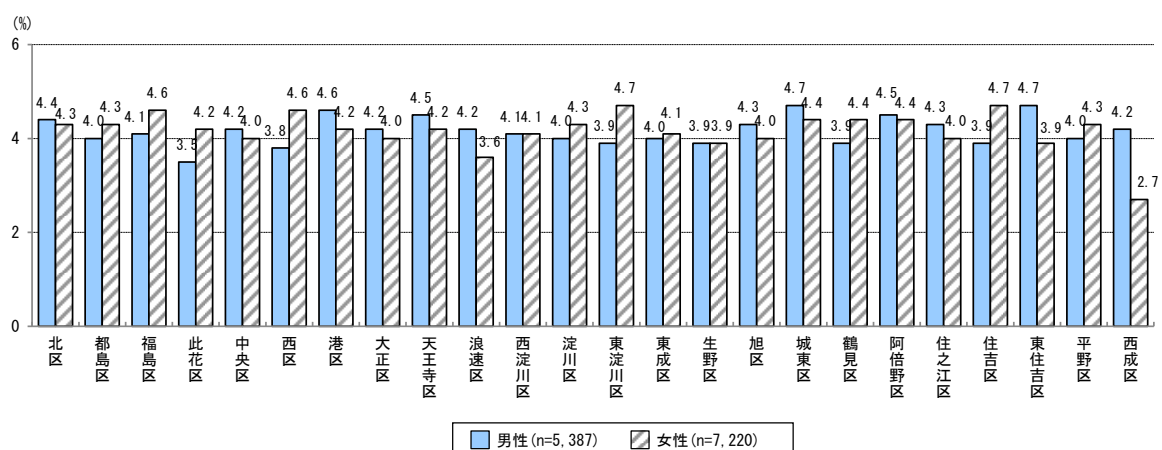
居住区では、24区別に500件程度の回答を得ているが、「西成区」（424件）の回答がやや少なくなっている。（問2(3)）

【問 2(3) 居住区】



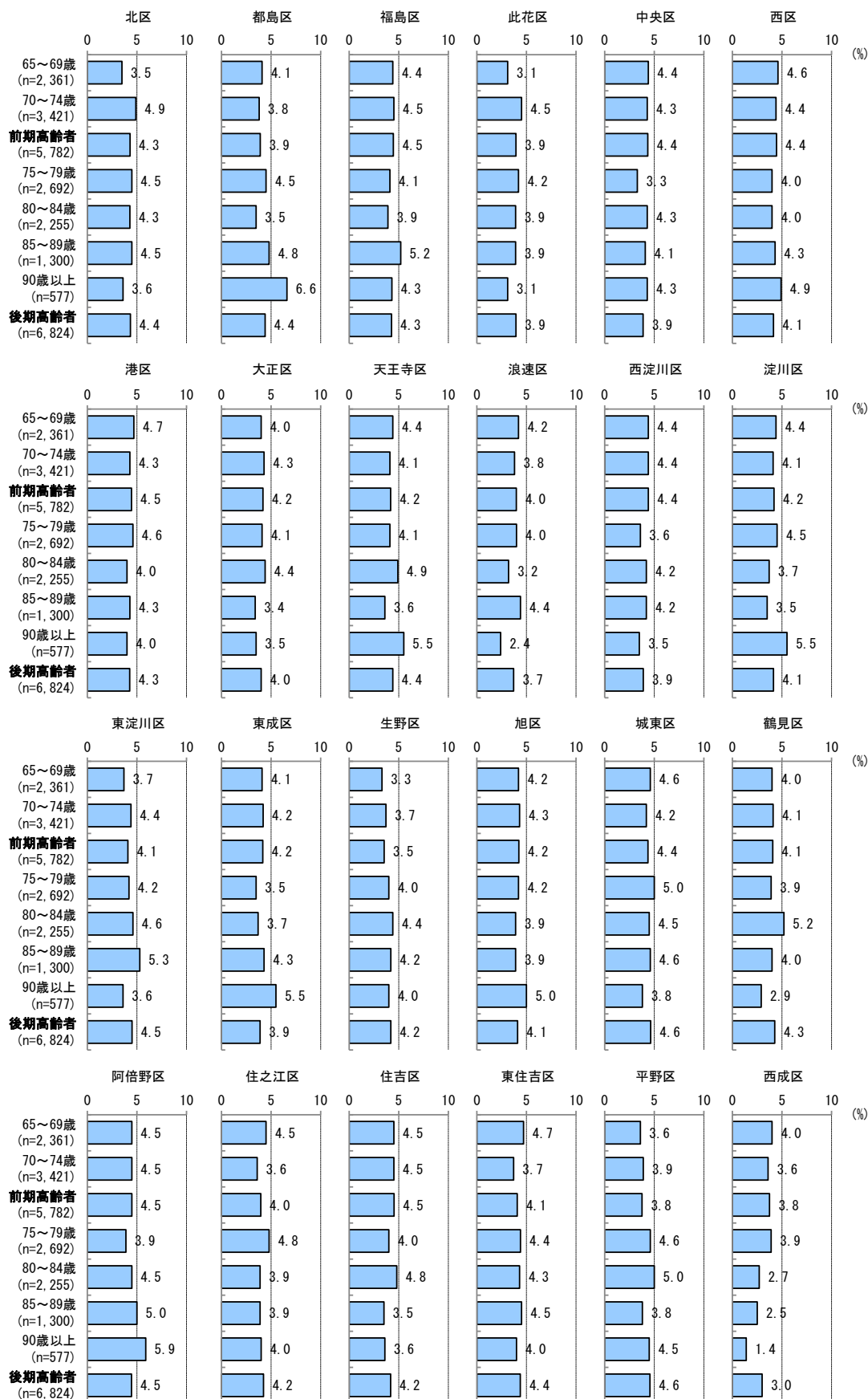
性別でみると、男性では「城東区」と「東住吉区」が4.7%（251件）で最も多く、女性は「住吉区」が4.7%（340件）で最も多く、次いで「東淀川区」が4.7%（336件）が続いている。（問2(3)-a）

【問 2(3)-a 居住区（性別）】



年齢別でみると、後期高齢者の居住割合は、西成区を除いて各区とも４％前後となっている。
後期高齢者の居住割合の最大は「城東区」と「平野区」の４.６％、最小は「西成区」の３.０％である。（問２(３)-ｂ）

【問 2(3)-b 居住区（年齢別）】

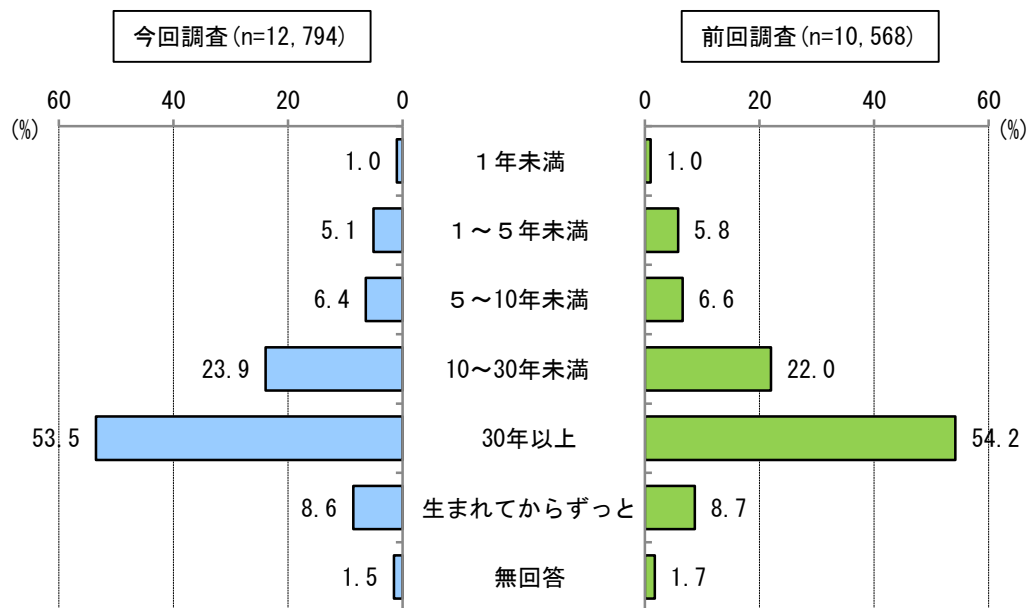


問 2（４） 居住年数

あなたは、現在お住まいの区内に暮らし始めてどれくらい経ちますか。（○はひとつ）

現在住んでいる区にどれくらい住み続けているかについては、「30年以上」が53.5%で最も多く、次いで「10～30年未満」が23.9%、「生まれてからずっと」が8.6%となっている。（問2(4)）

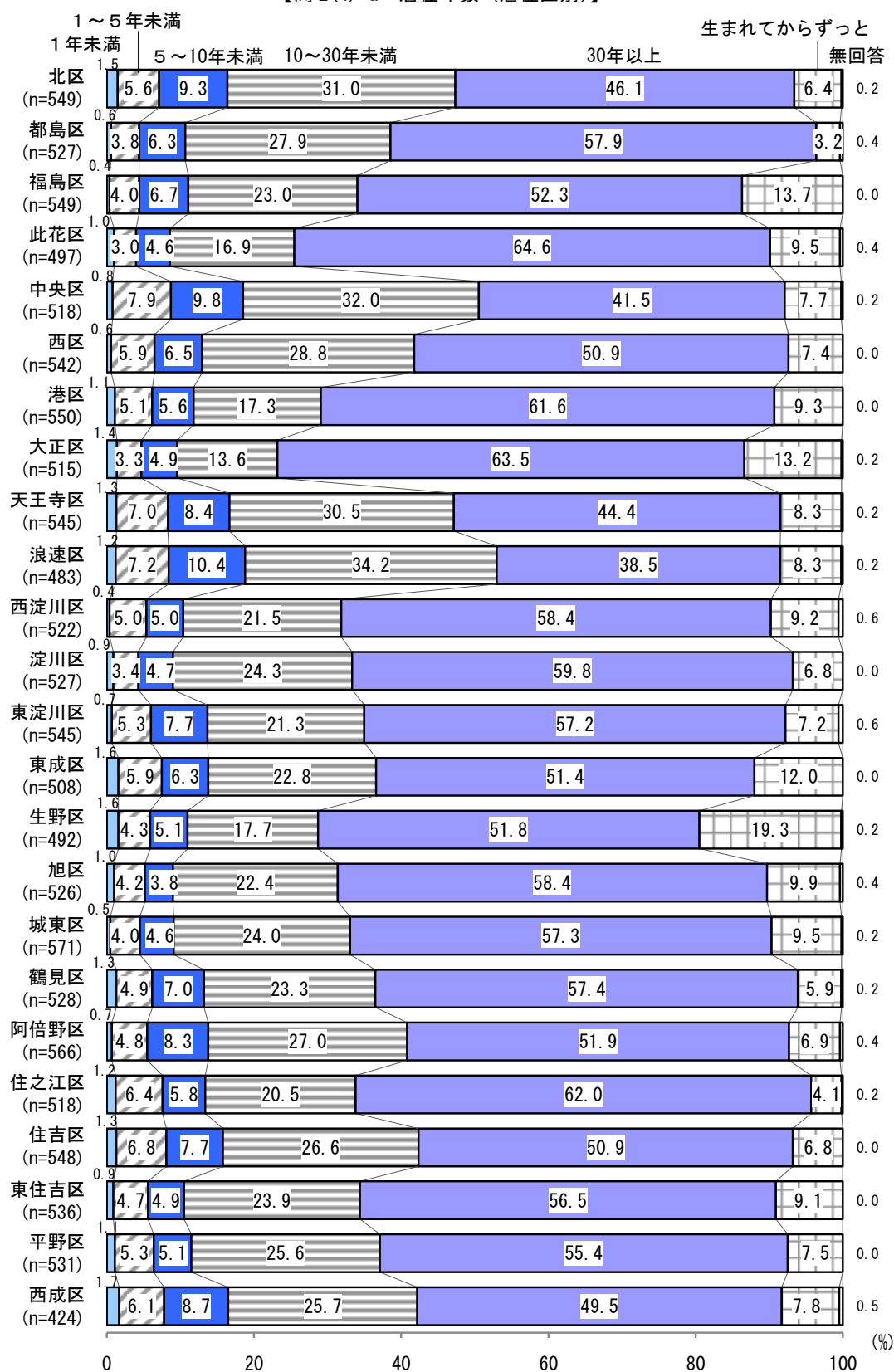
【問 2(4) 居住年数（経年比較）】



※「1～5年未満」は前回の「1～3年未満」と「3～5年未満」を合算し、「10～30年未満」は前回の「10～20年未満」と「20～30年未満」を合算したものである。

居住区における年数については、「生まれてからずっと」を含む30年以上の居住者が此花区、港区、大正区、生野区で7割を超えており、中央区と浪速区を除く区で過半数を占めている。
(問2(4)-a)

【問2(4)-a 居住年数（居住区別）】



（２）世帯・住まいの状況

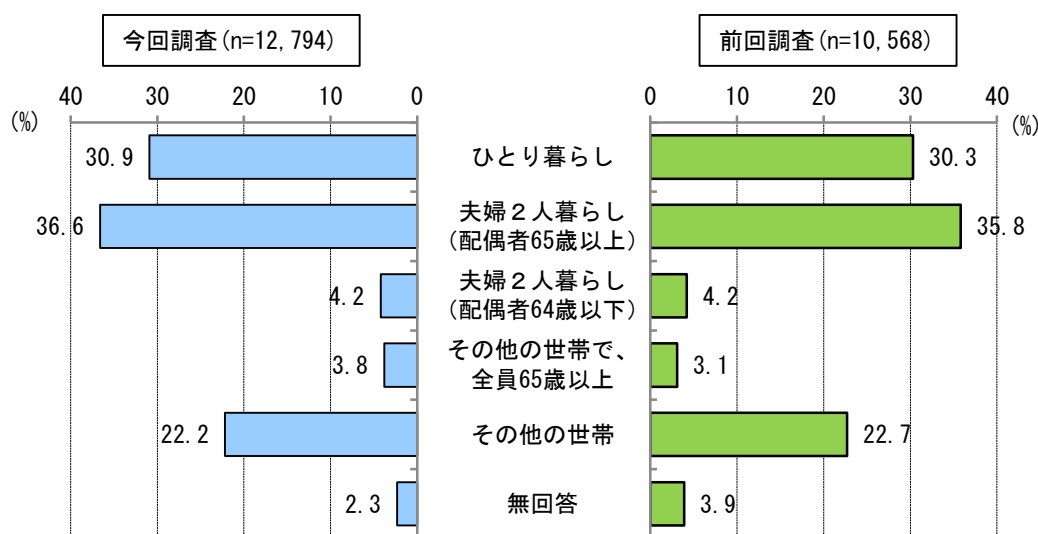
問３ 世帯状況

あなたの世帯の状況についてお答えください。（○はひとつ）

世帯状況については、「夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）」が36.6%で最も多く、次いで「ひとり暮らし」が30.9%となっている。

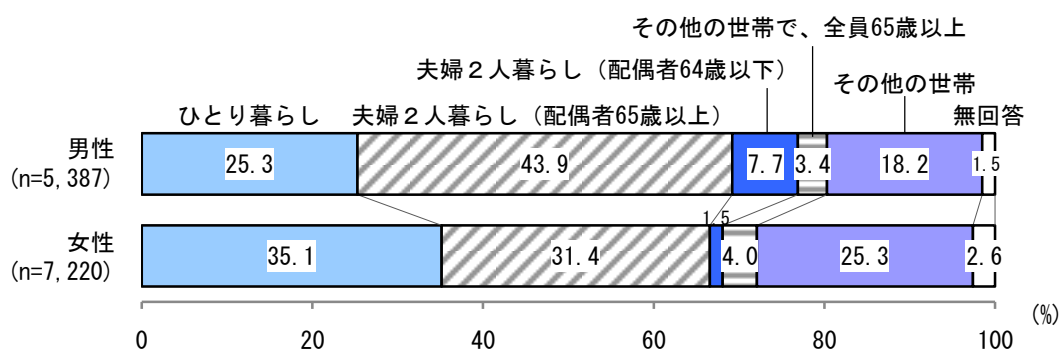
前回調査と比較すると、傾向は変わらない。（問3）

【問３ 世帯状況（経年比較）】



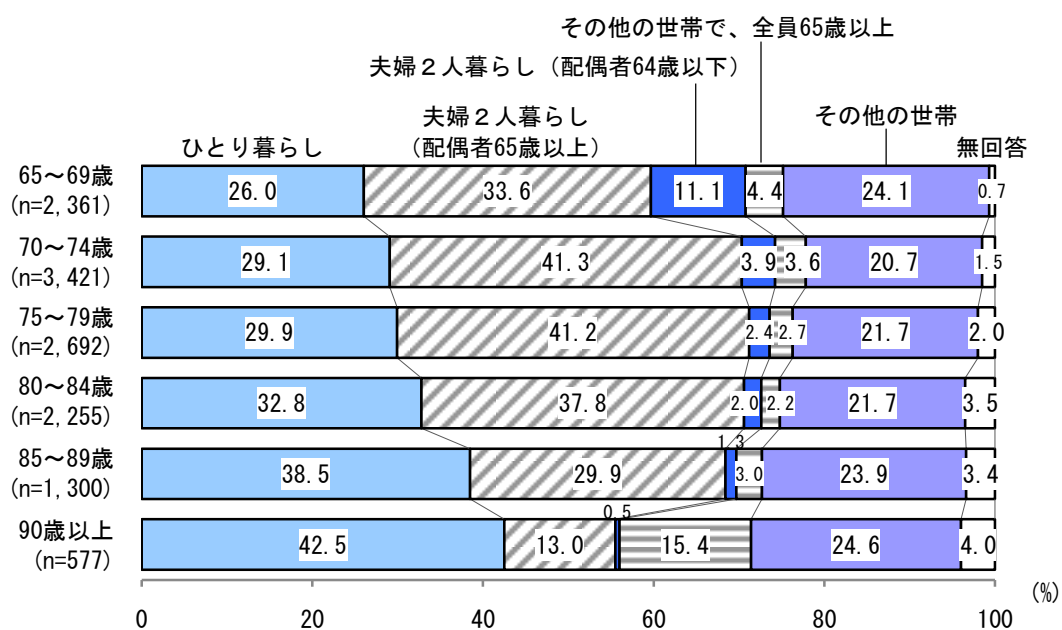
性別でみると、「ひとり暮らし」は、男性（25.3%）に比べ女性（35.1%）のほうが9.8ポイント高くなっている。（問3-a）

【問３-a 世帯の状況（性別）】

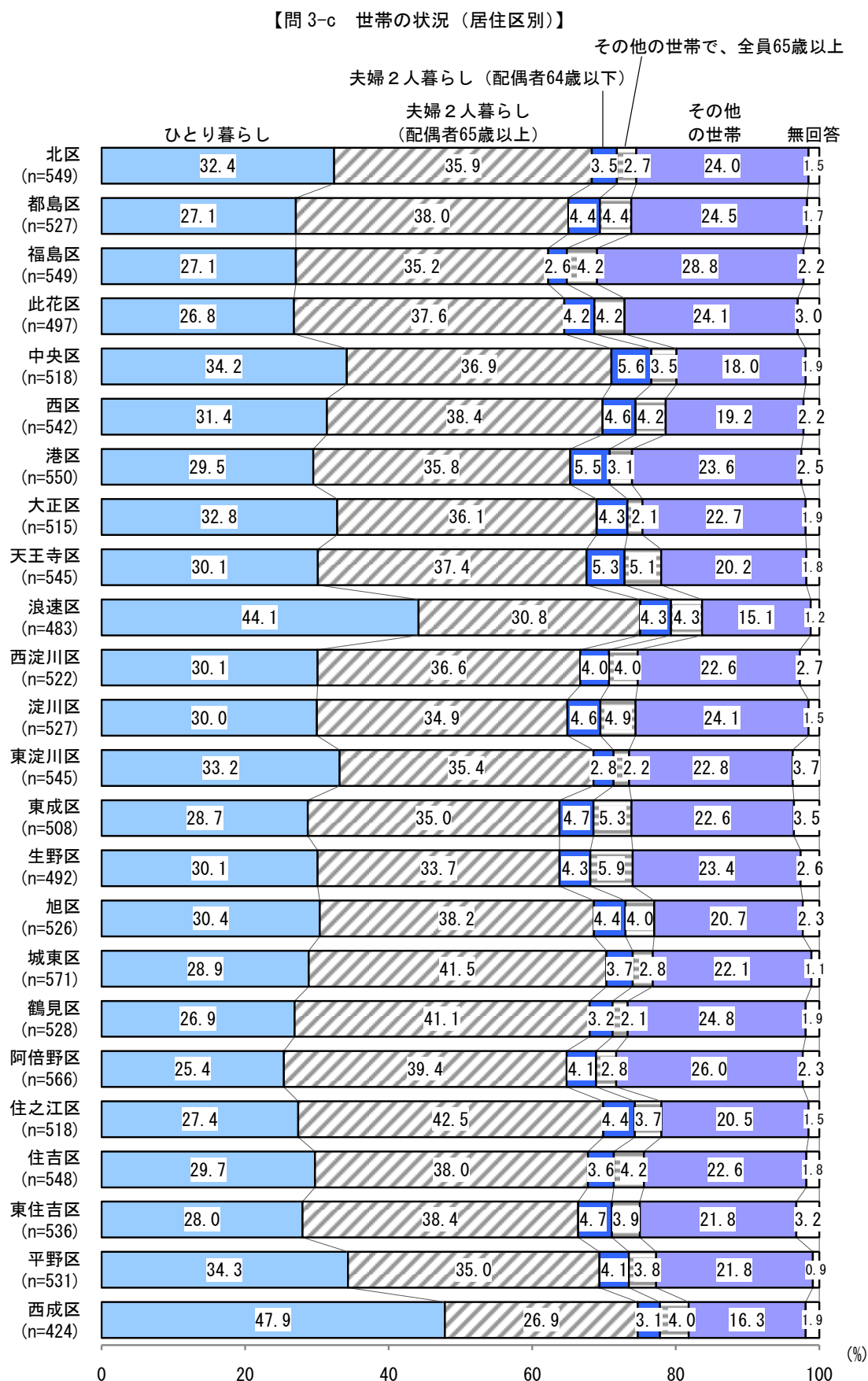


年齢別では、高齢になるほど「ひとり暮らし」の割合が増え、『夫婦2人暮らし』の割合が減少している。(問3-b)

【問 3-b 世帯の状況（年齢別）】



居住区別でみると、「ひとり暮らし」は西成区が47.9%で最も高く、次いで浪速区が44.1%となっている。「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」は住之江区が42.5%で最も高く、次いで城東区が41.5%となっている。（問3-c）

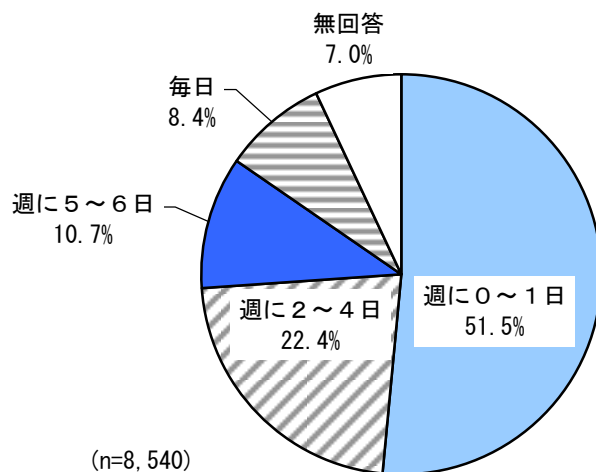


問3-1 昼間の状況

問3で「2」～「5」と回答された方におうかがいします。
あなたは、昼間、家の中で、ひとりになることがありますか。(〇はひとつ)

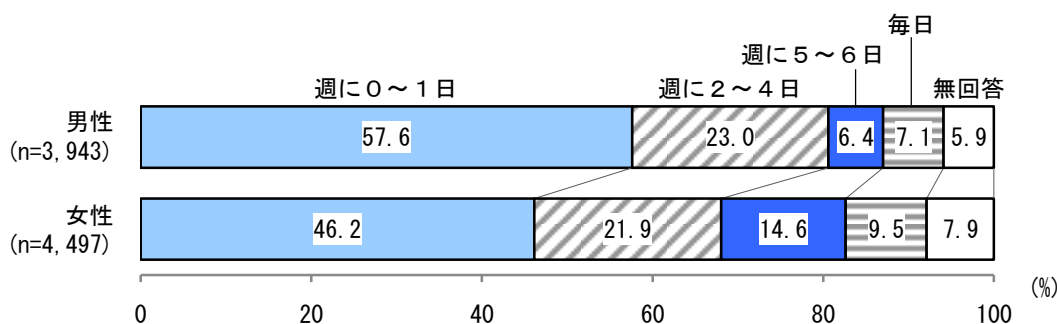
同居者のいる世帯の回答者に、昼間のひとりになる日数についてたずねると、「週に0～1日」が51.5%で最も多く、ほぼひとりになることがない人が半数を占めている。一方、「毎日」は8.4%となっている。(問3-1)

【問3-1 昼間の状況】



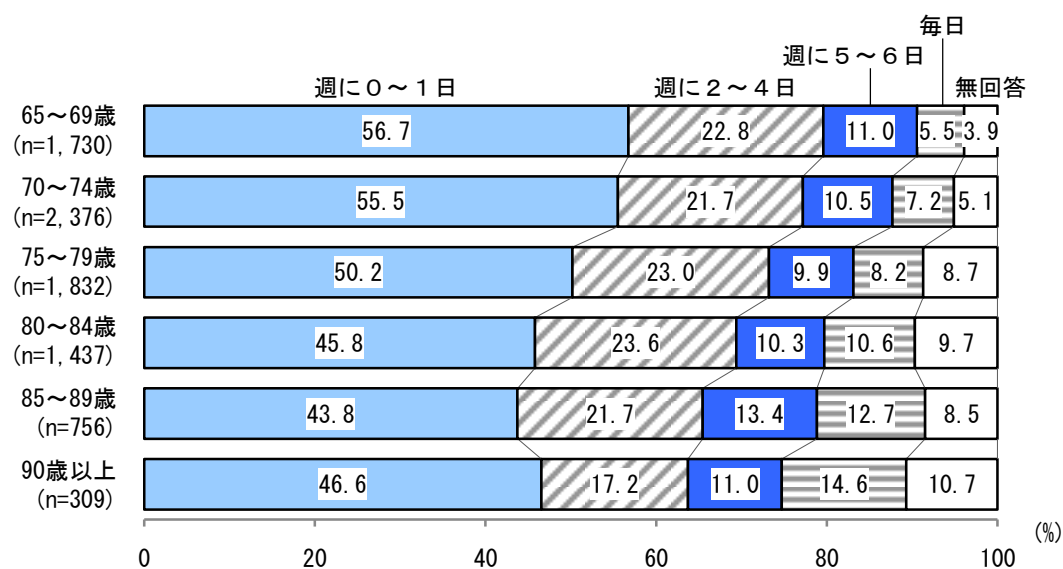
性別でみると、男性よりも女性のほうが、「週に5～6日」、「毎日」の回答割合が高くなっている。(問3-1-a)

【問3-1-a 昼間の状況（性別）】



年齢別では、いずれの年齢も「週に0～1日」が最も多い。「毎日」の回答割合は加齢とともに上昇傾向にあり、90歳以上が14.6%で最も高くなっている。（問3-1-b）

【問 3-1-b 昼間の状況（年齢別）】



（３）健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

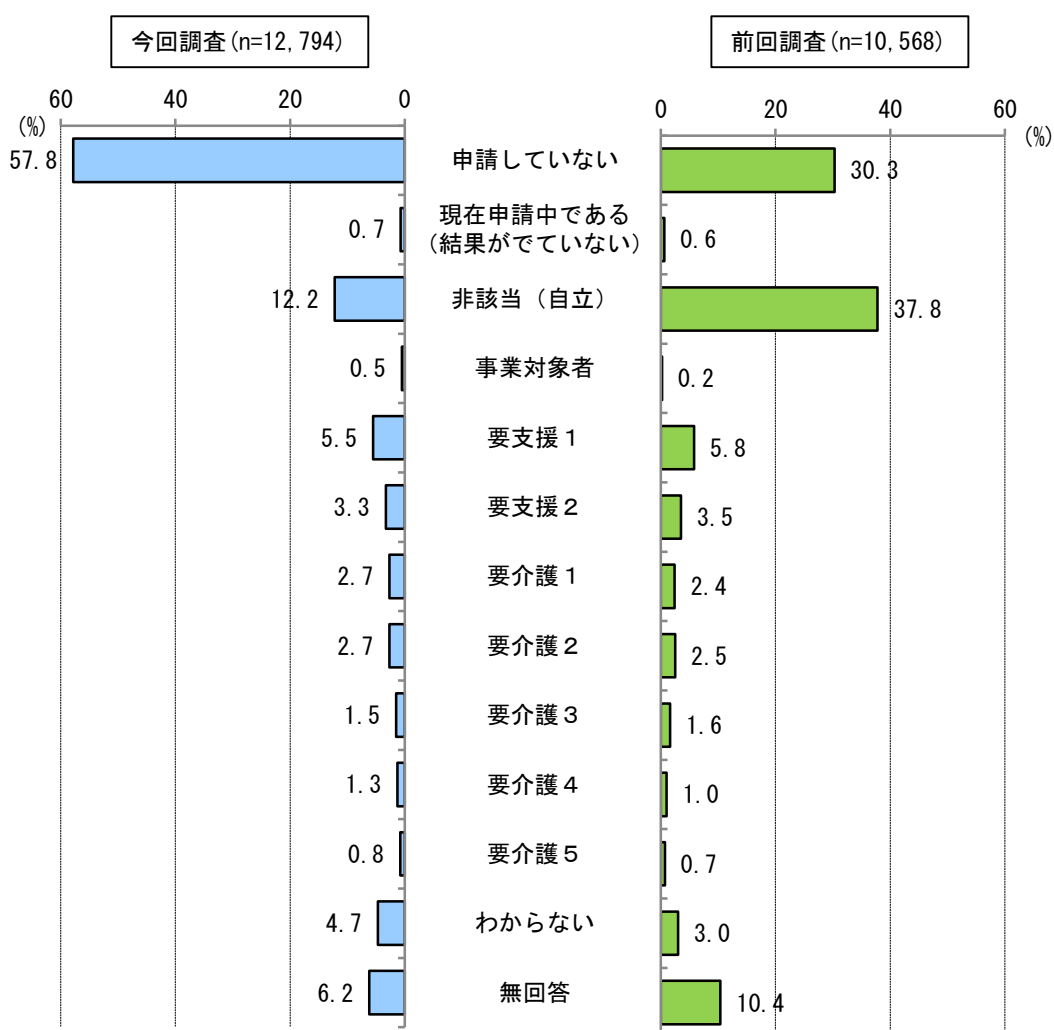
問４ 要介護・要支援認定状況

あなたの介護保険の申請、認定状況は、次のどれにあてはまりますか。（○はひとつ）

要介護・要支援認定状況については、「申請していない」が57.8%で最も多く、次いで「非該当（自立）」が12.2%となっており、2つをあわせると7割になる。また、認定を受けている方の中では、「要支援1」「要支援2」「要介護1」「要介護2」の順に多く、比較的軽度のほうが多くなっている。

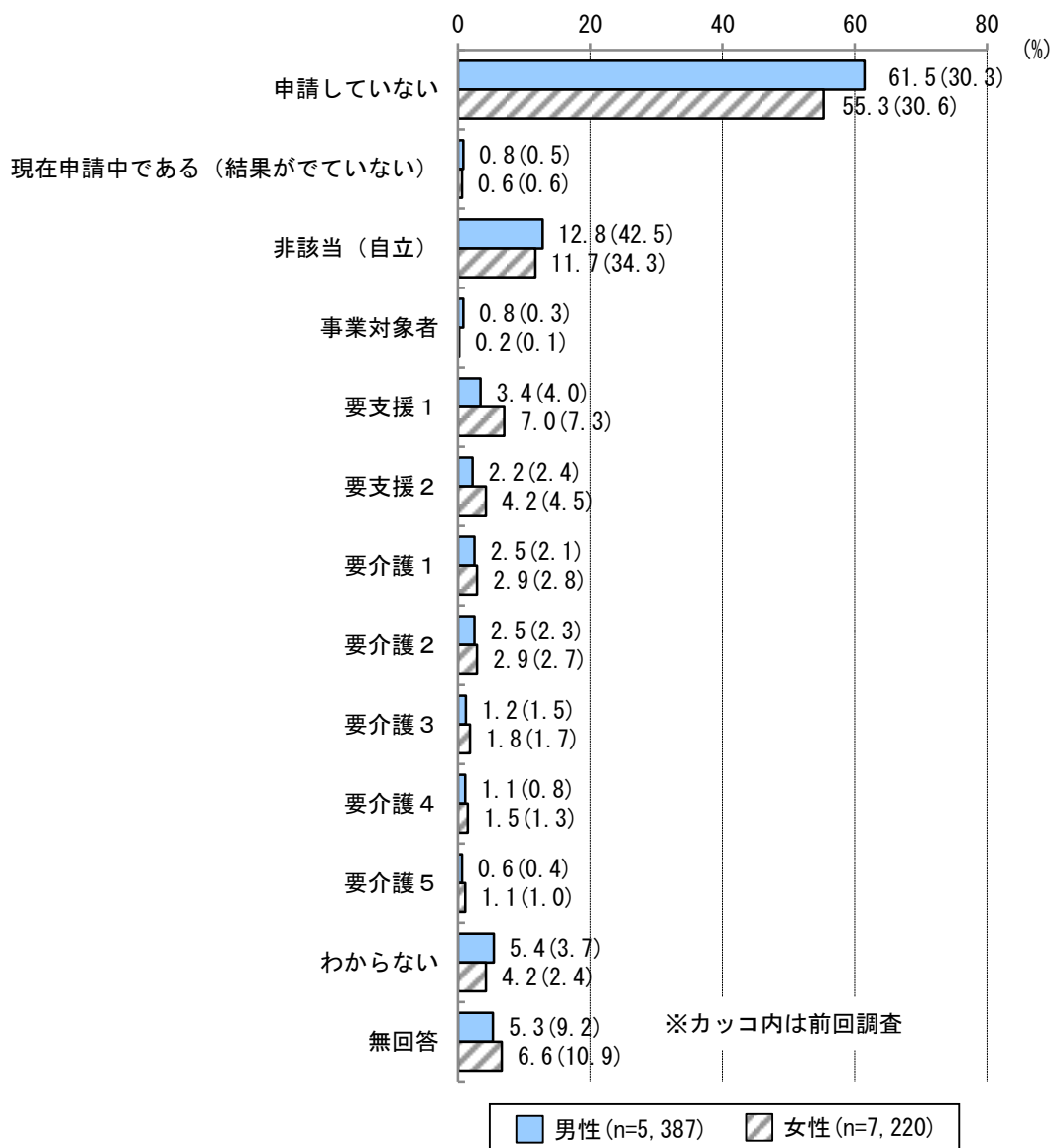
前回調査と比較すると、「申請していない」の割合が27.5ポイント上昇している。（問4）

【問４ 要介護・要支援認定状況（経年比較）】



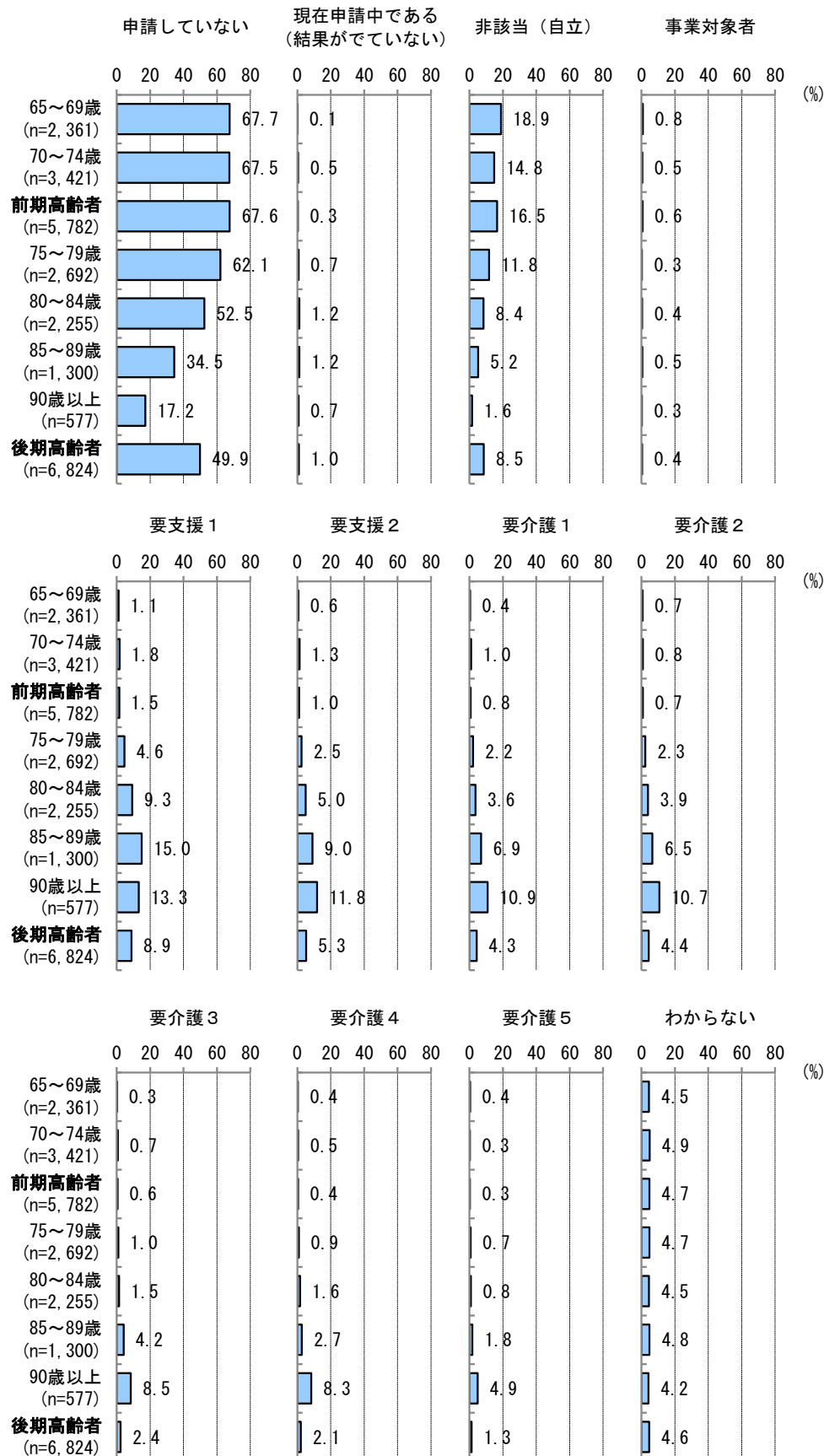
性別でみると、「非該当（自立）」の回答割合は女性より男性のほうが高く、「要支援1」～「要介護5」の回答割合は女性のほうが高い。前回調査の結果に比べ、「申請していない」の割合は男女とも大きく上昇し、「非該当」の割合は男女とも大きく低下している。（問4-a）

【問 4-a 要介護・要支援認定状況（性別）】



年齢別でみると、各認定の割合は前期高齢者に比べ後期高齢者で高い傾向がみられる。(問4-b)

【問 4-b 要介護・要支援認定状況（年齢別）】



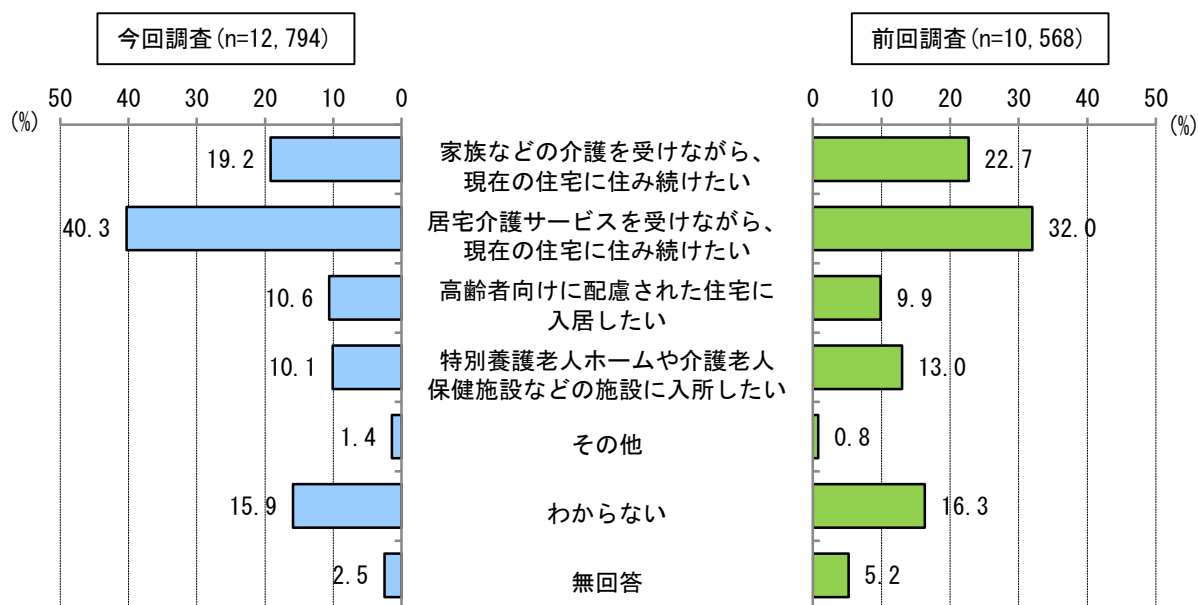
問5 介護が必要になった場合の暮らし方

あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいと思いますか。

(○はひとつ)

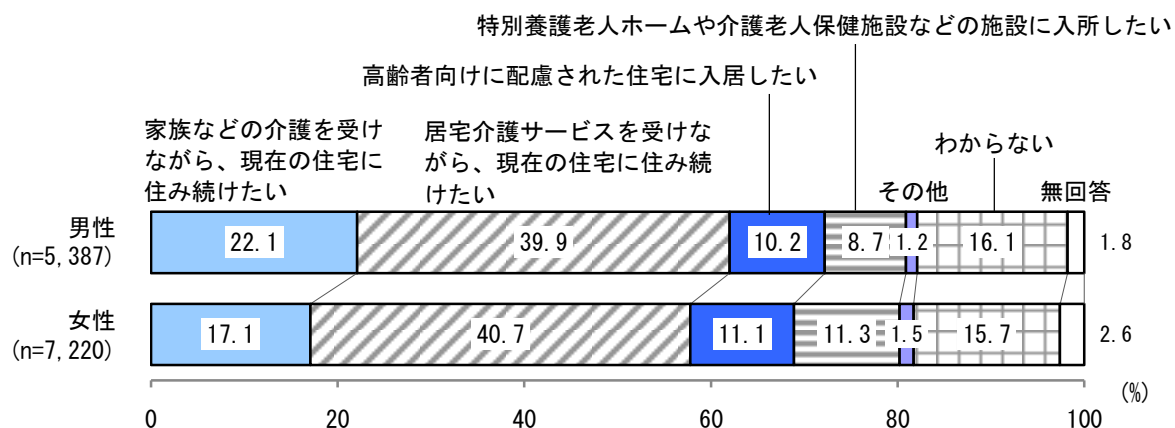
介護が必要になった場合の暮らし方については、「居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」が40.3%で最も多く、前回調査の結果に比べ8.3ポイント上昇している。
(問5)

【問5 介護が必要になった場合の暮らし方（経年比較）】



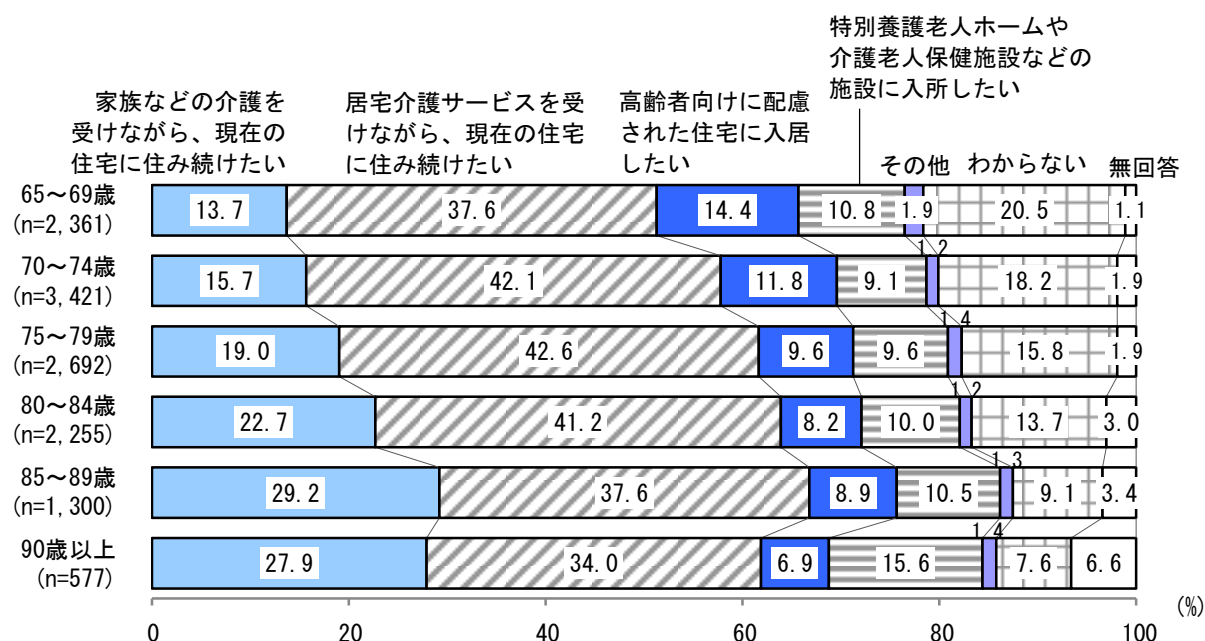
性別でみると、「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の回答割合は男性のほうが高く、それ以外の項目は女性のほうが高くなっている。(問5-a)

【問5-a 介護が必要になった場合の暮らし方（性別）】



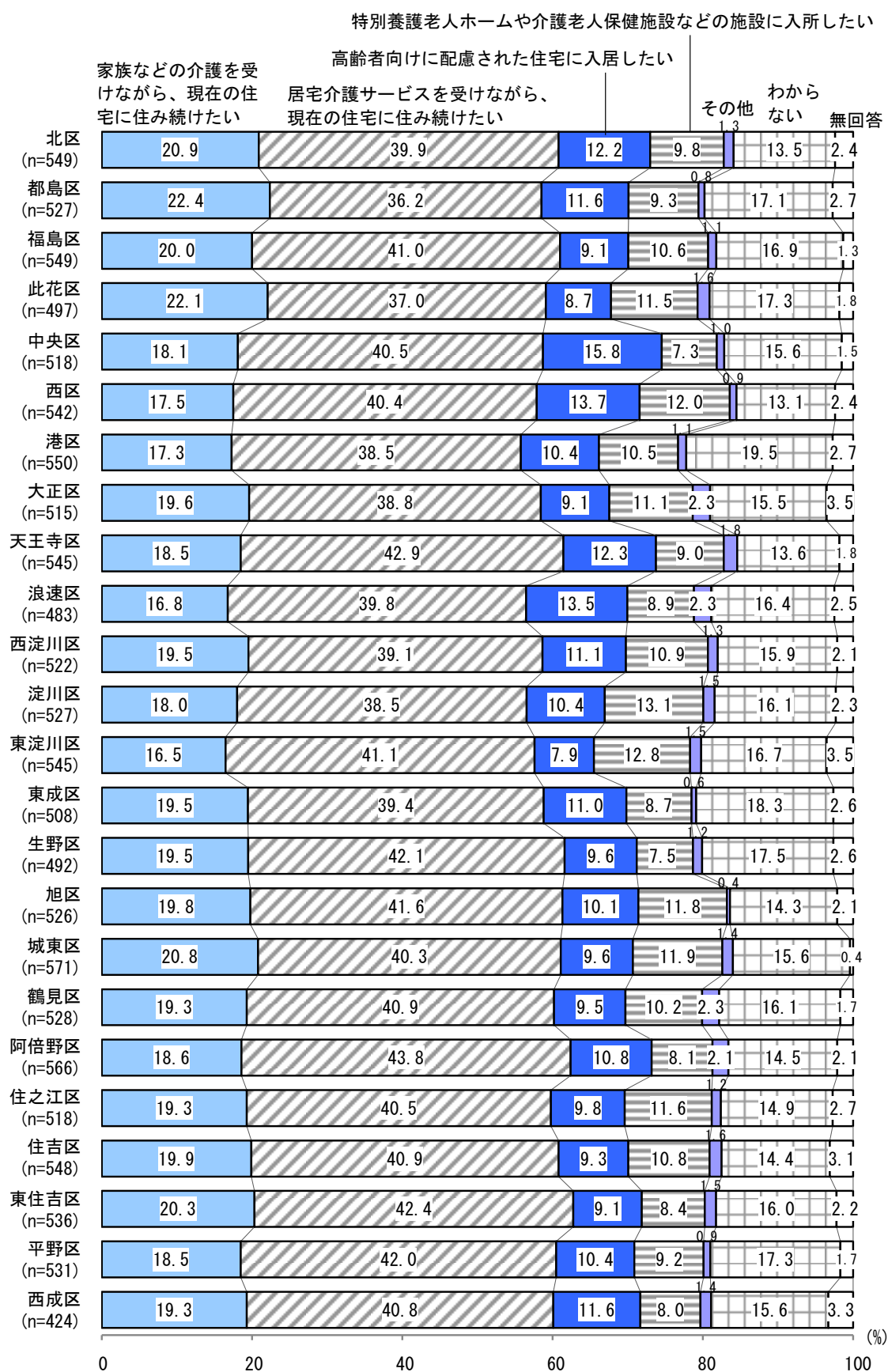
年齢別でみると、「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の回答割合は高齢になるほど高くなり、85～89歳が29.2%で最も高くなっている。「居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」は75～79歳が42.6%で最も高く、以降、高齢になるほど割合が低くなっている。一方、年齢に関係なく、ほぼ10人に1人が「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの施設に入所したい」と回答している。（問5-b）

【問 5-b 介護が必要になった場合の暮らし方（年齢別）】



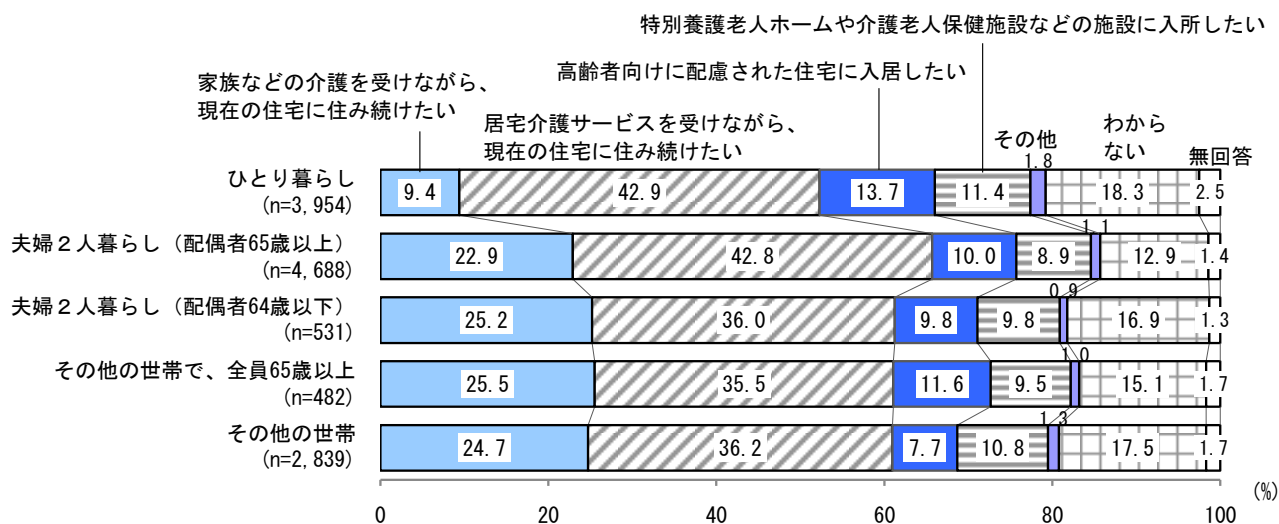
居住区別でみると、「居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の回答割合は阿倍野区が43.8%で最も高く、次いで天王寺区が42.9%で続いている。（問5-c）

【問 5-c 介護が必要になった場合の暮らし方（居住区別）】



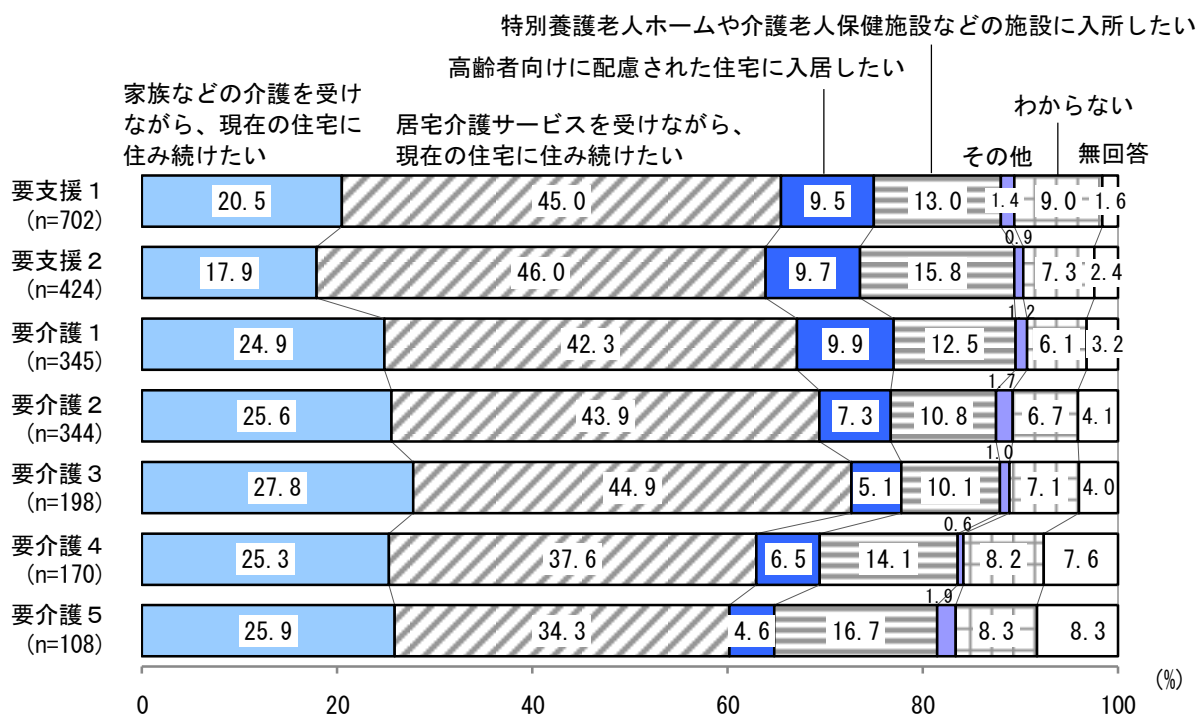
世帯状況別でみると、「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の回答割合は“その他の世帯で、全員65歳以上”の世帯が25.5%で最も高く、「高齢者向けに配慮された住宅に入居したい」では“ひとり暮らし”が13.7%で最も高くなっている。（問5-d）

【問 5-d 介護が必要になった場合の暮らし方（世帯状況別）】



介護度別でみると、「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の回答割合は要介護1～5で25%前後となっている。「居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の回答割合は要支援2が46.0%で最も高くなっている。（問5-e）

【問 5-e 介護が必要になった場合の暮らし方（介護度別）】

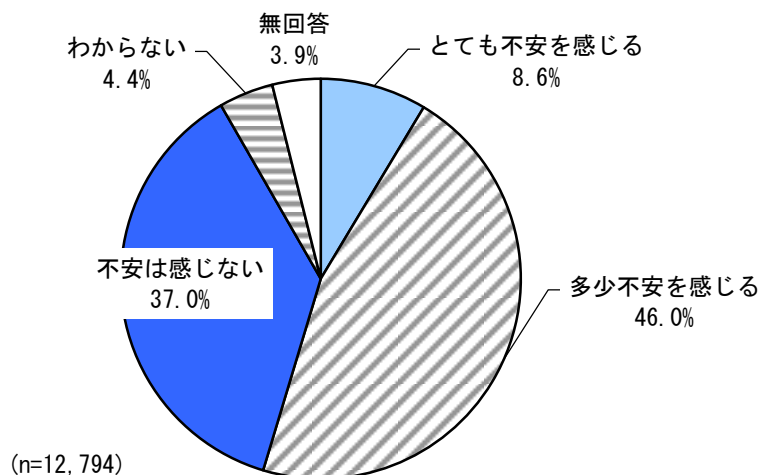


問6 日常生活への不安の有無

あなたは、日常生活全般で不安を感じていますか。(○はひとつ)

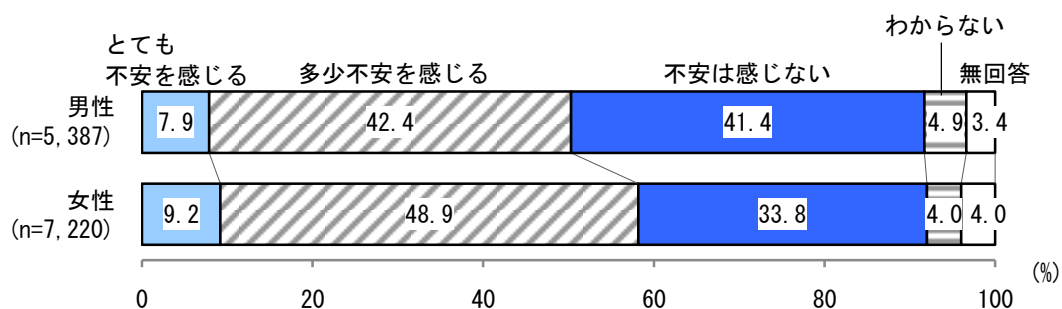
日常生活への不安については、「多少不安を感じる」が46.0%で最も多く、次いで「不安は感じない」が37.0%、「とても不安を感じる」が8.6%で、『不安を感じている』割合（「とても不安を感じる」と「多少不安を感じる」をあわせた割合）は54.6%となっている。（問6）

【問6 日常生活への不安の有無】



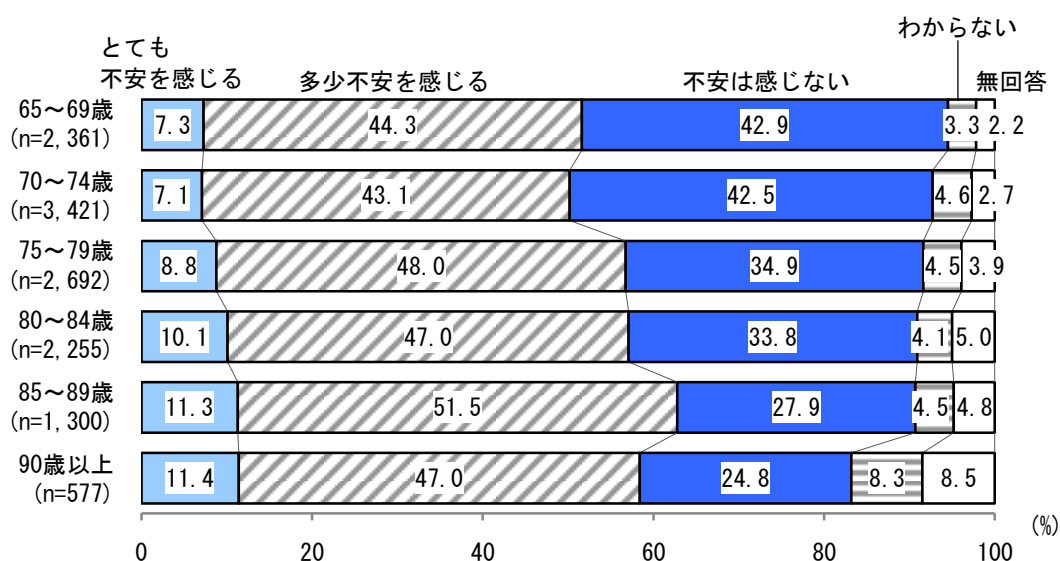
性別でみると、『不安を感じている』割合は、男性より女性のほうが高くなっている。（問6-a）

【問6-a 日常生活への不安の有無（性別）】



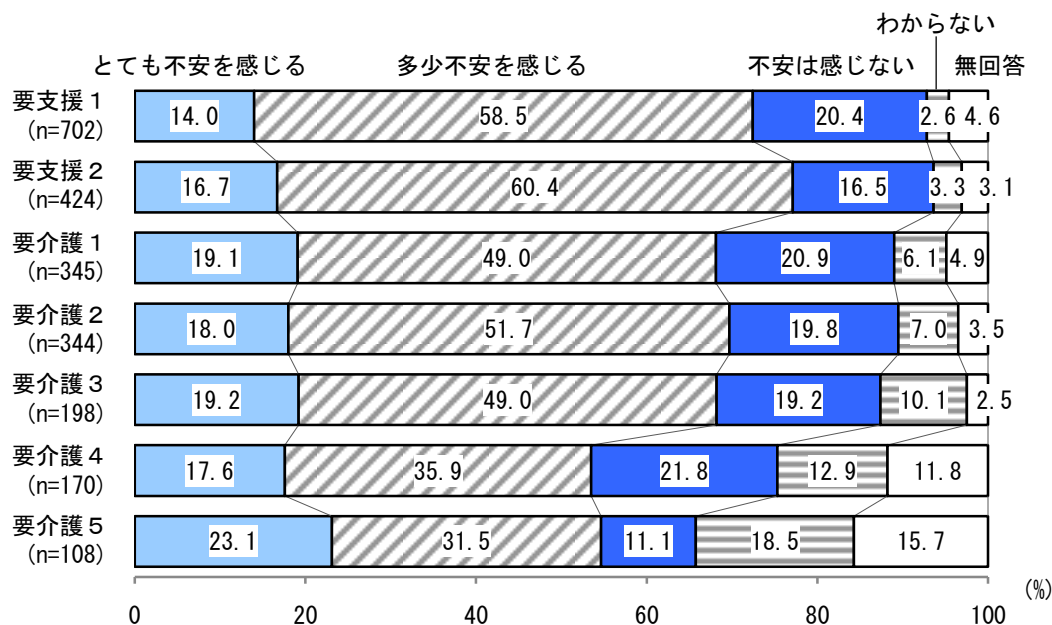
年齢別でみると、『不安を感じている』割合は、85～89歳が62.8%で最も高く、いずれの年代も過半数を占めている。(問6-b)

【問 6-b 日常生活への不安の有無（年齢別）】



介護度別でみると、『不安を感じている』割合は、要支援2が77.1%で最も高く、次いで要支援1が72.5%となっている。(問6-c)

【問 6-c 日常生活への不安の有無（介護度別）】



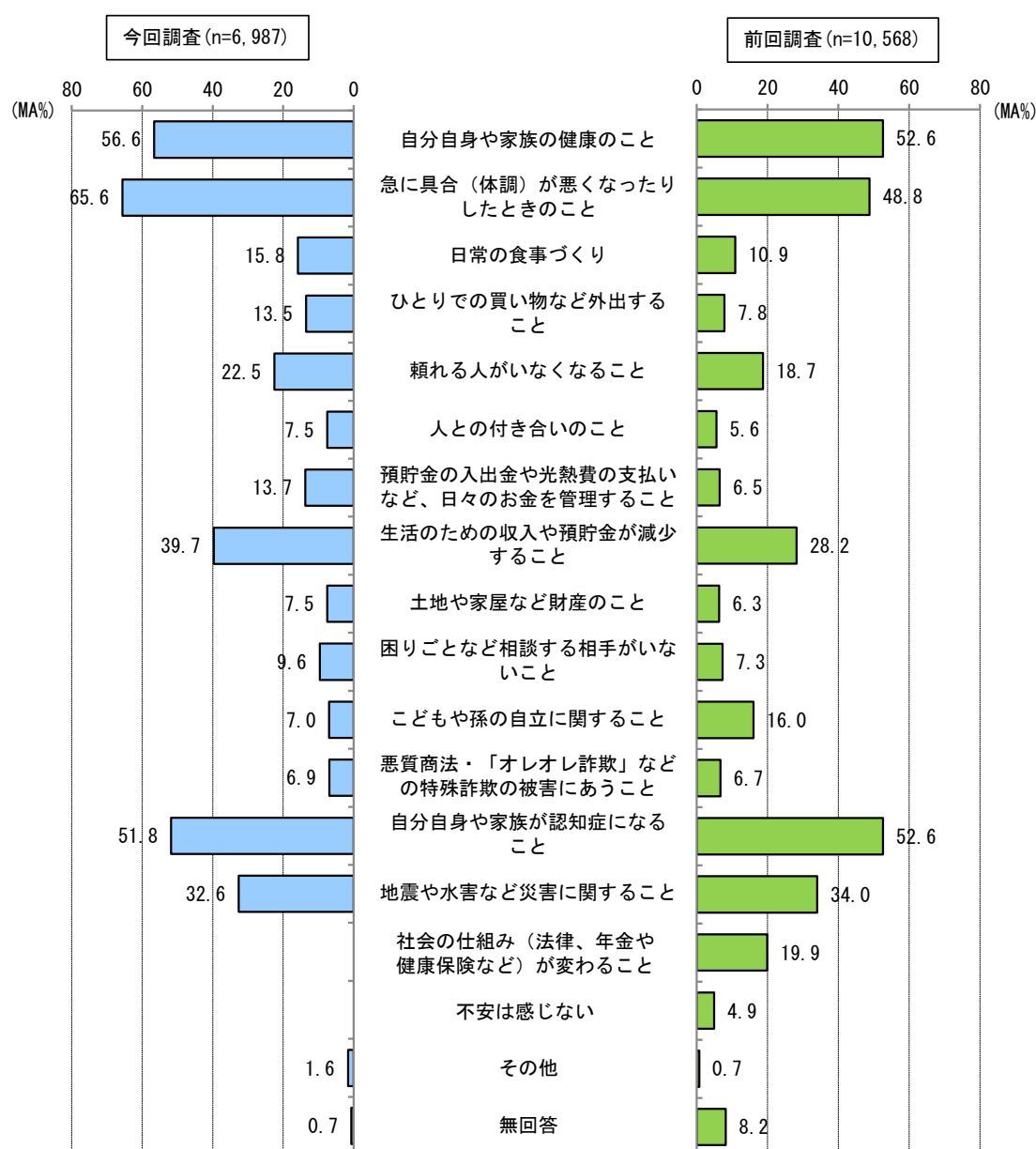
問6-1 日常生活への不安

問6で「1 とても不安を感じる」「2 多少不安を感じる」と回答された方におうかがいします。
あなたは、日常生活全般で不安に感じることはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

日常生活への不安については、「急に具合（体調）が悪くなったりしたときのこと」が65.6%で最も多く、次いで「自分自身や家族の健康のこと」が56.6%、「自分自身や家族が認知症になること」が51.8%となっている。

前回調査と比較すると、「急に具合（体調）が悪くなったりしたときのこと」の割合は16.8ポイント、「生活のための収入や預貯金が減少すること」の割合は11.5ポイントそれぞれ前回より高くなっている。(問6-1)

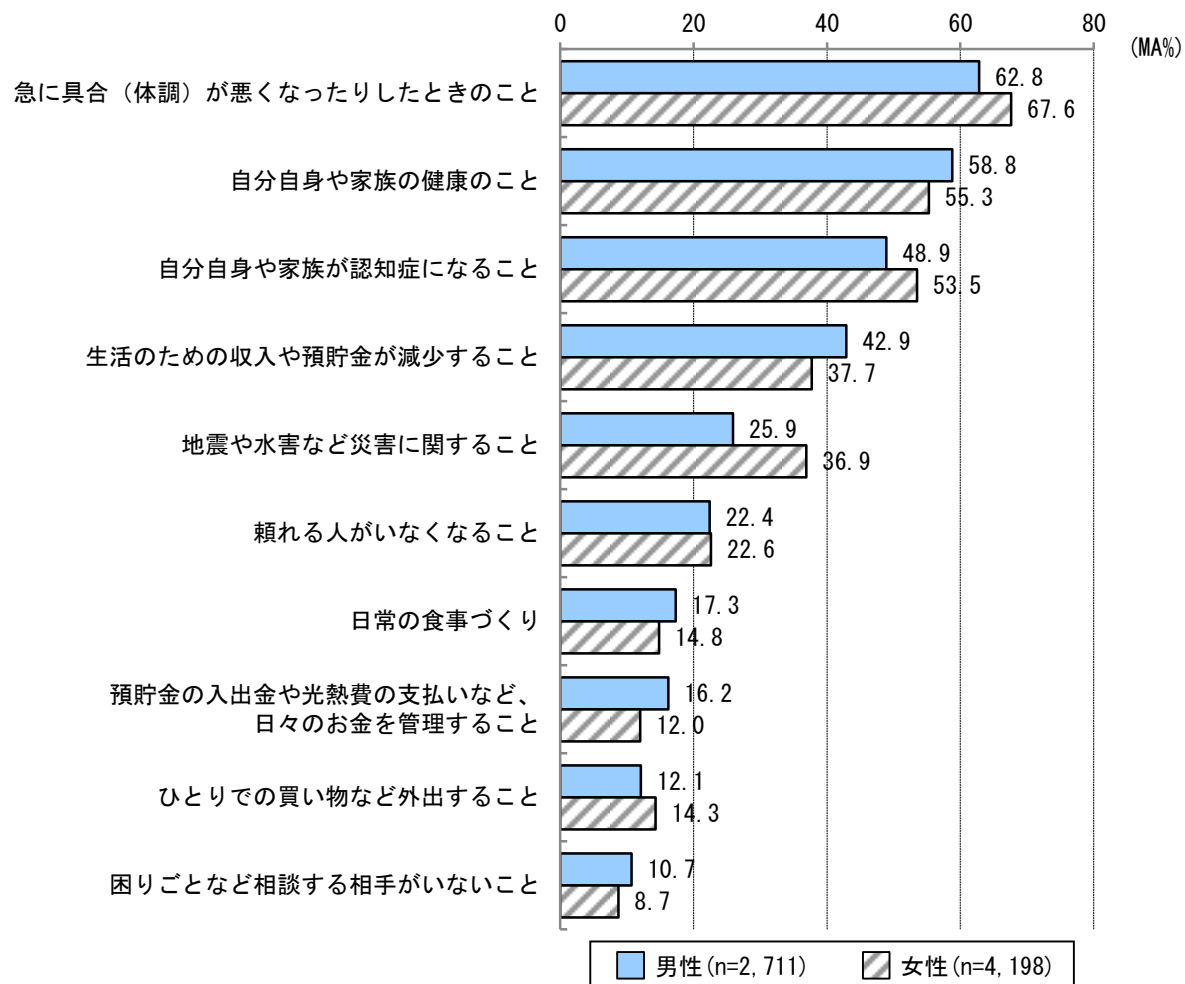
【問6-1 日常生活への不安（経年比較）】



※前回調査の「社会の仕組み（法律、年金や健康保険など）が変わること」「不安は感じない」は、今回調査では設けていない。

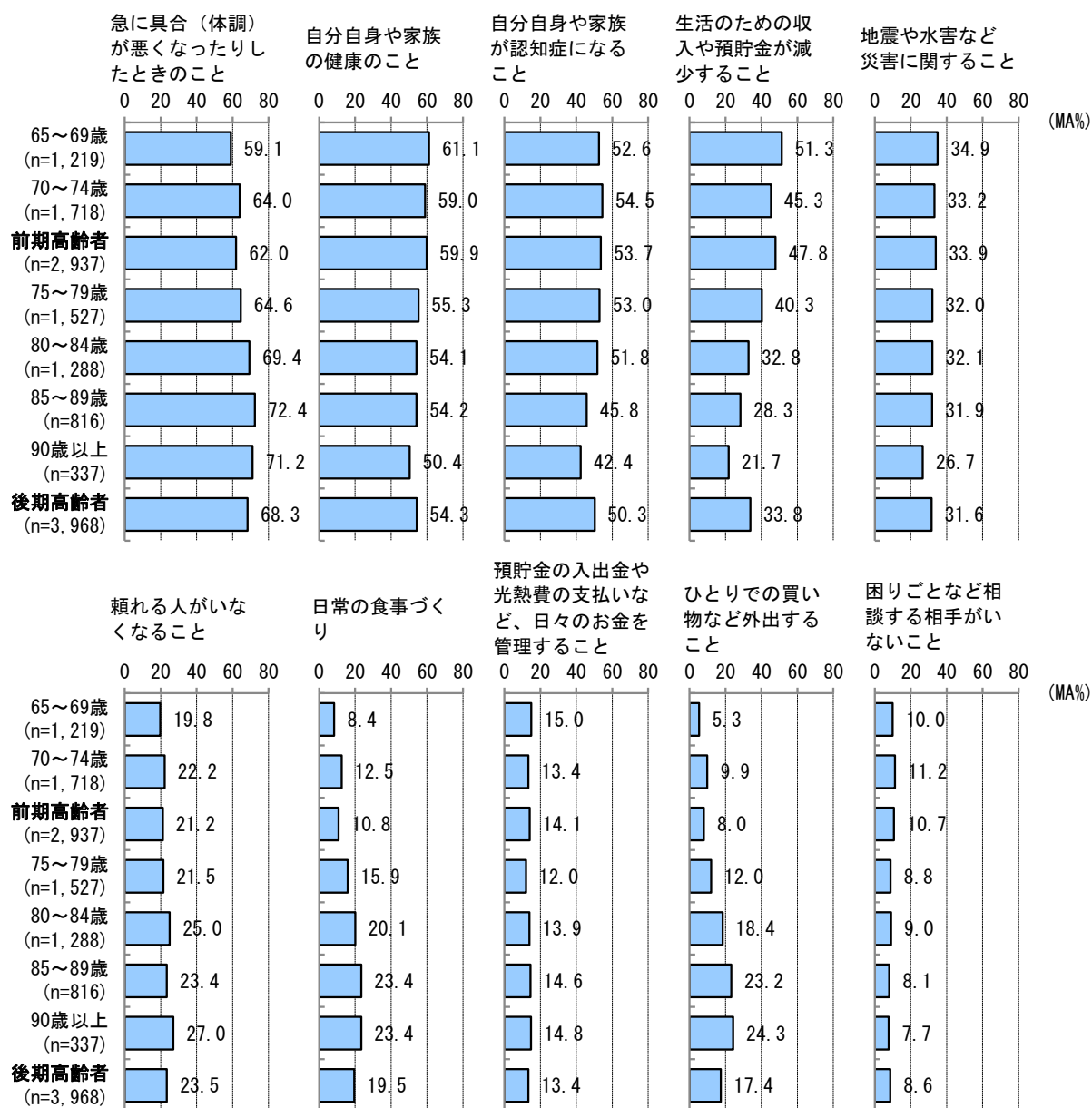
性別でみると、男女とも「急に具合（体調）が悪くなったりしたときのこと」の回答割合が高く、男性より女性のほうが高くなっている。また、「地震や水害など災害に関すること」の割合も男性より女性のほうが高い。（問6-1-a）

【問 6-1-a 日常生活への不安（性別）（上位項目）】



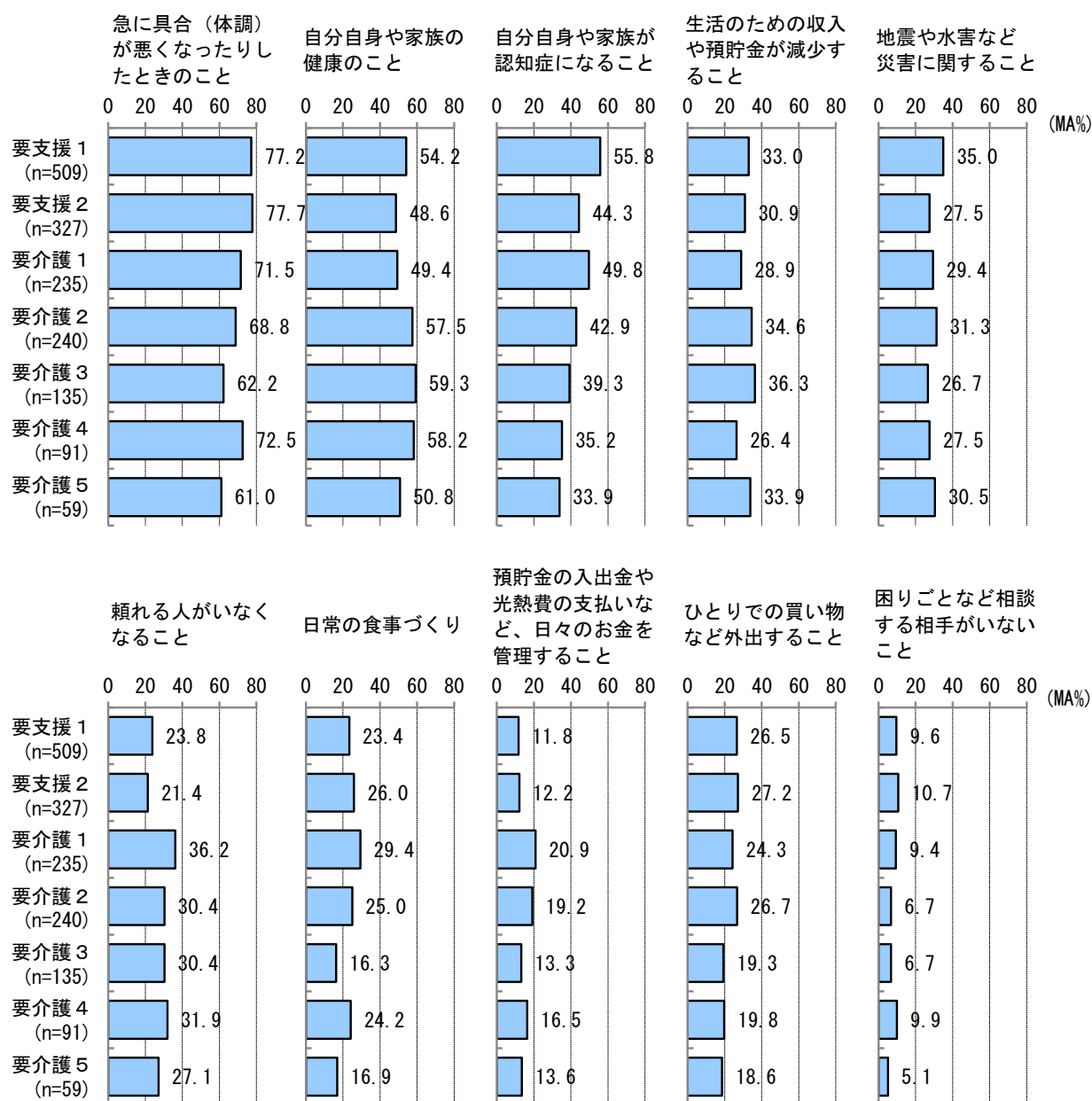
年齢別でみると、「急に具合（体調）が悪くなったりしたときのこと」の回答割合は前期高齢者に比べ後期高齢者で高く、85歳以上の年代では7割台を占める。「自分自身や家族の健康のこと」や「生活のための収入や預貯金が減少すること」、「地震や水害など災害に関すること」は高齢になるほど割合が低くなっている。（問6-1-b）

【問6-1-b 日常生活への不安（年齢別）（上位項目）】



介護度別でみると、「急に具合（体調）が悪くなったりしたときのこと」の回答割合は要支援1、要支援2、要介護1、要介護4で7割を超えて高い。（問6-1-c）

【問6-1-c 日常生活への不安（介護度別）（上位項目）】



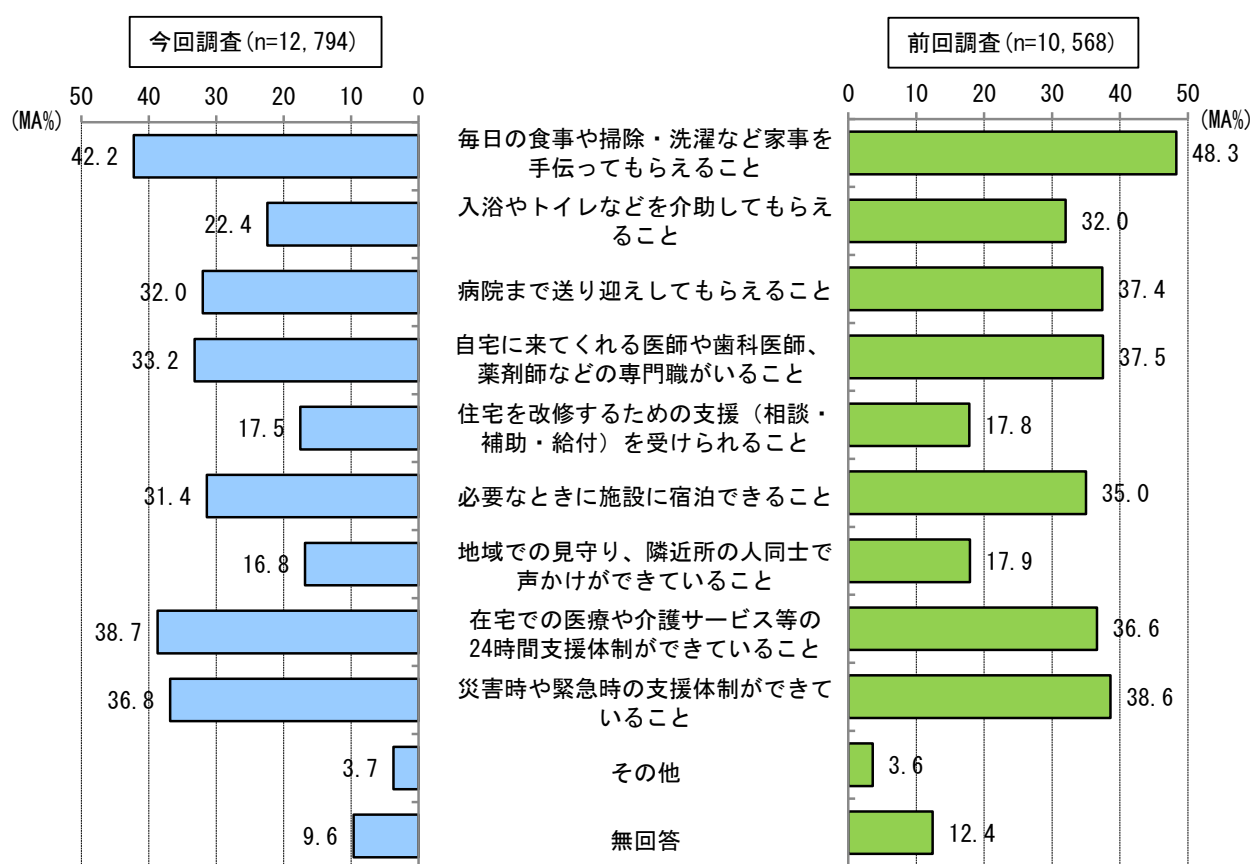
問7 在宅生活継続のための支援

あなたは、どのような支援が身近にあれば、自宅での生活を続けていけると思いますか。
(〇はいくつでも)

在宅生活継続のための支援については、「毎日の食事や掃除・洗濯など家事を手伝ってもらえること」が42.2%で最も多く、次いで「在宅での医療や介護サービス等の24時間支援体制ができていること」が38.7%、「災害時や緊急時の支援体制ができていること」が36.8%となっている。

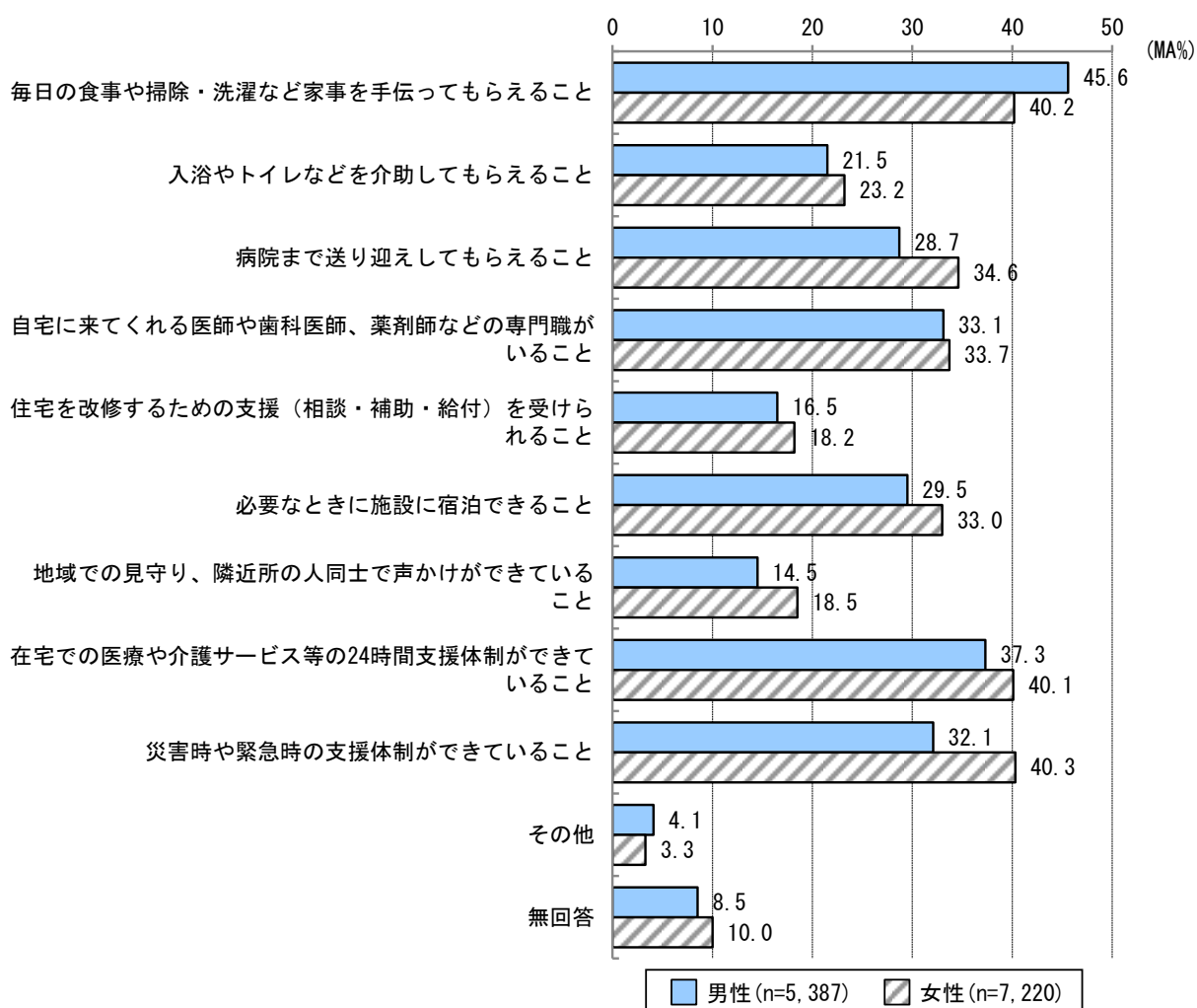
前回調査との比較では、「入浴やトイレなどを介助してもらえること」の割合が9.6ポイント低くなっている。(問7)

【問7 在宅生活継続のための支援（経年比較）】



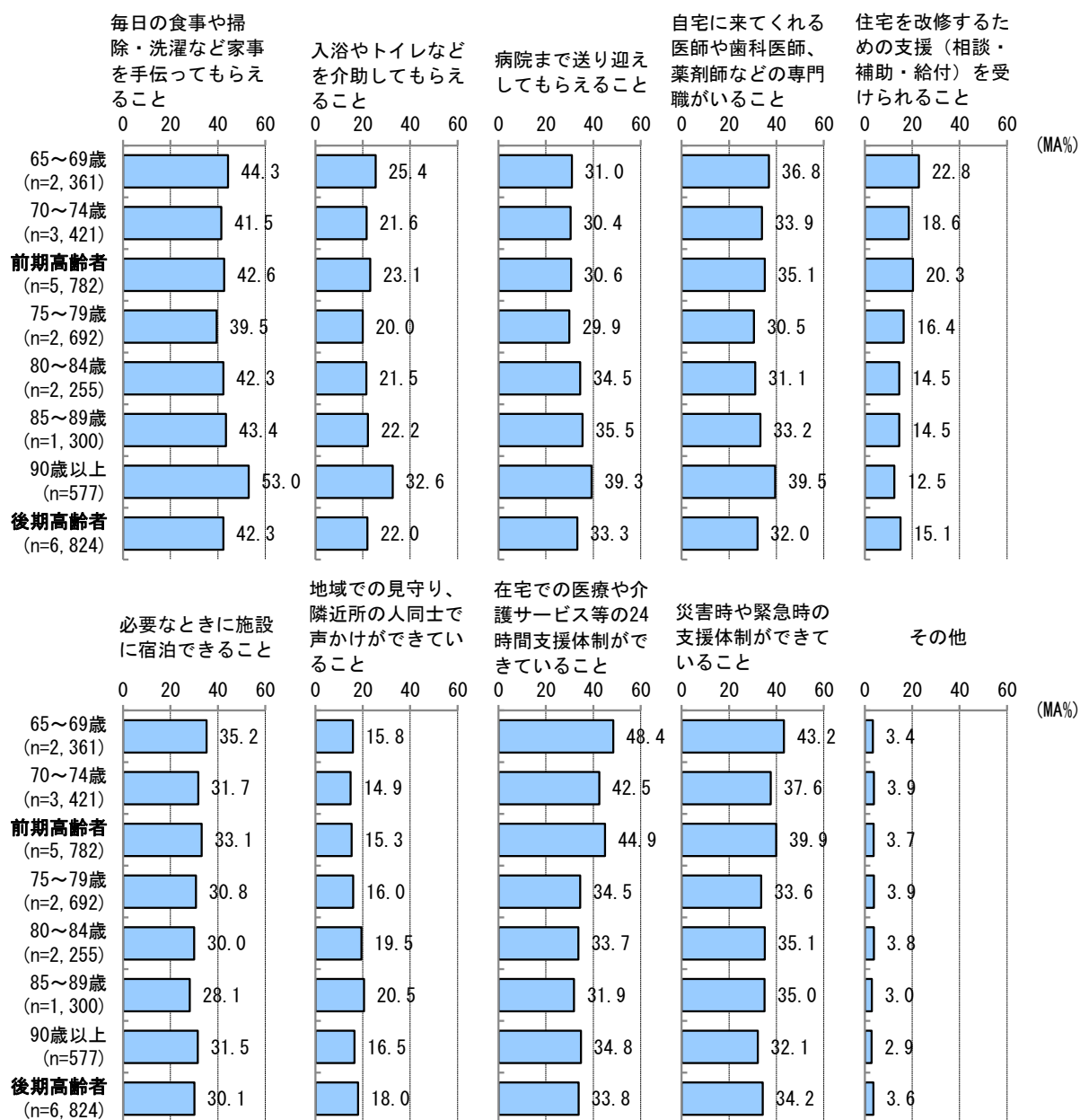
性別でみると、「毎日の食事や掃除・洗濯など家事を手伝ってもらえること」の回答割合は女性より男性のほうが高いが、それ以外の項目はいずれも女性のほうが高い割合となっている。
(問7-a)

【問 7-a 在宅生活継続のための支援（性別）】



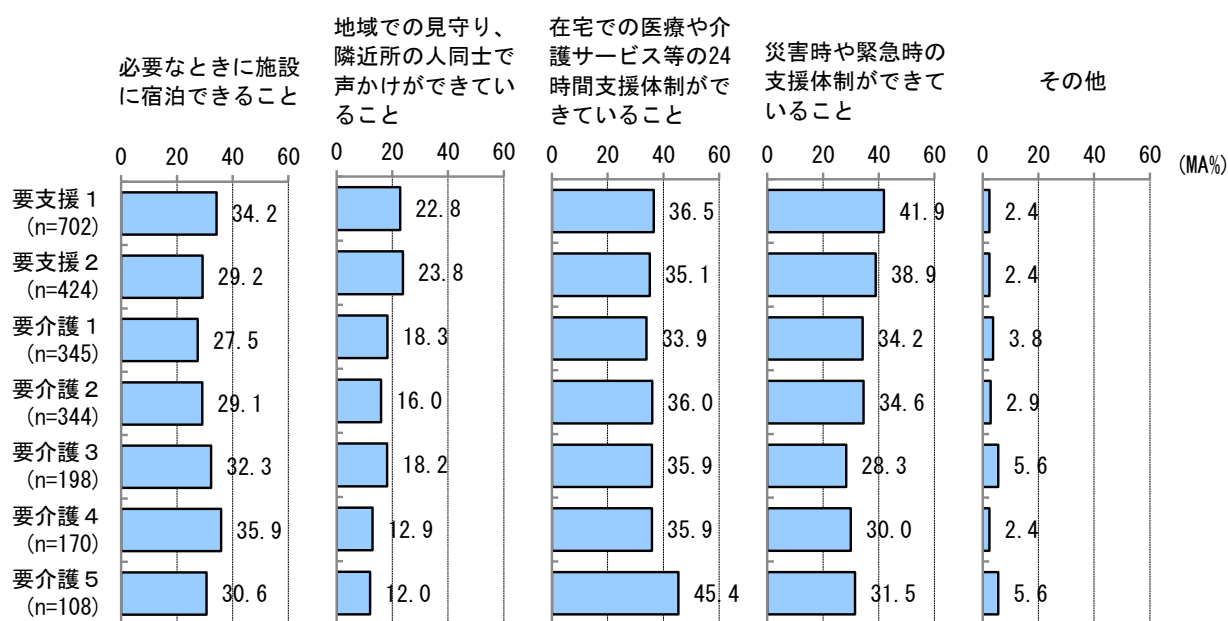
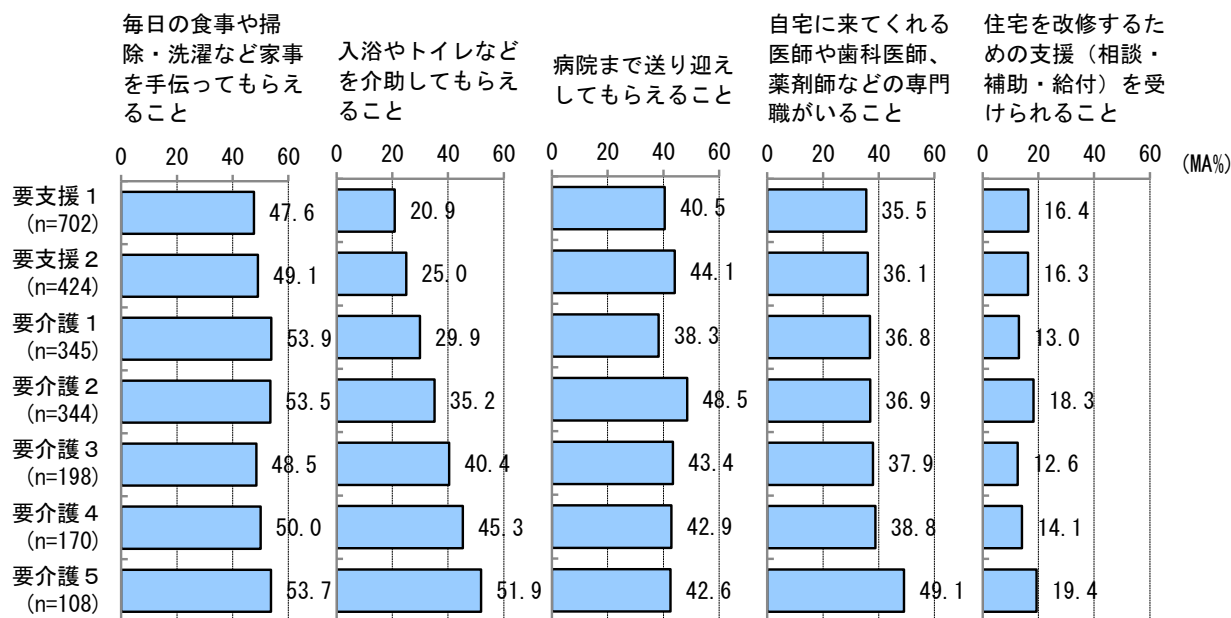
年齢別でみると、「毎日の食事や掃除・洗濯など家事を手伝ってもらえること」や「入浴やトイレなどを介助してもらえること」、「病院まで送り迎えしてもらえること」、「自宅に来てくれる医師や歯科医師、薬剤師などの専門職がいること」の回答割合は前期高齢者・後期高齢者との差は小さいが、いずれも90歳以上の年代の割合が最も高くなっている。(問7-b)

【問7-b 在宅生活継続のための支援（年齢別）】



介護度別でみると、「入浴やトイレなどを介助してもらえること」の回答割合は重度になるほど割合が高くなっている。一方で、「毎日の食事や掃除・洗濯など家事を手伝ってもらえること」はいずれも4割を超え、全体で高くなっている。（問7-c）

【問7-c 在宅生活継続のための支援（介護度別）】

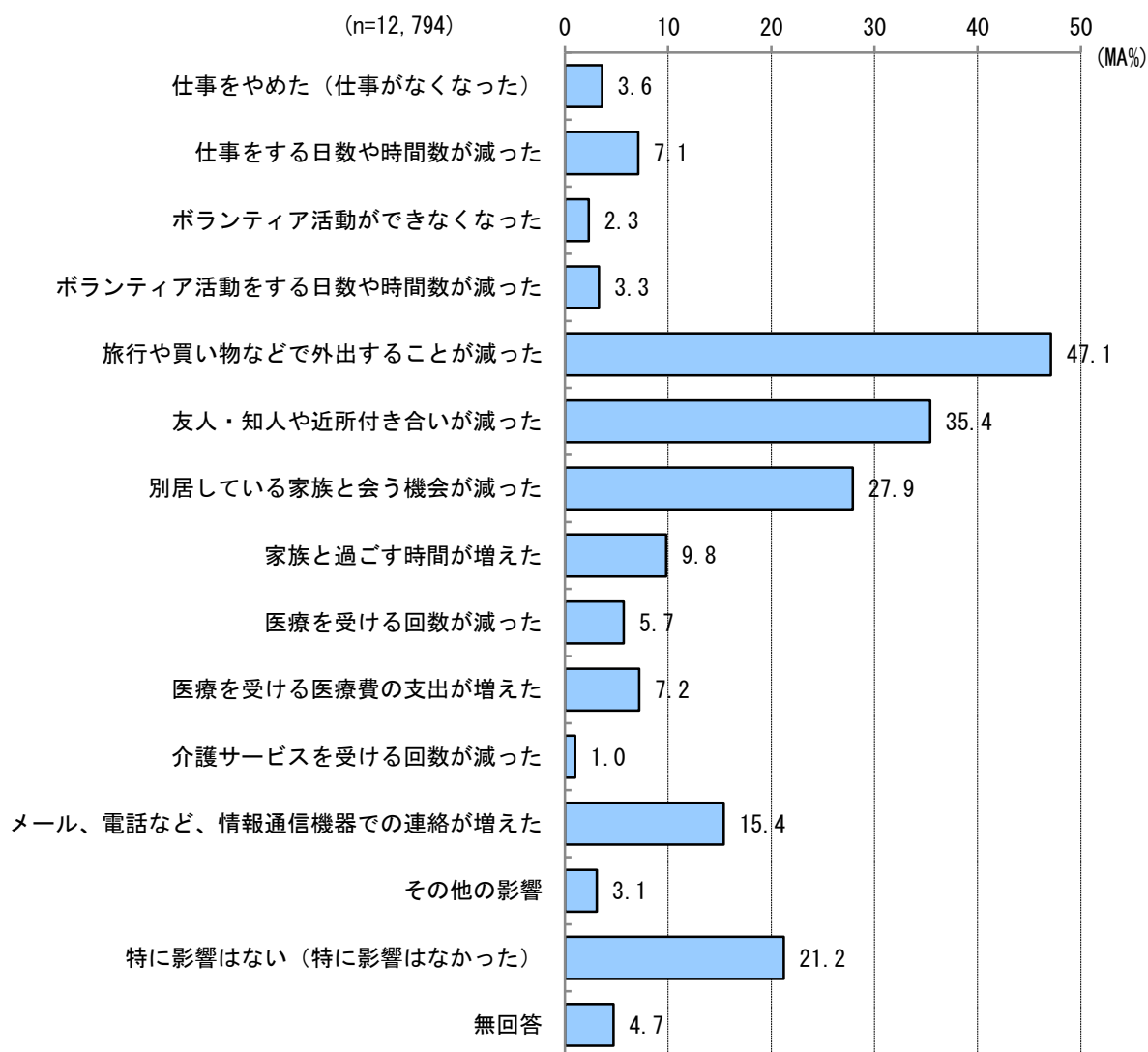


問8 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活への影響

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、あなたの生活にはどのような影響がありましたか。(〇はいくつでも)

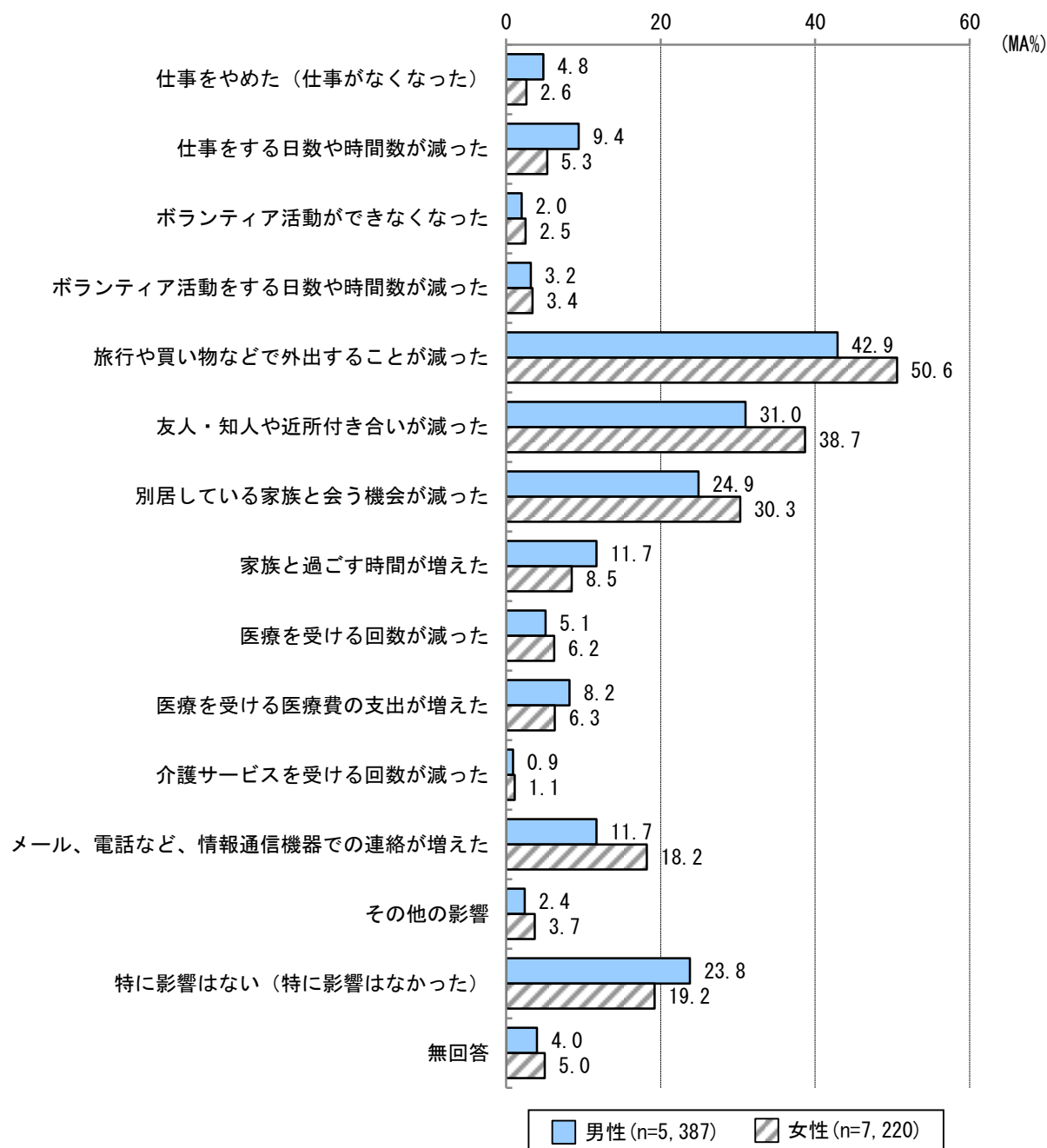
新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活への影響については、「旅行や買い物などで外出することが減った」が47.1%で最も多く、次いで「友人・知人や近所付き合いが減った」が35.4%、「別居している家族と会う機会が減った」が27.9%となっている。一方、「特に影響はない（特に影響はなかった）」は21.2%となっている。(問8)

【問8 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活への影響】



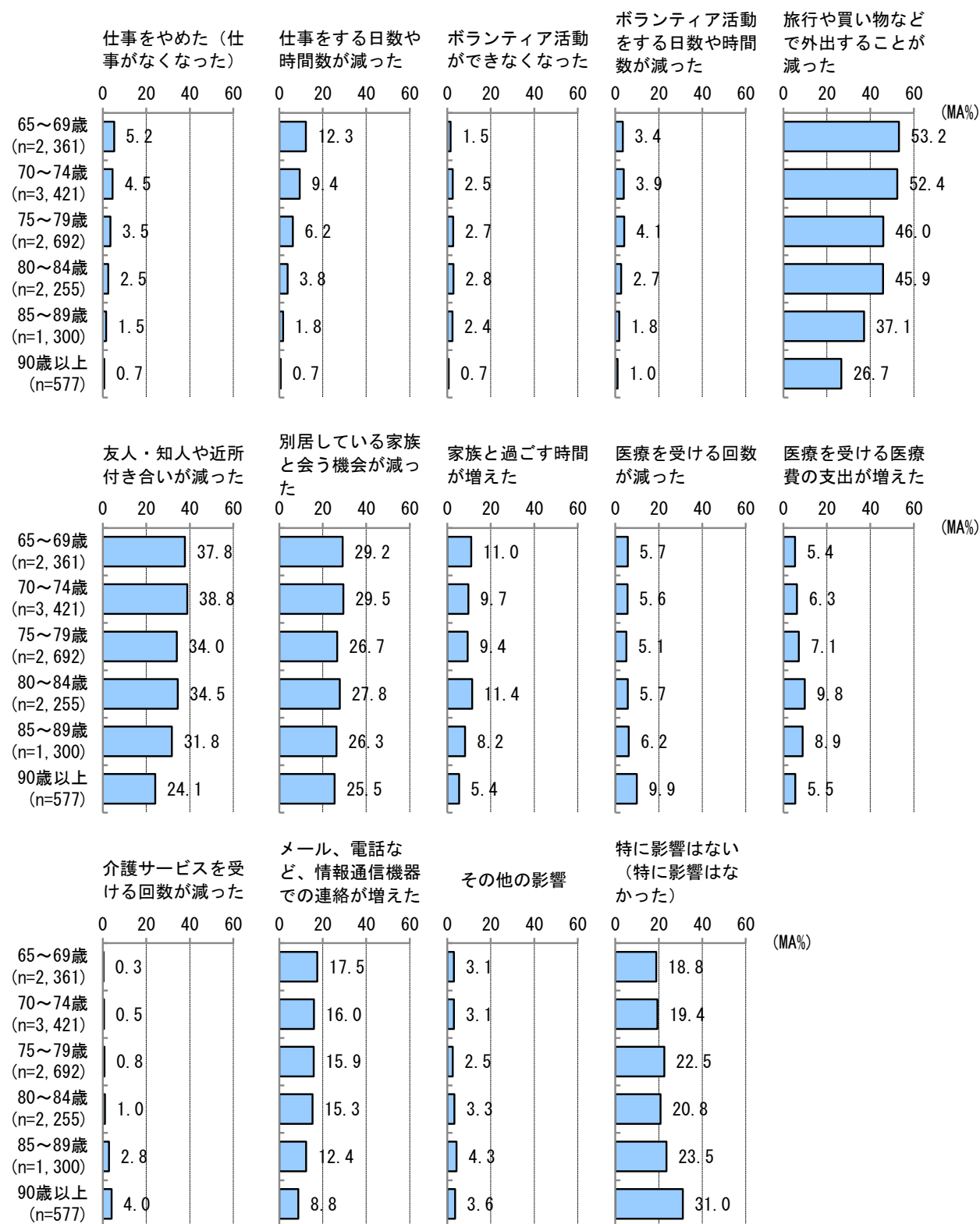
性別でみると、「旅行や買い物などで外出することが減った」や「友人・知人や近所付き合いが減った」、「別居している家族と会う機会が減った」の回答割合は男性より女性のほうが高くなっている。(問8-a)

【問8-a 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活への影響（性別）】



年齢別でみると、「旅行や買い物などで外出することが減った」、「友人・知人や近所付き合いが減った」や「別居している家族と会う機会が減った」の項目に多くの高齢者が「新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活の影響」を受けたと回答しています。（問8-b）

【問8-b 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活への影響（年齢別）】

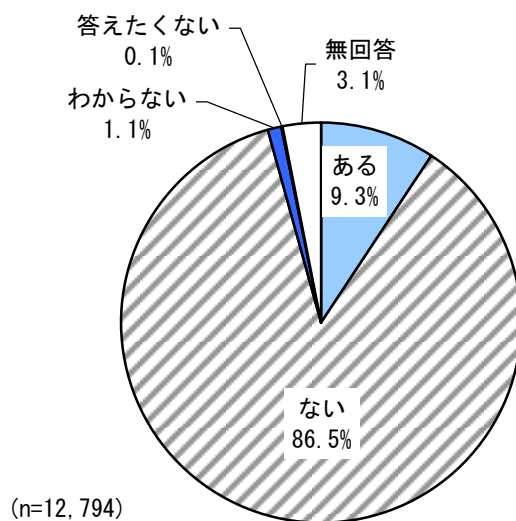


問9 新型コロナウイルス感染症に感染した経験

あなたは、新型コロナウイルス感染症に感染した経験はありますか。(○はひとつ)

新型コロナウイルス感染症に感染した経験については、「ない」が86.5%で最も多く、「ある」は9.3%となっている。(問9)

【問9 新型コロナウイルス感染症に感染した経験】



問10 情報通信機器の所有状況と利用状況

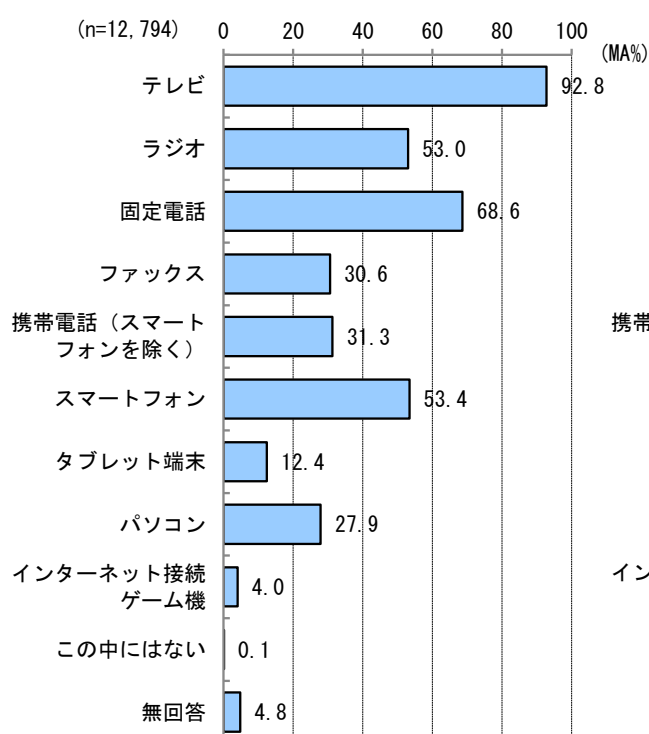
あなたが、情報収集や情報伝達のために、所有している情報通信機器を、すべてお答えください。(〇はいくつでも)

また、あなたが、ふだん利用しているものを、すべてお答えください。(〇はいくつでも)

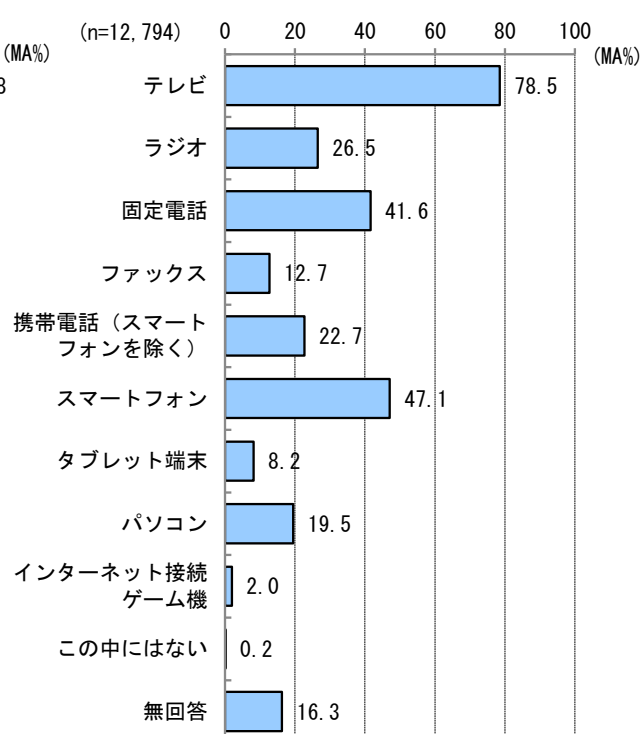
所有している情報通信機器については、「テレビ」が92.8%で最も多く、次いで「固定電話」が68.6%、「スマートフォン」が53.4%、「ラジオ」が53.0%となっている。(問10①)

そのうち、ふだん利用している情報通信機器は、「テレビ」が78.5%で最も多く、次いで「スマートフォン」が47.1%、「固定電話」が41.6%、「ラジオ」が26.5%となっている。(問10②)

【問 10① 情報通信機器の所有状況】

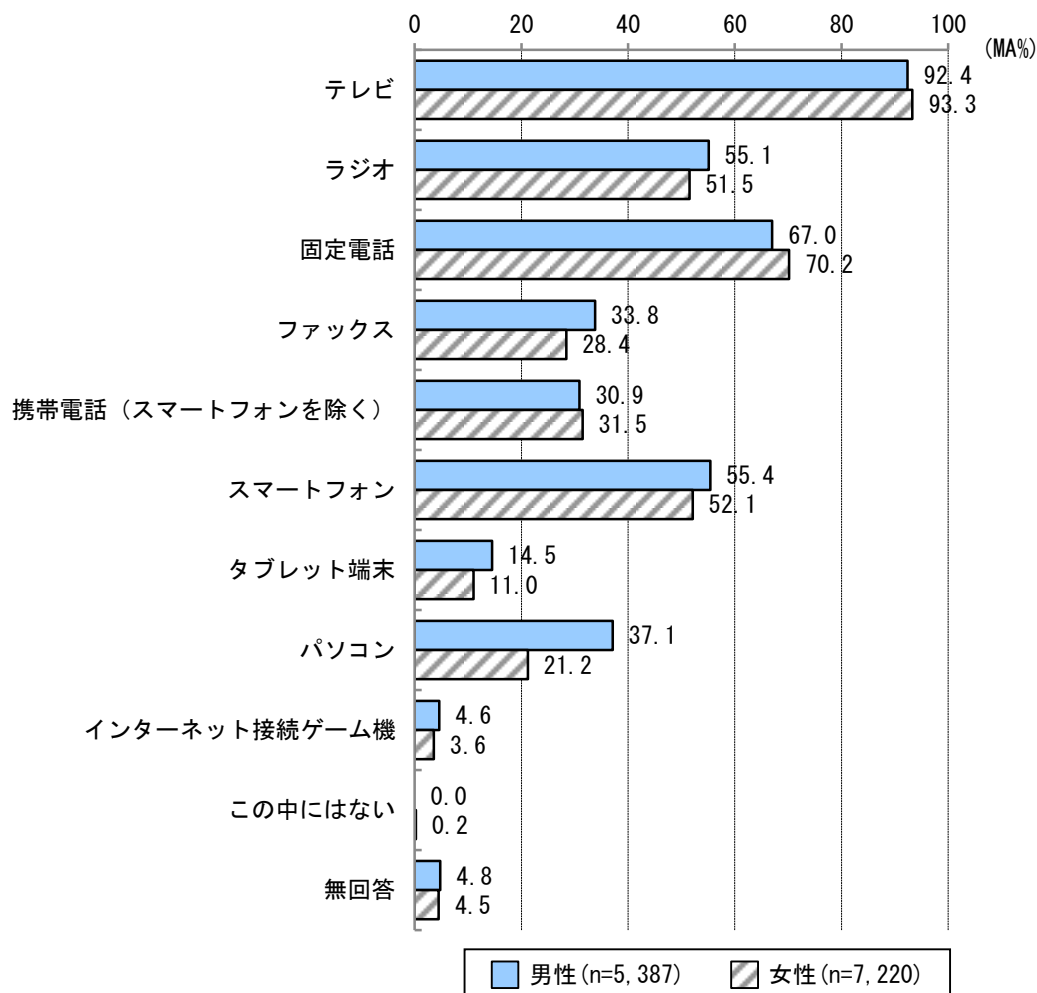


【問 10② 情報通信機器の利用状況】



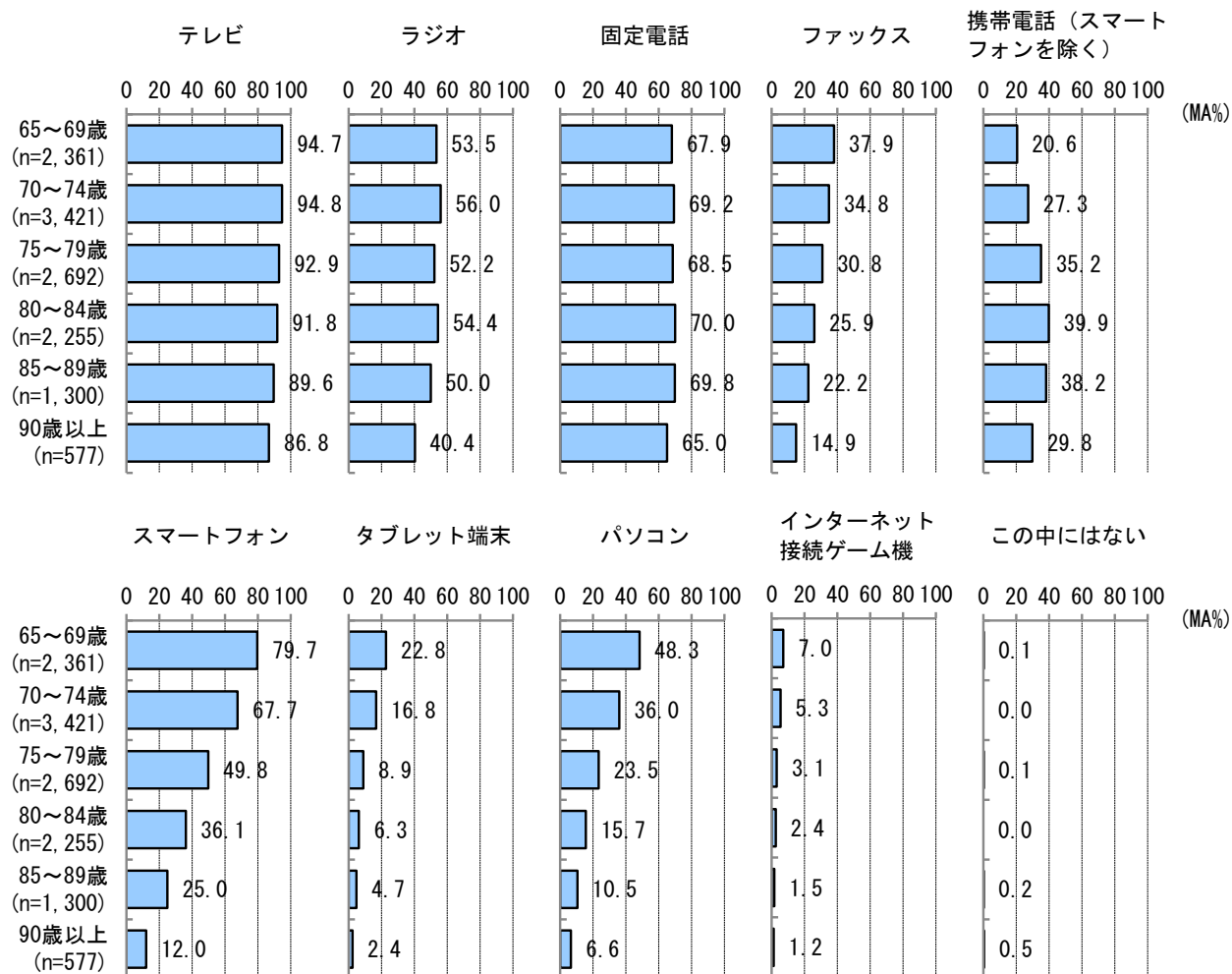
所有状況を性別で見ると、「パソコン」の回答割合は女性より男性のほうが1割以上高くなっている。「スマートフォン」は男女とも2人に1人は所有している。「携帯電話（スマートフォンを除く）」を所有している高齢者は3人に1人となっている。（問10①-a）

【問10①-a 情報通信機器の所有状況（性別）】



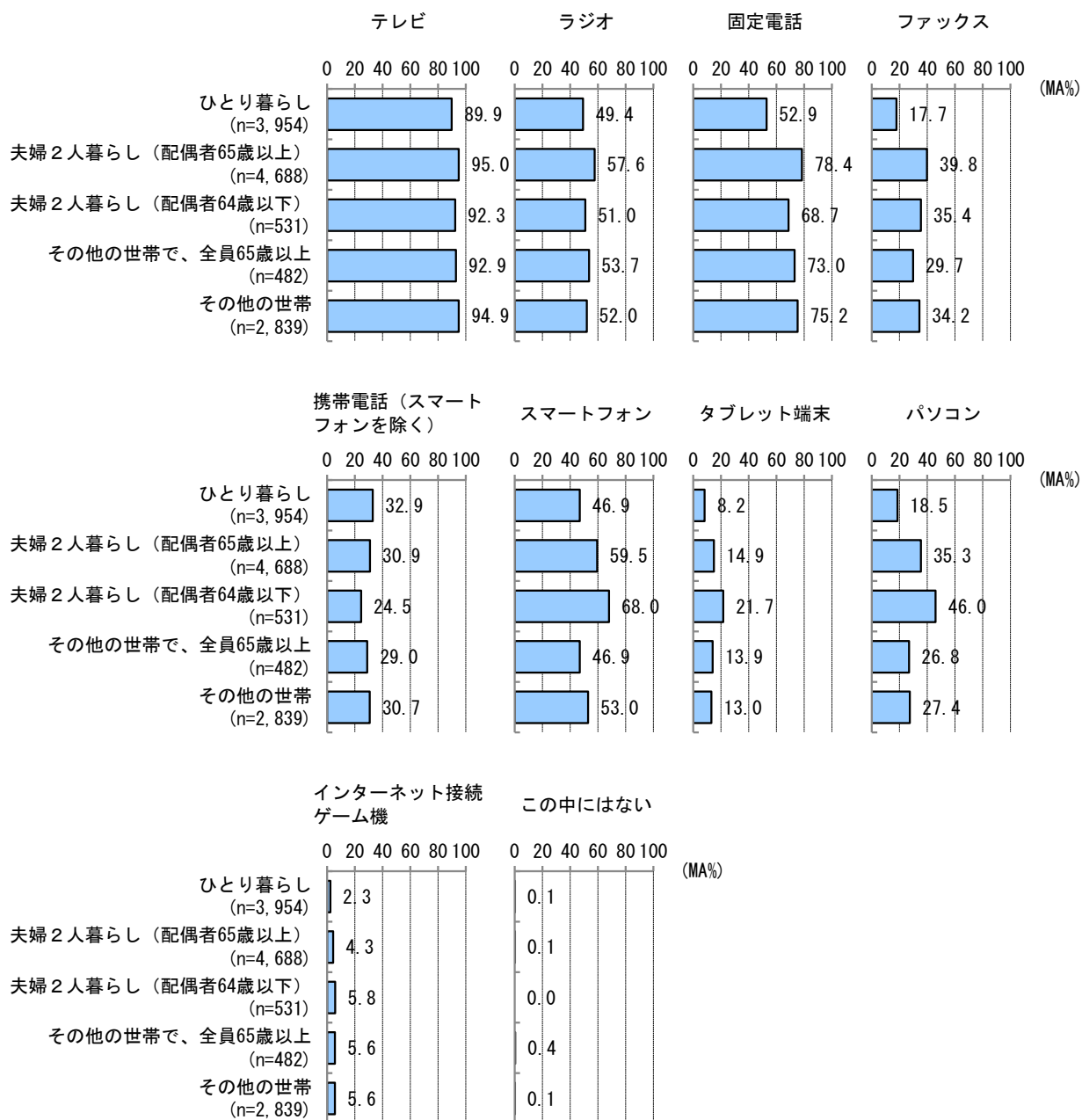
所有状況を年齢別でみると、「携帯電話（スマートフォンを除く）」を除く項目では、概ね高齢になるほど割合が低くなっている。「携帯電話（スマートフォンを除く）」の割合は75～89歳までの年代層で高くなっている。（問10①-b）

【問 10①-b 情報通信機器の所有状況（年齢別）】



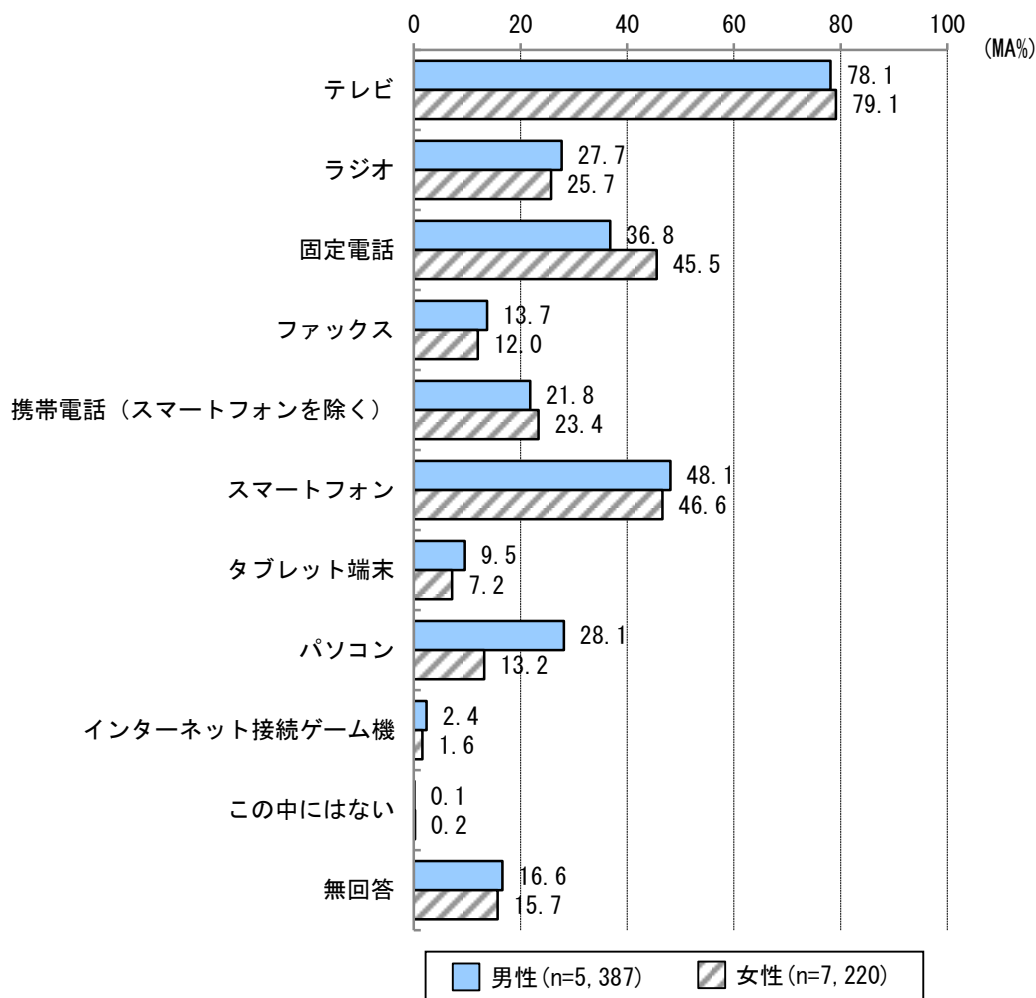
所有状況を世帯状況別でみると、「スマートフォン」、「タブレット端末」、「パソコン」、「インターネット接続ゲーム機」の回答割合は“夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）”が最も高くなっている。“夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）”では、「ラジオ」、「固定電話」、「ファックス」の各割合が高い。（問10①-c）

【問10①-c 情報通信機器の所有状況（世帯状況別）】



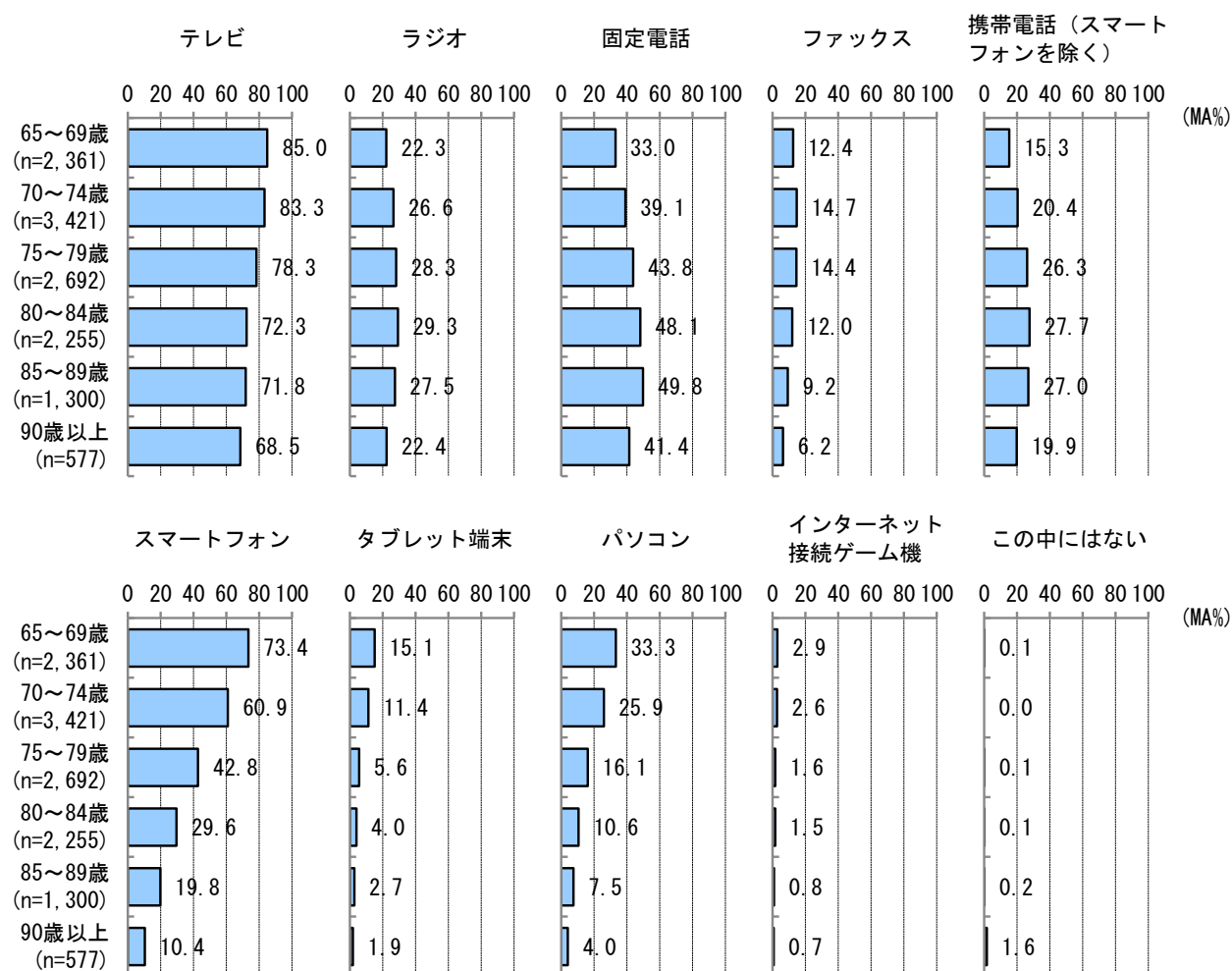
利用状況を性別で見ると、「パソコン」の回答割合は女性より男性のほうが1割以上高くなっている。全般的にどの機器も所有している割合に比べ利用割合のほうが低くなっており、「ラジオ」「固定電話」「ファックス」の各利用割合は、所有割合の半分程度でかい離が大きい。(問10②-a)

【問10②-a 情報通信機器の利用状況（性別）】



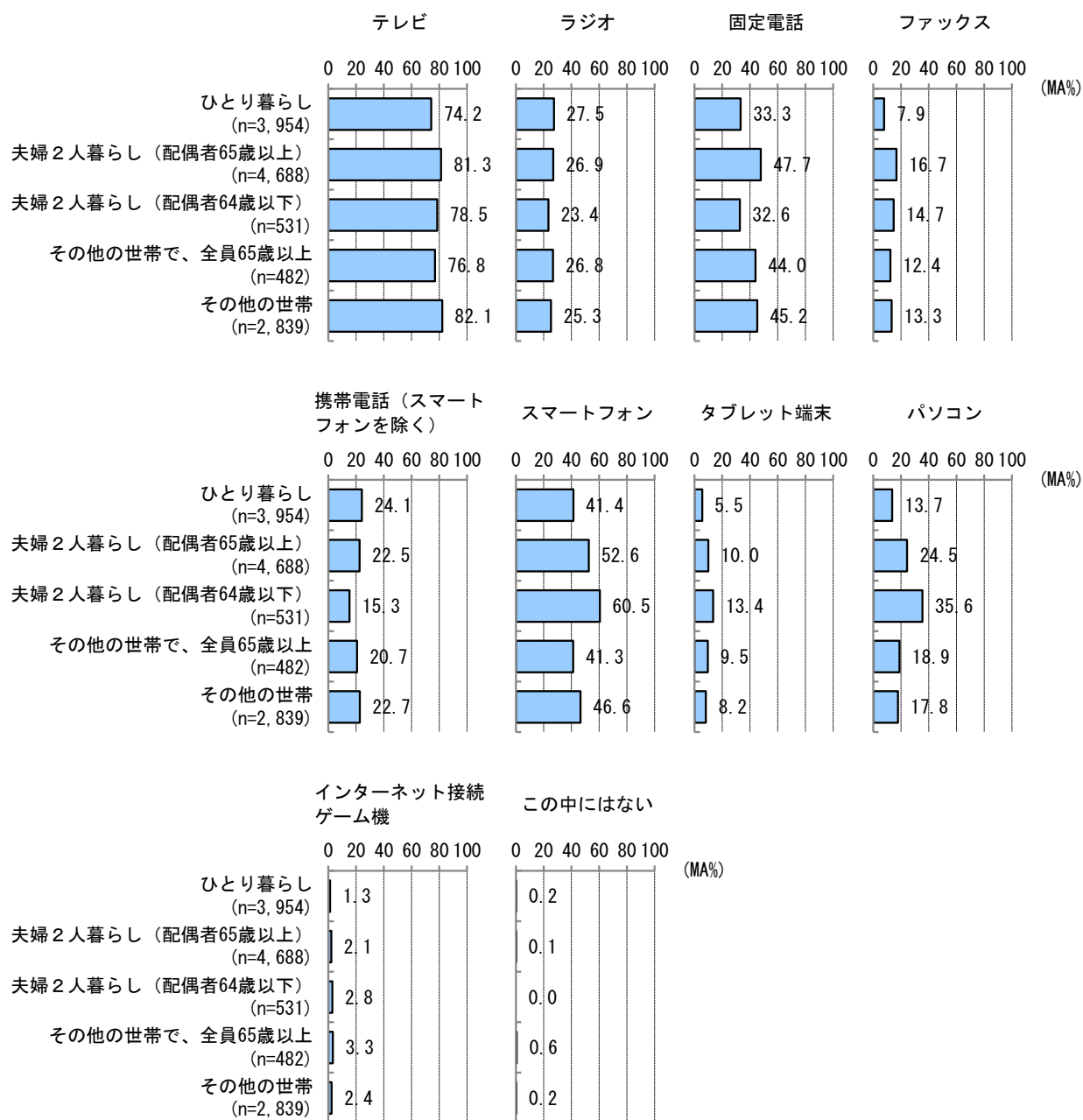
利用状況を年齢別でみると、「テレビ」、「スマートフォン」、「タブレット端末」、「パソコン」、「インターネット接続ゲーム機」の回答割合は、高齢になるほど割合が低くなっている。「固定電話」と「携帯電話（スマートフォンを除く）」の割合は75～89歳までの年代層で高くなっている。どの年代も、「ラジオ」、「固定電話」、「ファックス」の利用割合は、所有割合の概ね半分程度となっている。（問10②-b）

【問10②-b 情報通信機器の利用状況（年齢別）】



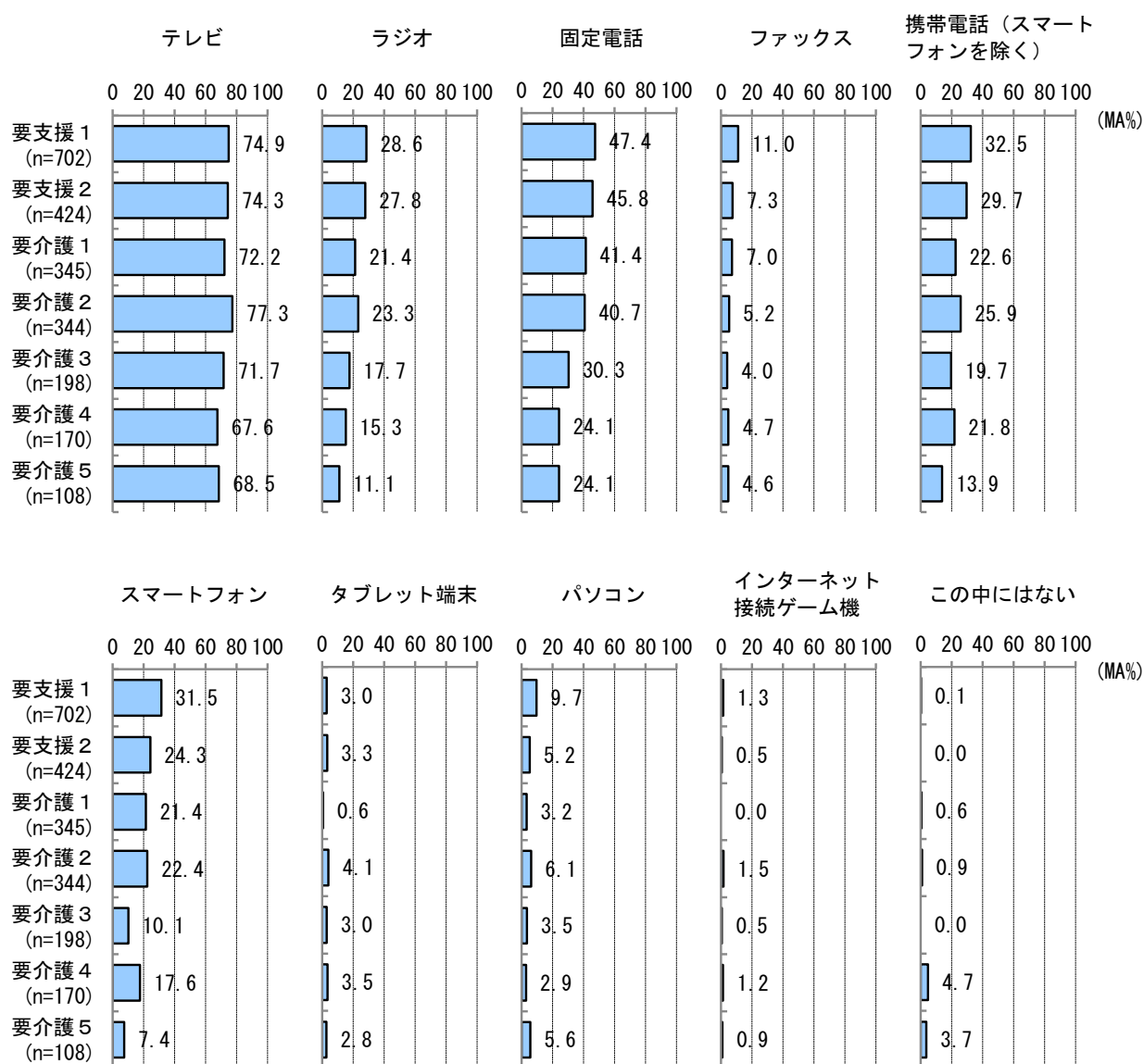
利用状況を世帯状況別でみると、「スマートフォン」、「タブレット端末」、「パソコン」の回答割合は“夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）”が最も高くなっている。「固定電話」の割合は“夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）”が最も高くなっている。どの世帯も、「ラジオ」、「固定電話」、「ファックス」の利用割合は、所有割合の概ね半分程度となっている。（問10②-c）

【問10②-c 情報通信機器の利用状況（世帯状況別）】



利用状況を介護度別でみると、「ラジオ」、「固定電話」、「ファックス」、「携帯電話（スマートフォンを除く）」、「スマートフォン」、「パソコン」では要支援Ⅰで最も高く、概ね重度になるほど割合が低くなる傾向にある。いずれの介護度も「スマートフォン」に比べ「携帯電話（スマートフォンを除く）」の利用割合のほうが高くなっている。（問10②-d）

【問10②-d 情報通信機器の利用状況（介護度別）】

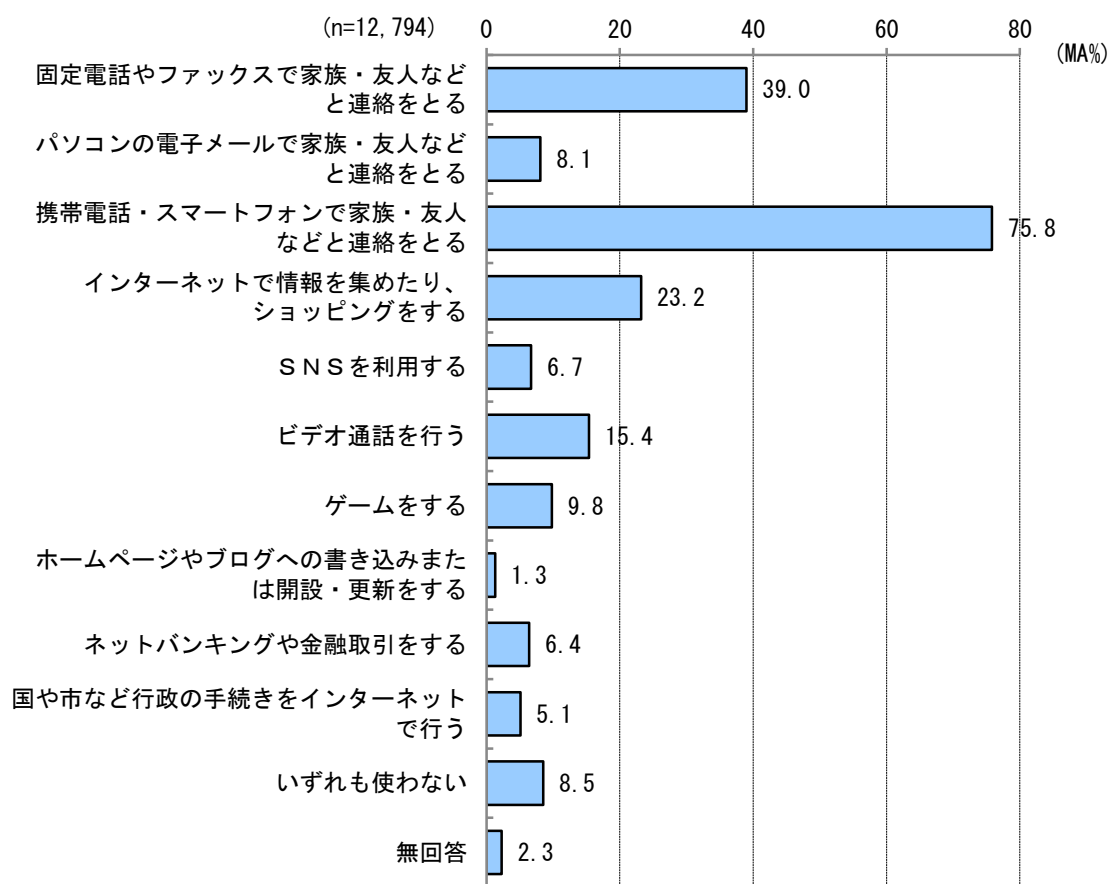


問11 情報通信機器の利用目的

あなたは、情報通信機器を使って、どのようなことをされますか。あてはまるものをすべてあげてください。（○はいくつでも）

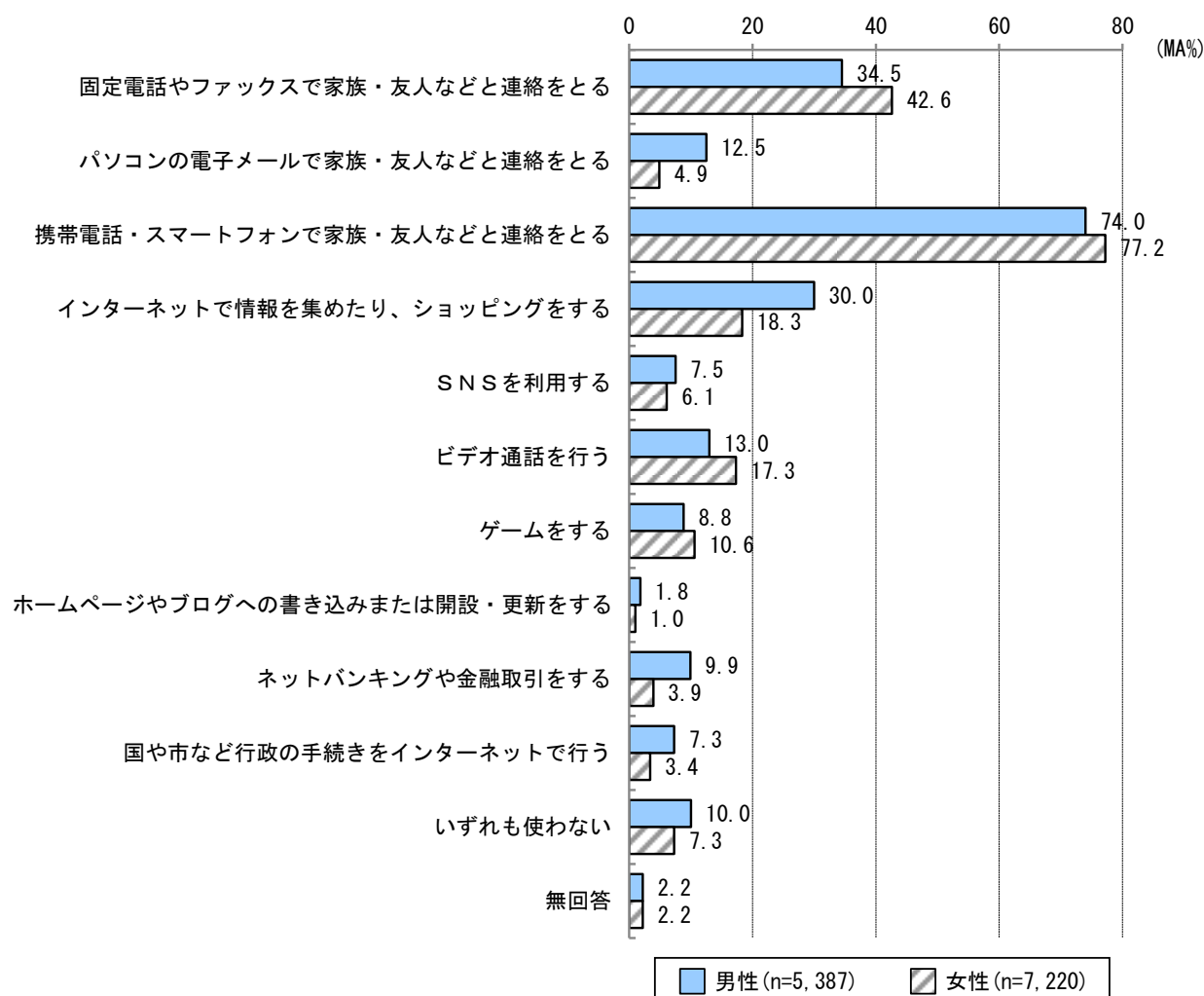
情報通信機器の利用目的については、「携帯電話・スマートフォンで家族・友人などと連絡をとる」が75.8%で最も多く、次いで「固定電話やファックスで家族・友人などと連絡をとる」が39.0%、「インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする」が23.2%となっている。（問11）

【問 11 情報通信機器の利用目的】



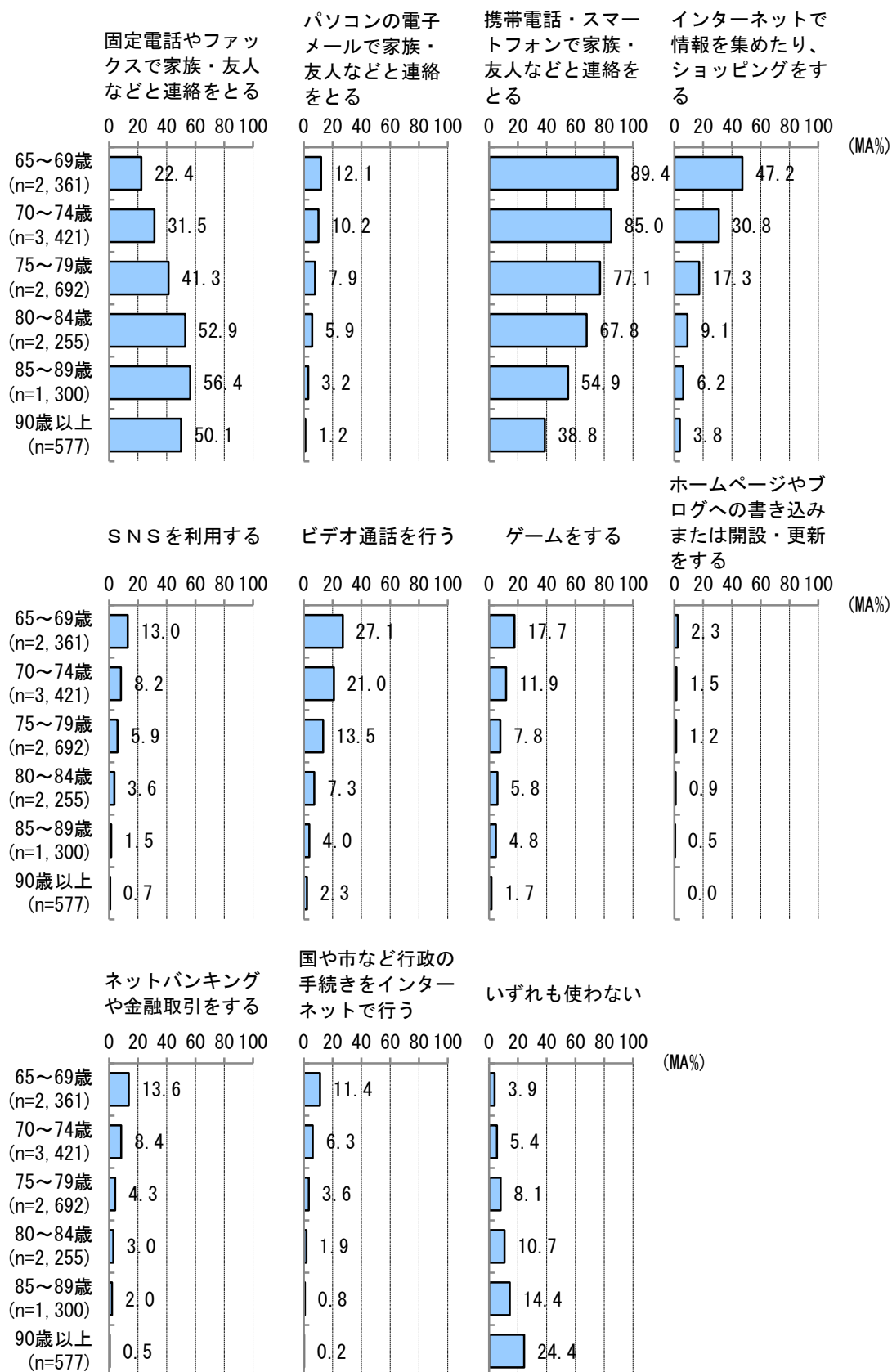
性別でみると、「インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする」の回答割合は女性より男性のほうが1割以上高くなっている。(問11-a)

【問11-a 情報通信機器の利用目的（性別）】



年齢別でみると、「固定電話やファックスで家族・友人などと連絡をとる」の回答割合は概ね高齢になるほど割合が高く、85～89歳が56.4%で最も高くなっている。それ以外の項目は、いずれも高齢になるほど割合が低くなっている。（問11-b）

【問 11-b 情報通信機器の利用目的（年齢別）】

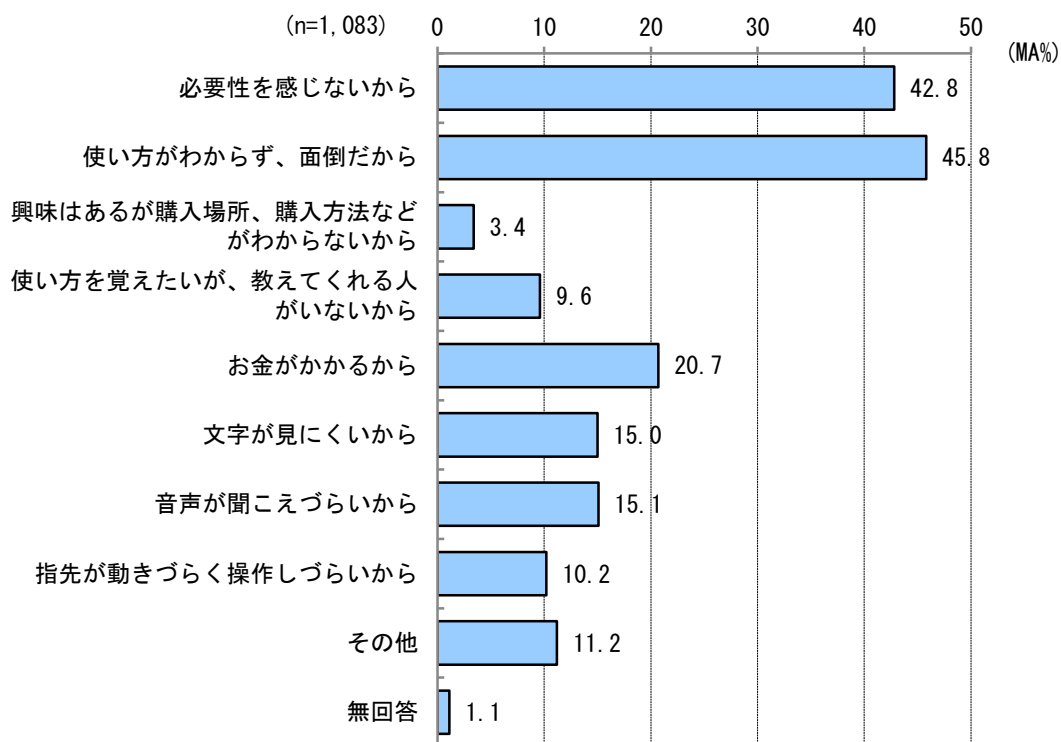


問11-1 情報通信機器を利用しない理由

問11で「11 いずれも使わない」と回答された方におうかがいします。
情報通信機器をお使いにならないのはなぜですか。(〇はいくつでも)

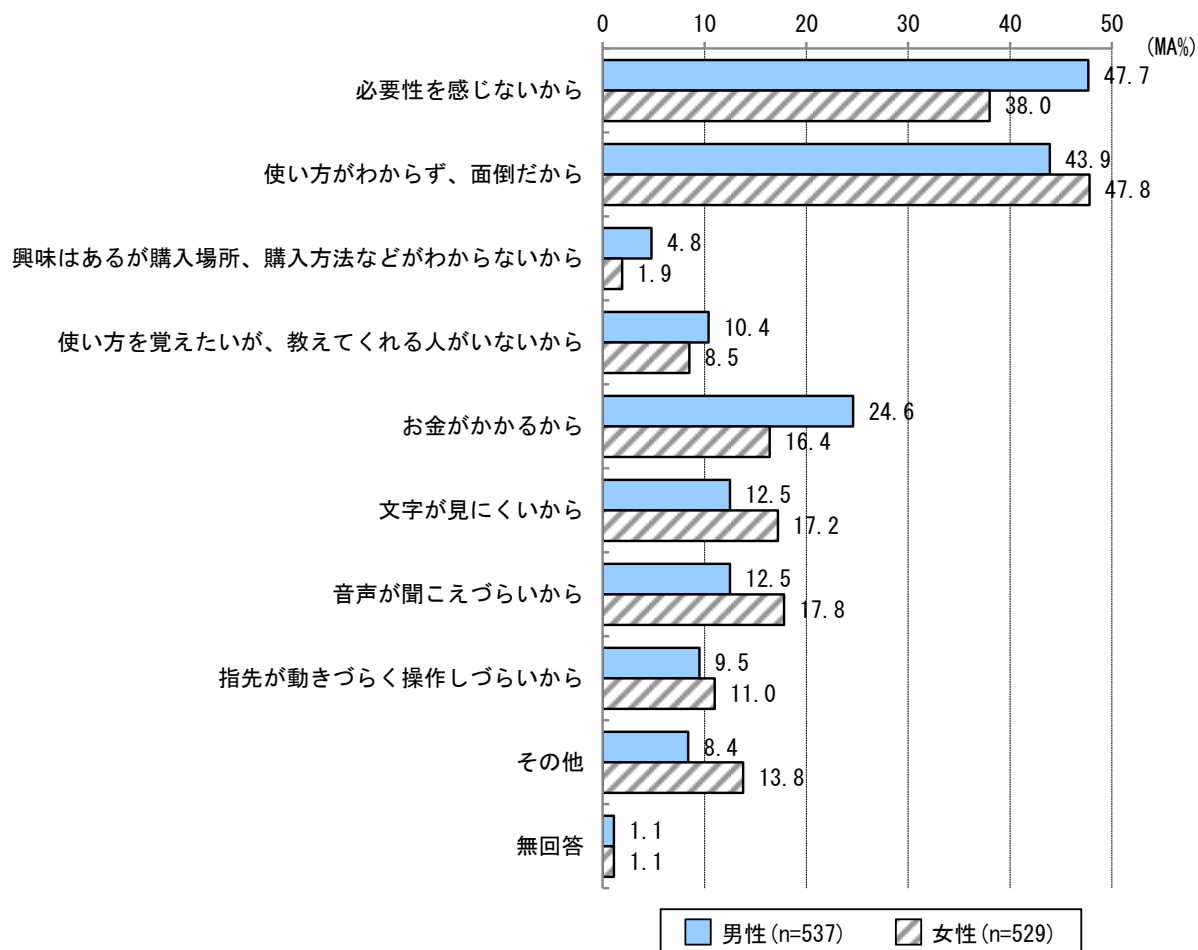
情報通信機器を利用しないと回答した人にその理由をたずねると、「使い方がわからず、面倒だから」が45.8%で最も多く、次いで「必要性を感じないから」が42.8%、「お金がかかるから」が20.7%となっている。(問11-1)

【問 11-1 情報通信機器を利用しない理由】



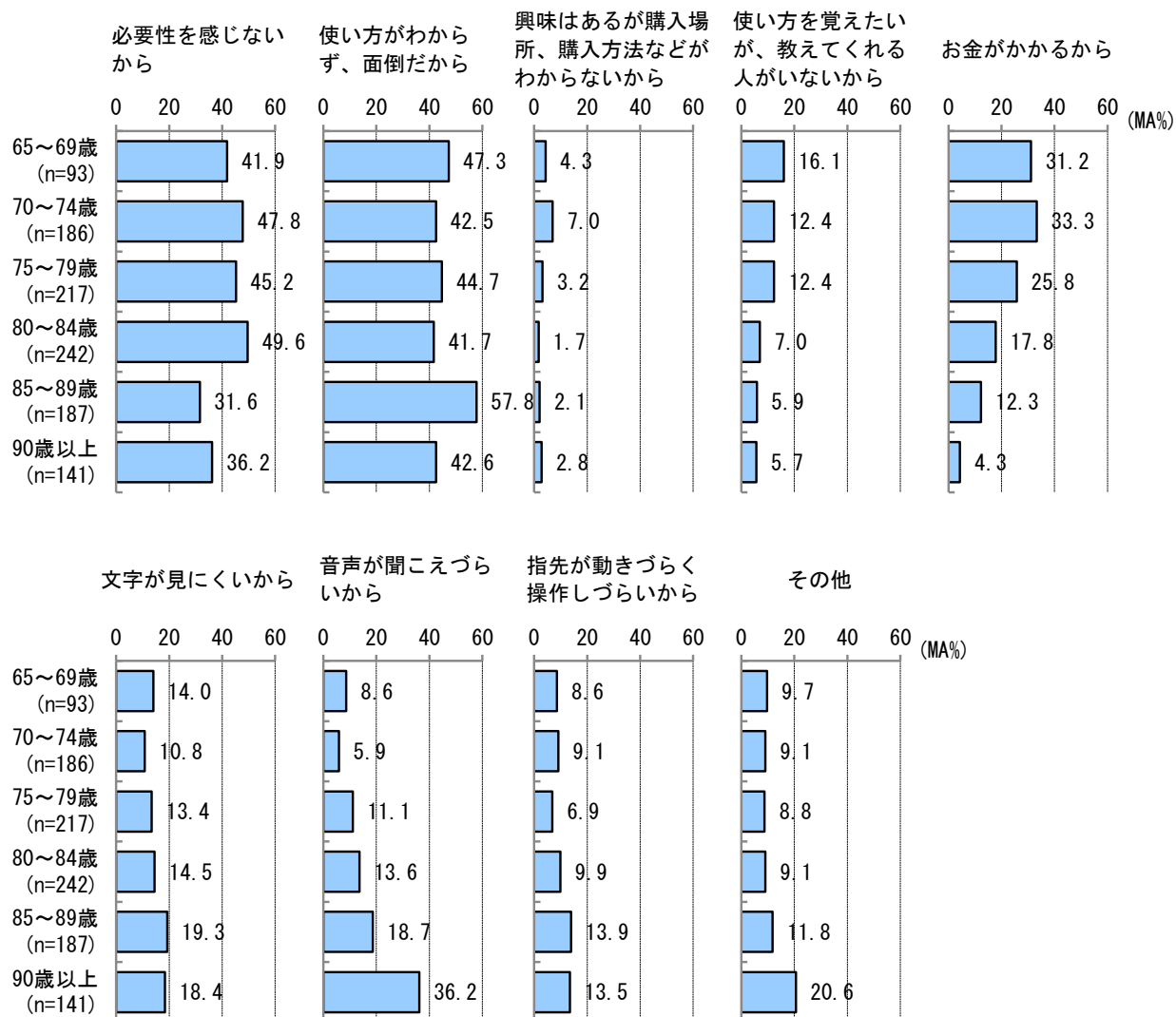
性別でみると、「必要性を感じないから」、「興味はあるが購入場所、購入方法などがわからないから」、「使い方を覚えたいが、教えてくれる人がいないから」、「お金がかかるから」の回答割合は女性より男性のほうが高くなっている。（問11-1-a）

【問 11-1-a 情報通信機器を利用しない理由（性別）】



年齢別でみると、「使い方がわからず、面倒だから」の回答割合は85～89歳が57.8%で最も高くなっている。また、「文字が見えにくいから」は、どの年齢も総じて10%以上の高齢者が回答し、「音声がかえづらいから」は高齢になるほど割合が高くなっている。（問11-1-b）

【問 11-1-b 情報通信機器を利用しない理由（年齢別）】



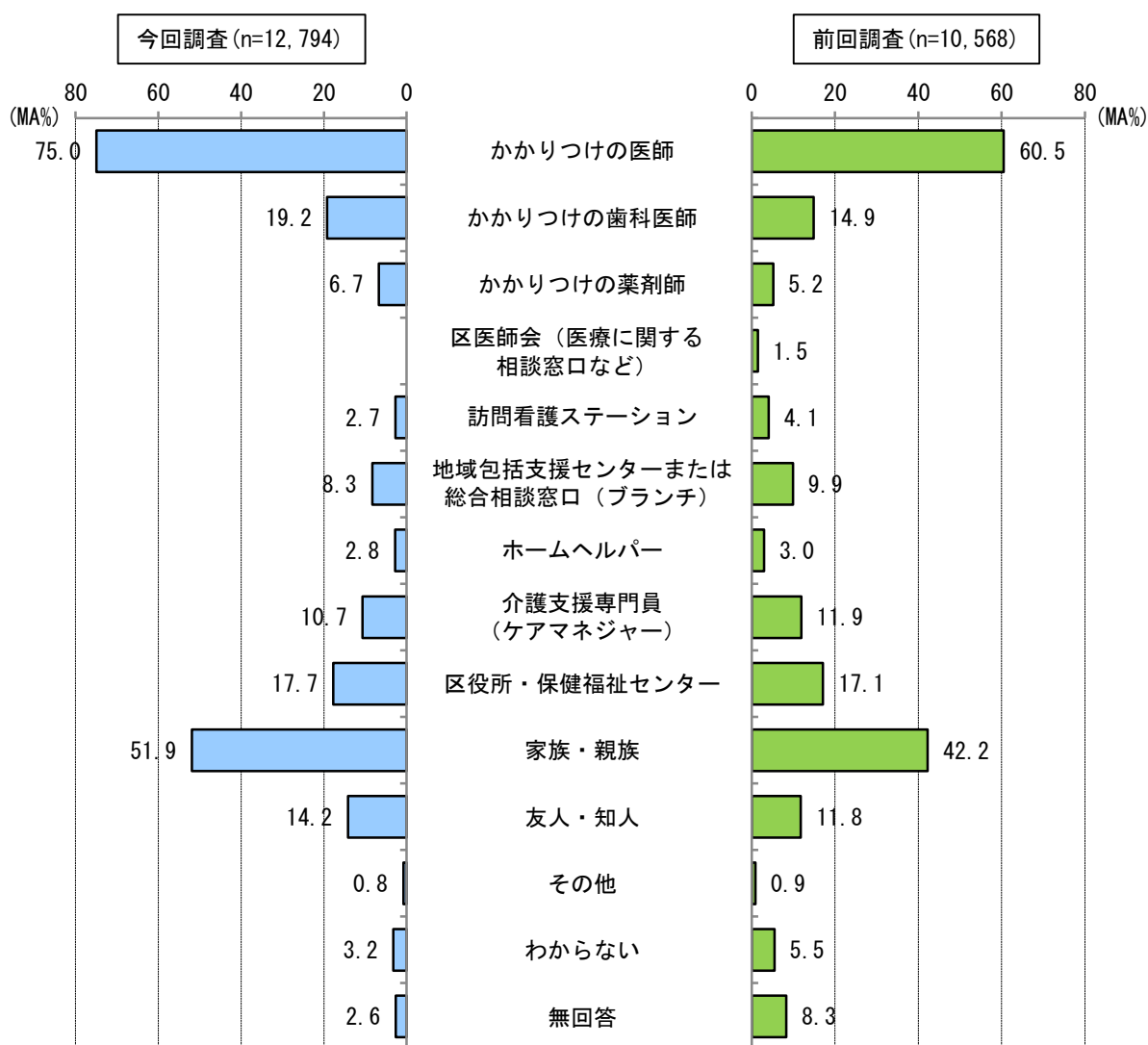
問12 医療の相談先

在宅で生活をしていて医療が必要になった時、どこに相談されますか。(〇はいくつでも)

医療の相談先については、「かかりつけの医師」が75.0%で最も多く、次いで「家族・親族」が51.9%、「かかりつけの歯科医師」が19.2%となっている。

新型コロナウイルス感染症拡大前である前回調査と比較すると、「かかりつけの医師」の割合が14.5ポイント、「家族・親族」が9.7ポイント前回より高くなっている。(問12)

【問12 医療の相談先（経年比較）】



※前回調査の「区医師会（医療に関する相談窓口など）」は、今回調査では設けていない。

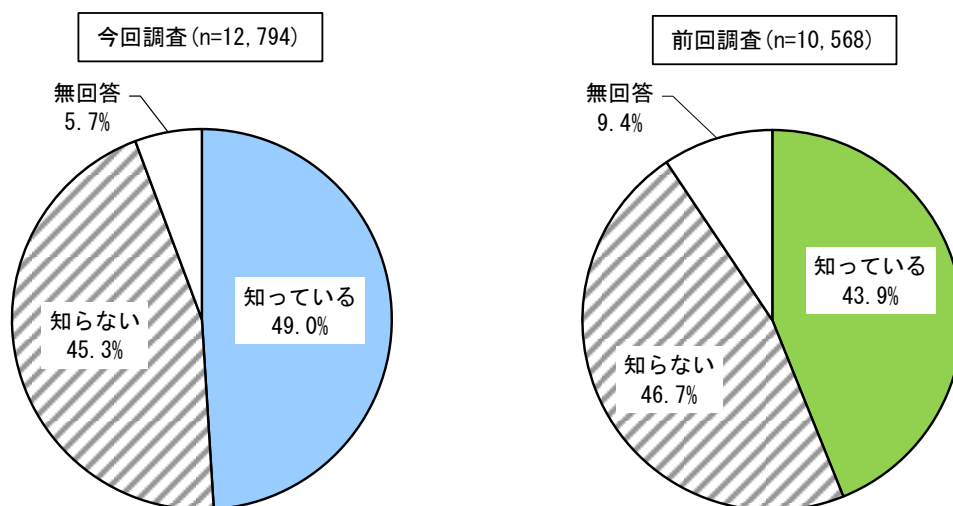
問13 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度

あなたは、希望すれば在宅医療を受けられることを知っていますか。(○はひとつ)

希望すれば在宅医療を受けられることを知っているかについては、「知っている」が49.0%、「知らない」が45.3%となっている。

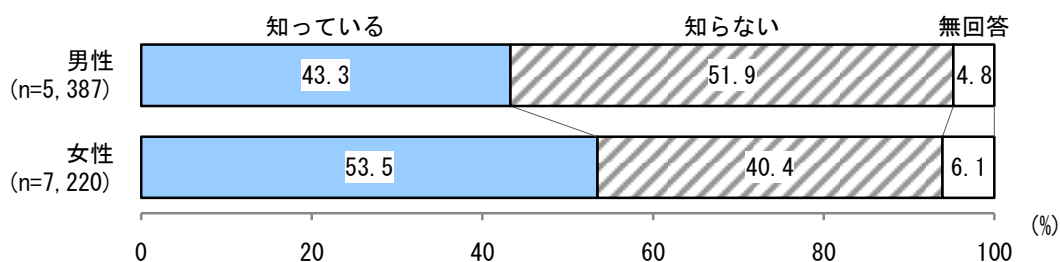
新型コロナウイルス感染症拡大前である前回調査と比較すると、「知っている」の割合は前回より5.1ポイント高く、認知度が高くなっている。(問13)

【問 13 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度（経年比較）】



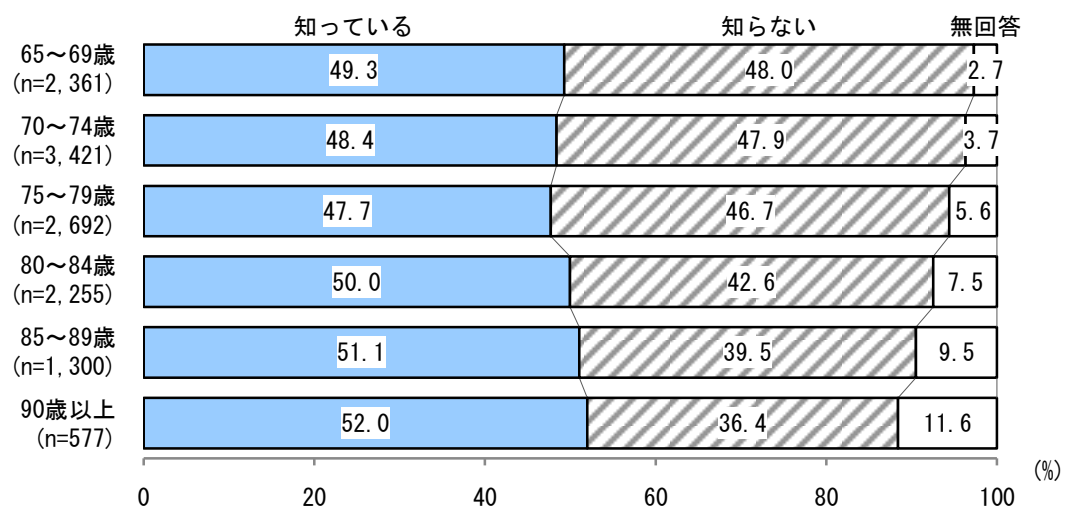
性別でみると、「知らない」は女性より男性のほうが高くなっている。(問13-a)

【問 13-a 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度（性別）】



年齢別でみると、「知らない」は高齢になるほど割合が低くなっている。(問13-b)

【問 13-b 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度（年齢別）】



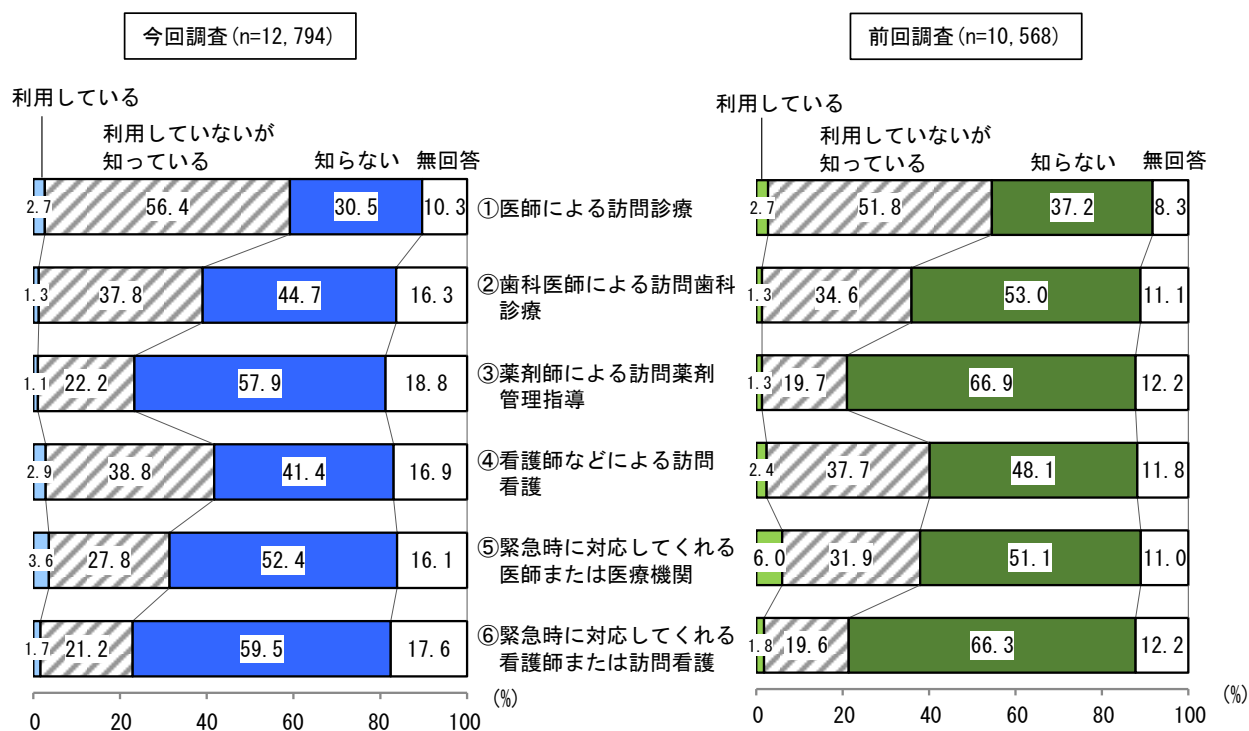
問14 在宅医療の利用状況

次の項目それぞれについて「利用している」「利用していないが知っている」「知らない」「知らない」のいずれか該当するものを番号で選んでください。(〇はひとつずつ)

在宅医療の利用状況については、「利用している」の割合が最も高いのは、“⑤緊急時に対応してくれる医師または医療機関”(3.6%)となっている。「利用している」と「利用していないが知っている」をあわせた認知度は、“①医師による訪問診療”(59.1%)が最も高くなっている。

新型コロナウイルス感染症拡大前である前回調査と比較すると、構成割合は概ね同様であるが、「知らない」の回答割合は“⑤緊急時に対応してくれる医師または医療機関”以外の項目は、前回調査の結果から低下し、認知度は高くなっている。(問14)

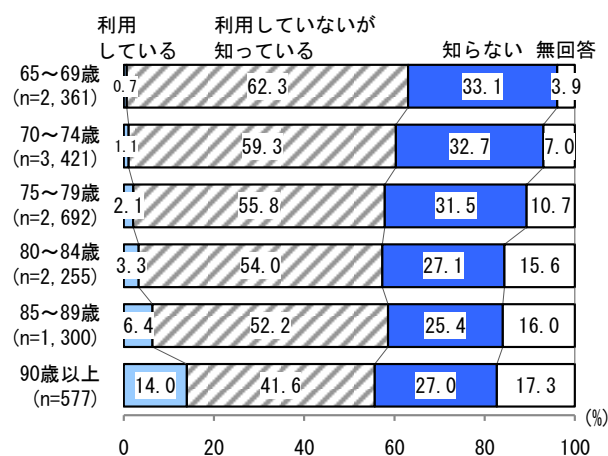
【問14 在宅医療の利用状況（経年比較）】



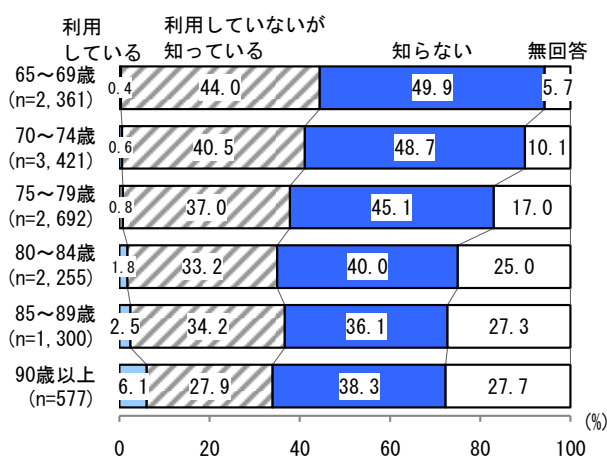
年齢別でみると、いずれの項目も高齢になるほど「利用している」の回答割合が高くなって
いる。(問14-a)

【問 14-a 在宅医療の利用状況（年齢別）】

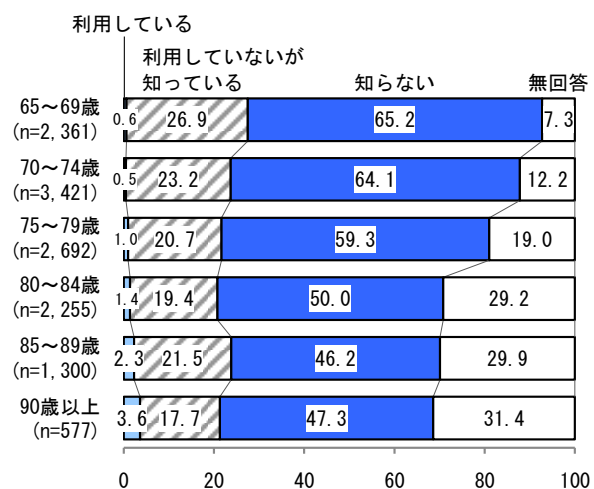
①医師による訪問診療



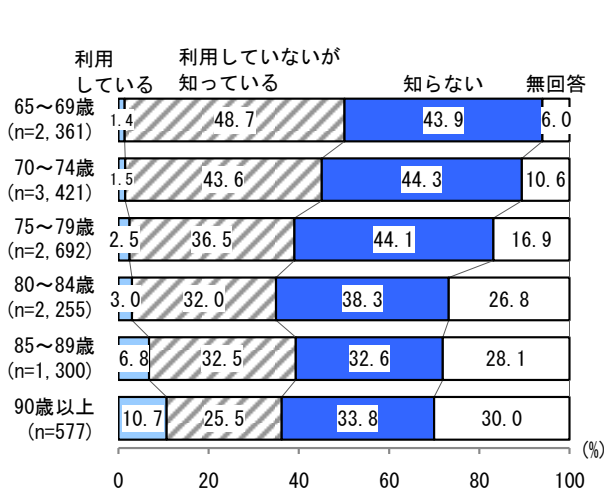
②歯科医師による訪問歯科診療



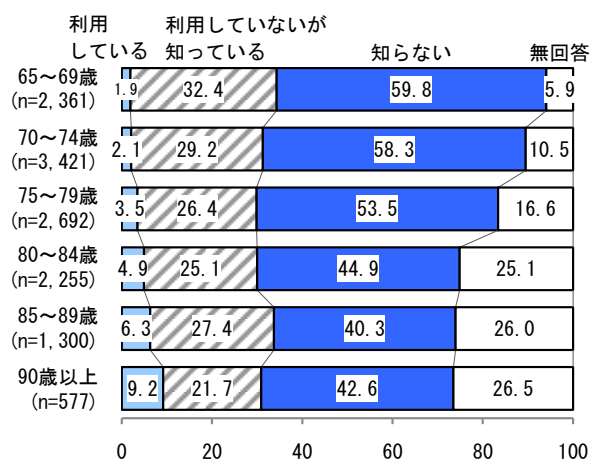
③薬剤師による訪問薬剤管理指導



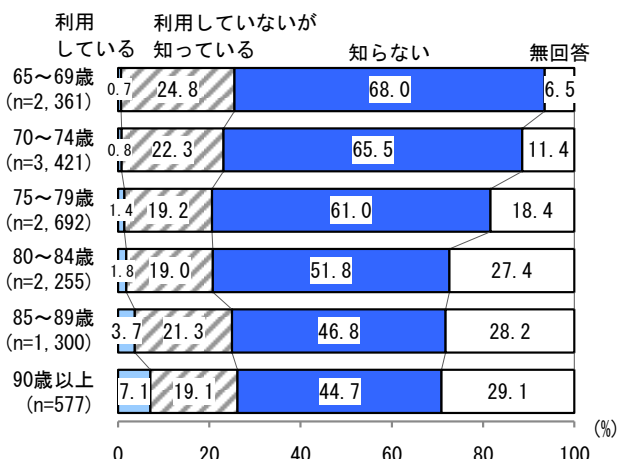
④看護師などによる訪問看護



⑤緊急時に対応してくれる医師または医療機関



⑥緊急時に対応してくれる看護師または訪問看護



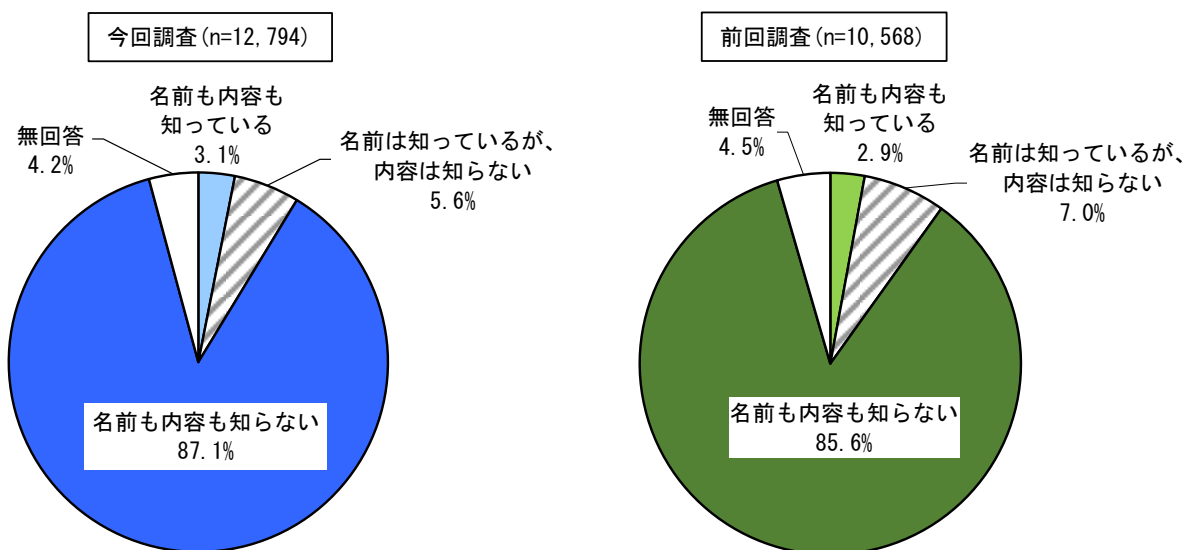
問15 人生会議（ACP）の認知度

あなたは、『人生会議（ACP）』について知っていますか。（○はひとつ）

人生会議（ACP）の認知度については、「名前も内容も知らない」が87.1%で最も多く、次いで「名前は知っているが、内容は知らない」が5.6%、「名前も内容も知っている」が3.1%となっている。

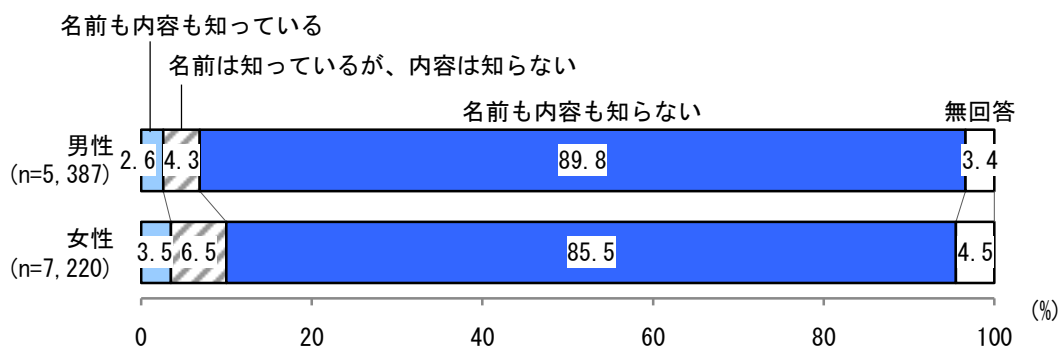
新型コロナウイルス感染症拡大前である前回調査と比較しても、項目の傾向に大きく変化はみられない。（問15）

【問 15 人生会議（ACP）の認知度（経年比較）】



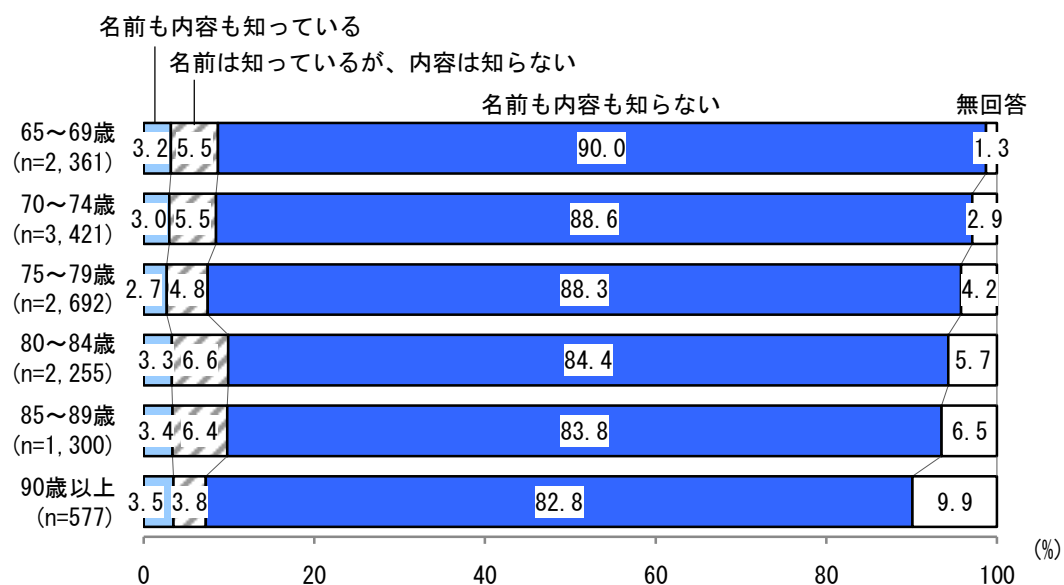
性別でみると、「名前も内容も知らない」は女性より男性のほうが高くなっている。（問15-a）

【問 15-a 人生会議（ACP）の認知度（性別）】



年齢別でみると、年齢に関係なく、「名前も内容も知らない」が8～9割を占め、特に65～69歳が90.0%で最も高くなっている。(問15-b)

【問 15-b 人生会議（ACP）の認知度（年齢別）】

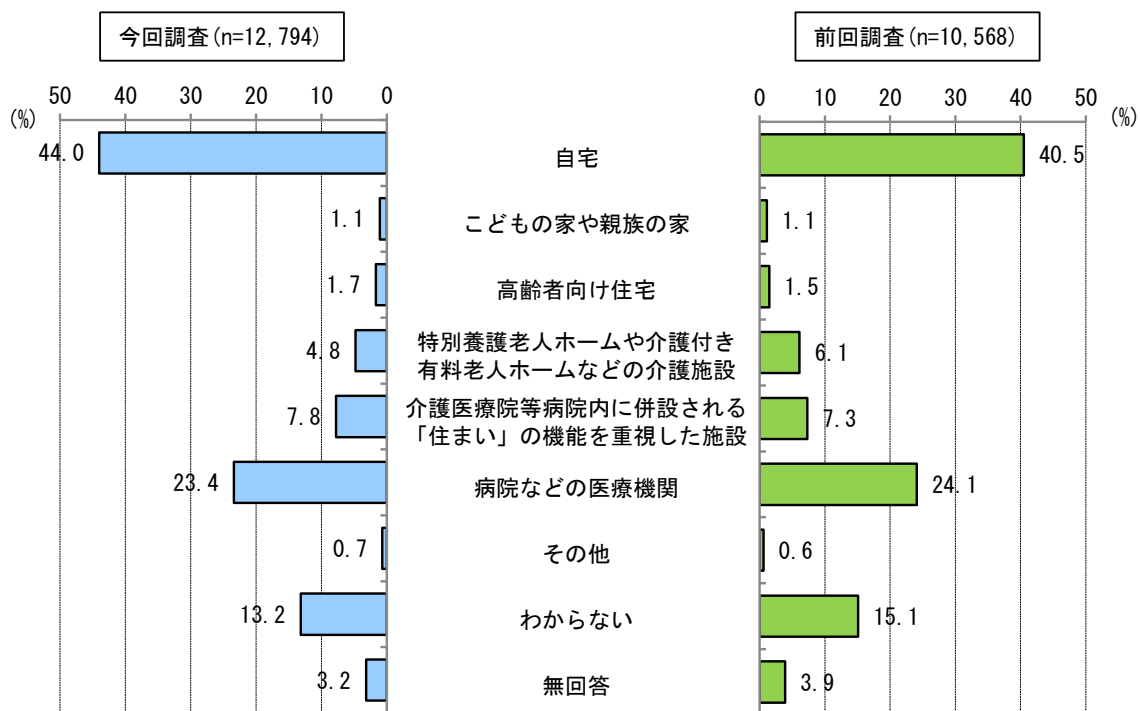


問16 人生の最終段階に過ごしたい場所

万一、あなたが治る見込みのない病気になった場合、人生の最終段階をどこで過ごしたいですか。なお、必要な医療については、それぞれの場所で受けることができるものとしてお答えください。（〇はひとつ）

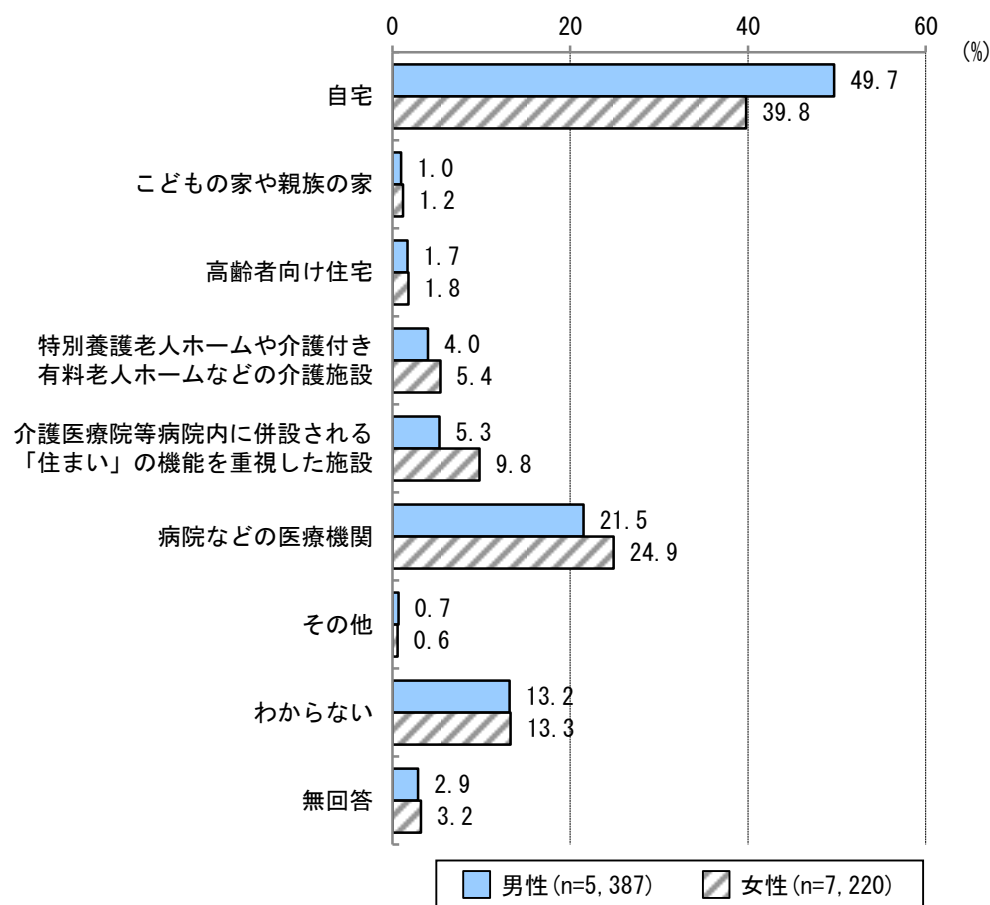
人生の最終段階に過ごしたい場所については、「自宅」の回答割合が44.0%で最も高く、前回調査の結果から3.5ポイント上昇している。（問16）

【問16 人生の最終段階に過ごしたい場所（経年比較）】



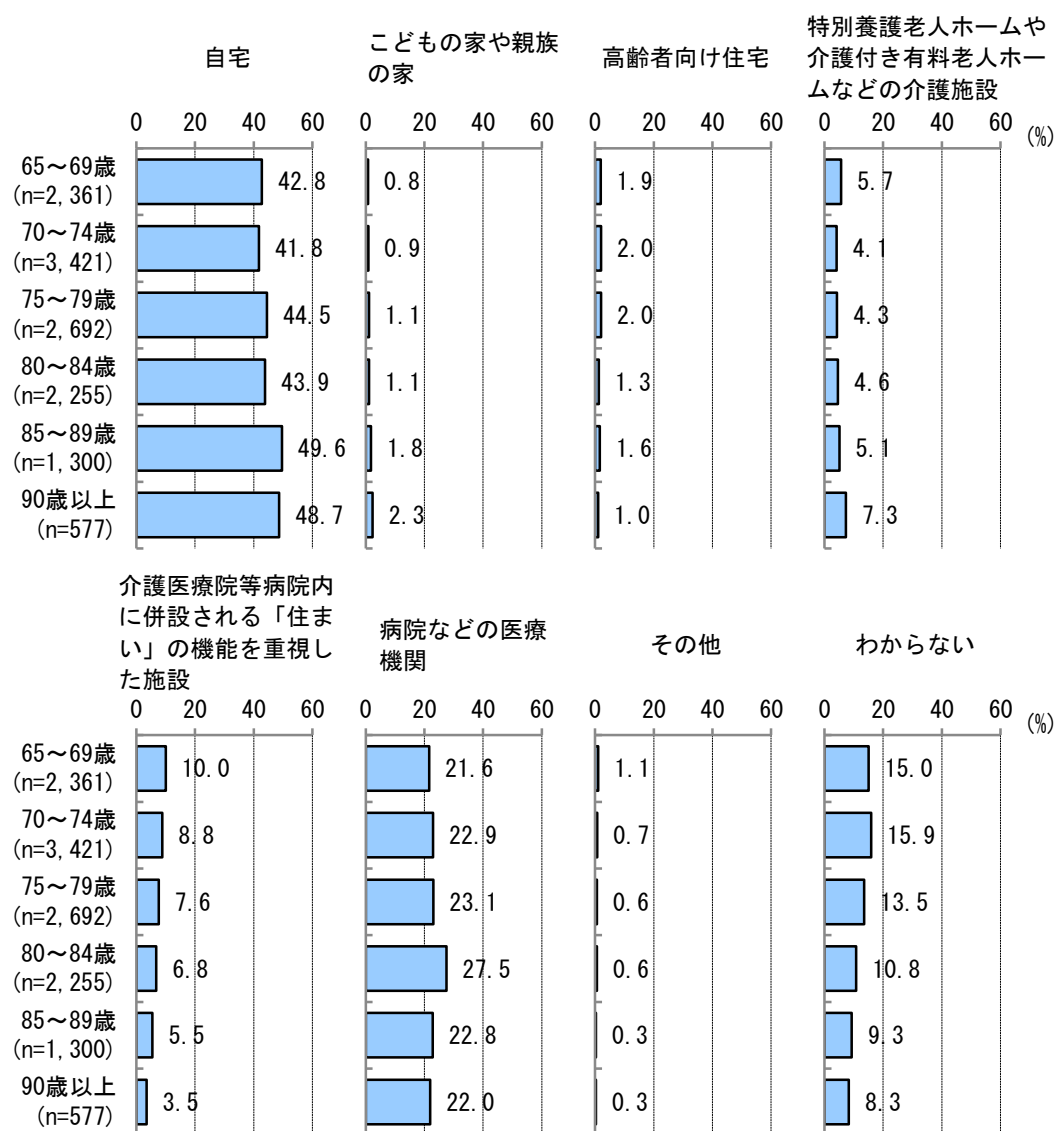
性別でみると、「自宅」は女性より男性のほうが約1割高くなっている。(問16-a)

【問16-a 人生の最終段階に過ごしたい場所（性別）】



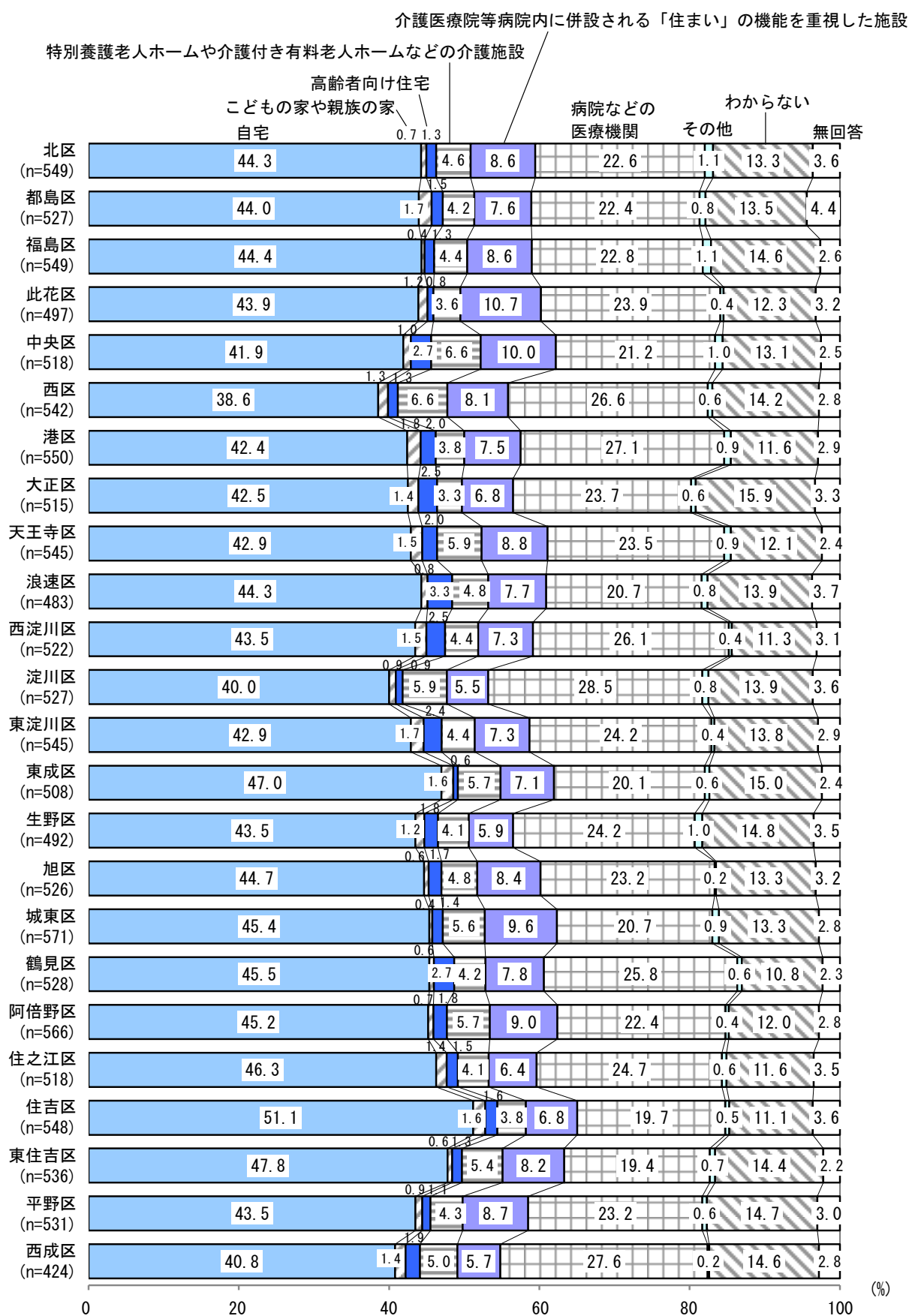
年齢別でみると、「自宅」の回答割合は85～89歳が49.6%で最も高く、次いで90歳以上が48.7%となっている。(問16-b)

【問 16-b 人生の最終段階に過ごしたい場所（年齢別）】



居住区別でみると、「自宅」の回答割合は住吉区が51.1%で最も高く、「病院などの医療機関」は淀川区が28.5%で最も高くなっている。(問16-c)

【問 16-c 人生の最終段階に過ごしたい場所（居住区別）】



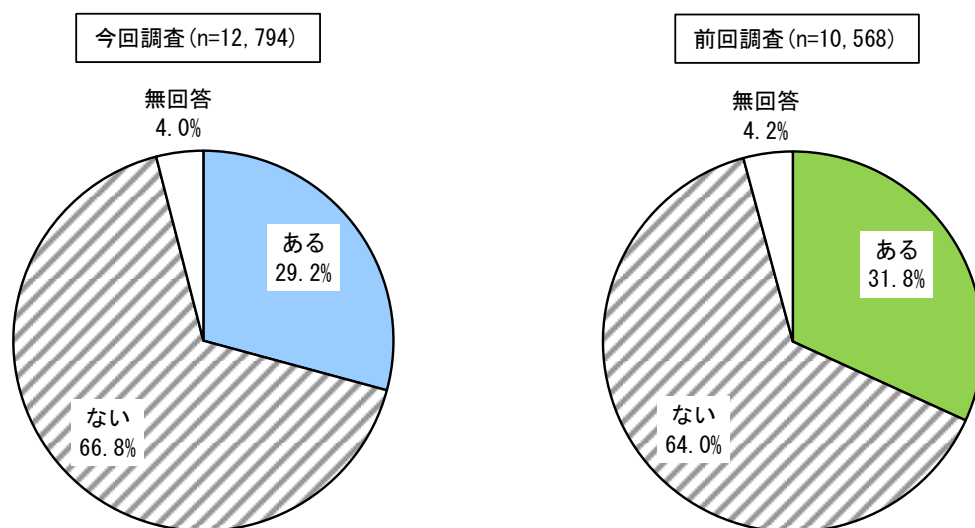
問17 人生の最終段階についての話し合いの有無

問16の人生の最終段階の過ごし方について、誰かと話し合ったことがありますか。
(○はひとつ)

人生の最終段階について話し合ったことがあるかについて、「ある」が29.2%、「ない」が66.8%となっている。

前回調査の結果に比べ、「ある」の割合が2.6ポイント低く、「ない」の割合が2.8ポイント高くなっている。(問17)

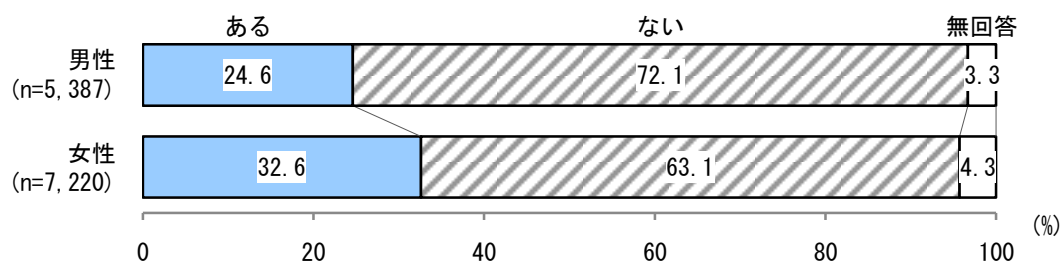
【問 17 人生の最終段階についての話し合いの有無（経年比較）】



※選択肢の変換：「はい」→「ある」、「いいえ」→「ない」

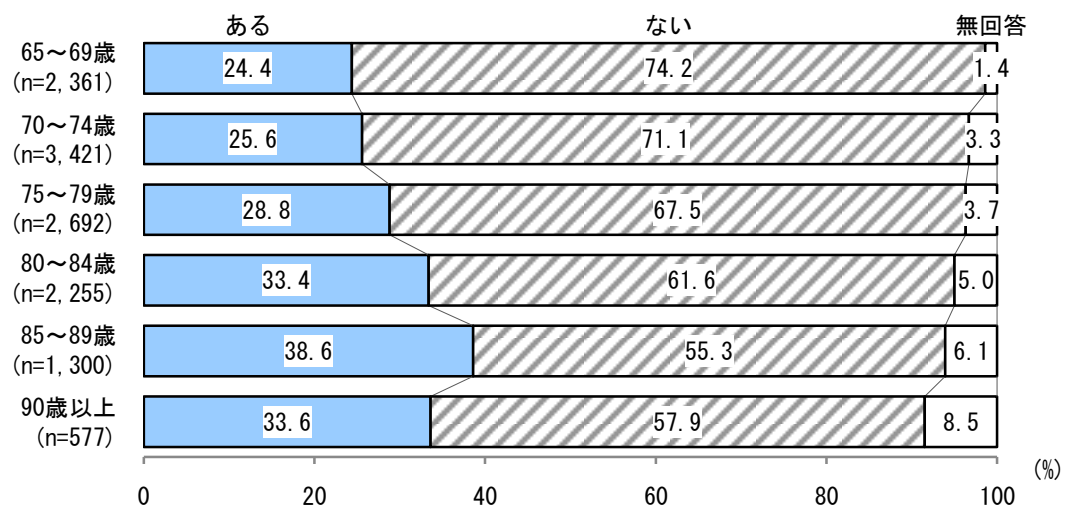
性別でみると、「ある」は男性より女性のほうが高くなっている。(問17-a)

【問 17-a 人生の最終段階に過ごしたい場所（性別）】



年齢別でみると、「ある」の割合は高齢になるほど高くなる傾向にある。(問17-b)

【問 17-b 人生の最終段階に過ごしたい場所（年齢別）】



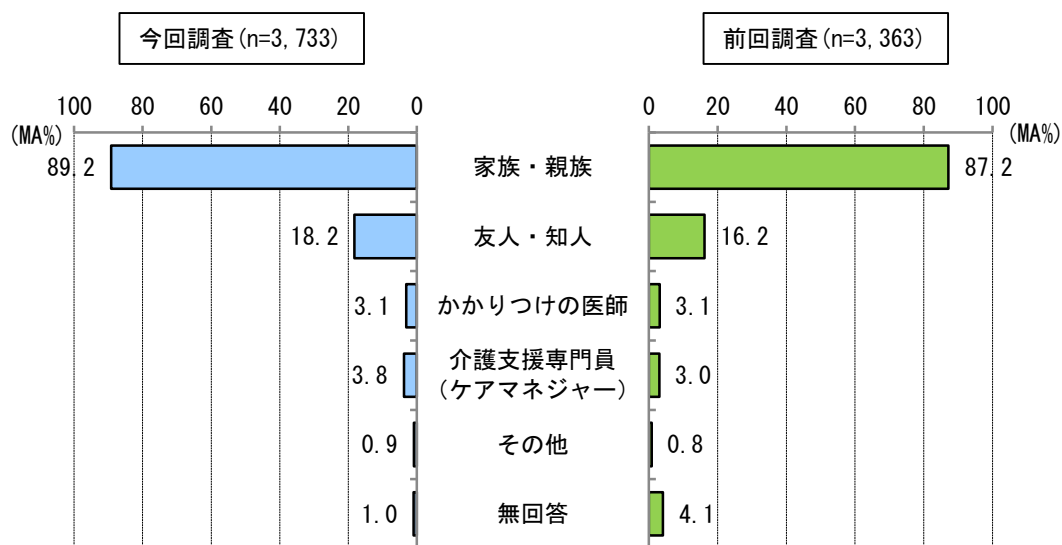
問17-1 人生の最終段階についての話し合った相手

問17で「1 はい」と回答された方におうかがいします。
誰と話し合われましたか。(〇はいくつでも)

人生の最終段階について話し合ったことがあると回答した人に、話し合った相手をたずねると、「家族・親族」が89.2%で最も多く、次いで「友人・知人」が18.2%となっている。

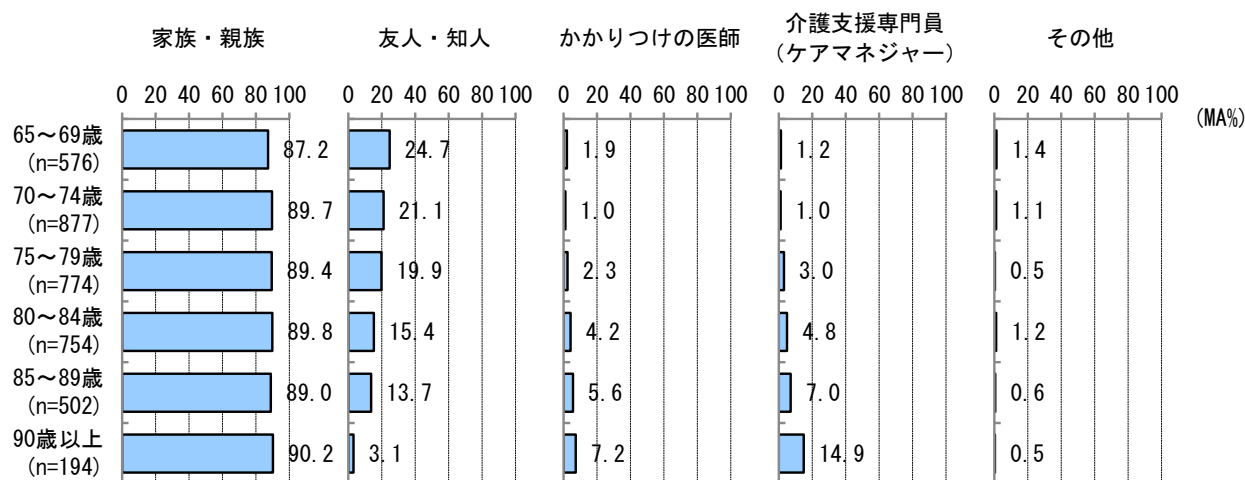
前回調査の結果に比べ、「家族・親族」及び「友人・知人」の各割合は2.0ポイント上昇している。(問17-1)

【問 17-1 人生の最終段階についての話し合った相手（経年比較）】



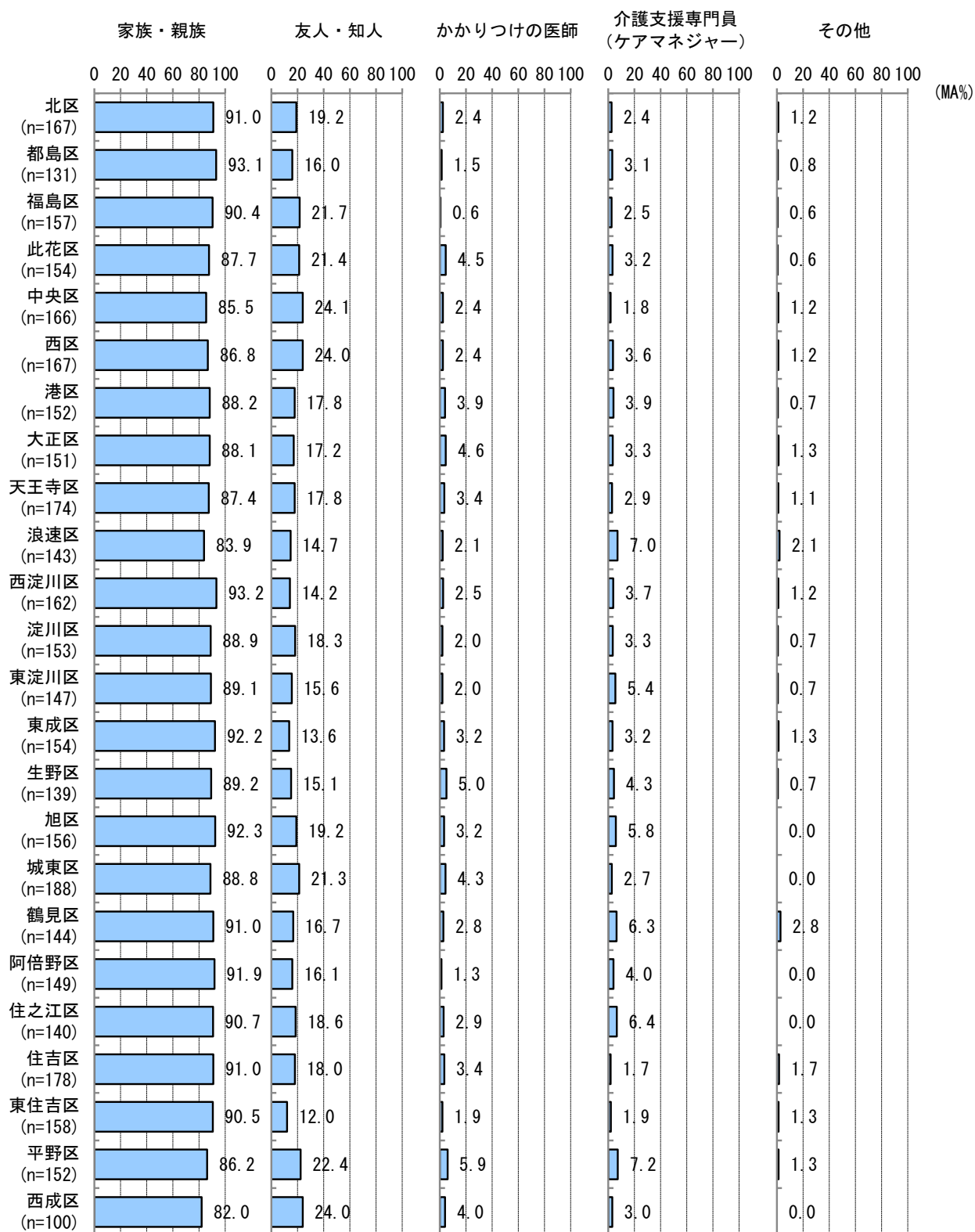
年齢別でみると、「友人・知人」の割合は若い年代ほど高くなっている。(問17-1-a)

【問 17-1-a 人生の最終段階についての話し合った相手（年齢別）】



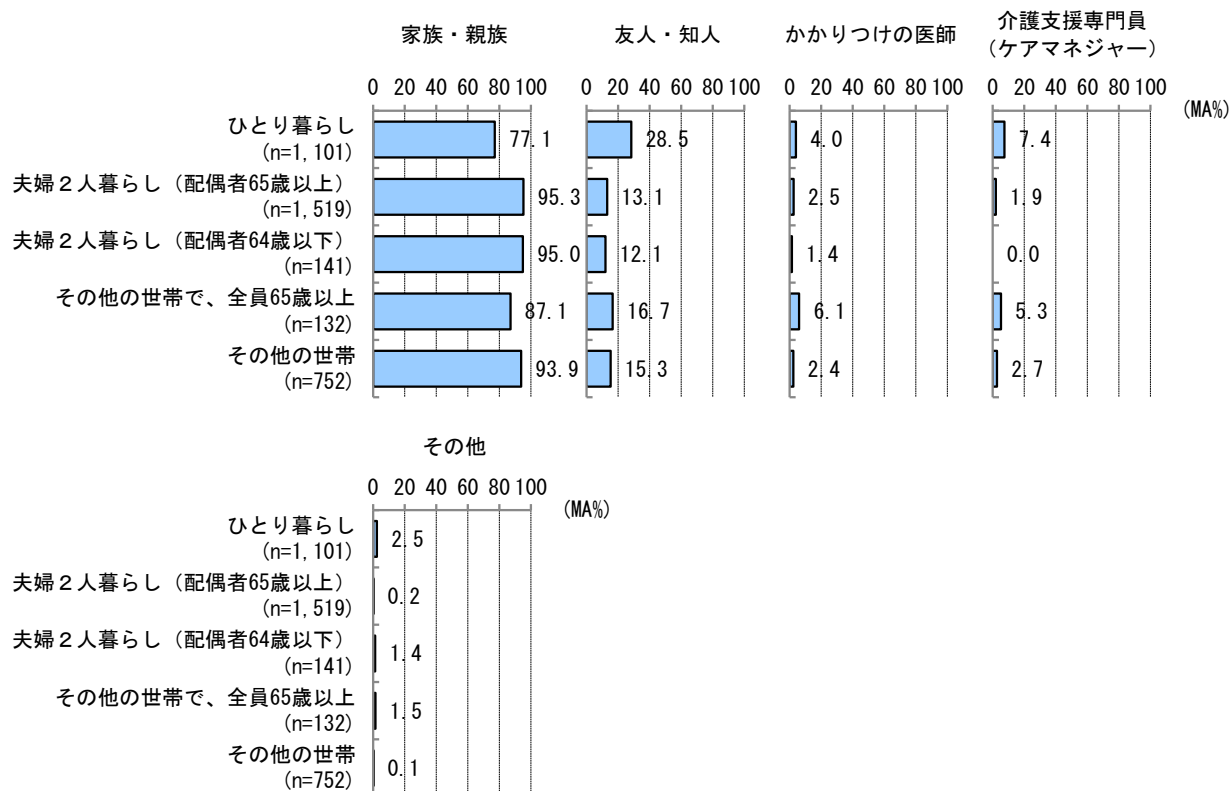
居住区別でみると、「家族・親族」の回答割合は西成区が82.0%で最も低く、「友人・知人」は中央区が24.1%で最も高くなっている。(問17-1-b)

【問 17-1-b 人生の最終段階についての話し合った相手 (居住区別)】



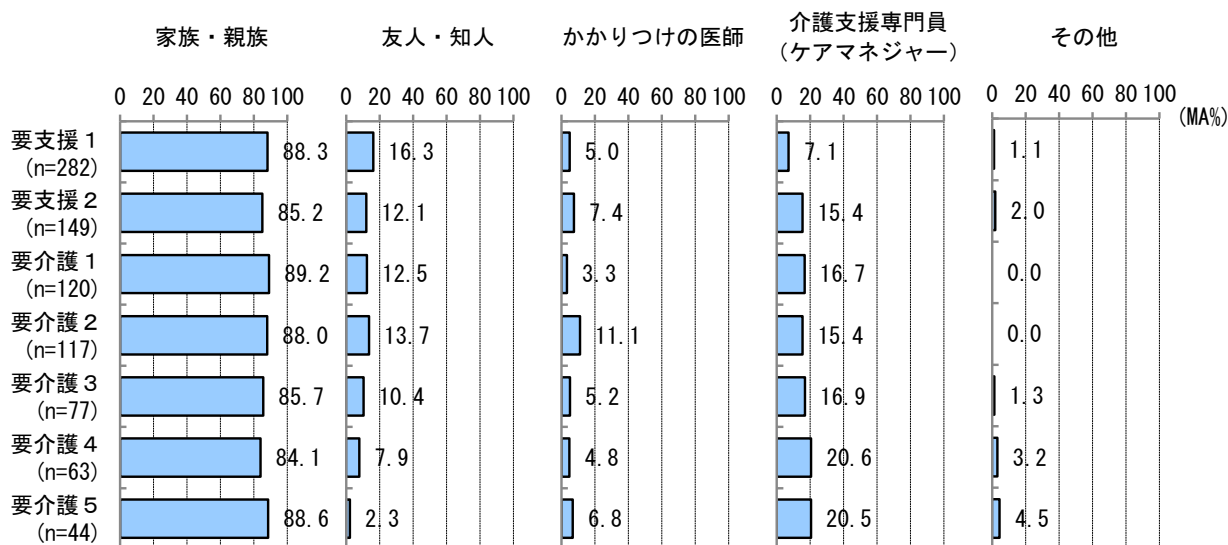
世帯状況別でみると、「家族・親族」の回答割合は“ひとり暮らし”が77.1%で最も低いが、「友人・知人」、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」はそれぞれ“ひとり暮らし”が最も高くなっている。（問17-1-c）

【問 17-1-c 人生の最終段階についての話し合った相手（世帯状況別）】



介護度別でみると、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」の回答割合は介護度が重度になるほど高くなる傾向にあり、要介護3までは10%台だったものが、要介護4・5では20%台に上昇している。（問17-1-d）

【問 17-1-d 人生の最終段階についての話し合った相手（介護度別）】



問17-2 話し合いで決めた内容の共有有無

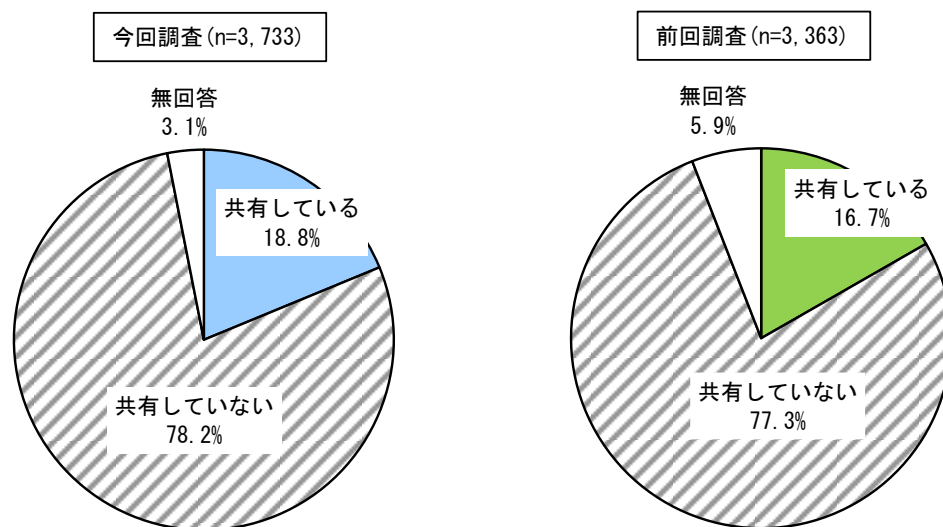
問17で「1 はい」と回答された方におうかがいします。

決めた内容を文書に記載するなど共有できるようにしていますか。(〇はひとつ)

人生の最終段階について話し合ったことがあると回答した人に、決めた内容を共有できるようにしているかたずねると、「共有している」が18.8%、「共有していない」が78.2%となっている。

前回調査と比較しても、項目の傾向に大きく変化はみられない。(問17-2)

【問 17-2 話し合いで決めた内容の共有有無（経年比較）】



(4) 地域生活支援

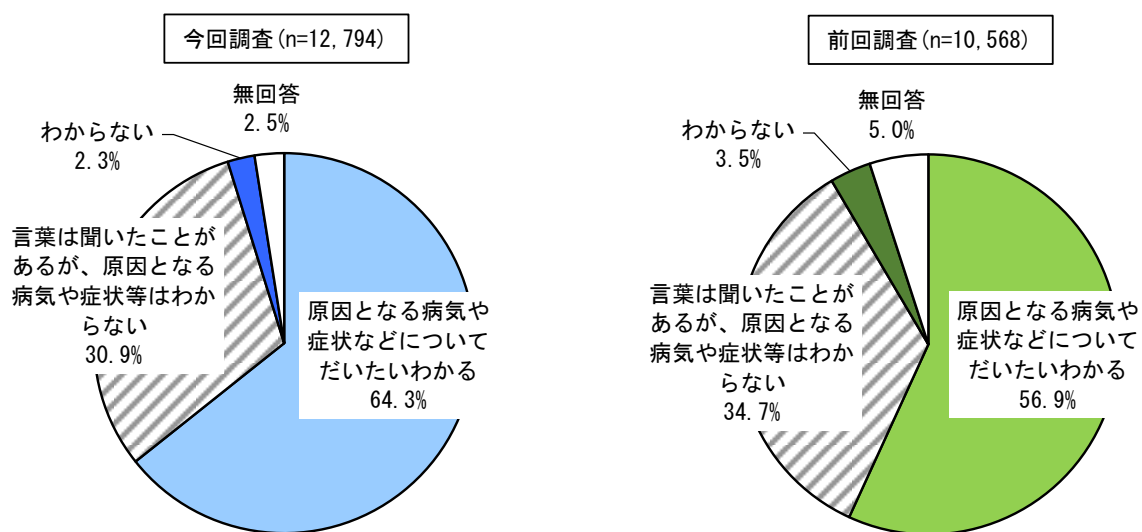
問18 認知症の認知度

あなたは「認知症」という病気を知っていますか。(〇はひとつ)

認知症という病気を知っているかについては、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」が64.3%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがあるが、原因となる病気や症状等はわからない」が30.9%となっている。

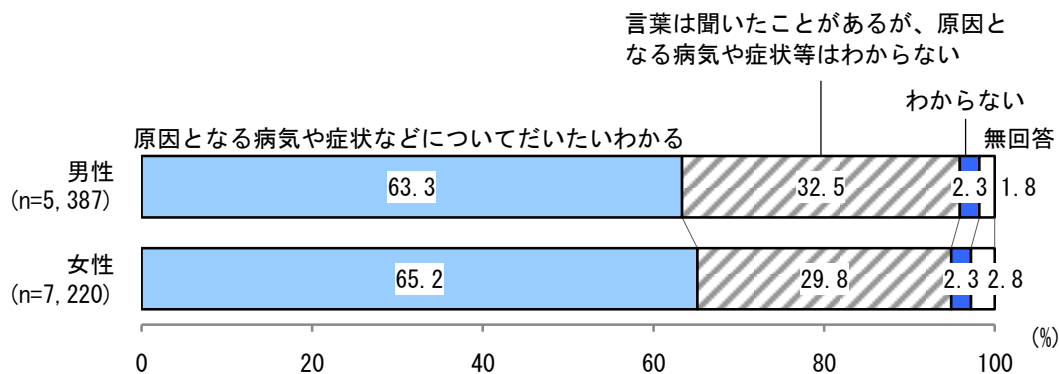
前回調査と比較すると、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」の割合が7.4ポイント高くなっている。(問18)

【問 18 認知症の認知度（経年比較）】



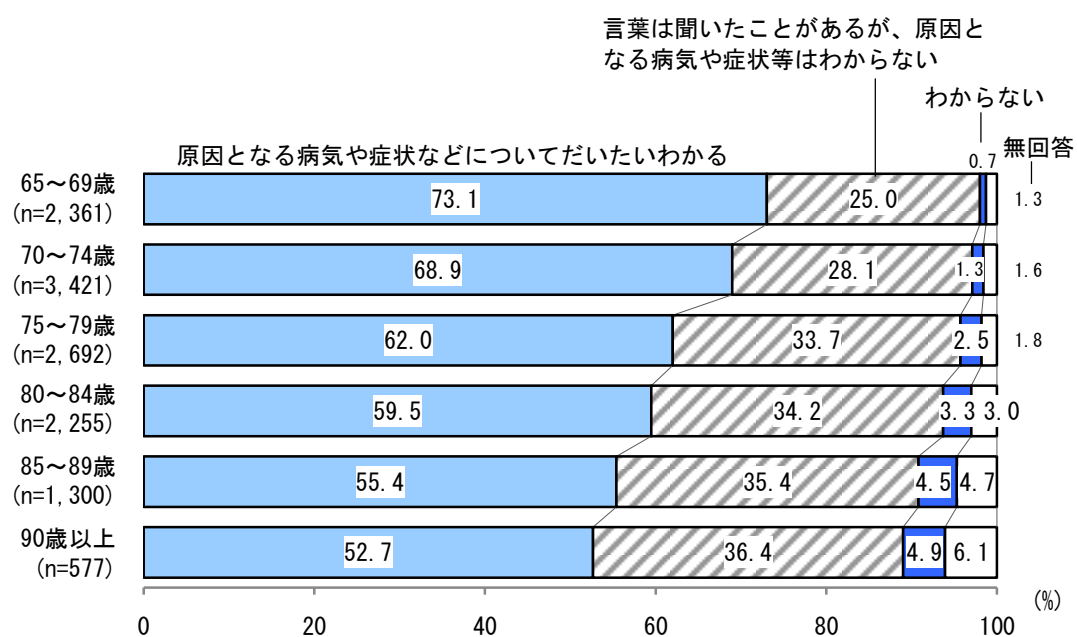
性別でみると、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」の回答割合は男性より女性のほうが高くなっている。(問18-a)

【問 18-a 認知症の認知度（性別）】



年齢別でみると、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」の回答割合は高齢になるほど低くなっている。（問18-b）

【問 18-b 認知症の認知度（年齢別）】



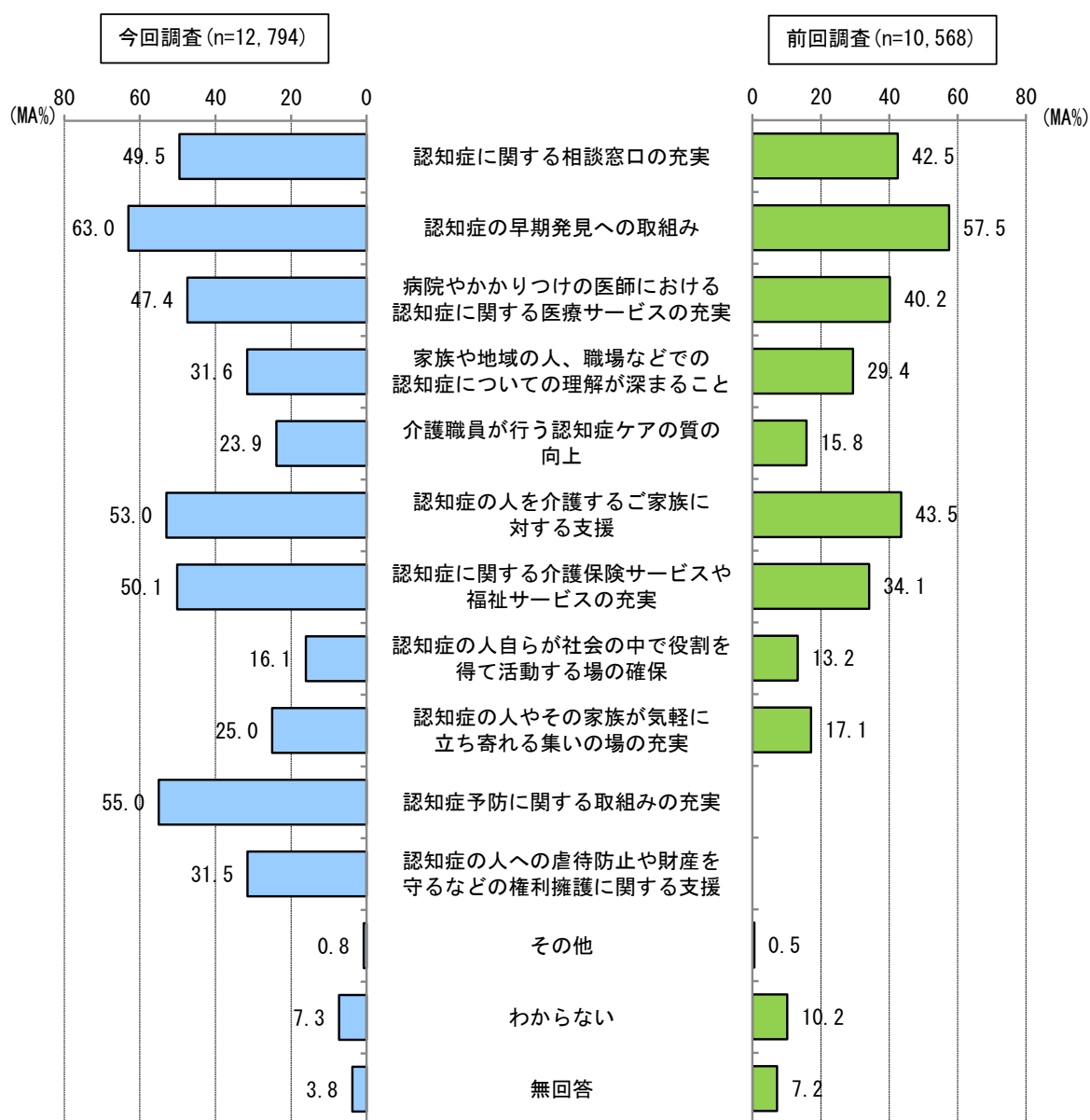
問19 認知症の人の支援

あなたは、認知症の人の支援に必要なことは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

認知症の人の支援については、「認知症の早期発見への取組み」が63.0%で最も多く、次いで「認知症予防に関する取組みの充実」が55.0%、「認知症の人を介護するご家族に対する支援」が53.0%、「認知症に関する介護保険サービスや福祉サービスの充実」が50.1%となっている。

前回調査と比較すると、「認知症に関する介護保険サービスや福祉サービスの充実」の割合が16.0ポイント、「認知症の人を介護するご家族に対する支援」の割合が9.5ポイントそれぞれ高くなっている。(問19)

【問19 認知症の人の支援（経年比較）】

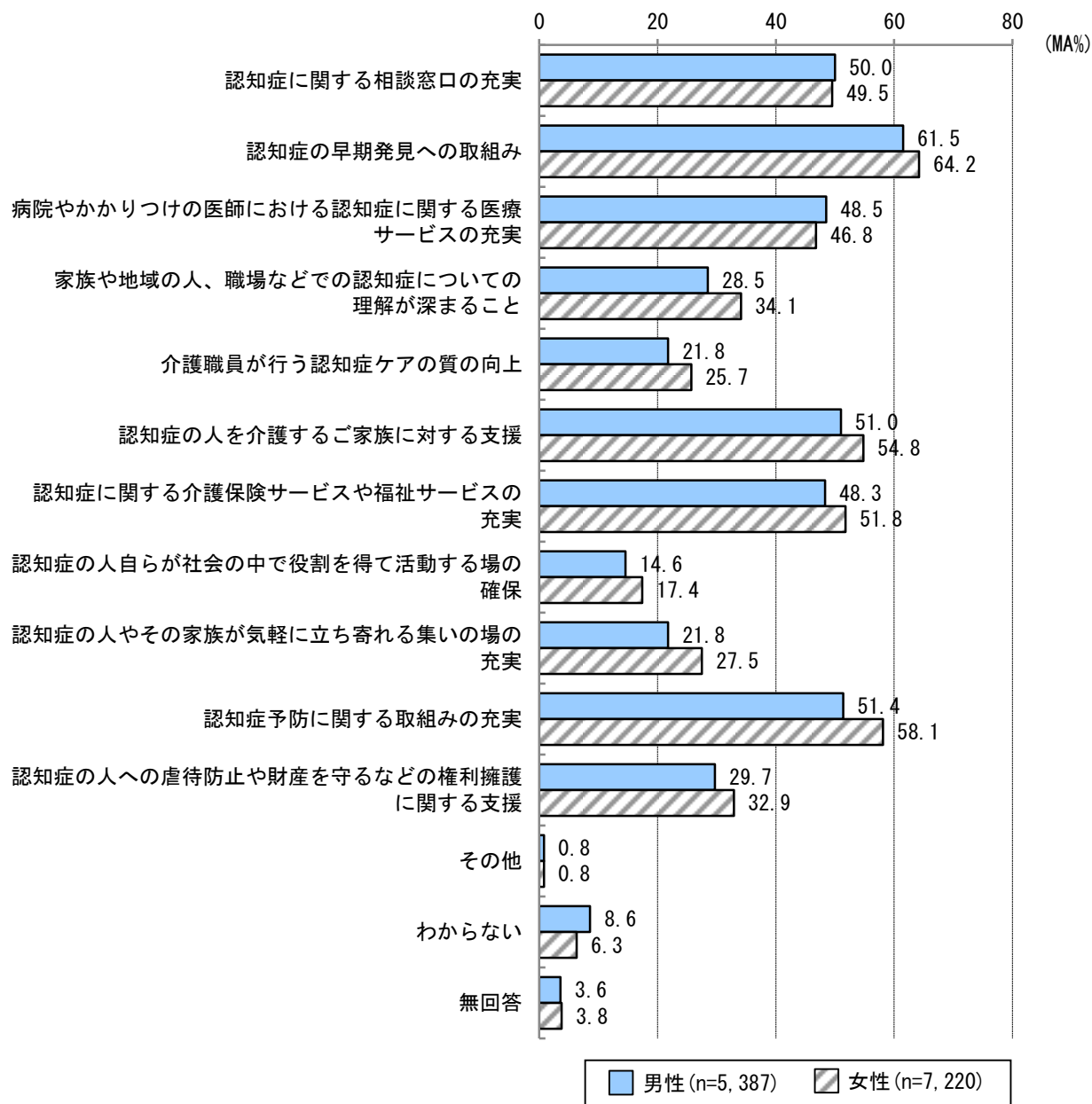


※「認知症予防に関する取組みの充実」「認知症の人への虐待防止や財産を守るなどの権利擁護に関する支援」は、今回調査の新規項目である。

※前回調査の「癒しを目的とした集いの場（認知症カフェ等）」は、今回調査では「認知症の人やその家族が気軽に立ち寄れる集いの場の充実」に変更している。

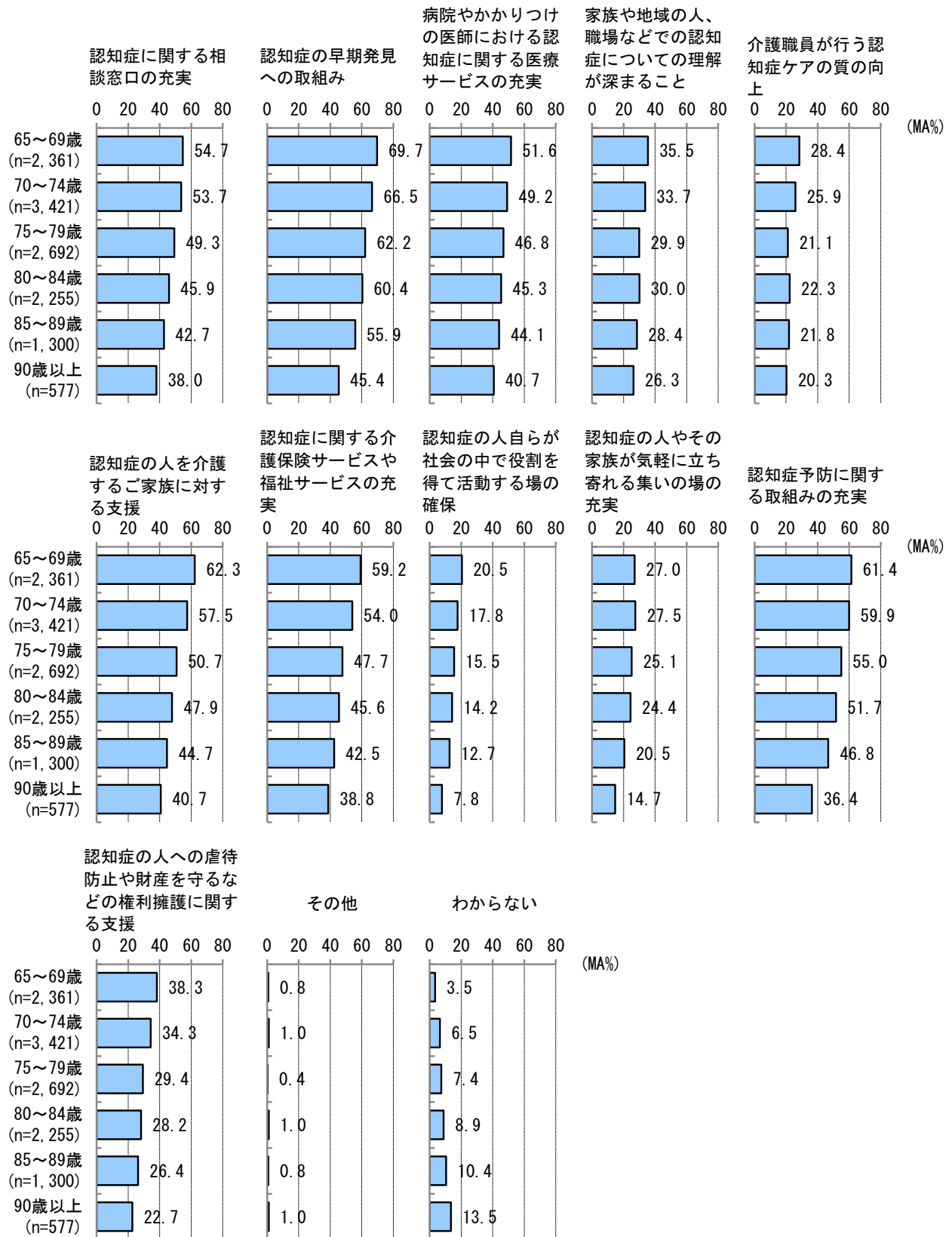
性別でみると、「認知症に関する相談窓口の充実」と「病院やかかりつけの医師における認知症に関する医療サービスの充実」以外の項目で、女性のほうが高い割合となっている。(問19-a)

【問 19-a 認知症の人の支援（性別）】



年齢別でみると、いずれの項目も高齢になるほど割合が概ね低くなっている。(問19-b)

【問 19-b 認知症の人の支援（年齢別）】



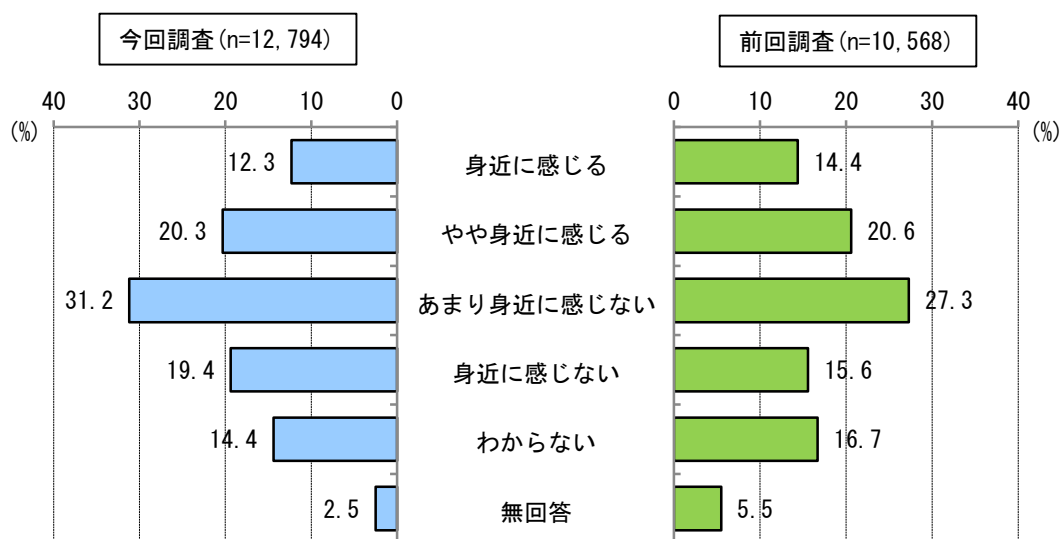
問20 孤立死に対する意識

あなたは、孤立死についてどのように考えますか。(〇はひとつ)

孤立死に対する意識については、「あまり身近に感じない」が31.2%で最も多く、次いで「やや身近に感じる」が20.3%となっている。「身近に感じる」と「やや身近に感じる」をあわせた『身近に感じる』は32.6%で、全体の3分の1ほどの人が身近だと感じている。

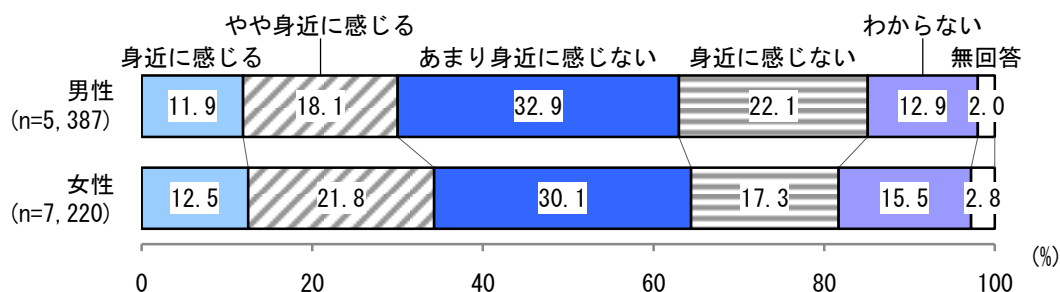
前回調査と比較すると、傾向は大きくは変わらないが、「あまり身近に感じない」の割合が3.9ポイント、「身近に感じない」の割合が3.8ポイントそれぞれ高く、孤立死を身近に感じていない人の割合が前回より高くなっている。(問20)

【問 20 孤立死に対する意識（経年比較）】



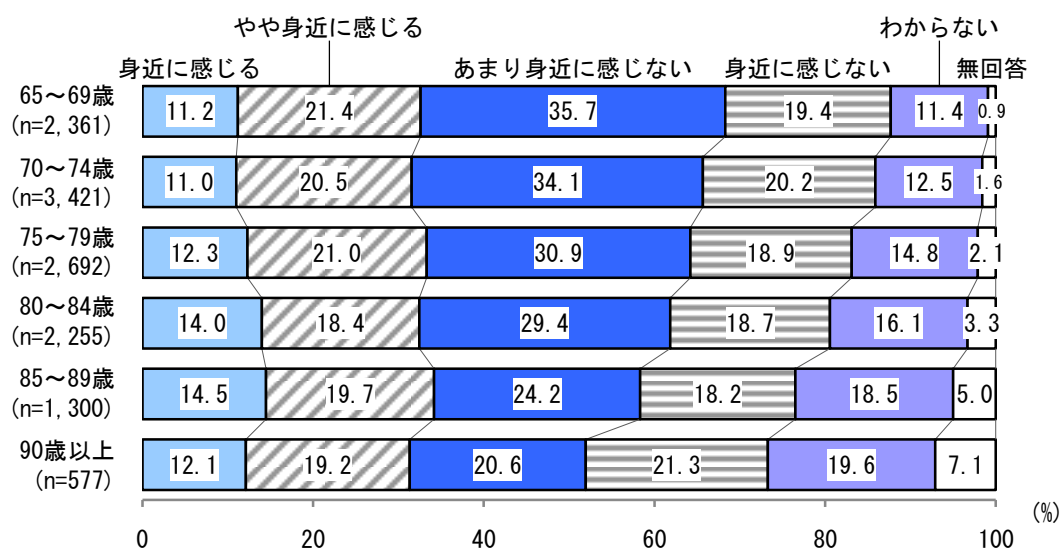
性別でみると、『身近に感じる』の回答割合は女性のほうが高くなっている。(問20-a)

【問 20-a 孤立死に対する意識（性別）】



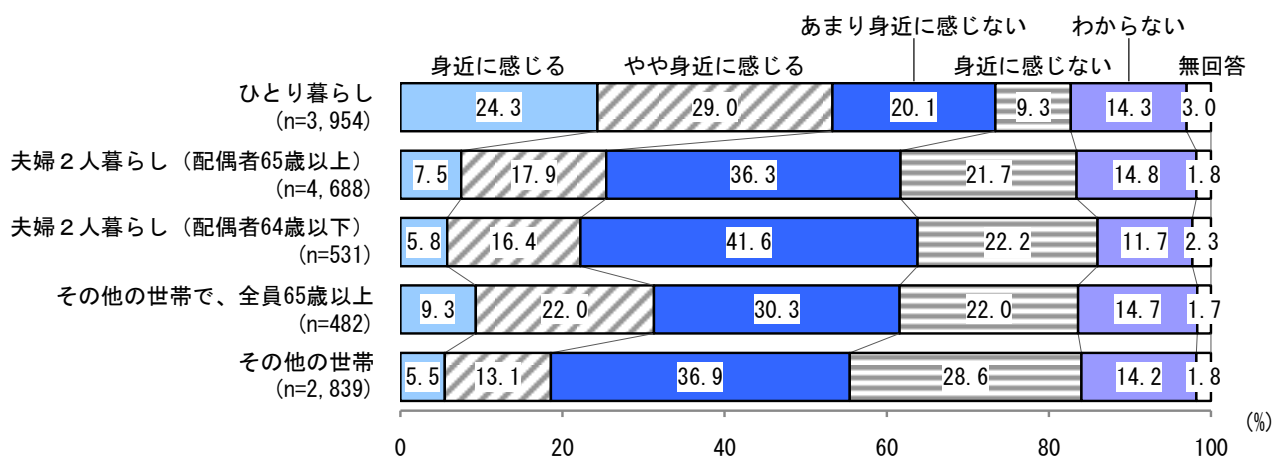
年齢別でみると、高齢になるとともに、「わからない（無回答含む）」の割合が上昇している一方で、どの年代においても『身近に感じる』の回答割合が3割を占めている。（問20-b）

【問 20-b 孤立死に対する意識（年齢別）】



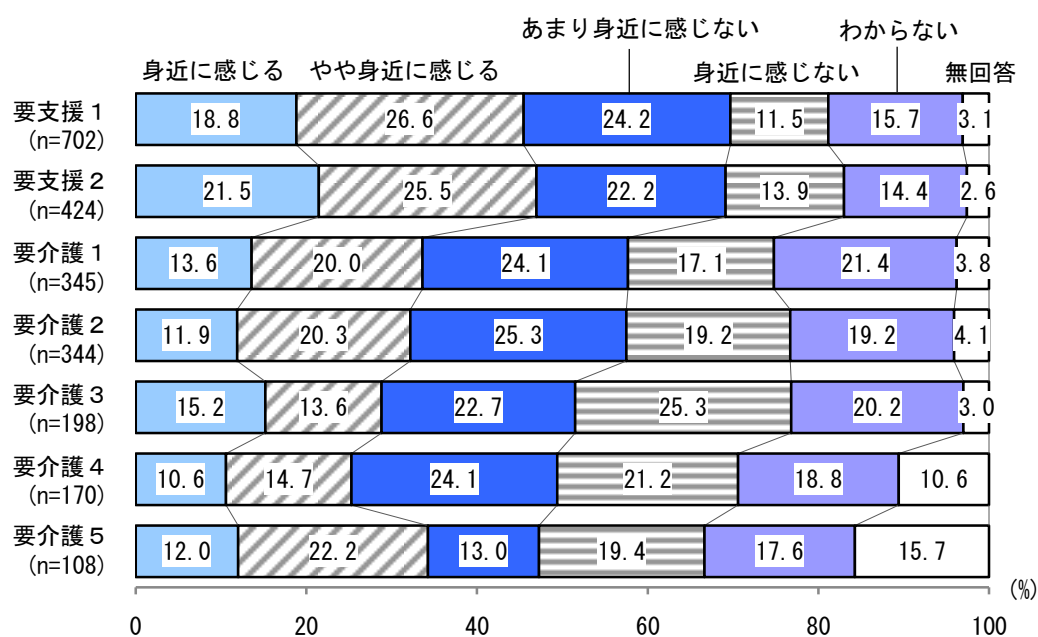
世帯状況別でみると、『身近に感じる』の回答割合は“ひとり暮らし”が53.3%で最も高くなっている。（問20-c）

【問 20-c 孤立死に対する意識（世帯状況別）】



介護度別でみると、『身近に感じる』の回答割合は要支援2が47.0%で最も高く、次いで要支援1が45.4%となっている。(問20-d)

【問 20-d 孤立死に対する意識（介護度別）】



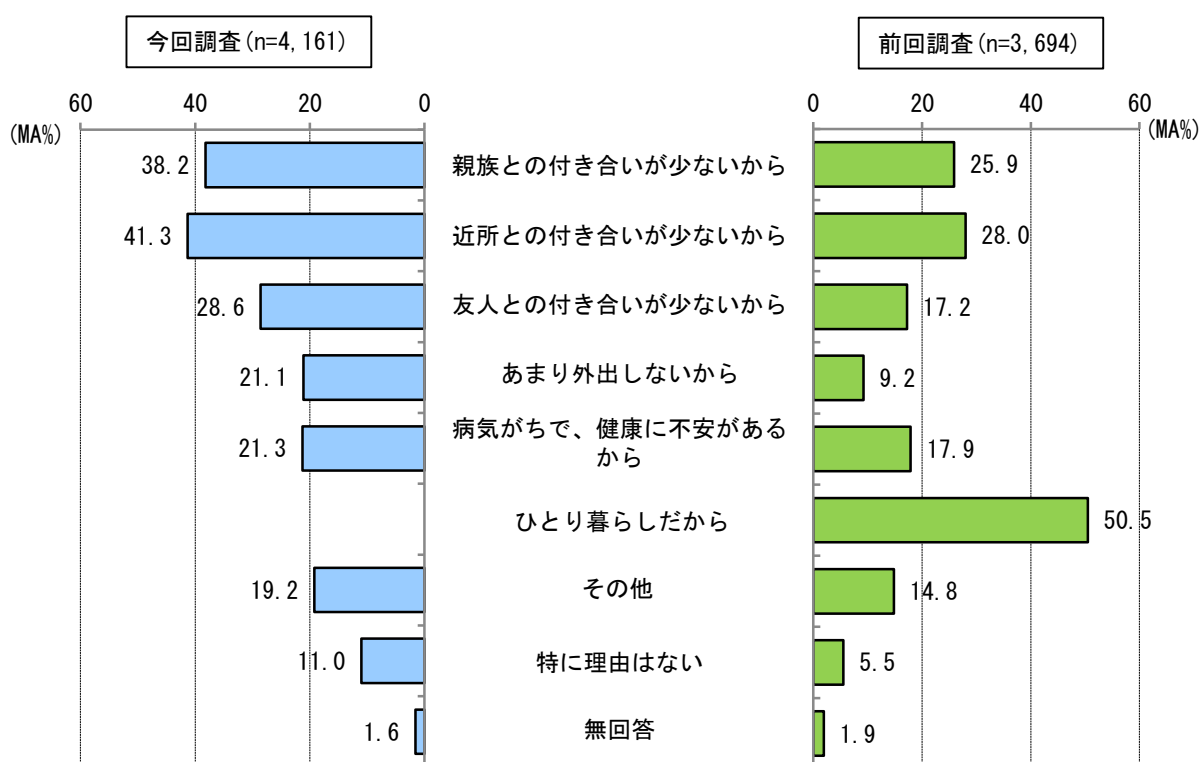
問20-1 孤立死を身近に感じる理由

問20で「1 身近に感じる」「2 やや身近に感じる」と回答された方におうかがいします。
あなたが身近だと感じる理由は次のどれにあたりますか。(〇はいくつでも)

孤立死が身近に感じると回答した人に、その理由をたずねると、「近所との付き合いが少ないから」が41.3%で最も多く、次いで「親族との付き合いが少ないから」が38.2%、「友人との付き合いが少ないから」が28.6%となっている。

前回調査と比較すると、「ひとり暮らしだから」を削除したこともあり、「近所との付き合いが少ないから」の割合が13.3ポイント、「親族との付き合いが少ないから」の割合が12.3ポイントそれぞれ高く、それ以外の項目もいずれも前回より高くなっている。(問20-1)

【問 20-1 孤立死を身近に感じる理由（経年比較）】



※前回調査の「ひとり暮らしだから」は、今回調査では設けていない。

問21 地域での見守り活動の認知度と必要性

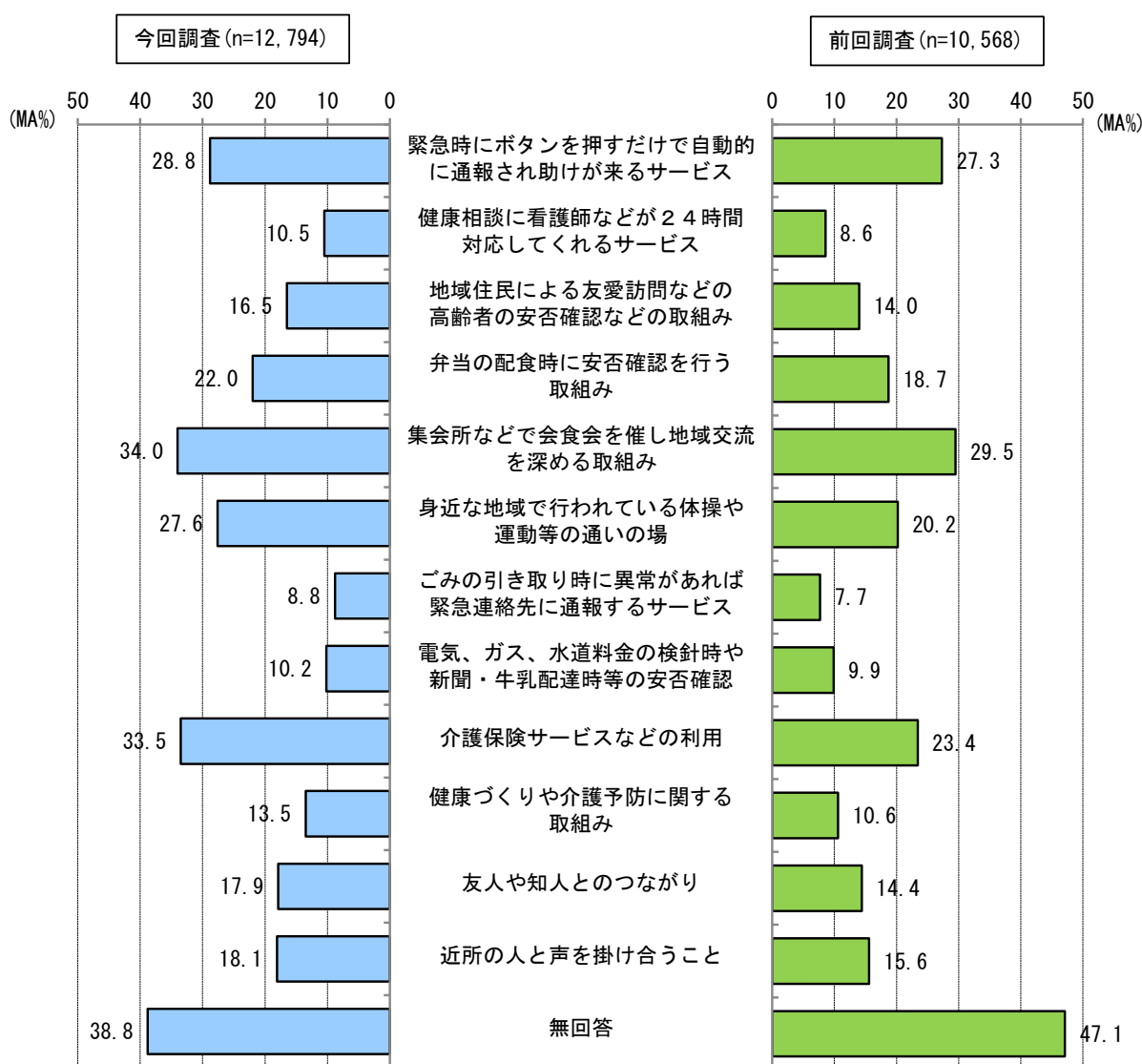
孤立死を防ぐためには地域での見守りが必要です。支援を必要とする高齢者等を日常的に見守るための次の取組みのうち、あなたが知っている取組み、及び必要と思う取組みに○をつけてください。(○はいくつでも)

①地域での見守り活動の認知度

地域での見守り活動で知っている取組みについては、「集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み」が34.0%で最も多く、次いで「介護保険サービスなどの利用」が33.5%、「緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス」が28.8%となっている。

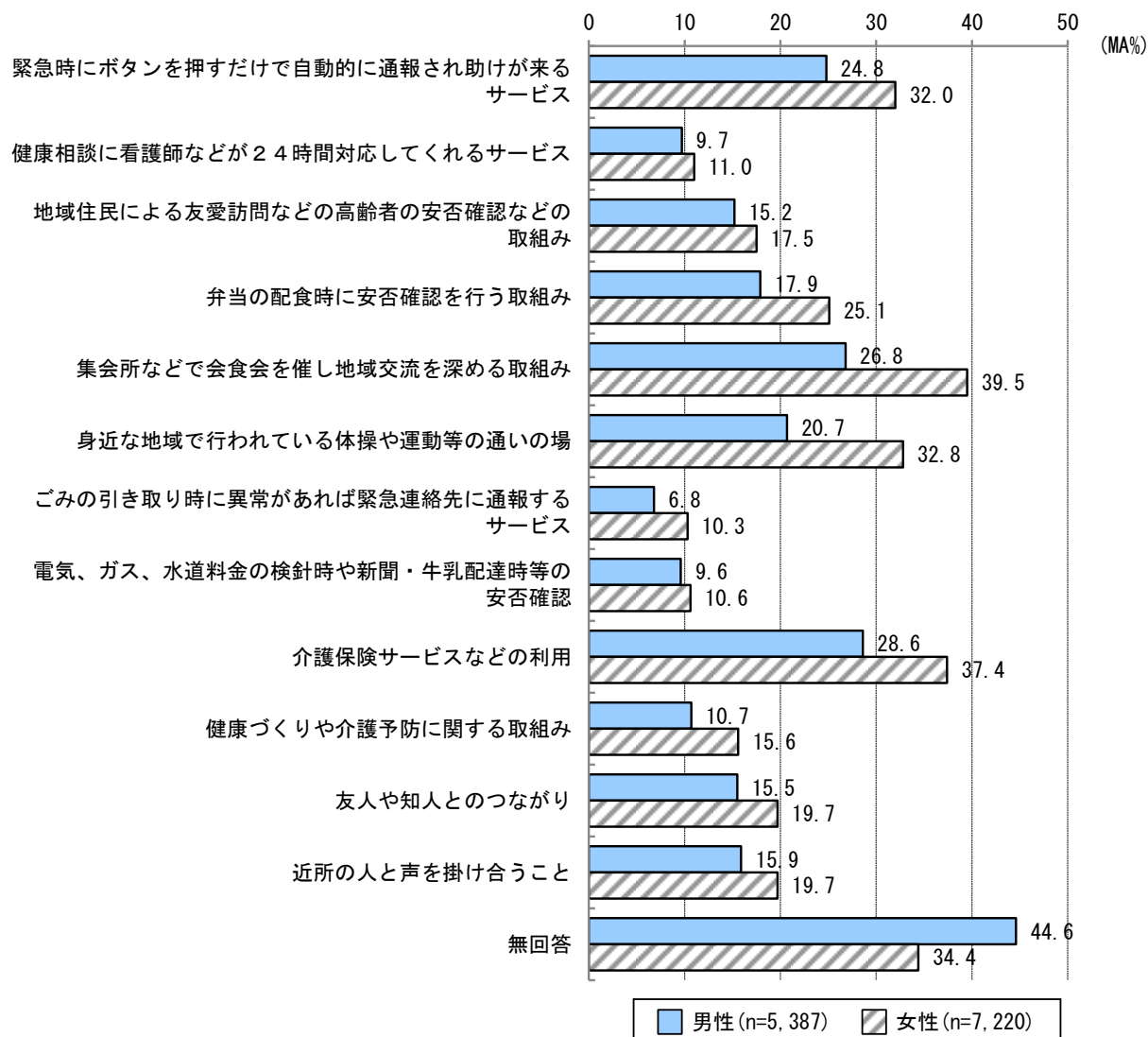
前回調査と比較すると、「介護保険サービスなどの利用」の割合が10.1ポイント、「身近な地域で行われている体操や運動等の通いの場」の割合が7.4ポイント、それぞれ前回より高くなっている。(問21①)

【問21① 地域での見守り活動の認知度（経年比較）】



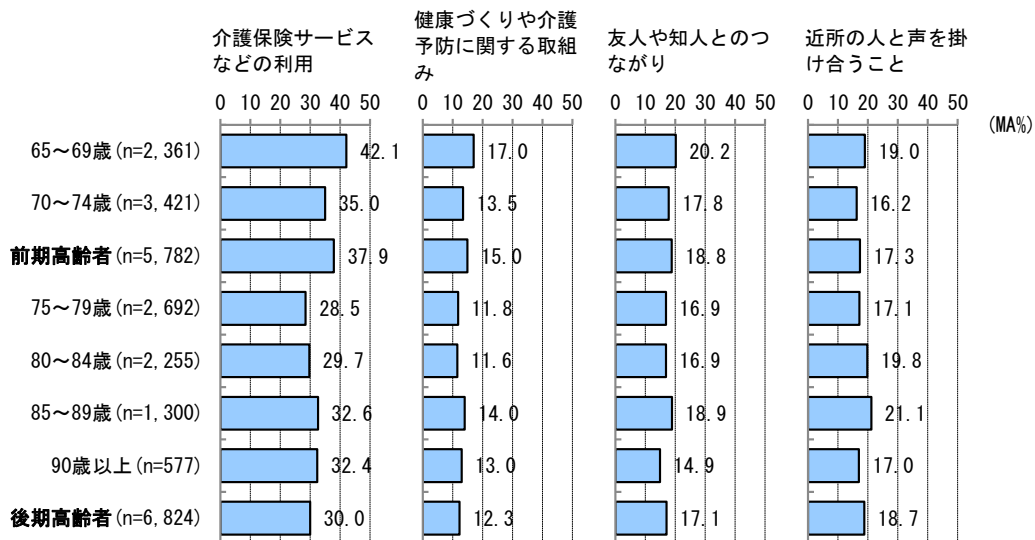
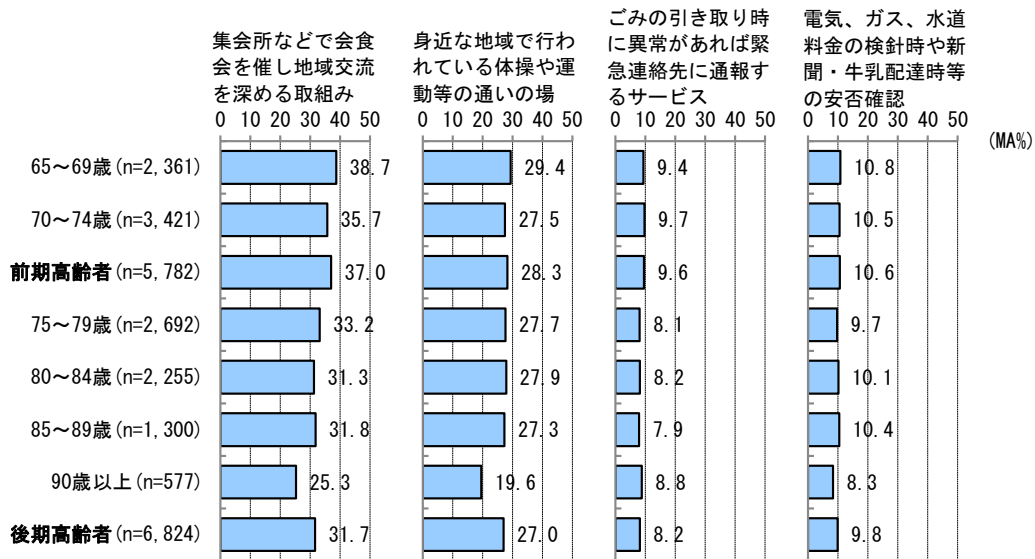
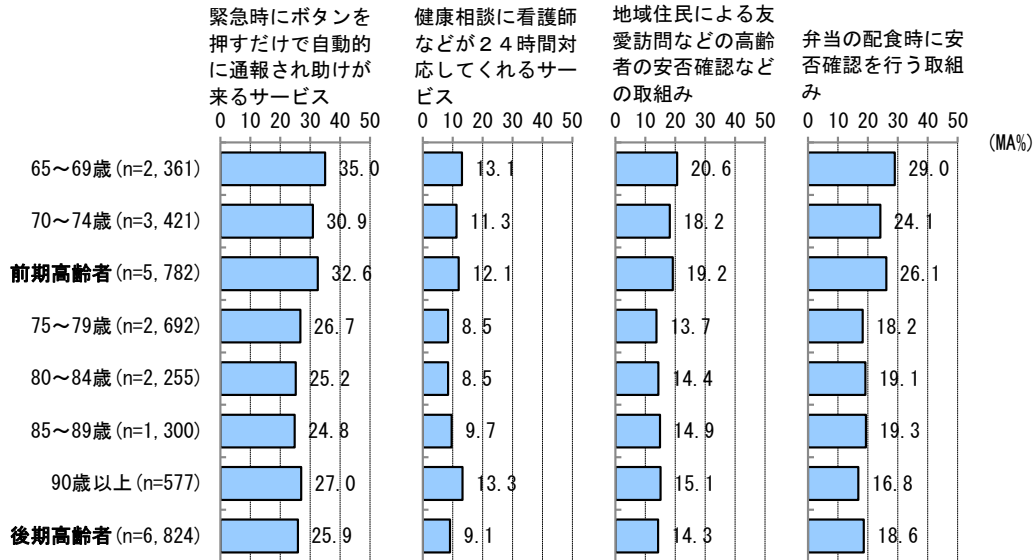
性別でみると、いずれの項目も男性より女性のほうが高く、なかでも「集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み」と「身近な地域で行われている体操や運動等の通いの場」では１割以上高くなっている。（問21①-a）

【問21①-a 地域での見守り活動の認知度（性別）】



年齢別でみると、後期高齢者では「集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み」が31.7%で最も多く、次いで「介護保険サービスなどの利用」(30.0%)「身近な地域で行われている体操や運動等の通いの場」(27.0%)となっている。(問21①-b)

【問21①-b 地域での見守り活動の認知度（年齢別）】



居住区別でみると、いずれの区も「介護保険サービスなどの利用」や「集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み」が上位であり、「介護保険サービスなどの利用」は城東区が、「集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み」は福島区が最も高くなっている。（表 21①-c①②）

【表 21①-c 地域での見守り活動の認知度（居住区別）①】

	(MA%)				
	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
北区 (n=549)	介護保険サービス などの利用 36.1	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 35.3	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 30.2	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 26.0	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 20.8
都島区 (n=527)	介護保険サービス などの利用 38.0	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 33.6	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 31.9	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 28.8	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 23.3
福島区 (n=549)	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 41.2	介護保険サービス などの利用 36.6	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 30.8	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 29.1	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 22.4
此花区 (n=497)	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 37.4	介護保険サービス などの利用 36.4	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 30.2	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 28.4	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 27.8
中央区 (n=518)	介護保険サービス などの利用 31.9	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 31.5	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 28.4	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 26.4	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 22.2
西区 (n=542)	介護保険サービス などの利用 34.3	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 31.7	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 28.4	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 27.5	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 20.7
港区 (n=550)	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 39.3	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 32.4	介護保険サービス などの利用 31.8	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 31.5	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 24.7
大正区 (n=515)	介護保険サービス などの利用 31.8	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 29.9	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 26.0	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 24.3	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 23.3
天王寺区 (n=545)	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 38.0	介護保険サービス などの利用 34.9	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 32.1	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 26.1	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 21.5
浪速区 (n=483)	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 30.2	介護保険サービス などの利用 29.4	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 26.9	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 23.6	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 17.0
西淀川区 (n=522)	介護保険サービス などの利用 31.8	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 30.7	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 27.6	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 26.1	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 21.6
淀川区 (n=527)	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 32.6	介護保険サービス などの利用 31.3	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 26.9	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 26.6	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 21.8

【表 21①-c 地域での見守り活動の認知度（居住区別）②】

(MA%)

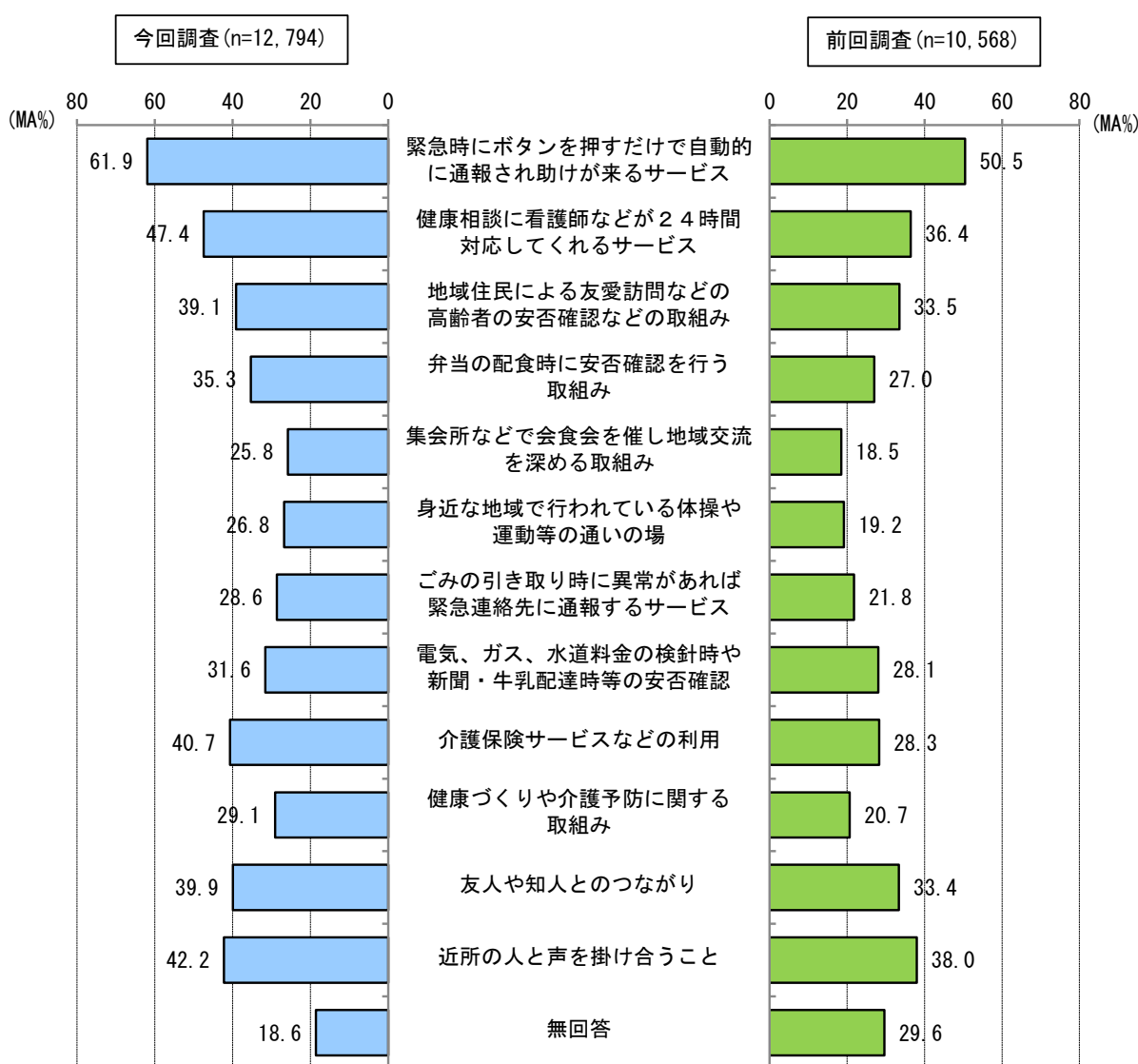
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
東淀川区 (n=545)	介護保険サービス などの利用 32.7	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 31.0	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 26.6	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 26.2	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 21.5
東成区 (n=508)	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 33.1	緊急時にボタンを押すだけで自動的 に通報され助けが来るサービス／介護保 険サービスなどの利用 29.1	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 25.8	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 21.3	
生野区 (n=492)	介護保険サービス などの利用 32.3	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 31.3	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 27.0	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 24.2	近所の人と声を掛 け合うこと 19.7
旭区 (n=526)	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 33.8	緊急時にボタンを押すだけで自動的 に通報され助けが来るサービス／介護保 険サービスなどの利用 32.9	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 27.4	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 22.6	
城東区 (n=571)	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 39.1	介護保険サービス などの利用 38.5	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 34.2	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 31.2	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 21.0
鶴見区 (n=528)	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 37.3	介護保険サービス などの利用 34.5	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 29.2	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 26.1	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 21.8
阿倍野区 (n=566)	介護保険サービス などの利用 36.9	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 33.4	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 30.4	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 26.5	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 22.4
住之江区 (n=518)	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 34.4	介護保険サービス などの利用 33.6	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 29.9	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 25.7	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 20.3
住吉区 (n=548)	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 33.2	介護保険サービス などの利用 32.8	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 32.3	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 28.6	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 25.4
東住吉区 (n=536)	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 38.1	介護保険サービス などの利用 33.4	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 29.5	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 28.5	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 23.7
平野区 (n=531)	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 34.5	介護保険サービス などの利用 33.9	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 27.9	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 26.7	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 22.2
西成区 (n=424)	介護保険サービス などの利用 29.5	集会所などで会食 会を催し地域交流 を深める取組み 27.4	身近な地域で行わ れている体操や運 動等の通いの場 23.8	緊急時にボタンを 押すだけで自動的 に通報され助けが 来るサービス 23.3	弁当の配食時に安 否確認を行う取組 み 22.2

②地域での見守り活動の必要性

地域での見守り活動で必要と思う取組みについては、「緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス」が61.9%で最も多く、次いで「健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス」が47.4%、「近所の人と声を掛け合うこと」が42.2%となっている。

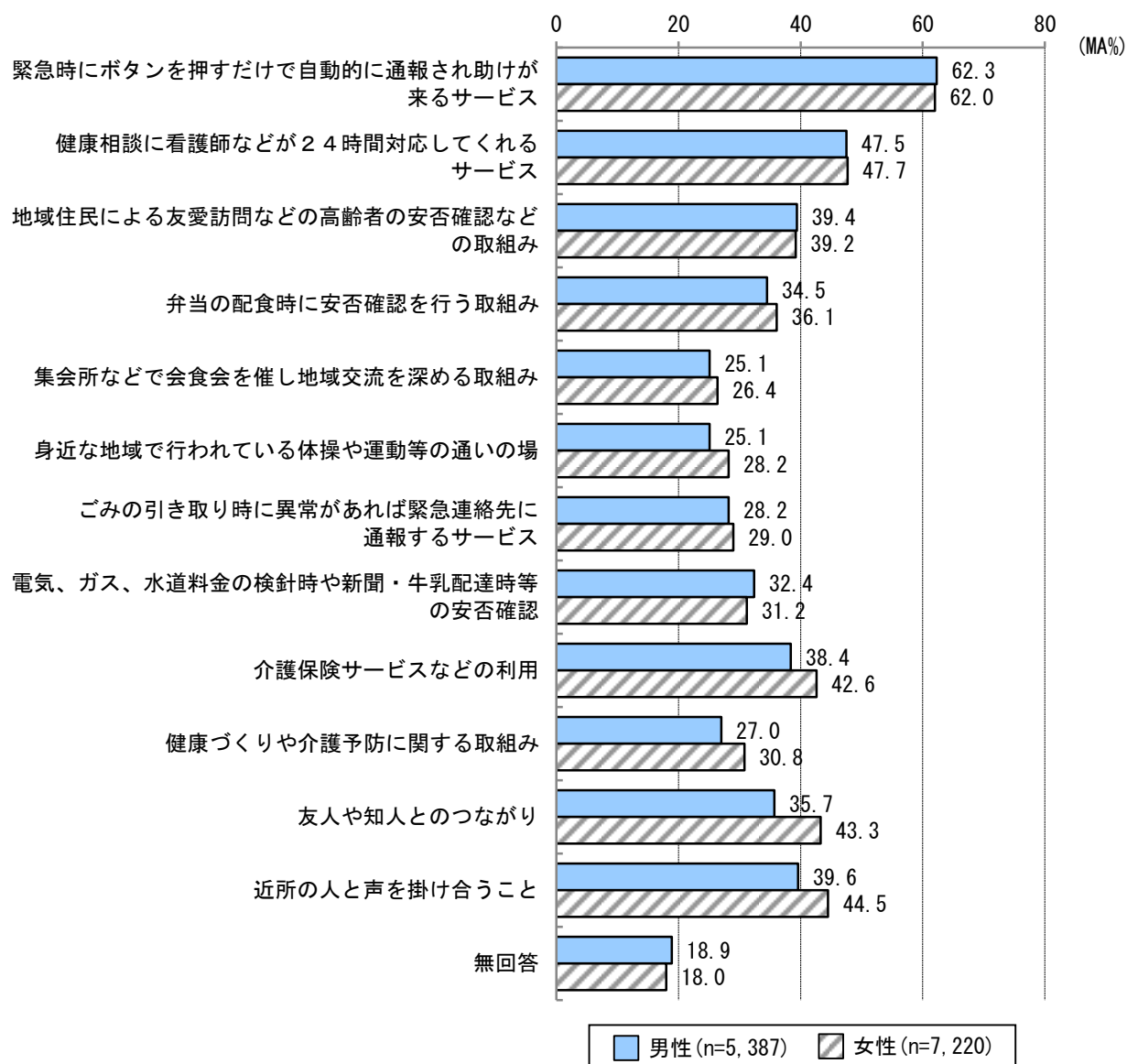
前回調査と比較すると、すべての項目で前回より割合が高く、「介護保険サービスなどの利用」の割合は12.4ポイント、「緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス」の割合は11.4ポイント、「健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス」の割合は11.0ポイント、それぞれ高くなっている。(問21②)

【問21② 地域での見守り活動の必要性（経年比較）】



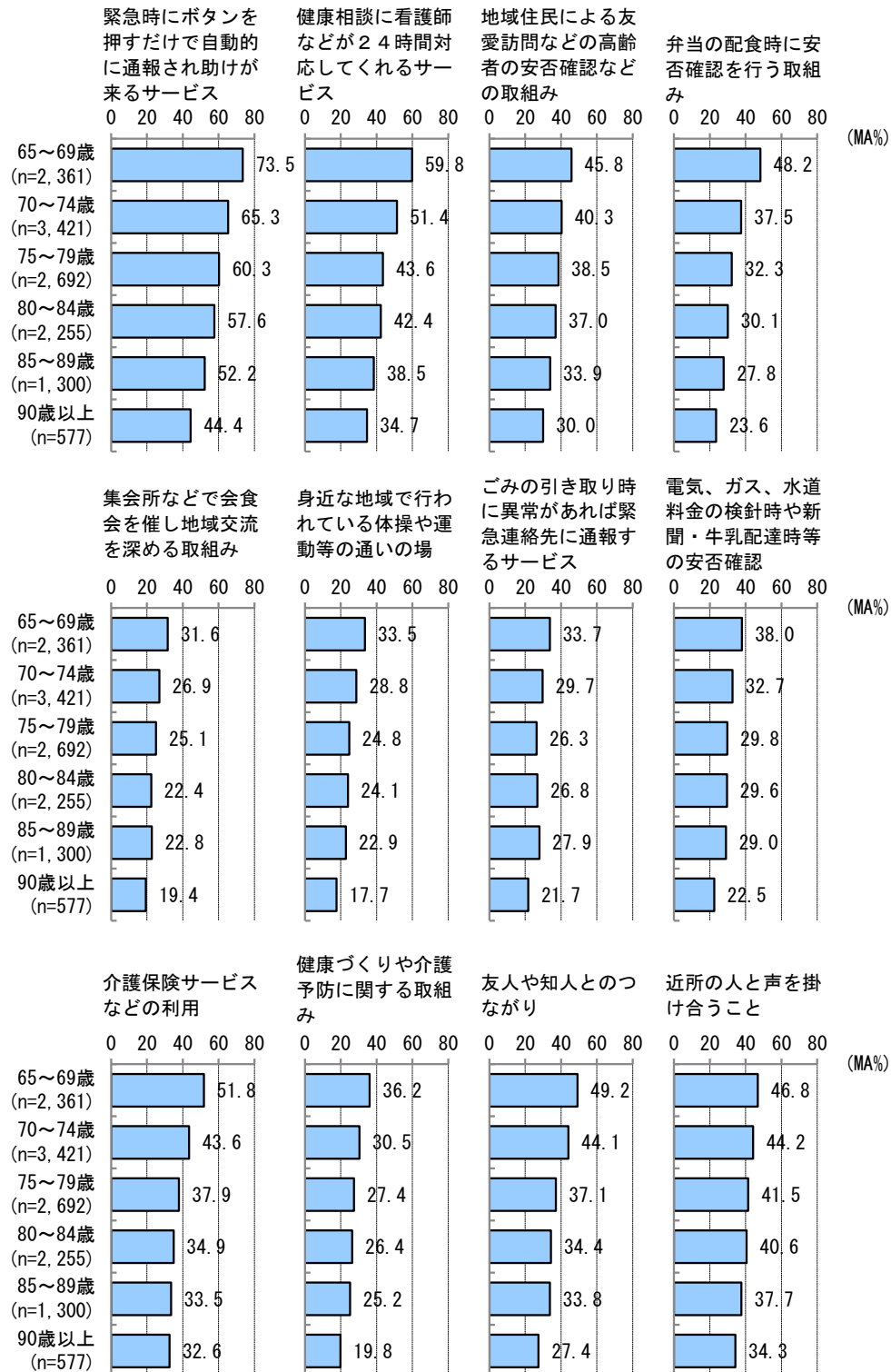
性別でみると、「緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス」と「地域住民による友愛訪問などの高齢者の安否確認などの取組み」、「電気、ガス、水道料金の検針時や新聞・牛乳配達時等の安否確認」の回答割合は女性より男性のほうがやや高いが、それ以外の項目はいずれも女性のほうが高くなっている。（問21②-a）

【問 21②-a 地域での見守り活動の必要性（性別）】



年齢別でみると、いずれの項目も概ね高齢になるほど割合が低くなっている。(問21②-b)

【問 21②-b 地域での見守り活動の必要性（年齢別）】



居住区別でみると、いずれの区も「緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス」が最も多く、なかでも福島区が66.7%で最も高くなっている。(表21②-c①②)

【表 21②-c 地域での見守り活動の必要性（居住区別）①】

(MA%)					
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
北区 (n=549)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 64.1	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 49.4	近所の人と声を掛け合うこと 41.5	友人や知人とのつながり 41.2	介護保険サービスなどの利用 40.4
都島区 (n=527)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 63.6	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 48.0	介護保険サービスなどの利用／近所の人と声を掛け合うこと 43.1	友人や知人とのつながり 43.1	地域住民による友愛訪問などの高齢者の安否確認などの取組み 41.9
福島区 (n=549)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 66.7	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 48.3	友人や知人とのつながり 43.2	介護保険サービスなどの利用 41.5	近所の人と声を掛け合うこと 41.0
此花区 (n=497)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 61.6	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 48.1	近所の人と声を掛け合うこと 46.9	友人や知人とのつながり 41.0	介護保険サービスなどの利用 39.4
中央区 (n=518)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 66.4	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 51.0	友人や知人とのつながり 45.2	介護保険サービスなどの利用 44.2	近所の人と声を掛け合うこと 42.7
西区 (n=542)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 65.5	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 53.9	介護保険サービスなどの利用 42.8	友人や知人とのつながり 40.0	近所の人と声を掛け合うこと 39.9
港区 (n=550)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 60.0	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 47.6	近所の人と声を掛け合うこと 44.7	友人や知人とのつながり 44.2	地域住民による友愛訪問などの高齢者の安否確認などの取組み 41.6
大正区 (n=515)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 59.0	介護保険サービスなどの利用／近所の人と声を掛け合うこと 40.4	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 39.8	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 39.8	地域住民による友愛訪問などの高齢者の安否確認などの取組み 39.6
天王寺区 (n=545)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 62.2	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 52.3	介護保険サービスなどの利用 42.0	友人や知人とのつながり 41.5	近所の人と声を掛け合うこと 38.7
浪速区 (n=483)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 61.5	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 48.4	介護保険サービスなどの利用 43.7	近所の人と声を掛け合うこと 39.8	地域住民による友愛訪問などの高齢者の安否確認などの取組み 39.5
西淀川区 (n=522)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 61.5	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 46.0	近所の人と声を掛け合うこと 43.7	介護保険サービスなどの利用 39.1	友人や知人とのつながり 38.9
淀川区 (n=527)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 61.7	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 45.4	近所の人と声を掛け合うこと 43.1	友人や知人とのつながり 39.5	介護保険サービスなどの利用 37.8

【表 21②-c 地域での見守り活動の必要性（居住区別）②】

(MA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
東淀川区 (n=545)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 60.6	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 43.5	地域住民による友愛訪問などの高齢者の安否確認などの取組み 41.3	近所の人と声を掛け合うこと 40.9	介護保険サービスなどの利用 39.8
東成区 (n=508)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 57.3	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 44.1	近所の人と声を掛け合うこと 41.7	介護保険サービスなどの利用 40.6	地域住民による友愛訪問などの高齢者の安否確認などの取組み 40.2
生野区 (n=492)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 55.7	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 42.1	近所の人と声を掛け合うこと 40.2	地域住民による友愛訪問などの高齢者の安否確認などの取組み／介護保険サービスなどの利用	37.6
旭区 (n=526)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 64.3	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 47.9	近所の人と声を掛け合うこと 46.4	友人や知人とのつながり 41.8	地域住民による友愛訪問などの高齢者の安否確認などの取組み 39.9
城東区 (n=571)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 65.5	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 46.8	近所の人と声を掛け合うこと 44.8	友人や知人とのつながり 43.1	介護保険サービスなどの利用 38.5
鶴見区 (n=528)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 58.5	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 49.6	介護保険サービスなどの利用 41.7	近所の人と声を掛け合うこと 41.1	地域住民による友愛訪問などの高齢者の安否確認などの取組み 38.1
阿倍野区 (n=566)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 65.7	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 52.1	友人や知人とのつながり 44.2	介護保険サービスなどの利用 42.9	近所の人と声を掛け合うこと 41.7
住之江区 (n=518)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 62.4	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 49.2	地域住民による友愛訪問などの高齢者の安否確認などの取組み 41.5	介護保険サービスなどの利用／近所の人と声を掛け合うこと	41.3
住吉区 (n=548)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 61.1	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 49.8	近所の人と声を掛け合うこと 43.2	友人や知人とのつながり 41.6	地域住民による友愛訪問などの高齢者の安否確認などの取組み／介護保険サービスなどの 40.9
東住吉区 (n=536)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 65.3	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 48.7	近所の人と声を掛け合うこと 44.8	介護保険サービスなどの利用 41.6	友人や知人とのつながり 41.2
平野区 (n=531)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 63.7	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 47.5	近所の人と声を掛け合うこと 42.9	介護保険サービスなどの利用 42.6	地域住民による友愛訪問などの高齢者の安否確認などの取組み 40.3
西成区 (n=424)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 54.2	近所の人と声を掛け合うこと 42.9	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 41.7	介護保険サービスなどの利用 38.0	友人や知人とのつながり 36.1

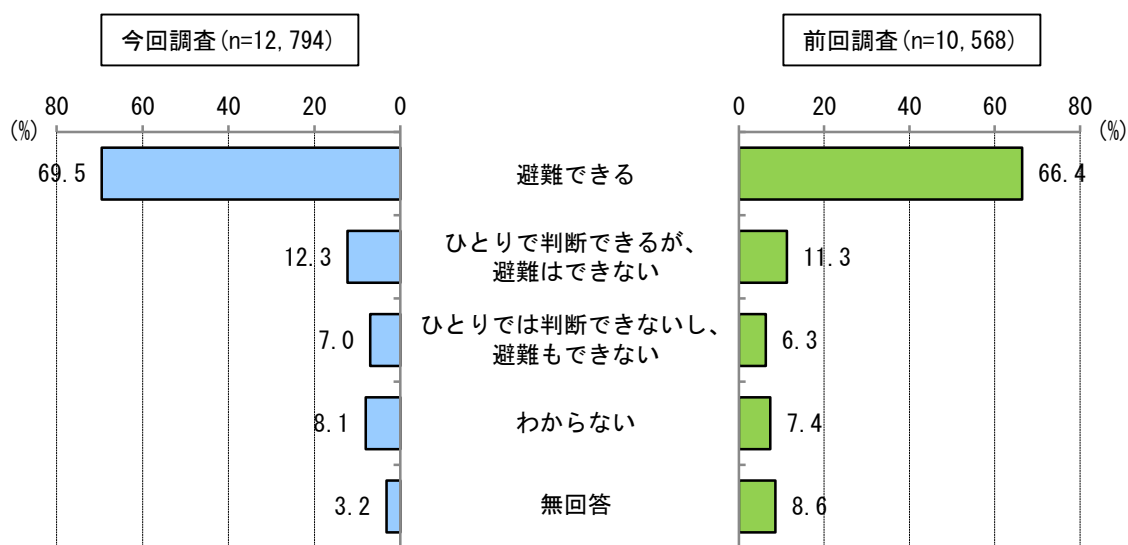
問22 災害時・緊急時にひとりでの避難の可否

あなたは、災害時や緊急時にひとりでの避難することができますか。(○はひとつ)

災害時や緊急時にひとりでの避難できるかについては、「避難できる」が69.5%で最も多い。一方、「ひとりで判断できるが、避難はできない」(12.3%)と「ひとりでは判断できないし、避難もできない」(7.0%)をあわせた『避難できない』は19.3%となっている。

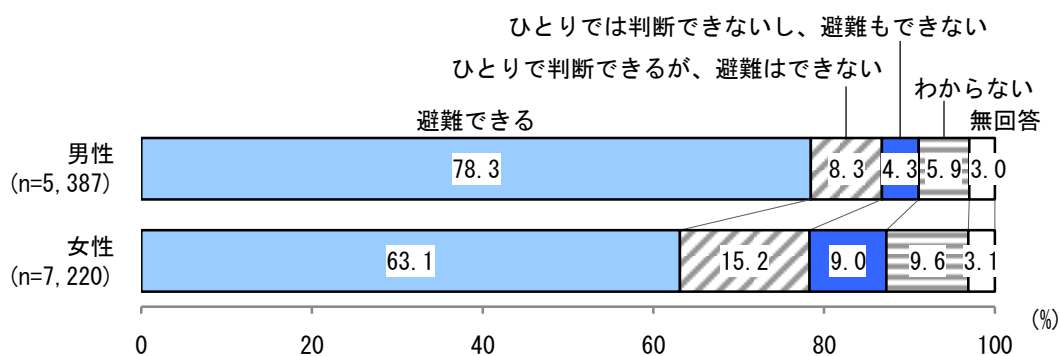
前回調査と比較すると、「避難できる」の割合は3.1ポイント高くなっている。(問22)

【問 22 災害時・緊急時にひとりでの避難の可否 (経年比較)】



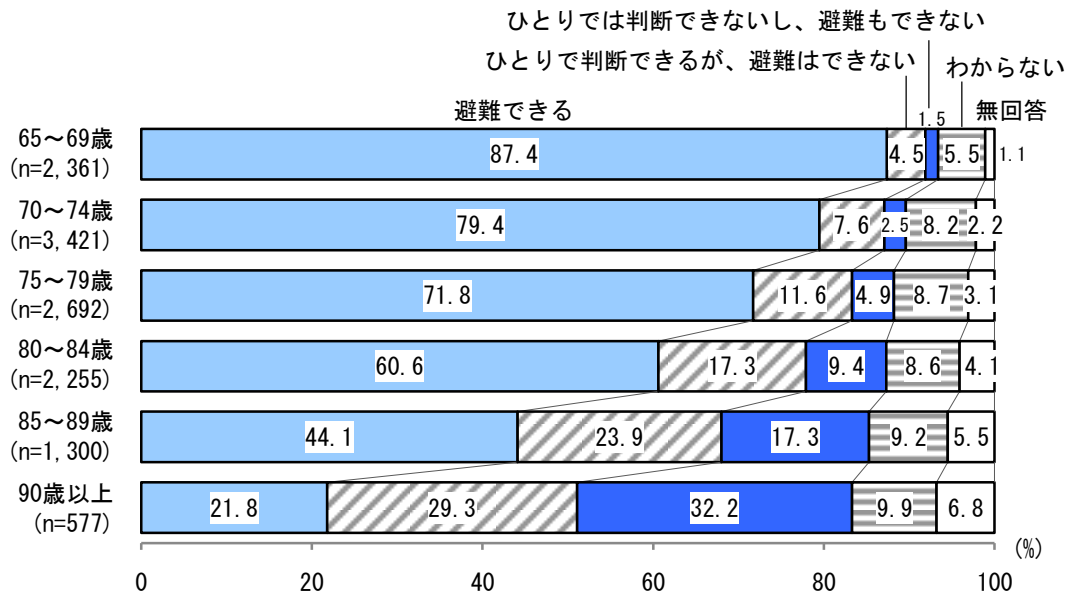
性別でみると、女性のほうが「避難できる」割合が低く、困難を感じている傾向がみられる。(問22-a)

【問 22-a 災害時・緊急時にひとりでの避難の可否 (性別)】



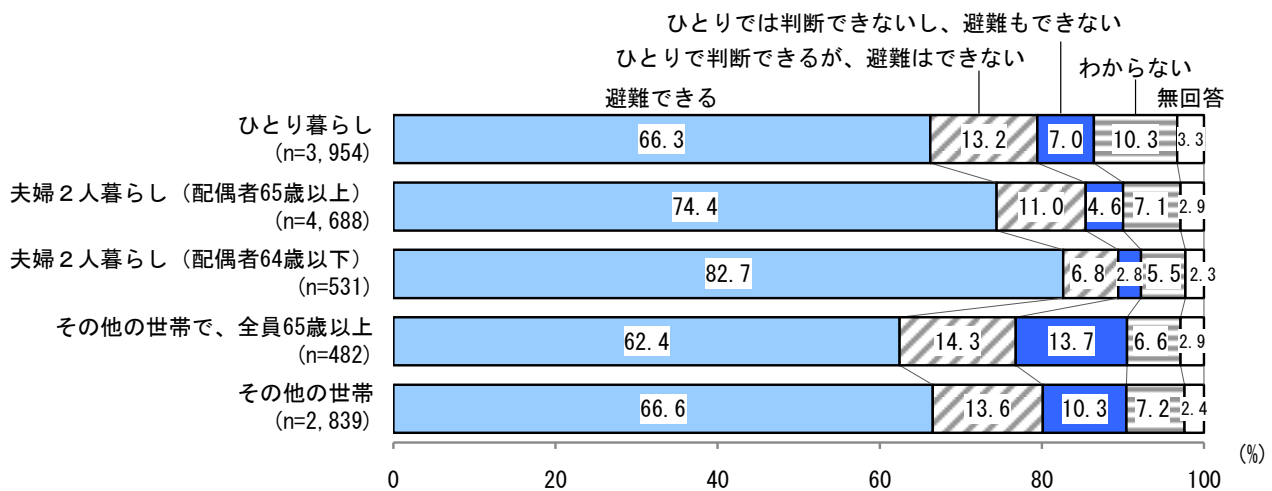
年齢別では、高齢になるほど「避難できる」の割合が低くなっている。(問22-b)

【問 22-b 災害時・緊急時にひとりでの避難の可否（年齢別）】



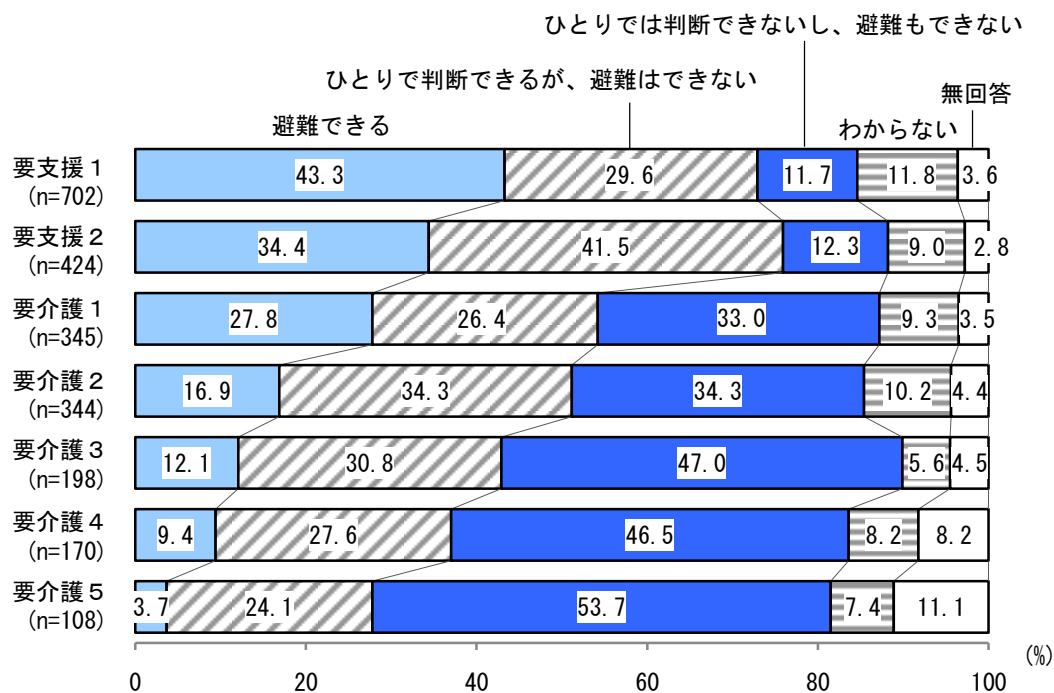
世帯状況別でみると、「避難できる」は“夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）”の世帯が82.7%で最も高く、『避難できない』は“その他の世帯で、全員65歳以上”の世帯が28.0%で最も高い。(問22-c)

【問 22-c 災害時・緊急時にひとりでの避難の可否（世帯状況別）】



介護度別でみると、「避難できる」の割合は、要介護4～5では1割に満たない。(問22-d)

【問 22-d 災害時・緊急時にひとりでの避難の可否（介護度別）】



問22-1 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無

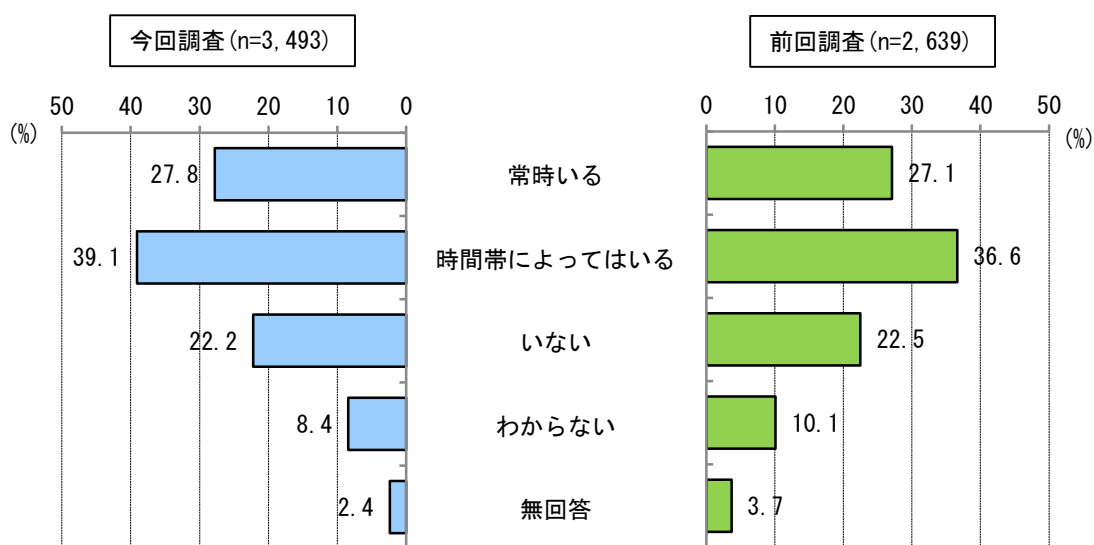
問22で「2」～「4」と回答された方におうかがいします。

災害時や緊急時に、手助けを頼める人（同居者を含む）はいますか。（○はひとつ）

ひとりで避難できない、またはわからないと回答した人に、手助けを頼める人がいるかをたずねると、「常時いる」（27.8%）と「時間帯によってはいる」（39.1%）をあわせた『手助けを頼める人がいる』は66.9%となっている。

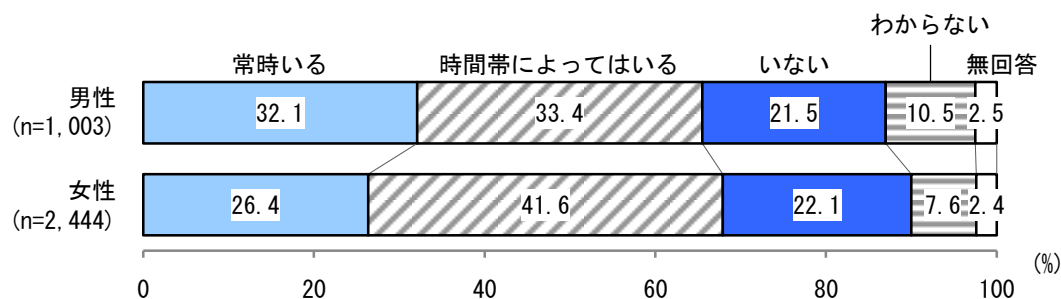
前回調査と比較すると、『手助けを頼める人がいる』人の割合は3.2ポイント高くなっている。（問22-1）

【問 22-1 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無（経年比較）】



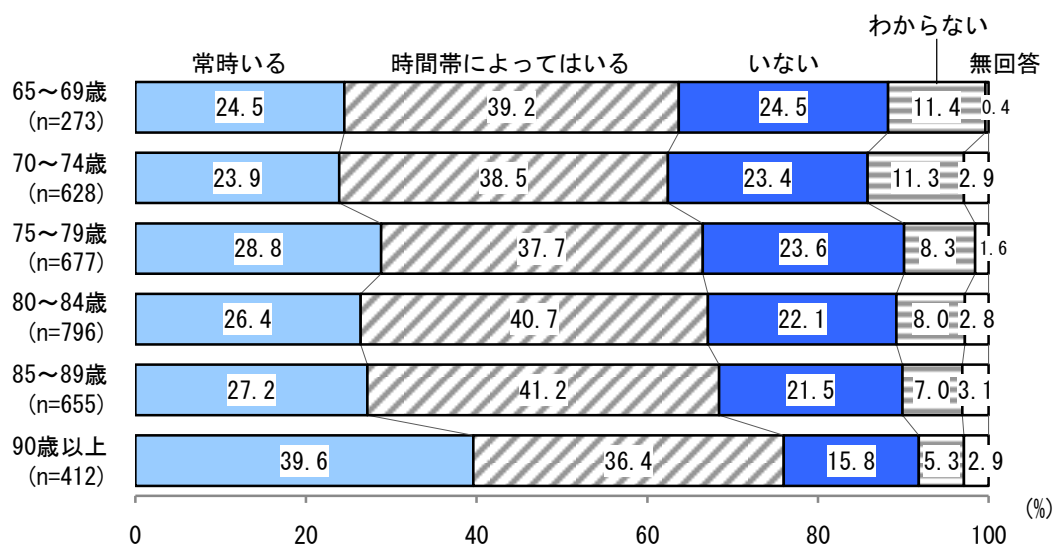
性別でみると、『手助けを頼める人がいる』の割合は男性より女性のほうが割合が高くなっている。（問22-1-a）

【問 22-1-a 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無（性別）】



年齢別でみると、『手助けを頼める人がいる』の割合は、年代が上がるとともに上昇傾向にある。(問22-1-b)

【問 22-1-b 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無（年齢別）】



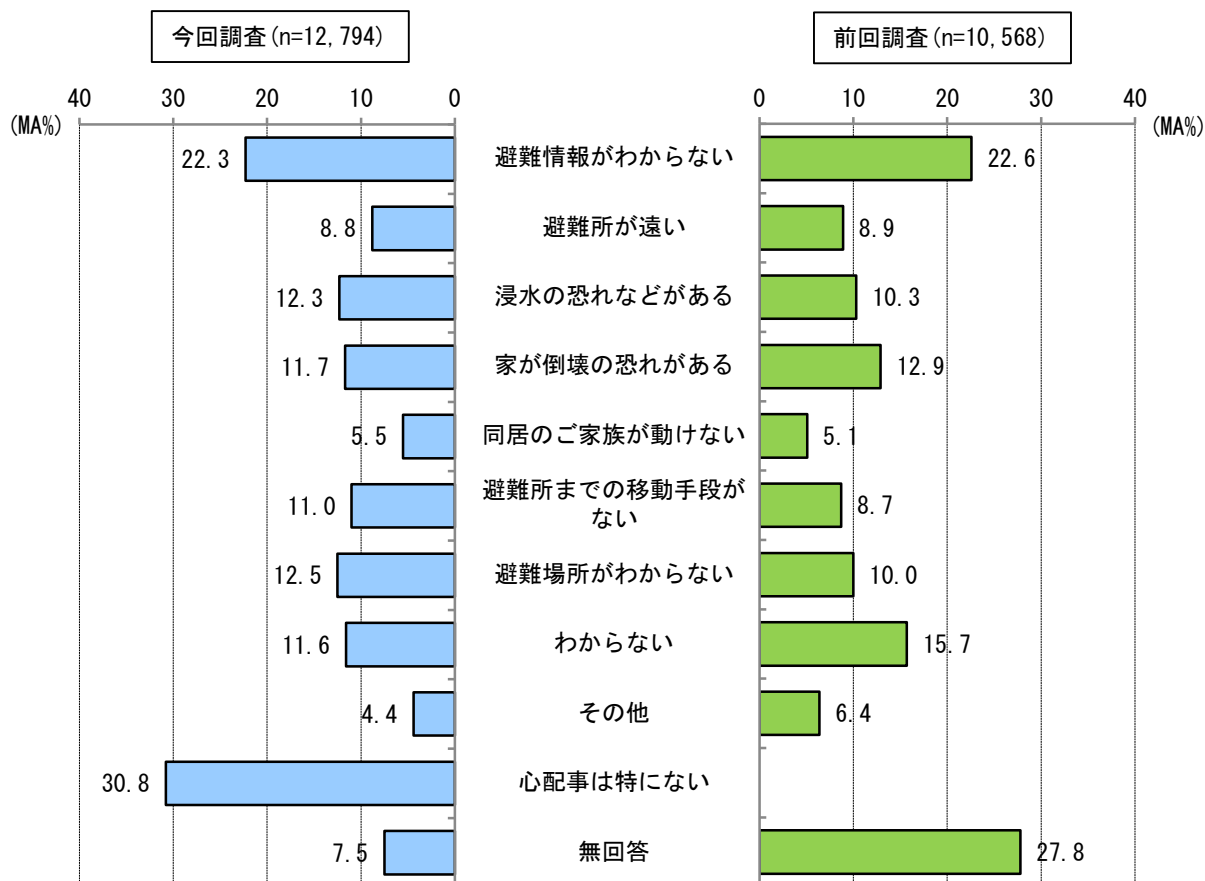
問23 災害時の心配事

あなたは、災害が起きた時の心配事がありますか。(〇はいくつでも)

災害時の心配事については、「避難情報がわからない」が22.3%で最も多く、次いで「避難場所がわからない」が12.5%、「浸水の恐れなどがある」が12.3%となっている。一方、「心配事は特にない」は30.8%となっている。

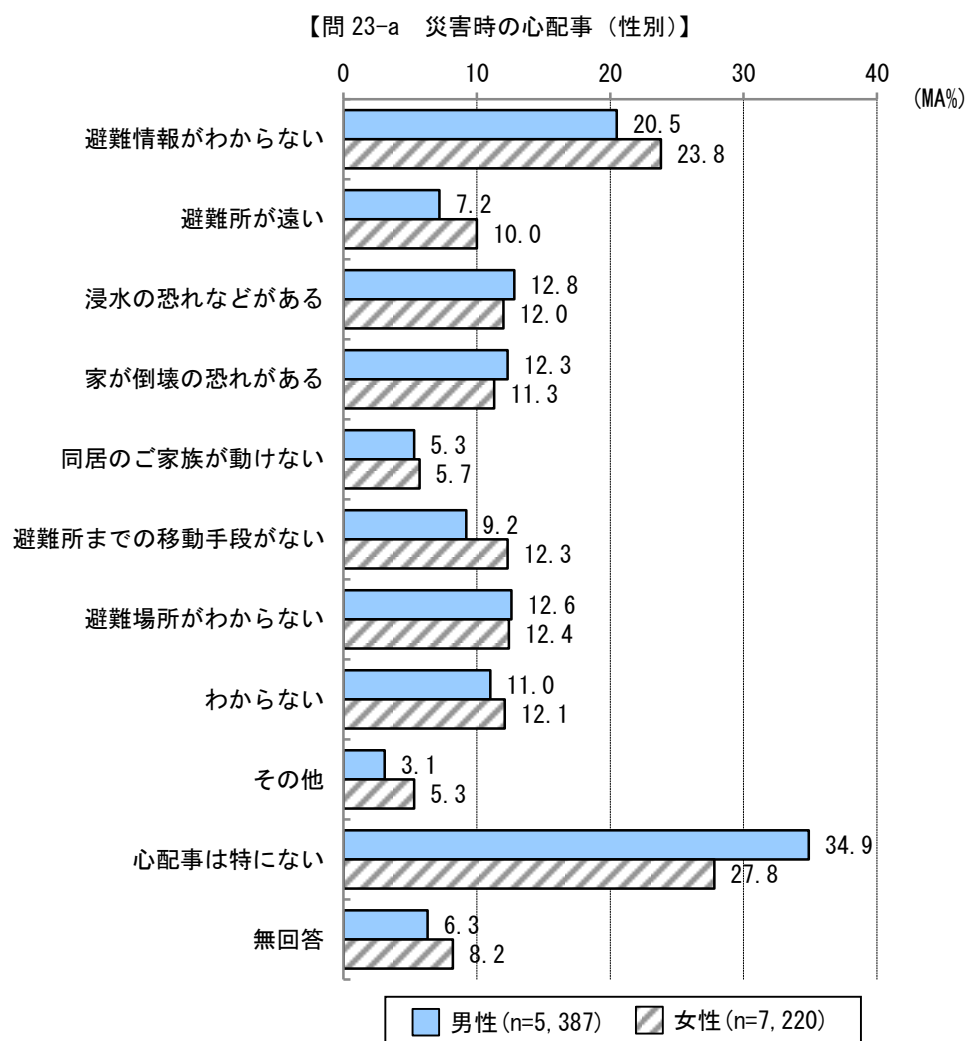
前回調査と比較しても、概ね同様の傾向となっている。(問23)

【問23 災害時の心配事（経年比較）】



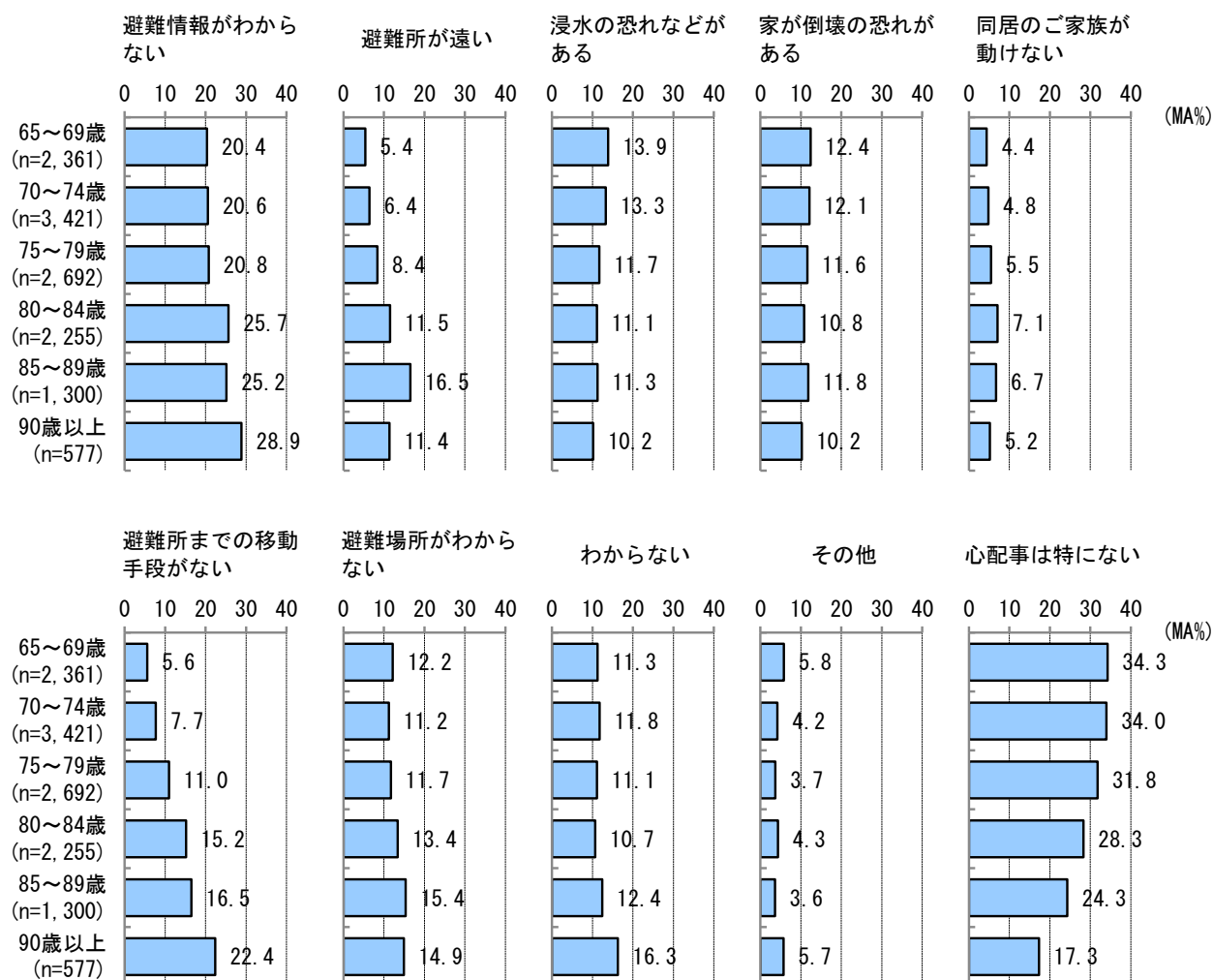
※「心配事は特にない」は、今回調査の新規項目である。

性別でみると、「浸水の恐れなどがある」、「家が倒壊の恐れがある」、「避難所がわからない」の回答割合は男性のほうが高くなっている。（問23-a）



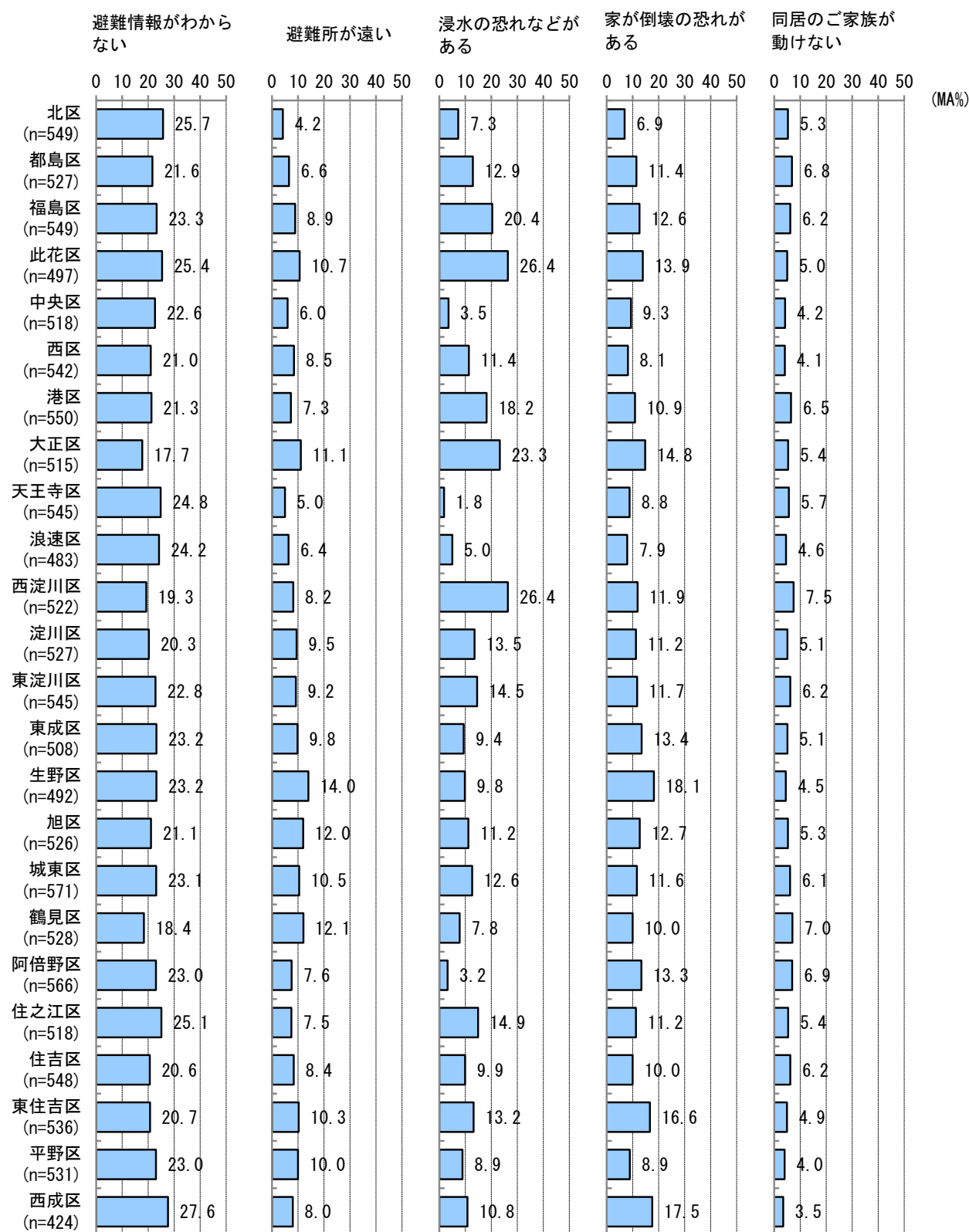
年齢別でみると、「避難所までの移動手段がない」の回答割合は高齢になるほど高くなっている。(問23-b)

【問 23-b 災害時の心配事（年齢別）】

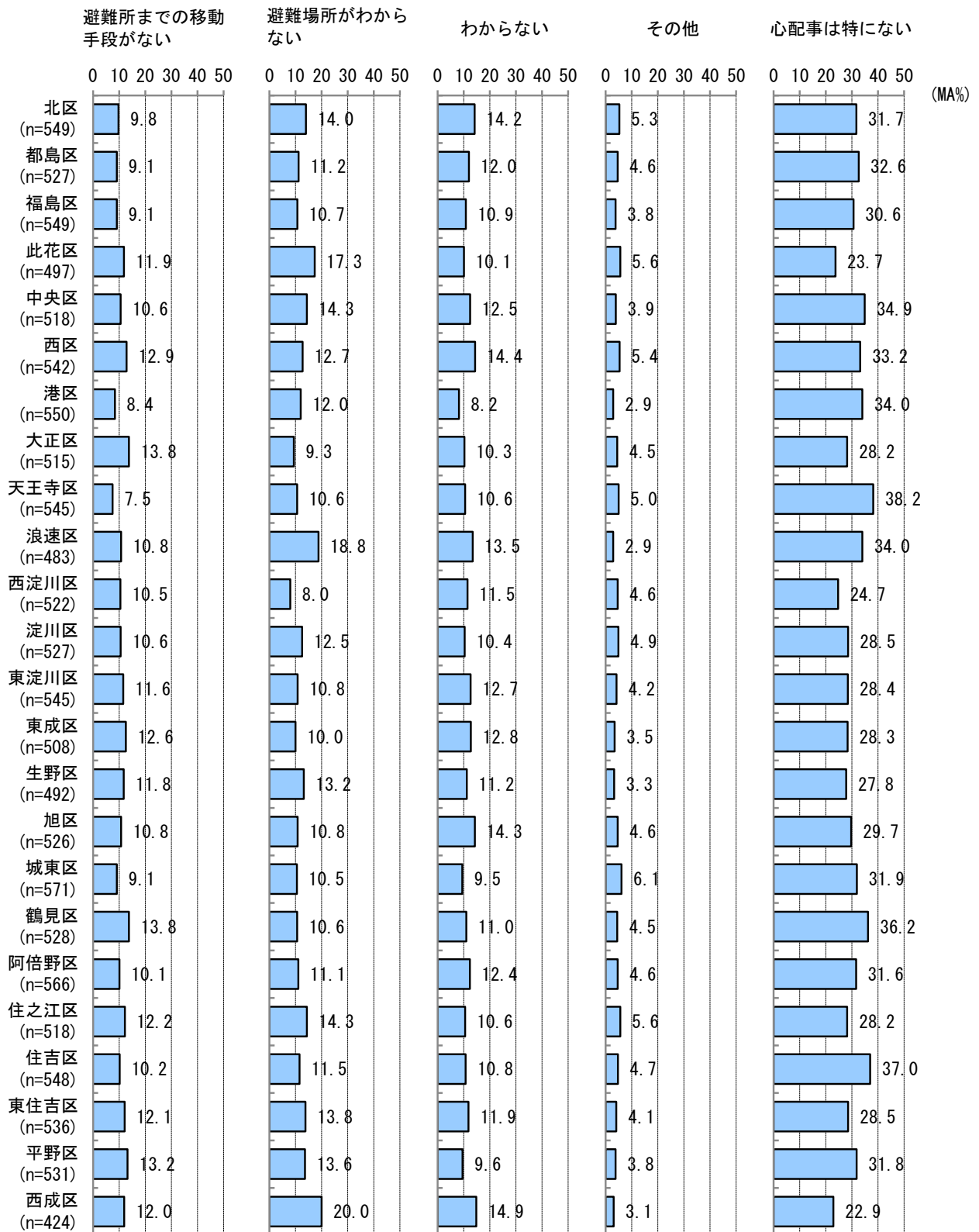


居住区別でみると、「浸水の恐れなどがある」の回答割合は「此花区」「西淀川区」「大正区」で高くなっている。その他の区は「避難情報がわからない」が多くなっている。（問23-c①②）

【問 23-c 災害時の心配事（居住区別）①】



【問 23-c 災害時の心配事（居住区別）②】

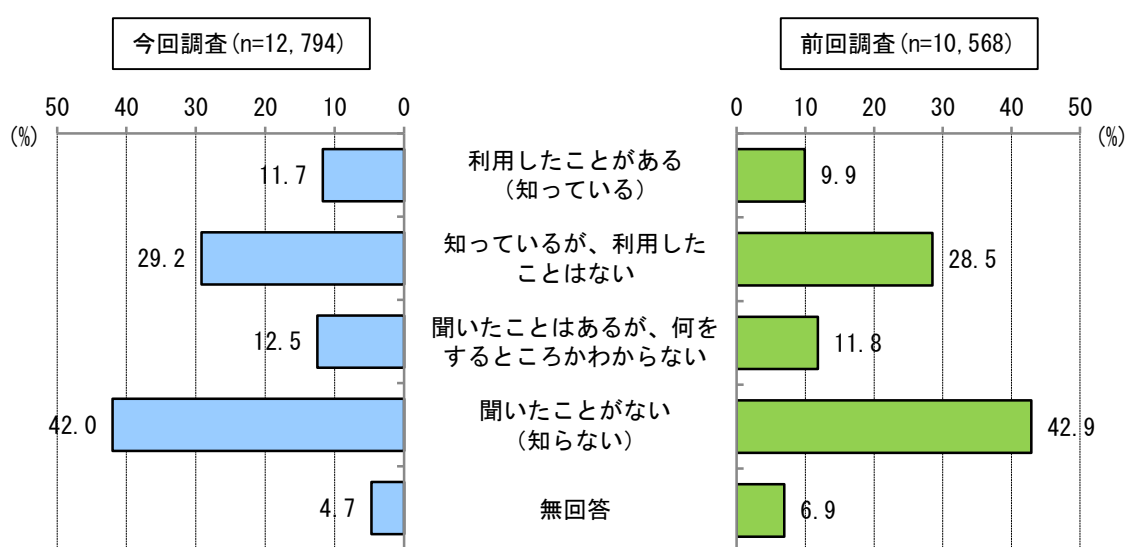


問24 地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）の利用状況

あなたは、地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ランチ）を利用したことがありますか。（○はひとつ）

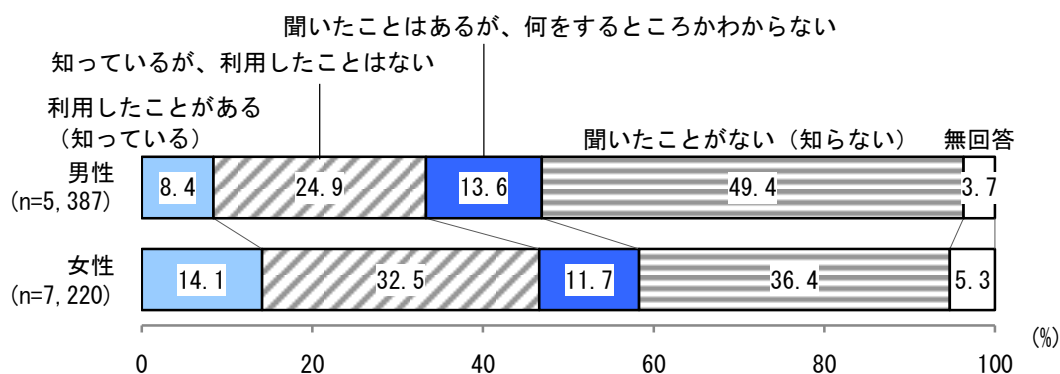
地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ランチ）の利用状況については、「利用したことがある（知っている）」（11.7%）と「知っているが、利用したことはない」（29.2%）をあわせた『知っている』は40.9%となっており、『知っている』割合は前回より2.5ポイント高くなっている。「聞いたことがない（知らない）」（42.0%）の割合は前回と比べ0.9ポイント低くなっている。（問24）

【問 24 地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）の利用状況（経年比較）】



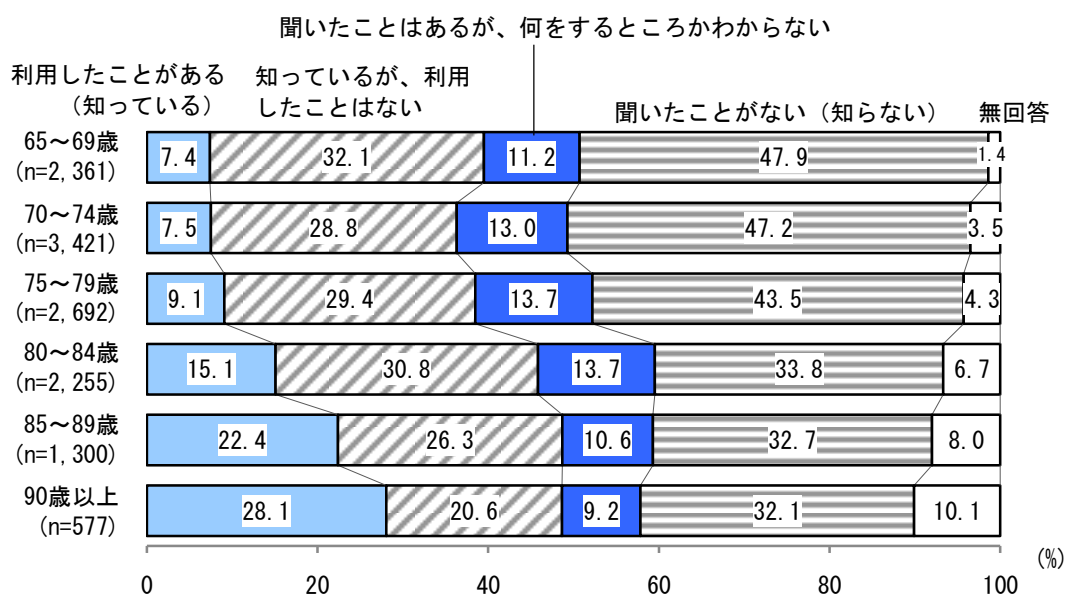
性別でみると、利用の有無にかかわらず『知っている』の回答割合は女性のほうが高く、「聞いたことがない（知らない）」の回答割合は、男性のほうが高くなっている。（問24-a）

【問 24-a 地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）の利用状況（性別）】



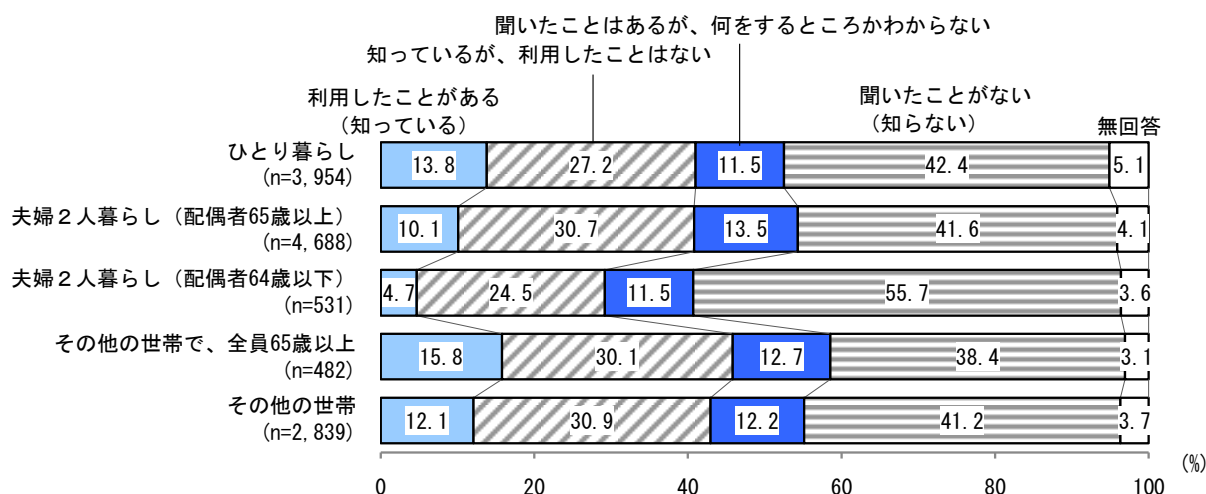
年齢別では、概ね高齢になるほど『知っている』の回答割合が高くなり、80歳以上は4割を超えている。(問24-b)

【問 24-b 地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）の利用状況（年齢別）】



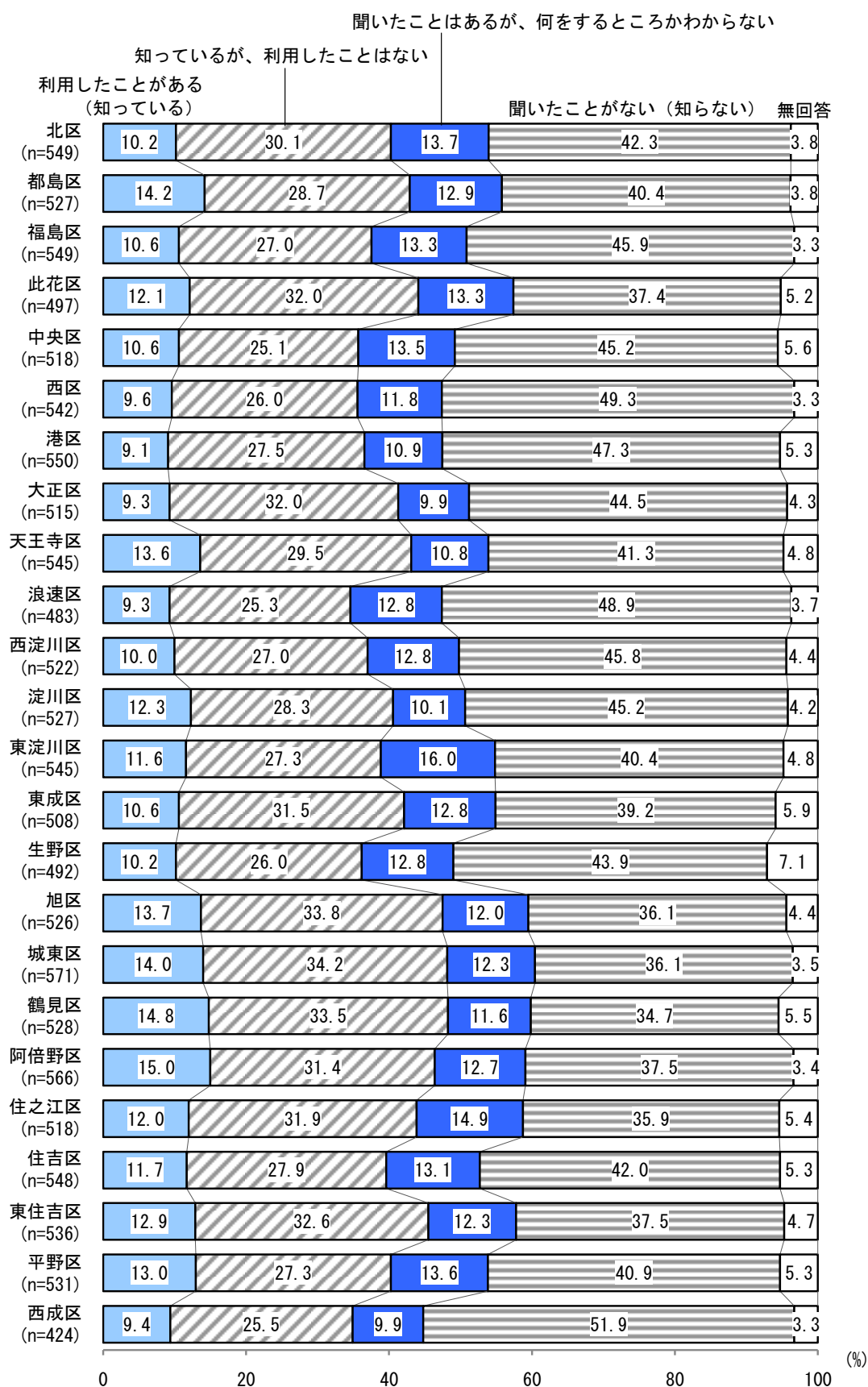
世帯状況別でみると、『知っている』との回答割合は“その他の世帯で、全員65歳以上”が45.9%で最も高く、「聞いたことがない (知らない)」は“夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)”が55.7%で最も高くなっている。(問24-c)

【問 24-c 地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）の利用状況（世帯状況別）】



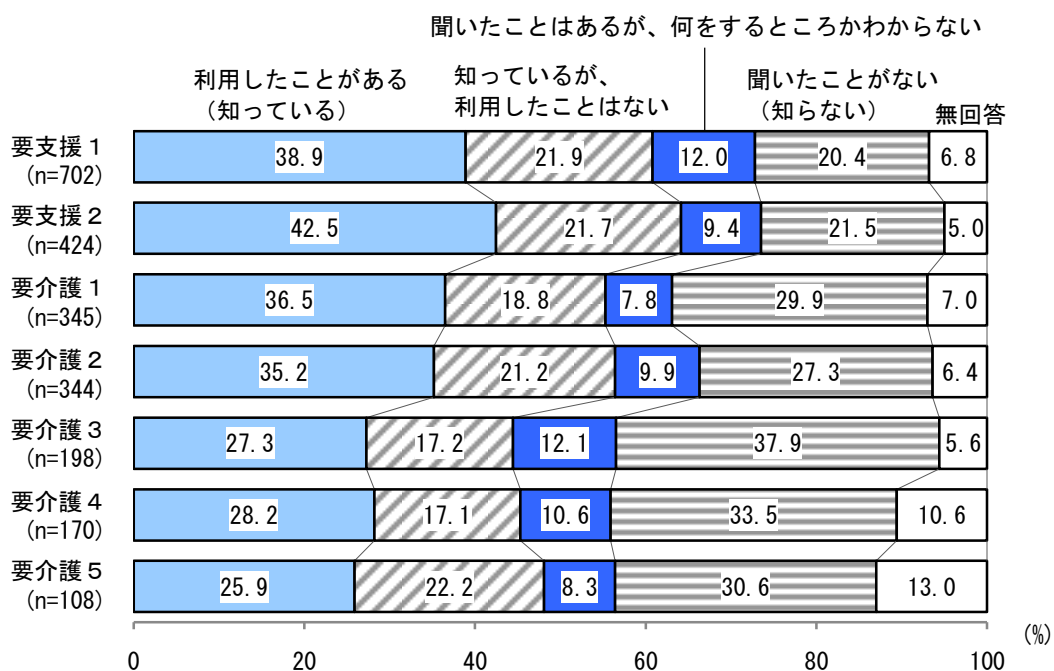
居住区別でみると、『知っている』の回答割合は鶴見区が48.3%で最も高く、「聞いたことがない（知らない）」は西成区が51.9%で最も高くなっている。（問24-d）

【問 24-d 地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）の利用状況（居住区別）】



介護度別でみると、『知っている』の回答割合は要支援2が64.2%と最も高く、次いで要支援1が60.8%となっている。(問24-e)

【問 24-e 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）の利用状況（介護度別）】

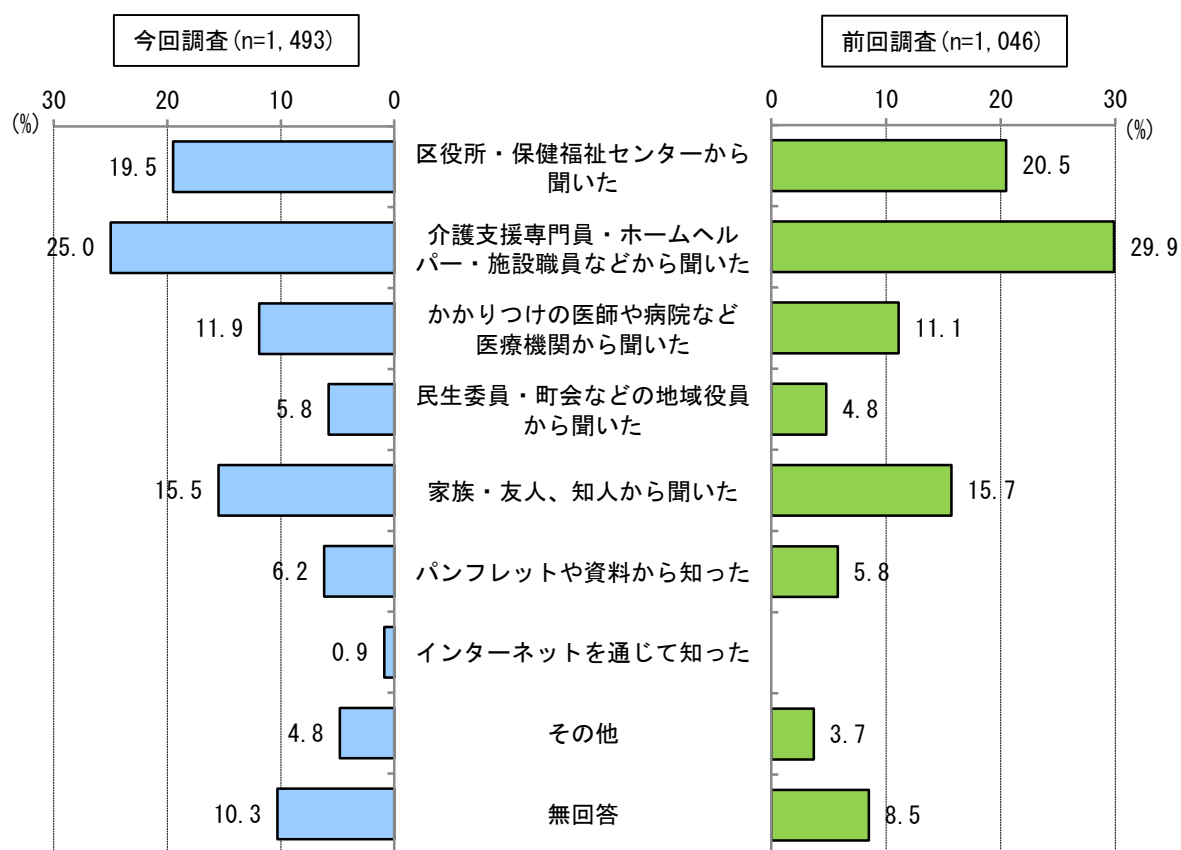


問24-1 地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）を知った経緯

問24で「1 利用したことがある（知っている）」と回答された方におうかがいします。
あなたは、地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ランチ）をどのようにして知りましたか。主なものをひとつ選んでお答えください。（○はひとつ）

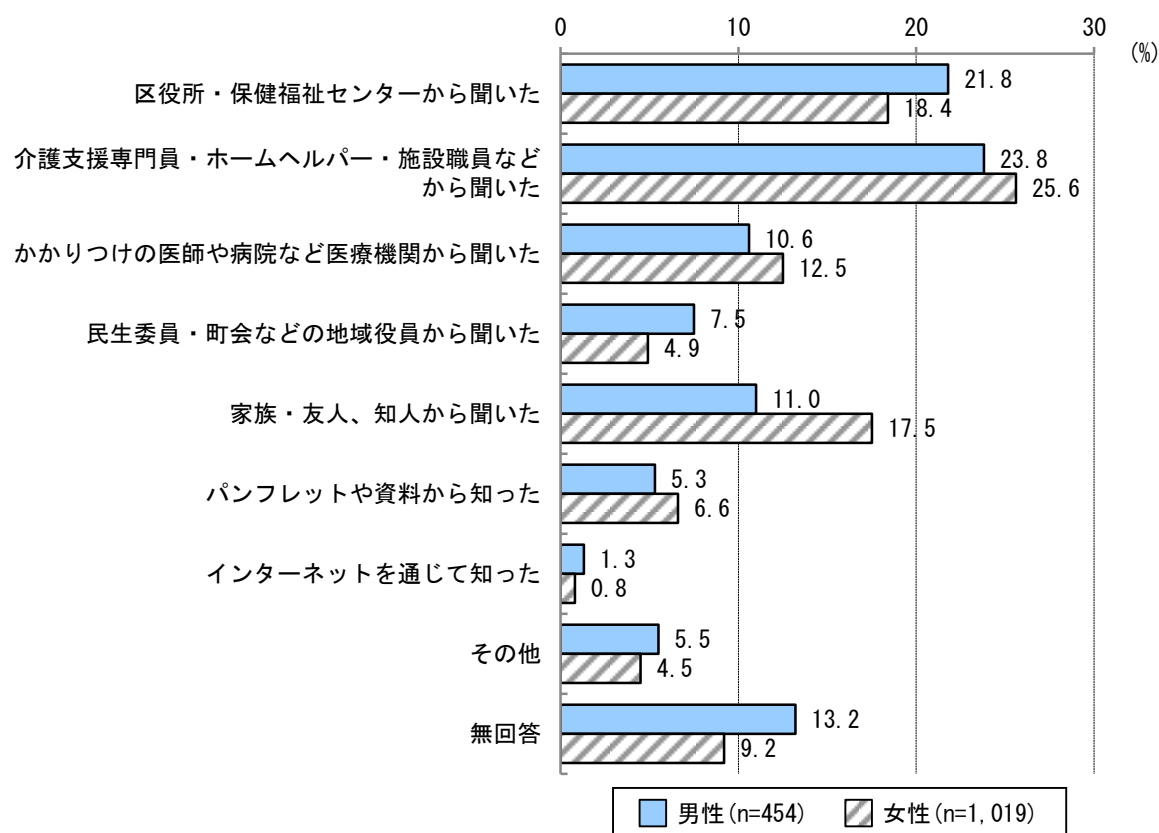
地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ランチ）を利用したことがあると回答した人に、知った経緯をたずねると、「介護支援専門員・ホームヘルパー・施設職員などから聞いた」が25.0%で最も多く、次いで「区役所・保健福祉センターから聞いた」が19.5%となっている。前回調査と比較しても、概ね同様の傾向となっている。（問24-1）

【問 24-1 地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）を知った経緯（経年比較）】



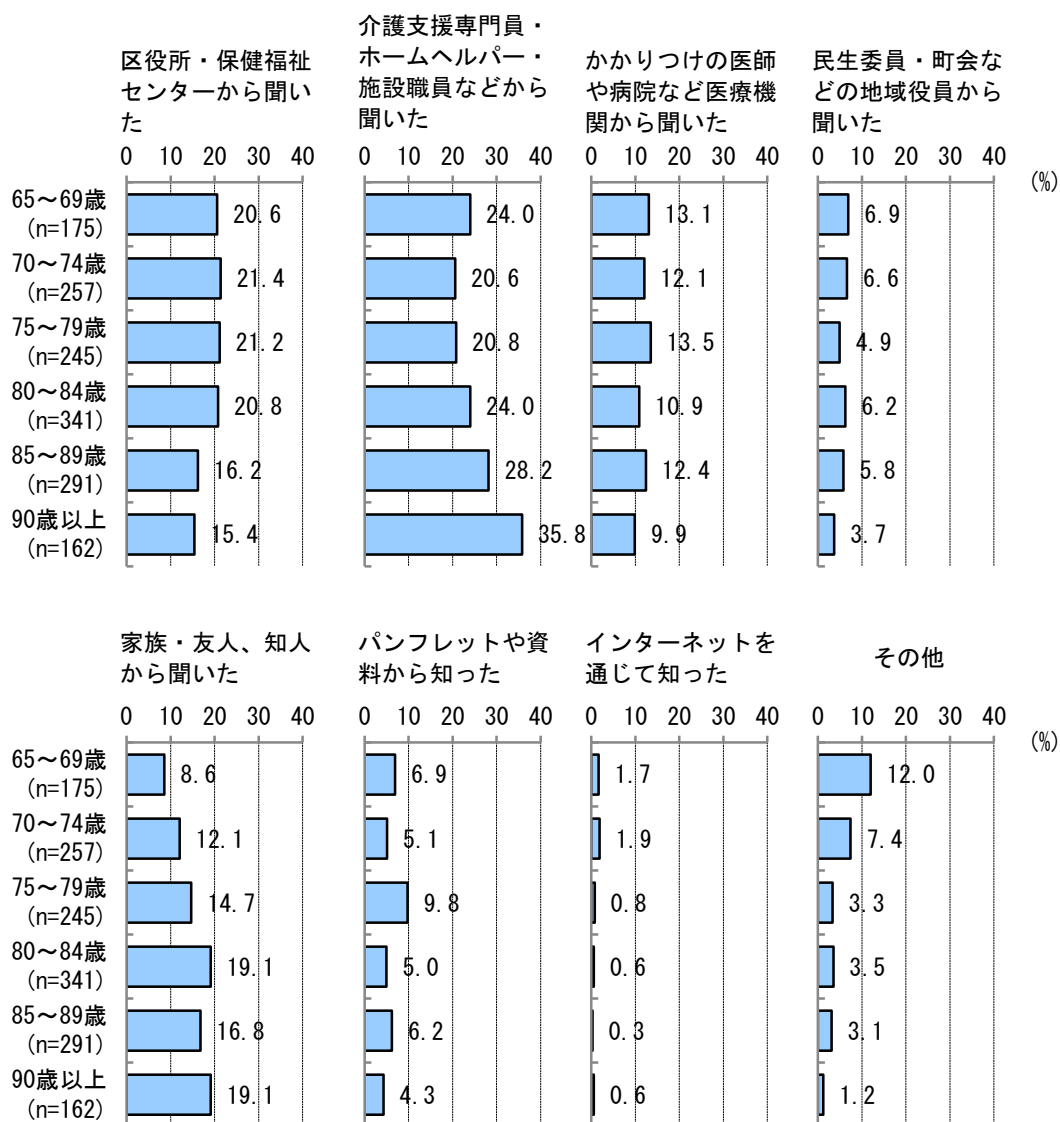
性別でみると、「区役所・保健福祉センターから聞いた」、「民生委員・町会などの地域役員から聞いた」以外の回答割合は女性のほうが高くなっている。（問24-1-a）

【問 24-1-a 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）を知った経緯（性別）】



年齢別でみると、「介護支援専門員・ホームヘルパー・施設職員などから聞いた」の回答割合は90歳以上が35.8%で最も高くなっている。(問24-1-b)

【問 24-1-b 地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）を知った経緯（年齢別）】



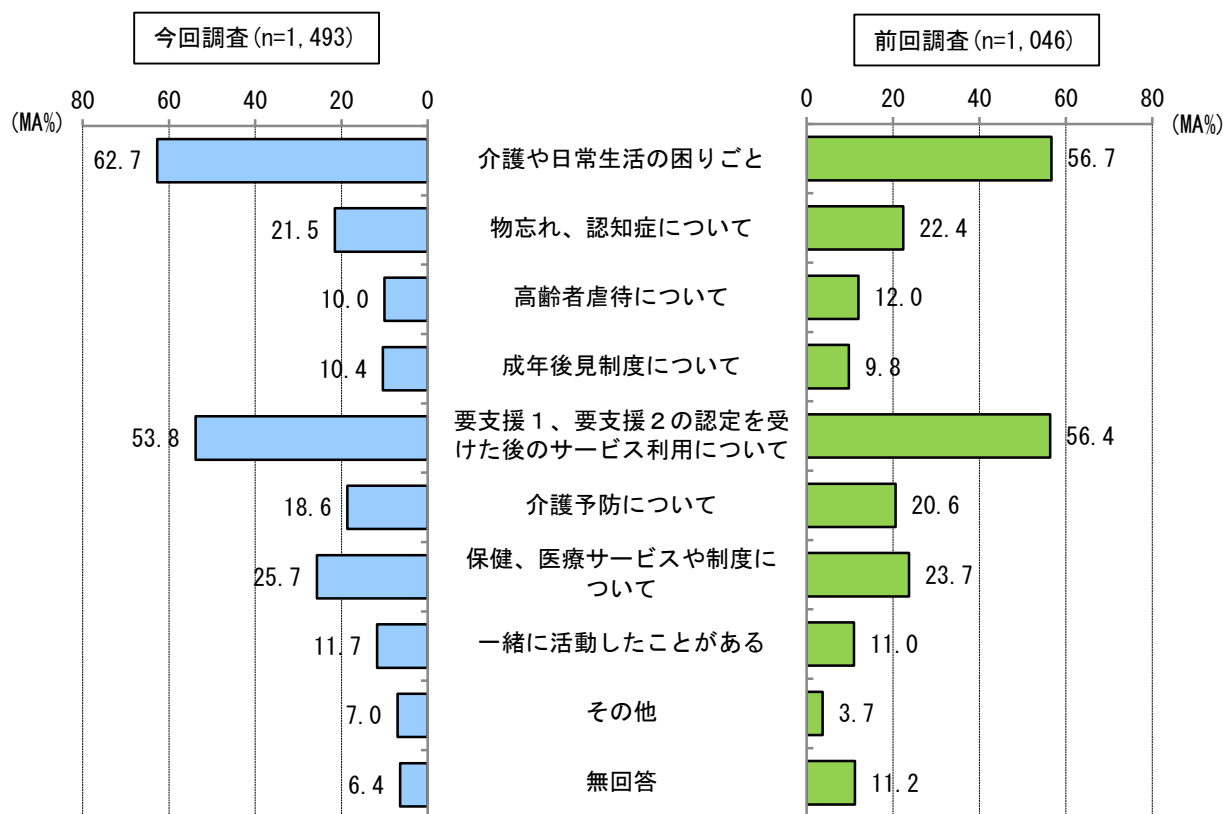
問24-2 地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）の利用目的と満足度

問24で「1 利用したことがある(知っている)」と回答された方におうかがいします。
 あなたが、地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ランチ）を利用（相談）された目的
 について、次の1～9に○をつけてください。（○はいくつでも）
 また、その時の満足度についてあてはまるものに○をつけてください。

① 地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）の利用（相談）目的

地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ランチ）を利用したことがあると回答した人に、利用（相談）した目的をたずねると、「介護や日常生活の困りごと」が62.7%で最も多く、次いで「要支援1、要支援2の認定を受けた後のサービス利用について」が53.8%となっている。前回調査と比較すると、「介護や日常生活の困りごと」の割合が6.0ポイント高くなっている。（問24-2①）

【問 24-2① 地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）の利用（相談）目的（経年比較）】

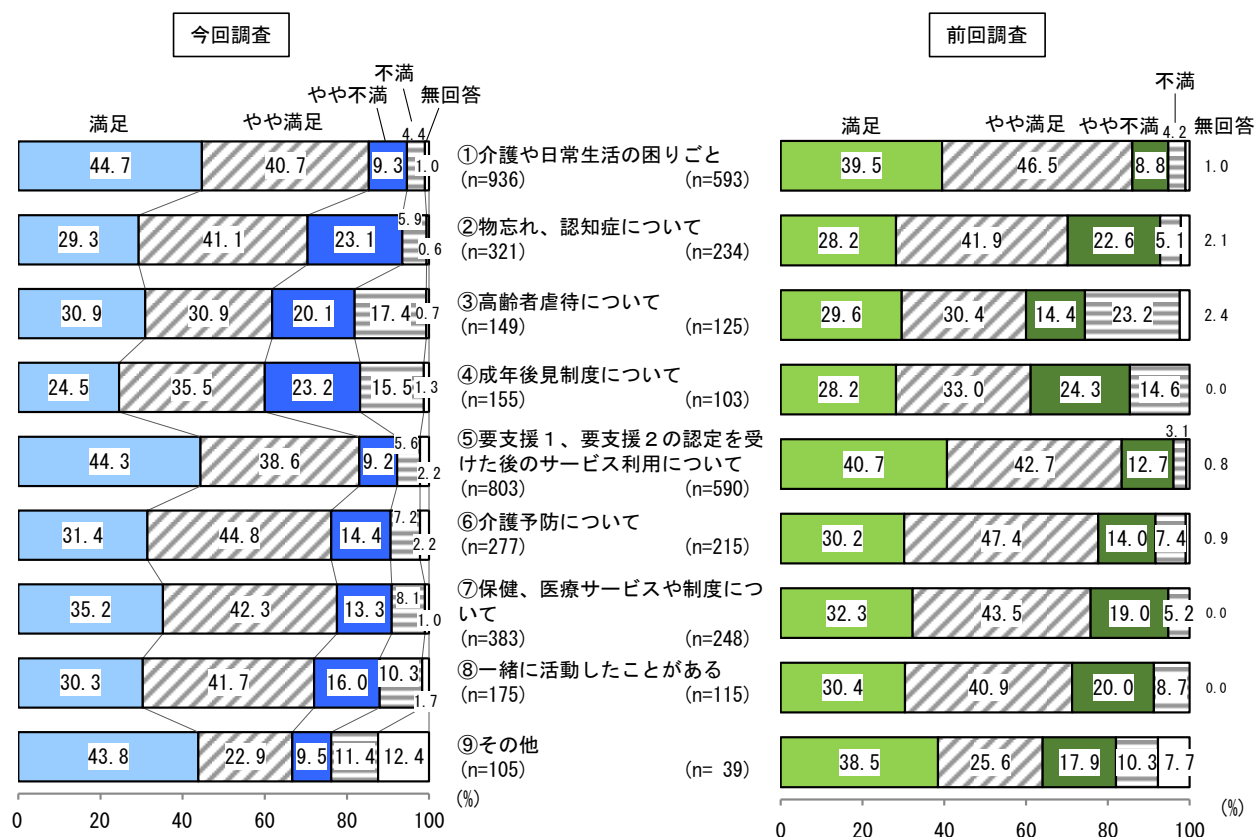


② 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）の満足度

地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ブランチ）を利用したことがあると回答した人に、利用（相談）した目的別に満足度をたずねると、“①介護や日常生活の困りごと”（85.4%）、“⑤要支援1、要支援2の認定を受けた後のサービス利用について”（82.9%）の『満足度』（「満足」と「やや満足」をあわせた割合）が高くなっている。

前回調査と比較しても、『満足度』は傾向に大きく変化はみられない。（問24-2②）

【問 24-2② 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）の満足度（経年比較）】



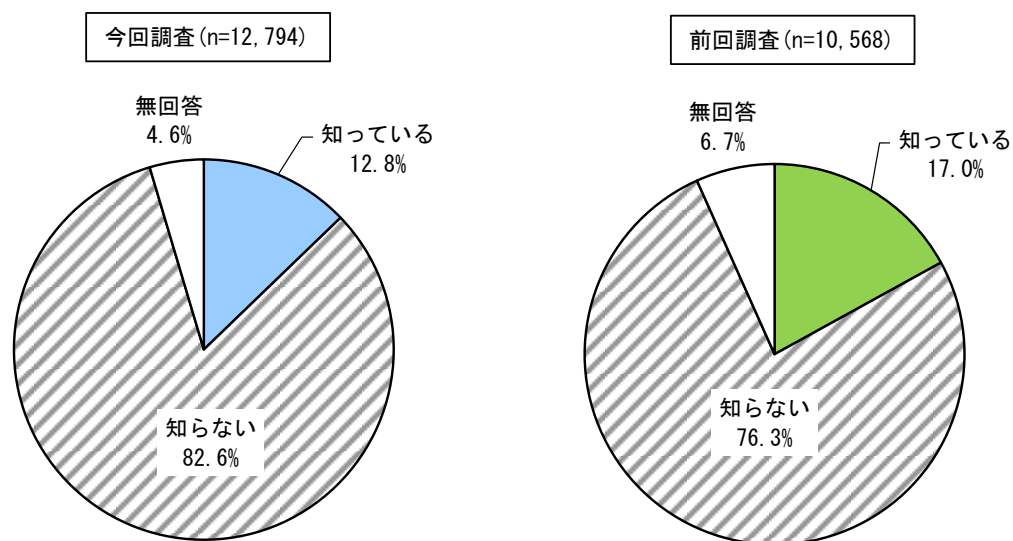
問25 高齢者虐待の相談先の認知度

あなたは、あなた又はあなたの周囲の高齢者が身近な人からの暴力や暴言、身体拘束や閉じ込め、介護や世話の放棄、年金の使い込みといった「高齢者虐待」を受けた場合の通報・相談先をご存じですか。（〇はひとつ）

高齢者虐待を受けた場合の通報・相談先を知っているかについては、「知っている」が12.8%、「知らない」が82.6%となっている。

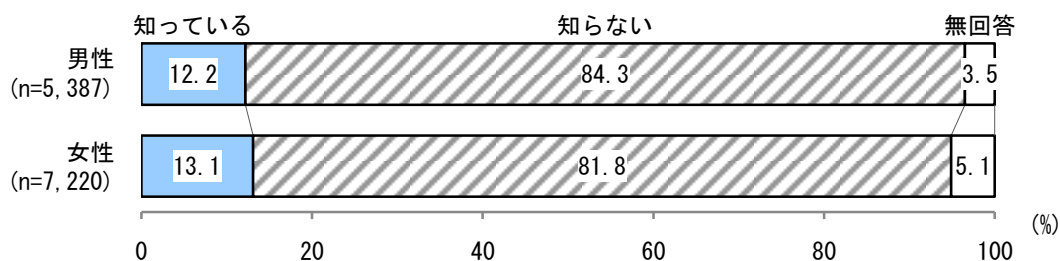
前回調査の結果に比べ、「知らない」の割合が6.3ポイント上昇している。（問25）

【問 25 高齢者虐待の相談先の認知度（経年比較）】



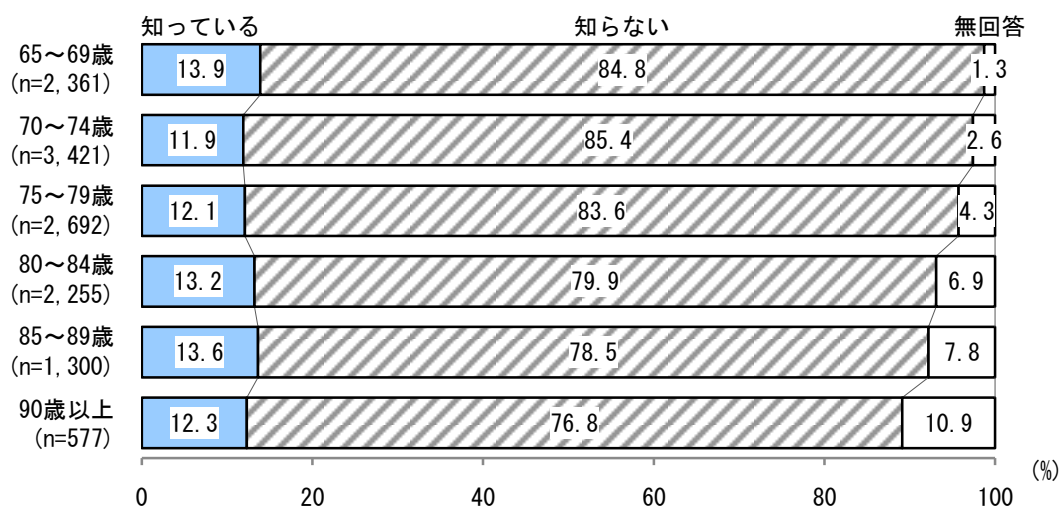
性別でみると、男女とも同様の傾向であり、大きな差はみられない。（問25-a）

【問 25-a 高齢者虐待の相談先の認知度（性別）】



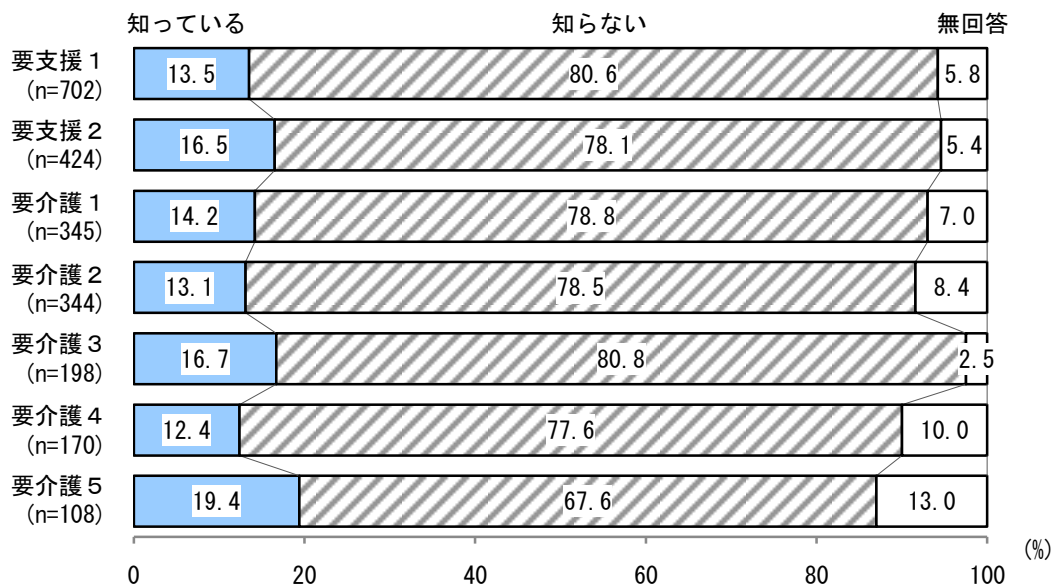
年齢別でみると、どの年齢層も８割前後は「知らない」と回答している。(問25-b)

【問 25-b 高齢者虐待の相談先の認知度（年齢別）】



介護度別でみると、「知っている」の回答割合は要介護５が19.4%で最も高くなっている。(問25-c)

【問 25-c 高齢者虐待の相談先の認知度（介護度別）】



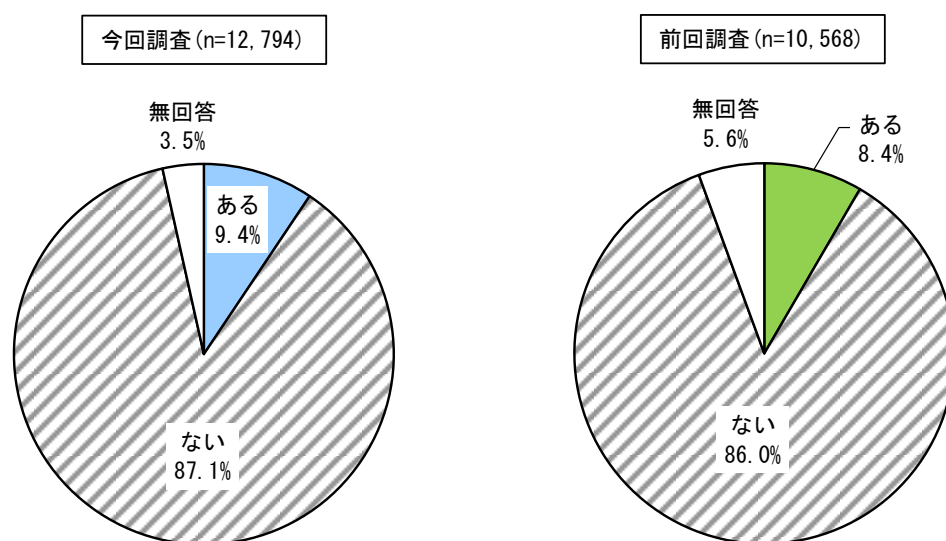
問26 消費者被害の経験有無

あなたは、これまでに消費者被害にあったことや、あいそうになったことはありますか。
(〇はひとつ)

消費者被害にあったことや、あいそうになったことがあるかについては、「ある」が9.4%、「ない」が87.1%となっている。

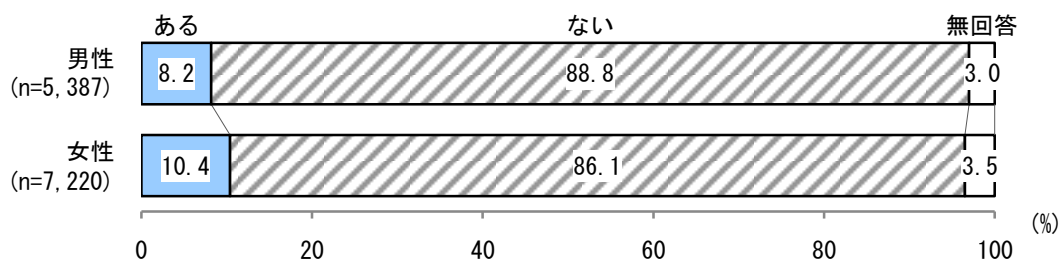
前回調査と比較すると、「ある」は前回より1.0ポイント高くなっている。(問26)

【問 26 消費者被害の経験有無（経年比較）】



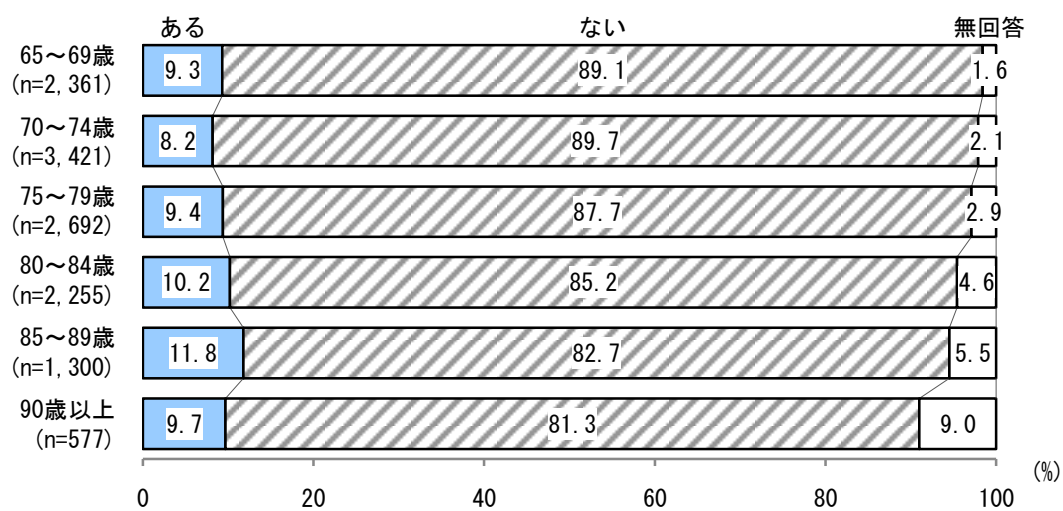
性別でみると、「ある」の回答割合は男性より女性のほうが高くなっている。(問26-a)

【問 26-a 消費者被害の経験有無（性別）】



年齢別でみると、「ある」の回答割合は85～89歳（11.8%）で最も高くなっている。（問26-b）

【問 26-b 消費者被害の経験有無（年齢別）】



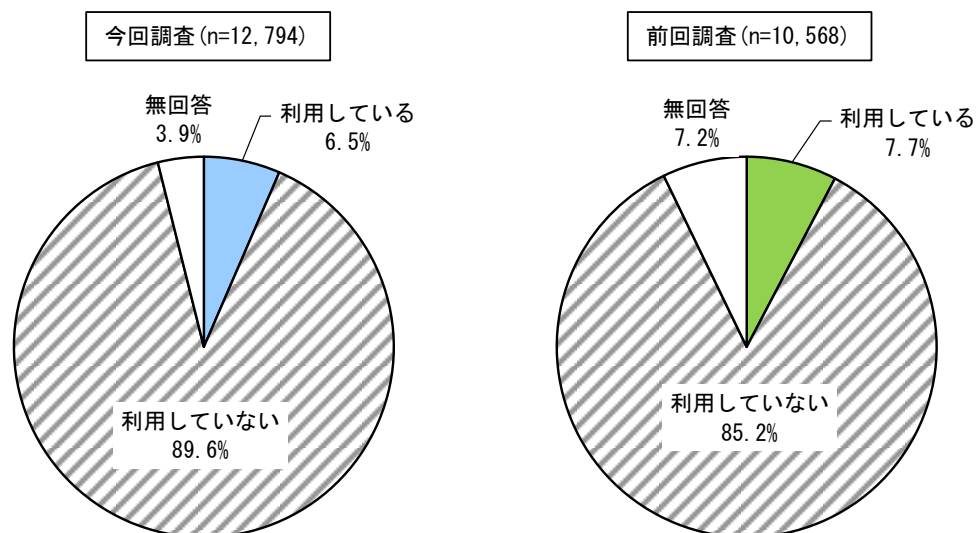
問27 老人福祉センターの利用状況

老人福祉センターについて、あなたの利用状況をお答えください。(○はひとつ)

老人福祉センターの利用状況については、「利用している」が6.5%、「利用していない」が89.6%となっている。

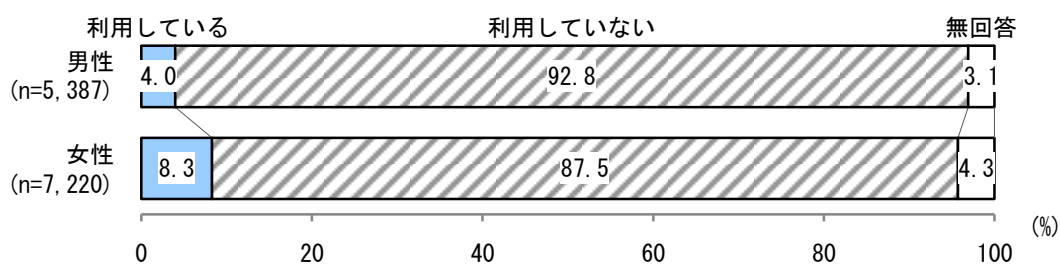
前回調査と比較すると、「利用していない」は前回より4.4ポイント高くなっている。(問27)

【問 27 老人福祉センターの利用状況（経年比較）】



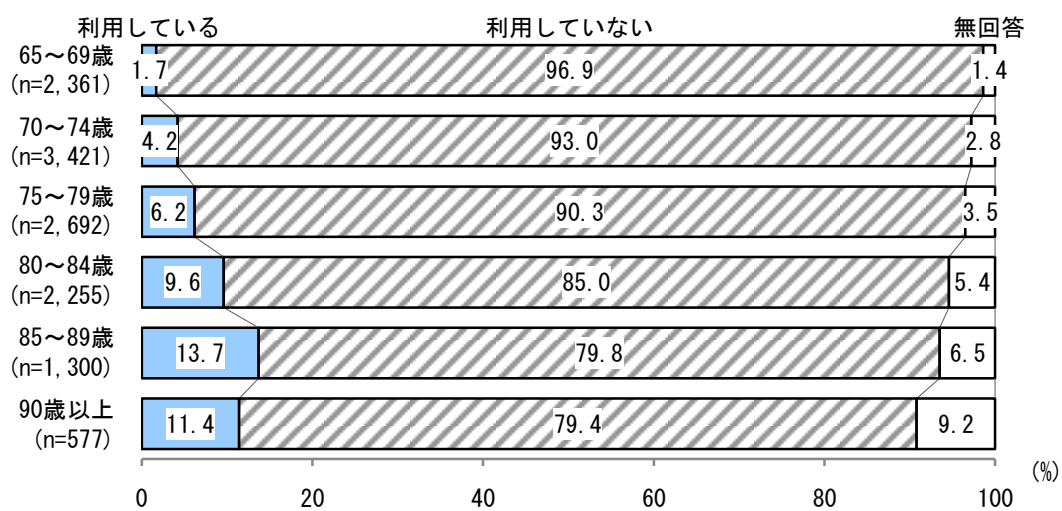
性別でみると、「利用している」の回答割合は男性より女性のほうが高くなっている。(問27-a)

【問 27-a 老人福祉センターの利用状況（性別）】



年齢別でみると、「利用している」の回答割合は85～89歳が13.7%で最も高くなっている。
(問27-b)

【問 27-b 老人福祉センターの利用状況（年齢別）】



居住区別でみると、「利用している」の回答割合は、いずれの区も10%未満で、「利用していない」が9割前後を占めている。(問27-c)

【問 27-c 老人福祉センターの利用状況 (居住区別)】



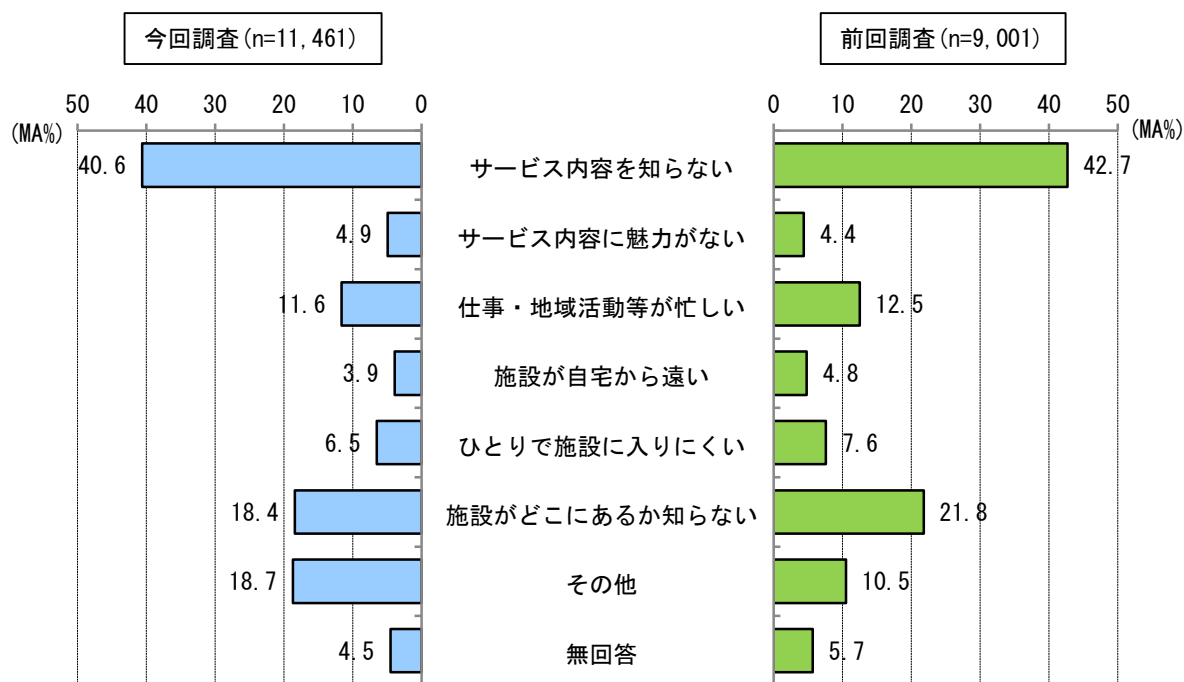
問27-1 老人福祉センターを利用していない理由

問27で「2 利用していない」と回答された方におうかがいします。
「利用していない」のはどのような理由からですか。(〇はひとつ)

老人福祉センターを利用していないと回答した人に、その理由をたずねると、「サービス内容を知らない」が40.6%で最も多く、次いで「施設がどこにあるか知らない」が18.4%、「仕事・地域活動等が忙しい」が11.6%となっている。

前回調査と比較しても、概ね同様の傾向となっている。(問27-1)

【問 27-1 老人福祉センターを利用していない理由（経年比較）】



（５）将来の介護や援護に対する考え

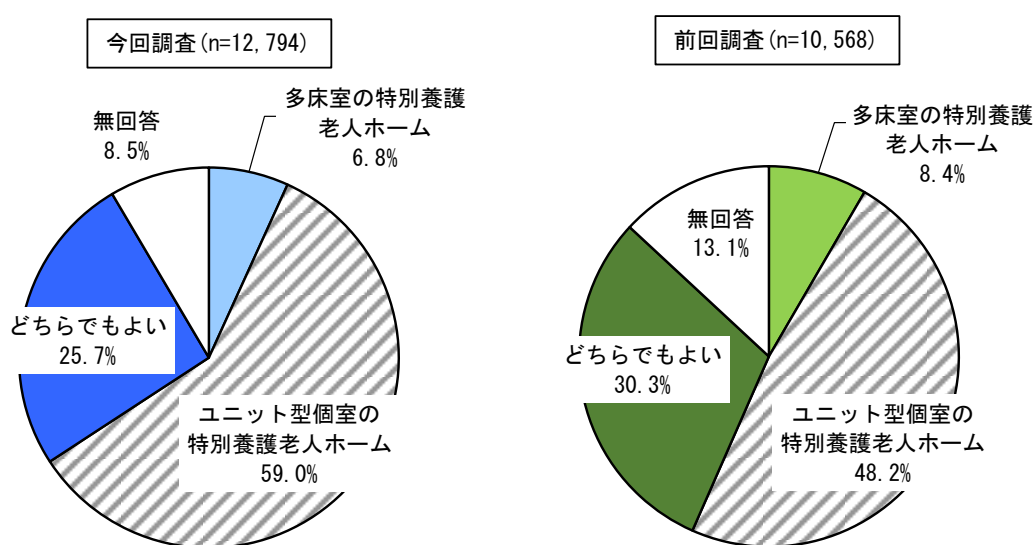
問28 特養入所意向

あなたは、特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）に入所することになった場合、どちらの施設に入りたいと思われますか。（○はひとつ）

特別養護老人ホームに入所する場合に希望する施設は、「ユニット型個室の特別養護老人ホーム」が59.0%、「多床室の特別養護老人ホーム」は6.8%となっている。

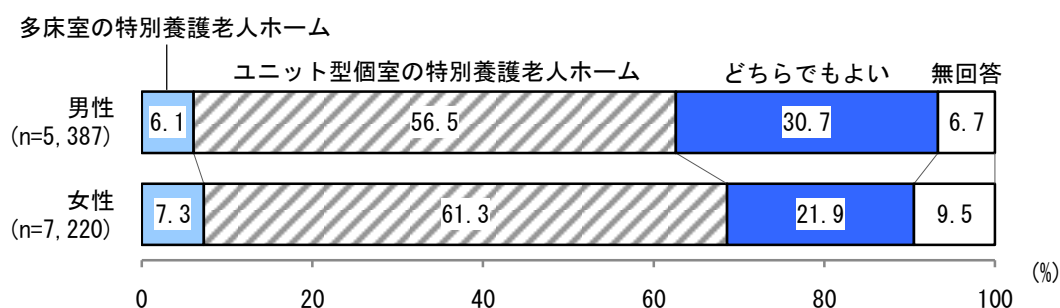
前回調査と比較すると、「ユニット型個室の特別養護老人ホーム」の割合が10.8ポイント高くなっている。（問28）

【問 28 特養入所意向（経年比較）】



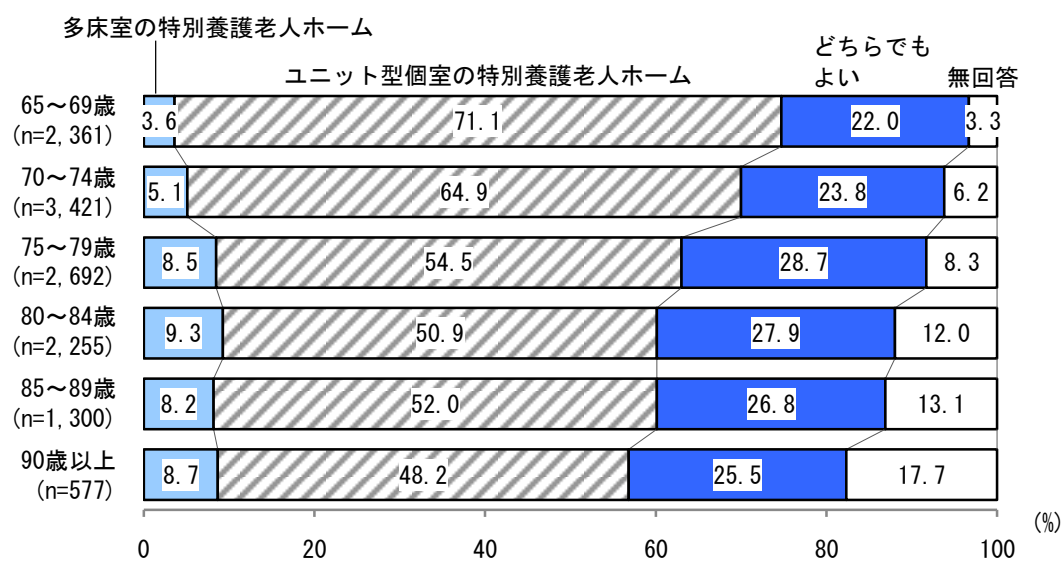
性別でみると、「多床室の特別養護老人ホーム」、「ユニット型個室の特別養護老人ホーム」の回答割合は女性のほうが高くなっている。（問28-a）

【問 28-a 特養入所意向（性別）】



年齢別でみると、いずれの年齢区分とも「ユニット型個室の特別養護老人ホーム」の希望する割合が最も高く、90歳以上が48.2%で最も低くなっている。(問28-b)

【問 28-b 特養入所意向（年齢別）】



問29 特養の整備と介護保険料

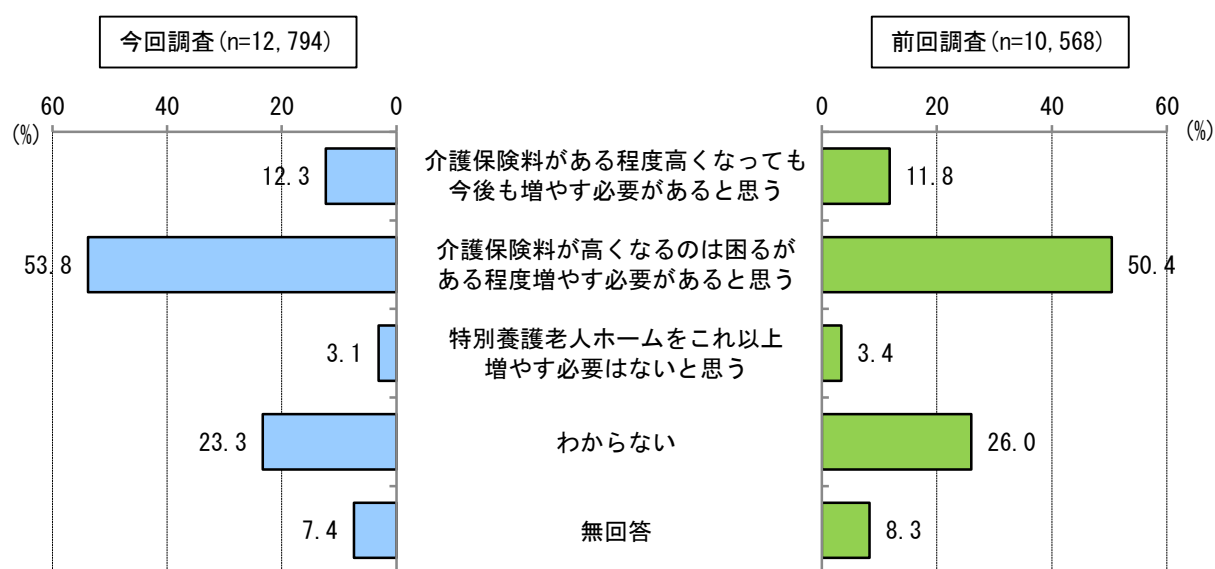
特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）の整備についておたずねします。

特別養護老人ホームの整備が進めば、介護保険料が高くなりますが、あなたは、今後の整備についてどう思われますか。（〇はひとつ）

特別養護老人ホームの整備と介護保険料に対する考えについては、「介護保険料が高くなるのは困るがある程度増やす必要があると思う」が53.8%で最も多い。「介護保険料がある程度高くなっても今後も増やす必要があると思う」（12.3%）も含めると、6割を超える人が増設の必要性を感じている。

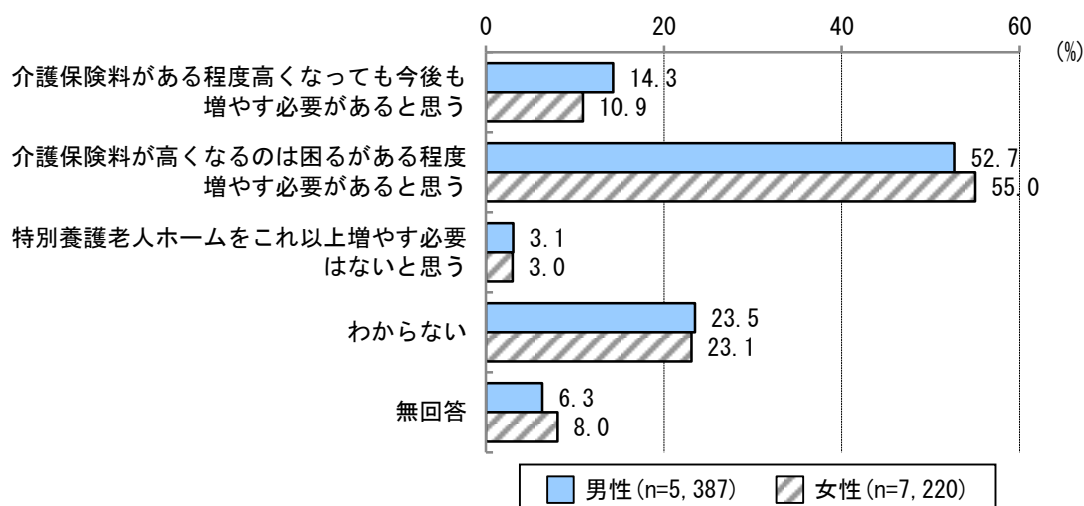
前回調査と比較しても、概ね前回と同様の傾向となっている。（問34）

【問 29 特養の整備と介護保険料（経年比較）】



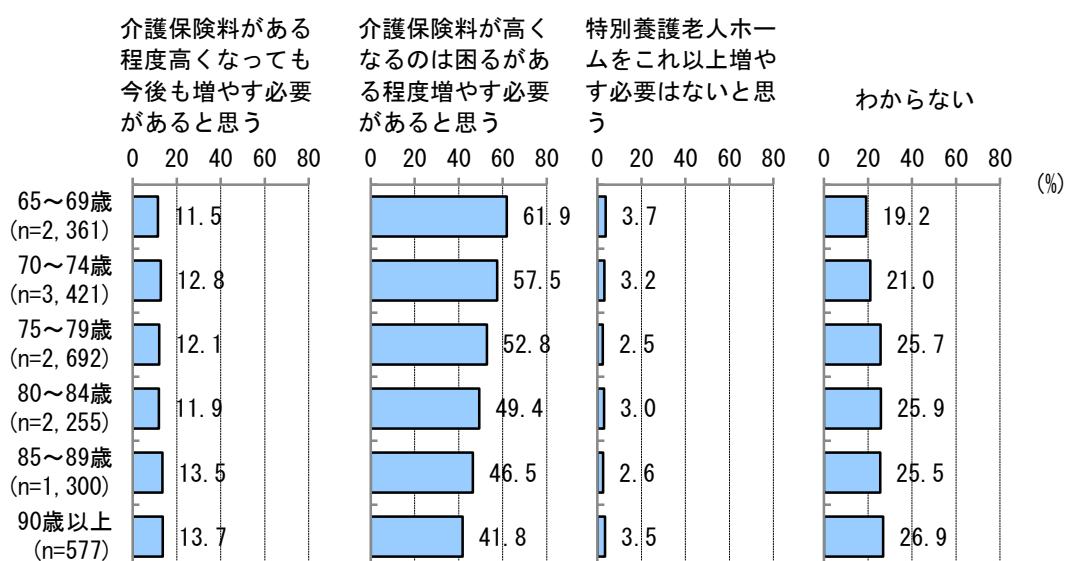
性別でみると、「介護保険料が高くなるのは困るがある程度増やす必要があると思う」の回答割合は女性のほうが高くなっている。（問29-a）

【問 29-a 特養の整備と介護保険料（性別）】



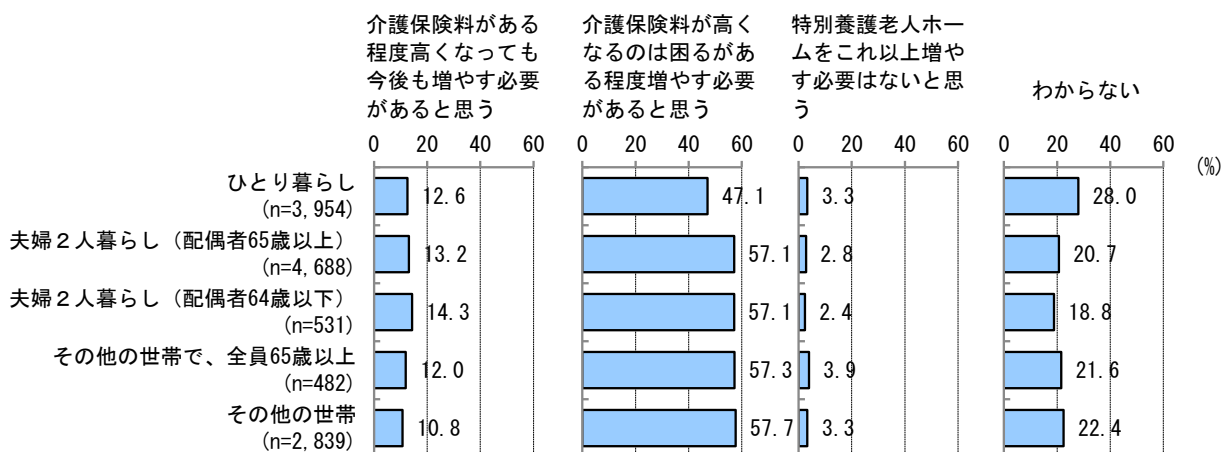
年齢別でみると、「介護保険料が高くなるのは困るがある程度増やす必要があると思う」の回答割合は高齢になるほど割合が低くなっている。（問29-b）

【問 29-b 特養の整備と介護保険料（年齢別）】



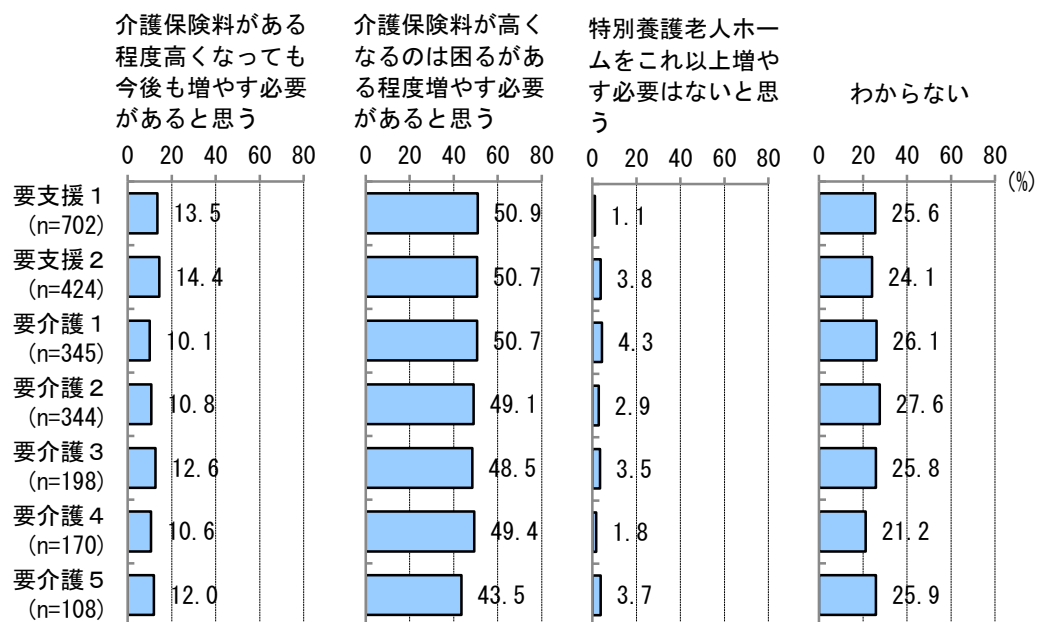
世帯状況別でみると、「介護保険料がある程度高くなっても今後も増やす必要があると思う」の回答割合は“夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）”で最も高くなっている。（問29-c）

【問 29-c 特養の整備と介護保険料（世帯状況別）】



介護度別でみると、「介護保険料が高くなるのは困るがある程度増やす必要があると思う」の回答割合は、要介護度5が43.5%で最も低く、要支援者及び要介護1～4までの割合は5割前後を占めている。(問29-d)

【問 29-d 特養の整備と介護保険料（介護度別）】



(6) 高齢者施策全般

問30 高齢者向け施設・事業の利用状況・意向

次の施設や事業について、あなたの利用状況や意向をお答えください。

(○はそれぞれひとつずつ)

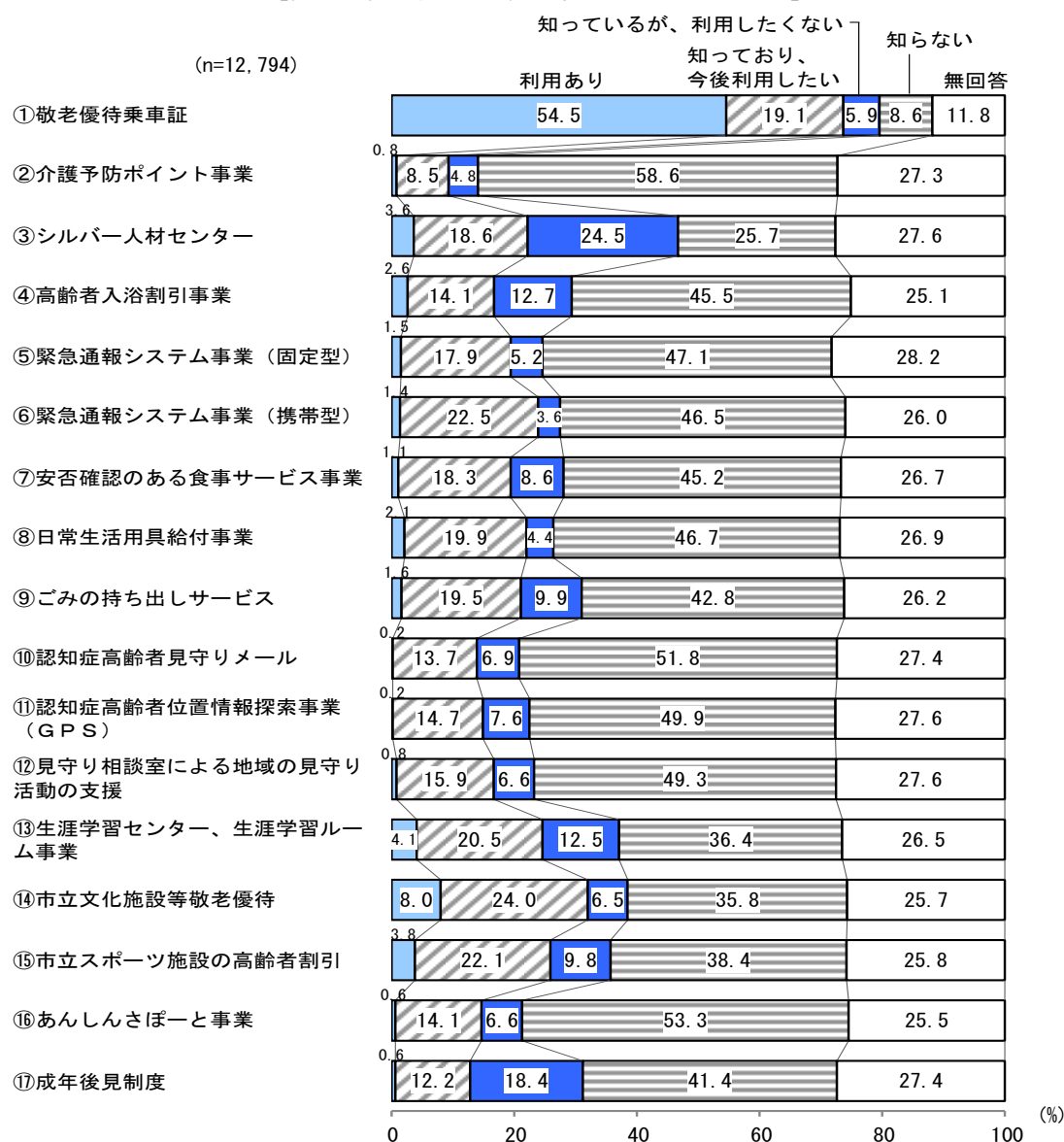
「利用あり」の割合が最も高い事業は、「①敬老優待乗車証」(54.5%)で、半数以上の高齢者が利用しています。これ以外の事業で利用されている割合は1割未満と低く、「知らない」が多くなっています。

また、「知っており、今後利用したい」の割合が高い事業等は、「⑭市立文化施設等敬老優待」(24.0%)、「⑥緊急通報システム事業(携帯型)」(22.5%)などです。

「②介護予防ポイント事業」をはじめ、「⑩認知症高齢者見守りメール」や「⑪認知症高齢者位置情報探索事業(GPS)」 「⑯あんしんさぼーと事業」は、利用者が限定されるため「知らない」割合が高くなると考えられます。

利用度や認知度が低い事業については、事業の対象となる高齢者(介護者)に当該事業に関する情報が的確に伝わるよう情報の提供方法を工夫していく必要があると考えます。(問30)

【問30 高齢者向け施設・事業の利用状況・意向】



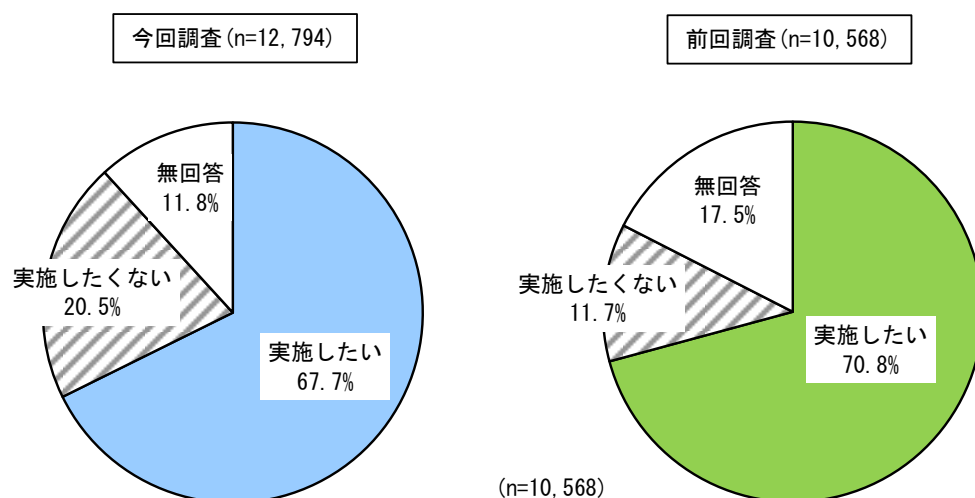
問31 自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向

ケアマネジャーから、いつまでも住み慣れた地域で、いきいきと生活続けることに役立つケアプランが提案された場合、そのプランに含まれるリハビリテーション等を実施してみたいですか。（○はひとつ）

自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントを実施してみたいかについては、「実施したい」が67.7%、「実施したくない」が20.5%となっている。

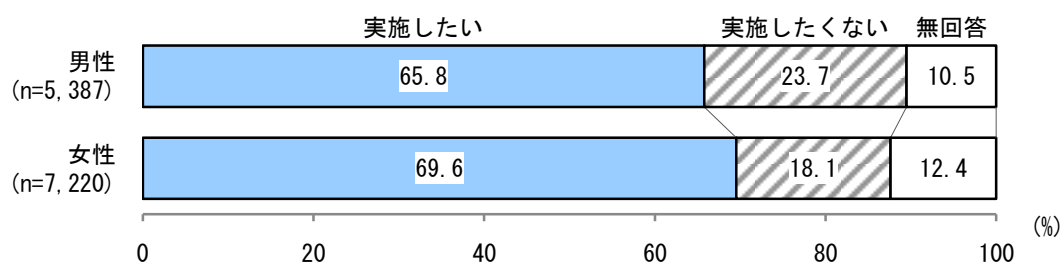
前回調査と比較すると、「実施したくない」は前回より8.8ポイント高くなっている。（問31）

【問 31 自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向（経年比較）】



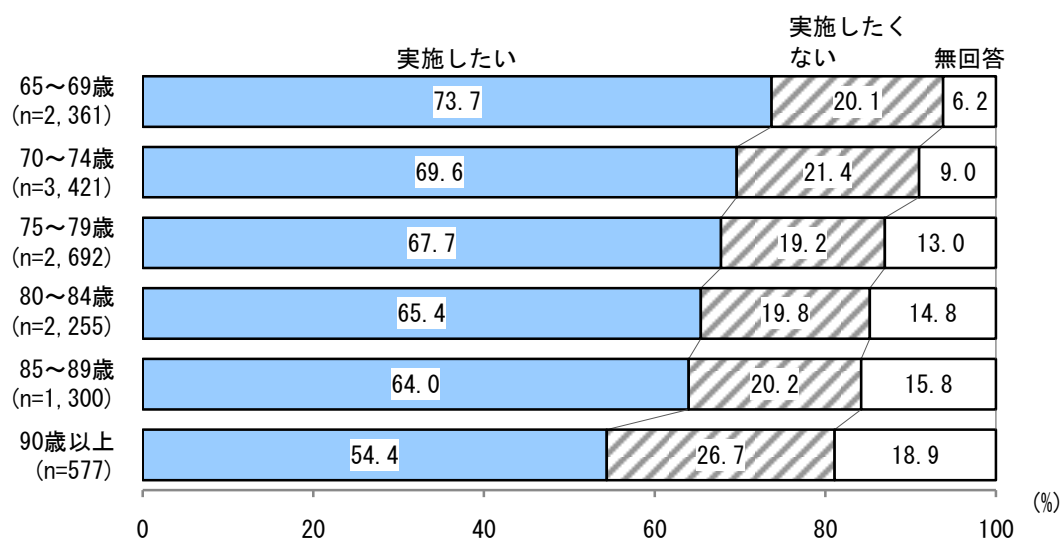
性別でみると、「実施したい」の回答割合は男性より女性のほうが高くなっている。（問31-a）

【問 31-a 自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向（性別）】



年齢別でみると、「実施したい」の回答割合は高齢になるほど割合が低くなっている。(問31-b)

【問 31-b 自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向（年齢別）】



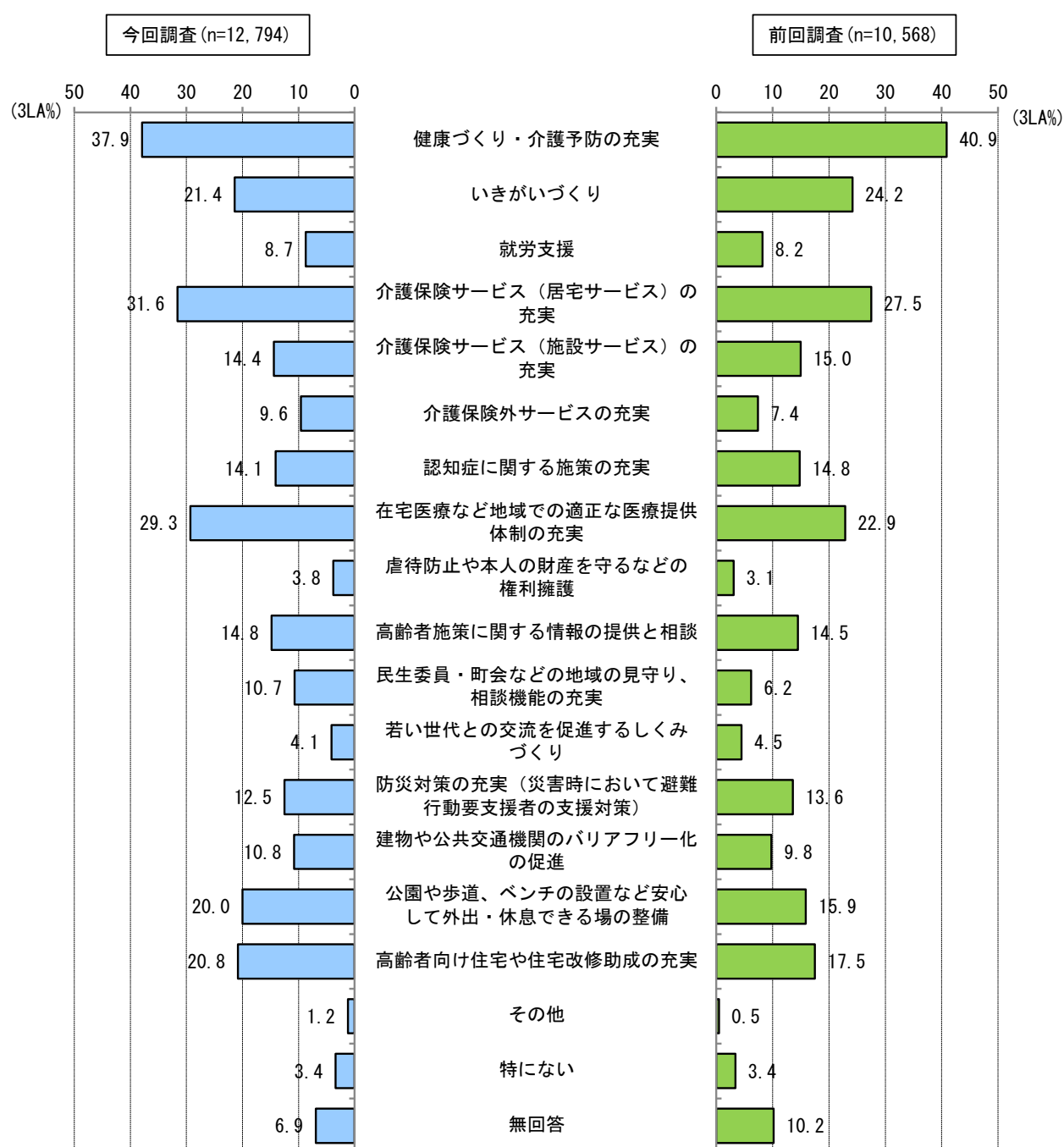
問32 重点を置いてほしい高齢者施策

あなたは、高齢者のための施策としてどのような点に重点を置くべきだと思いますか。主なものに3つまで○をつけてください。(○は3つまで)

重点を置いてほしい高齢者施策については、「健康づくり・介護予防の充実」が37.9%で最も多く、次いで「介護保険サービス（居宅サービス）の充実」が31.6%、「在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実」が29.3%となっている。

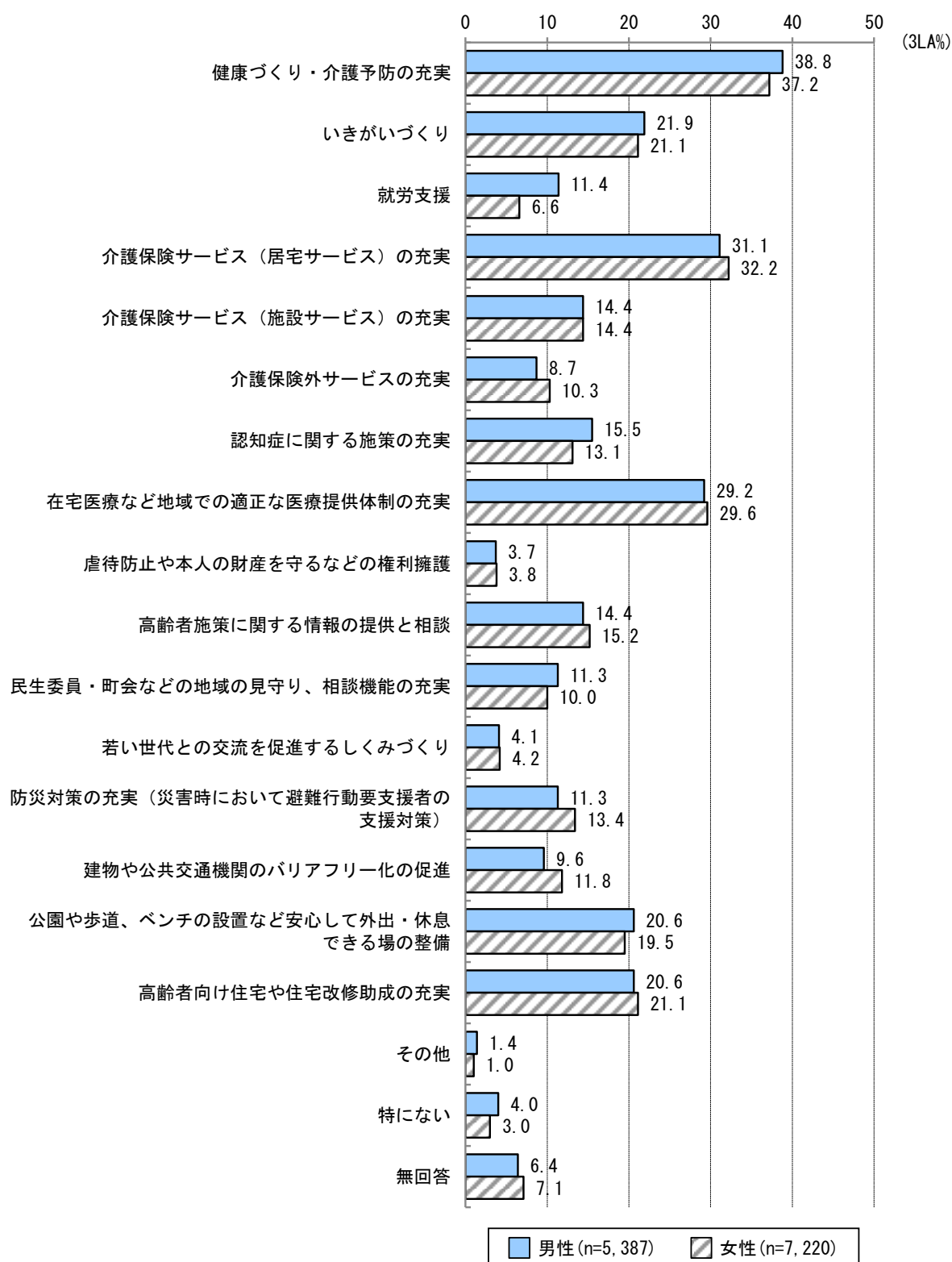
前回調査と比較すると、「在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実」の割合は6.4ポイント、「民生委員・町会などの地域の見守り、相談機能の充実」の割合は4.5ポイント、それぞれ前回より高くなっている。(問32①)

【問 32① 重点を置いてほしい高齢者施策（経年比較）】



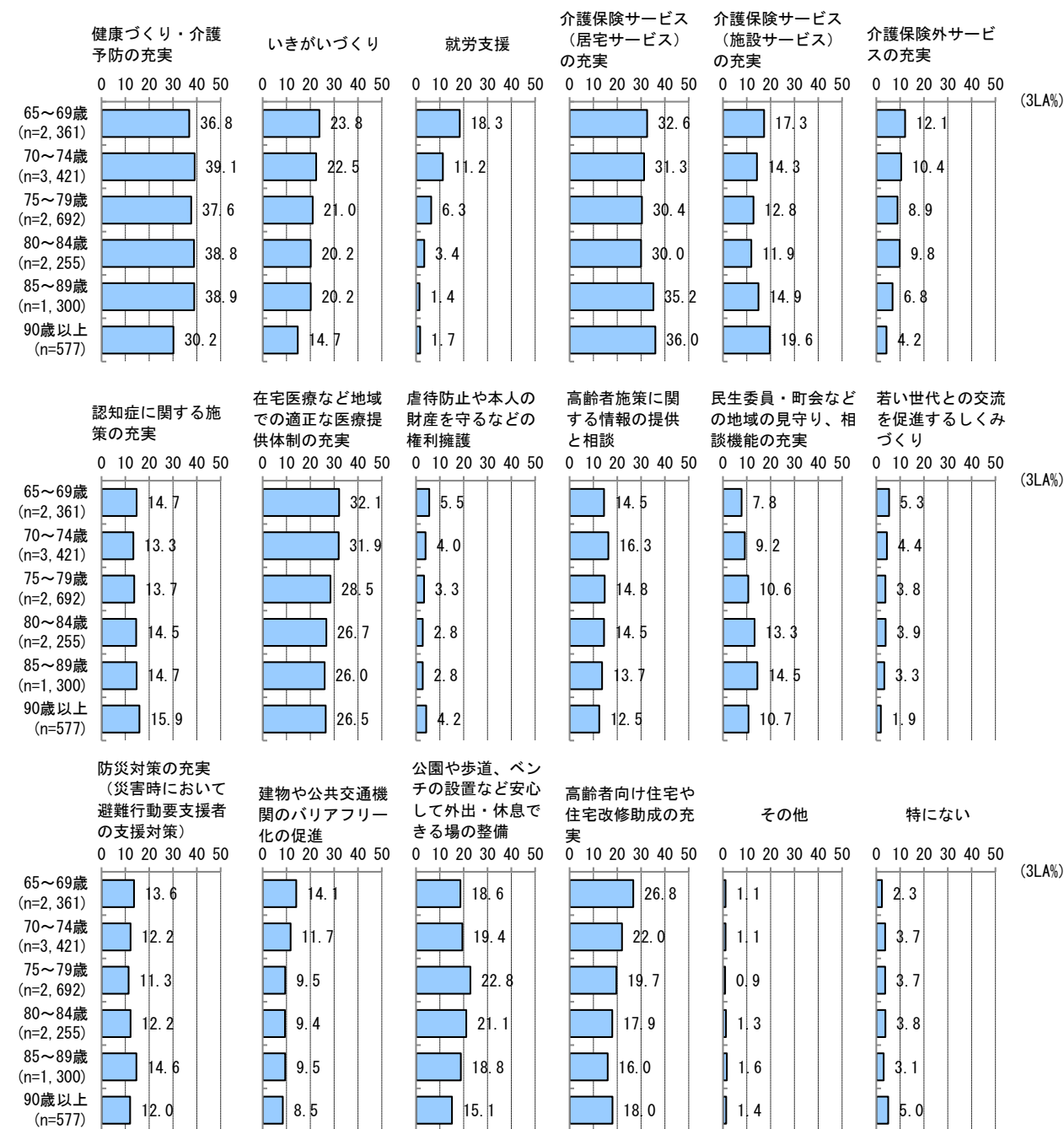
性別でみると、男女とも「健康づくり・介護予防の充実」が最も多く、次いで「介護保険サービス（居宅サービス）の充実」となっており、大きな差はみられない。（問32①-a）

【問 32①-a 重点を置いてほしい高齢者施策（性別）】



年齢別でみると、「いきがづくり」、「就労支援」、「介護保険外サービスの充実」、「在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実」、「建物や公共交通機関のバリアフリー化の促進」、「高齢者向け住宅や住宅改修助成の充実」について、概ね高齢になるほど回答割合が低くなっている。（問32①-b）

【問 32①-b 重点を置いてほしい高齢者施策（年齢別）】



居住区別でみると、阿倍野区は「介護保険サービス（居宅サービス）の充実」の回答割合が最も高いが、それ以外の区では「健康づくり・介護予防の充実」の回答割合が最も高くなっている。（表32①-c①②）

【表 32①-c 重点を置いてほしい高齢者施策（居住区別）①】

	(MA%)				
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
北区 (n=549)	健康づくり・介護 予防の充実 42.1	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 32.8	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 31.3	公園や歩道、ベン チの設置など安心 して外出・休息で きる場の整備 21.5	いきがづくり 20.9
都島区 (n=527)	健康づくり・介護 予防の充実 40.8	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 31.9	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 29.6	いきがづくり 23.3	高齢者向け住宅や 住宅改修助成の充 実 20.5
福島区 (n=549)	健康づくり・介護 予防の充実 37.5	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 34.8	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 30.6	高齢者向け住宅や 住宅改修助成の充 実 23.5	いきがづくり 20.9
此花区 (n=497)	健康づくり・介護 予防の充実 36.8	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 33.6	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 28.4	いきがづくり 21.5	高齢者向け住宅や 住宅改修助成の充 実 20.5
中央区 (n=518)	健康づくり・介護 予防の充実 38.4	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 34.4	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 31.9	いきがづくり 23.4	公園や歩道、ベン チの設置など安心 して外出・休息で きる場の整備 19.1
西区 (n=542)	健康づくり・介護 予防の充実 36.2	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 33.9	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 29.2	公園や歩道、ベン チの設置など安心 して外出・休息で きる場の整備 22.5	いきがづくり 21.2
港区 (n=550)	健康づくり・介護 予防の充実 40.7	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 31.5	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 24.9	高齢者向け住宅や 住宅改修助成の充 実 21.8	公園や歩道、ベン チの設置など安心 して外出・休息で きる場の整備 21.5
大正区 (n=515)	健康づくり・介護 予防の充実 35.3	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 28.7	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 28.5	いきがづくり／高齢者向け住宅や住 宅改修助成の充実 22.5	
天王寺区 (n=545)	健康づくり・介護 予防の充実 40.7	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 36.1	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 34.5	いきがづくり 21.7	公園や歩道、ベン チの設置など安心 して外出・休息で きる場の整備 20.6
浪速区 (n=483)	健康づくり・介護 予防の充実 41.4	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 29.2	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 23.2	公園や歩道、ベン チの設置など安心 して外出・休息で きる場の整備 21.1	いきがづくり／ 高齢者向け住宅や 住宅改修助成の充 実 19.5
西淀川区 (n=522)	健康づくり・介護 予防の充実 38.7	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 29.7	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 28.4	高齢者向け住宅や 住宅改修助成の充 実 21.5	いきがづくり 18.8
淀川区 (n=527)	健康づくり・介護 予防の充実 38.5	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 34.2	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 32.4	高齢者向け住宅や 住宅改修助成の充 実 22.0	公園や歩道、ベン チの設置など安心 して外出・休息で きる場の整備 17.8

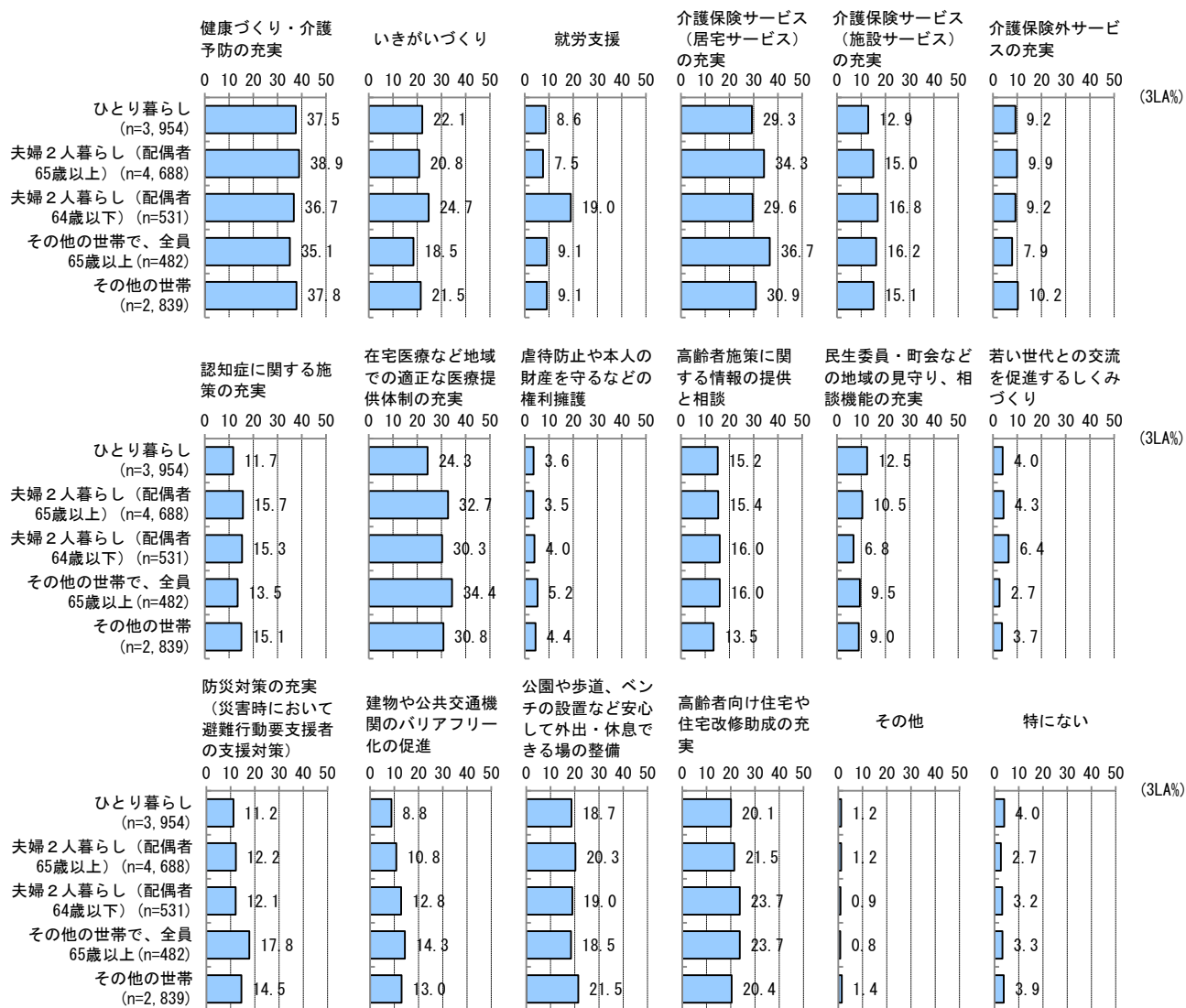
【表 32①-c 重点を置いてほしい高齢者施策（居住区別）②】

(MA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
東淀川区 (n=545)	健康づくり・介護 予防の充実 36.9	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 30.1	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 29.4	いきがづくり 24.0	公園や歩道、ベン チの設置など安心 して外出・休息で きる場の整備 21.7
東成区 (n=508)	健康づくり・介護 予防の充実 39.6	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 30.7	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 23.8	いきがづくり 23.4	高齢者向け住宅や 住宅改修助成の充 実 20.5
生野区 (n=492)	健康づくり・介護 予防の充実 40.2	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 31.5	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 24.4	高齢者向け住宅や 住宅改修助成の充 実 21.7	いきがづくり 20.7
旭区 (n=526)	健康づくり・介護 予防の充実 35.4	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 29.8	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 27.4	いきがづくり 22.1	高齢者向け住宅や 住宅改修助成の充 実 21.5
城東区 (n=571)	健康づくり・介護 予防の充実 36.6	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 30.5	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 29.9	公園や歩道、ベン チの設置など安心 して外出・休息で きる場の整備 24.3	高齢者向け住宅や 住宅改修助成の充 実 22.6
鶴見区 (n=528)	健康づくり・介護 予防の充実 40.2	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 31.8	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 27.8	高齢者向け住宅や 住宅改修助成の充 実 22.3	いきがづくり 21.0
阿倍野区 (n=566)	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 36.6	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 35.0	健康づくり・介護 予防の充実 34.8	高齢者向け住宅や 住宅改修助成の充 実 21.4	いきがづくり／ 公園や歩道、ベン チの設置など安心 して外出・休息で きる場の整備 21.0
住之江区 (n=518)	健康づくり・介護 予防の充実 36.3	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 32.2	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 30.9	いきがづくり 21.6	高齢者向け住宅や 住宅改修助成の充 実 20.7
住吉区 (n=548)	健康づくり・介護 予防の充実 39.1	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 35.8	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 27.9	いきがづくり 22.3	公園や歩道、ベン チの設置など安心 して外出・休息で きる場の整備 20.3
東住吉区 (n=536)	健康づくり・介護 予防の充実 36.4	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 33.4	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 30.8	いきがづくり 23.5	高齢者向け住宅や 住宅改修助成の充 実 22.6
平野区 (n=531)	健康づくり・介護 予防の充実 36.2	介護保険サービス (居宅サービス)の 充実／在宅医療な ど地域での適正な 医療提供体制の充 実 29.2		いきがづくり 23.7	公園や歩道、ベン チの設置など安心 して外出・休息で きる場の整備 20.0
西成区 (n=424)	健康づくり・介護 予防の充実 30.7	介護保険サービス (居宅サービス) の充実 28.8	高齢者向け住宅や 住宅改修助成の充 実 24.3	在宅医療など地域 での適正な医療提 供体制の充実 24.1	いきがづくり 22.9

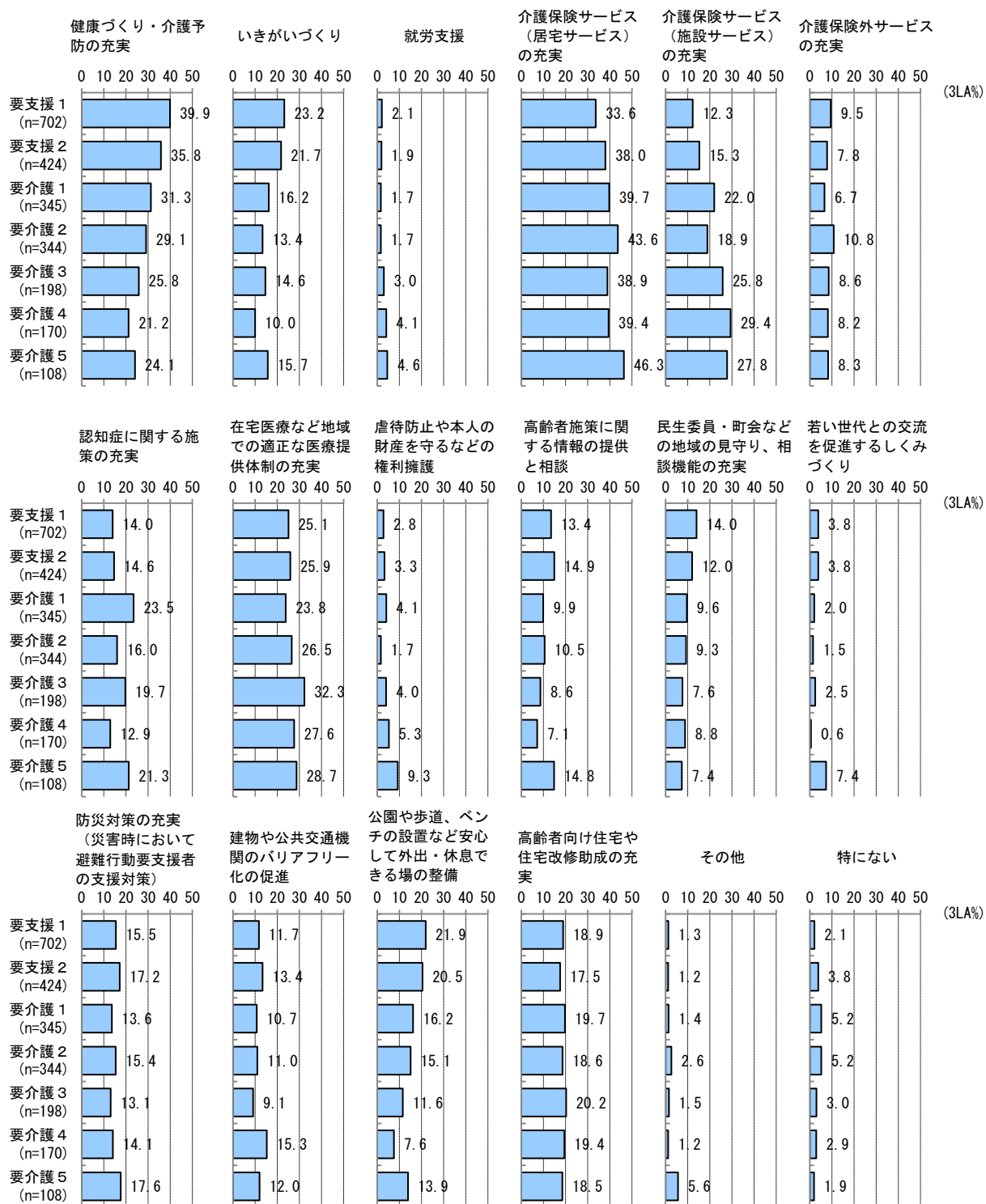
世帯状況別でみると、「民生委員・町会などの地域の見守り、相談機能の充実」の回答割合では“ひとり暮らし”が最も高く、「健康づくり・介護予防の充実」と「認知症に関する施策の充実」の回答割合では“夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）”が最も高くなっている。（問32①-d）

【問 32①-d 重点を置いてほしい高齢者施策（世帯状況別）】



介護度別でみると、「健康づくり・介護予防の充実」、「高齢者施策に関する情報の提供と相談」、「民生委員・町会などの地域の見守り、相談機能の充実」、「公園や歩道、ベンチの設置など安心して外出・休息できる場の整備」の回答割合は要支援者で、「介護保険サービス（施設サービス）の充実」、「在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実」の割合は要介護3～5で高くなっている。また、「高齢者施策に関する情報の提供と相談」の割合は、要介護5も要支援者に並び高くなっている。（問32①-e）

【問 32①-e 重点を置いてほしい高齢者施策（介護度別）】



付問32 特に重点を置いてほしい高齢者施策

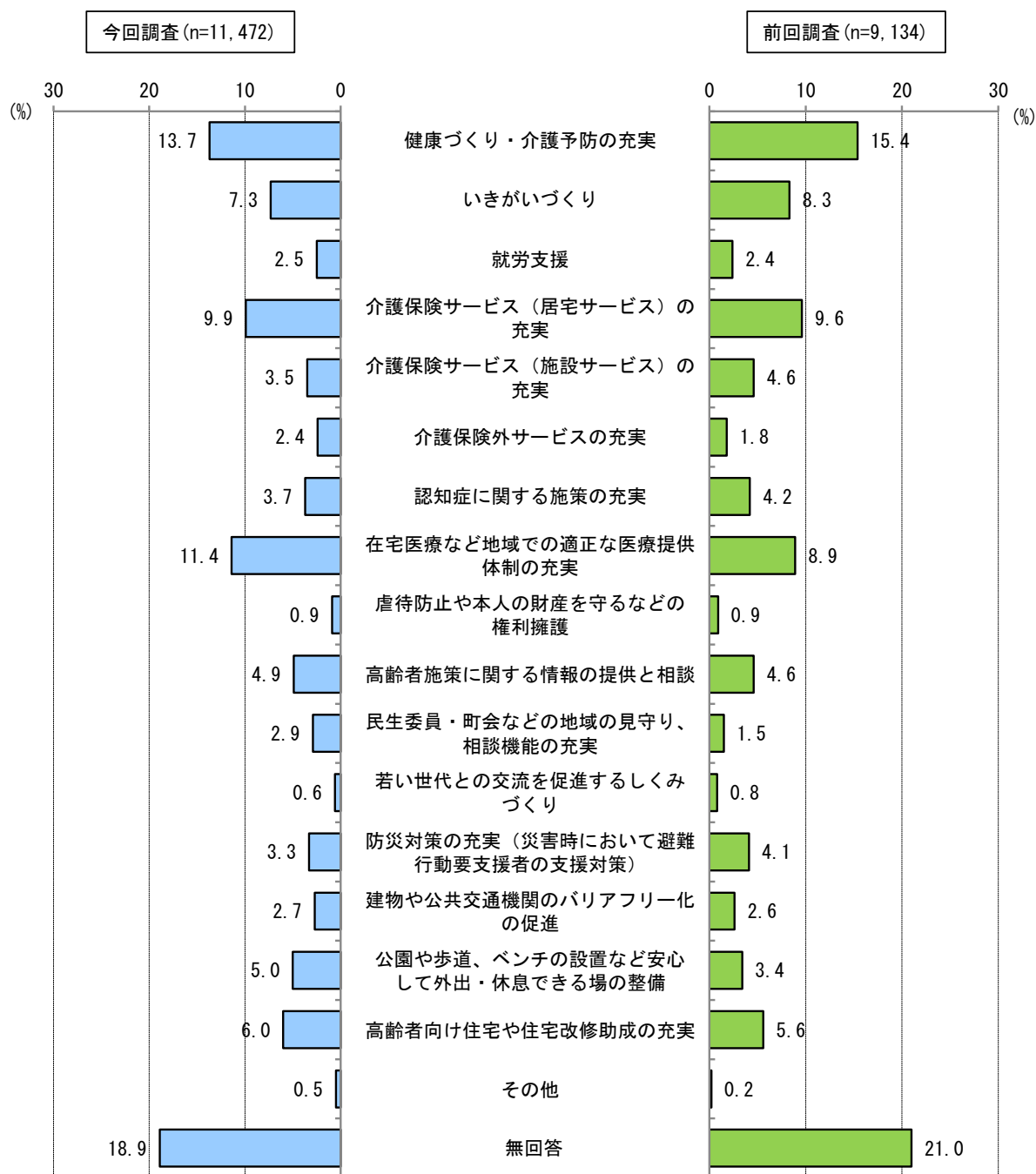
【問 32 で「18 特にない」または無回答の方は除く。】

また、○をつけた中で特に重点を置くべきだと考えるものはどれですか。番号を1つだけお書きください。

重点を置いてほしい高齢者施策のうち、特に重点を置いてほしい施策については、「健康づくり・介護予防の充実」が13.7%で最も多く、次いで「在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実」が11.4%、「介護保険サービス（居宅サービス）の充実」が9.9%となっている。

前回調査と比較しても、概ね前回と同様の傾向となっている。（付問32）

【付問 32 重点を置いてほしい高齢者施策（経年比較）】



(7) 高齢者施策に関する意見・要望等

大阪市の高齢者施策についてのご意見・ご要望などを、次の欄に記入してください。

1,989人の回答があり、延べ2,275件の意見があがっている。主な意見は以下の通り。

【高齢者施策全般】(385件)

- ・安心して暮らせるように施策を充実させて欲しい。
- ・経済的支援をして欲しい。物価高・光熱費の上昇に対し補助をして欲しい。
- ・相談窓口を充実させて欲しい。気軽に相談できる場、愚痴が言える場が欲しい。
- ・安楽死・尊厳死を選択できるようにして欲しい。

【介護予防・健康維持・自立・交流の場】(185件)

- ・介護予防・認知症予防の施策が大切である、充実させて欲しい。
- ・自立・健康維持・生きがいづくりの施策が大切である。
- ・自立した生活が送れるよう健康管理をしている。自立の意識を持つことが大切である。
- ・健康寿命を延ばすための施設・体操ができる場を充実させて欲しい。

【情報提供、広報、インターネット、スマートフォン】(176件)

- ・施策・施設・相談窓口についての情報提供を充実させて欲しい。
- ・冊子や一覧表のようなものを作って欲しい。
- ・インターネットやスマートフォンが使えない人への支援や配慮をして欲しい。

【行政全般】(173件)

- ・国民年金だけでは生活が苦しい・不安である。
- ・市職員・議員の質を向上させて欲しい。職員や窓口は優しく親身になって対応して欲しい。
- ・市バスの本数を増やして欲しい。赤バスを復活させて欲しい。

【介護保険制度・介護現場（職員）】(168件)

- ・介護職員の労働条件の改善・待遇の改善・人材確保を図って欲しい。
- ・居宅サービスを充実させて欲しい。デイ・ショートステイサービスを充実させて欲しい。
- ・制度や手続きが複雑である。わかりやすく説明して欲しい、周知して欲しい。

【施設サービスの充実】(158件)

- ・低価格（年金のみ）で入居できる施設を充実させて欲しい。
- ・施設を増やして入りやすくして欲しい。
- ・施設職員の待遇改善・質の向上・虐待等がないようにして欲しい。

【住まい・まちづくり】(144件)

- ・高齢者向け住宅を充実させて欲しい。住宅改修の補助を充実させて欲しい。
- ・歩道・道路の整備をして欲しい。
- ・歩道や公園・施設・店舗等に休憩できるベンチを設置して欲しい。

【介護保険料、国民健康保険料】(86件)

- ・保険料が高い、年金生活者から徴収しないで欲しい。
- ・介護保険や健康保険を利用していない者には保険料を減額して欲しい。

【仕事、地域社会への貢献】(84件)

- ・高齢者の就労支援、働く場の提供を充実させて欲しい。
- ・地域のボランティア活動等、高齢者の活躍の場・情報を提供して欲しい。

【ひとり暮らし、孤立死、災害】(71件)

- ・見守り体制・支援を充実させて欲しい。家庭訪問・実態調査をして欲しい。
- ・災害時・緊急時の通報・連絡体制・安否確認を充実させて欲しい。

【地域の自治活動、地域の見守り】(67件)

- ・地域の交流・支えあい・見守り活動が大切である、充実させて欲しい。
- ・地域の役員・民生委員の意識が低い、質の向上を図って欲しい。

【病院、医療制度・医療施設】(56件)

- ・医療費負担割合を上げないで欲しい。医療費の負担を軽減して欲しい。
- ・在宅医療・往診体制を充実させて欲しい。

【コロナ禍の状況】(40件)

- ・健康面で不安、ストレスである。体力や気力が落ちた。持病が悪化した。
- ・交流が減った、行事が休止して寂しい。

【認知症】(29件)

- ・認知症に関する施策・施設・医療機関・相談窓口を充実させて欲しい。
- ・認知症予防対策を充実させて欲しい。

【要介護認定】(11件)

- ・要介護認定の基準が厳しい。個々の状況・家族の負担も考慮して判断して欲しい。
- ・認定調査員の質を上げて欲しい。

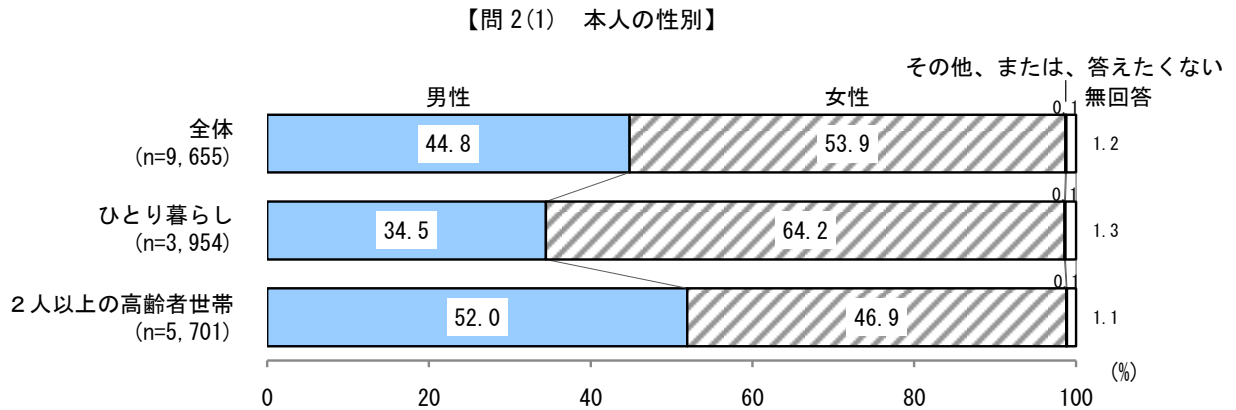
3 個別テーマに関する状況

(1) ひとり暮らし高齢者の暮らしに関する意識と実態

①回答者の基本属性

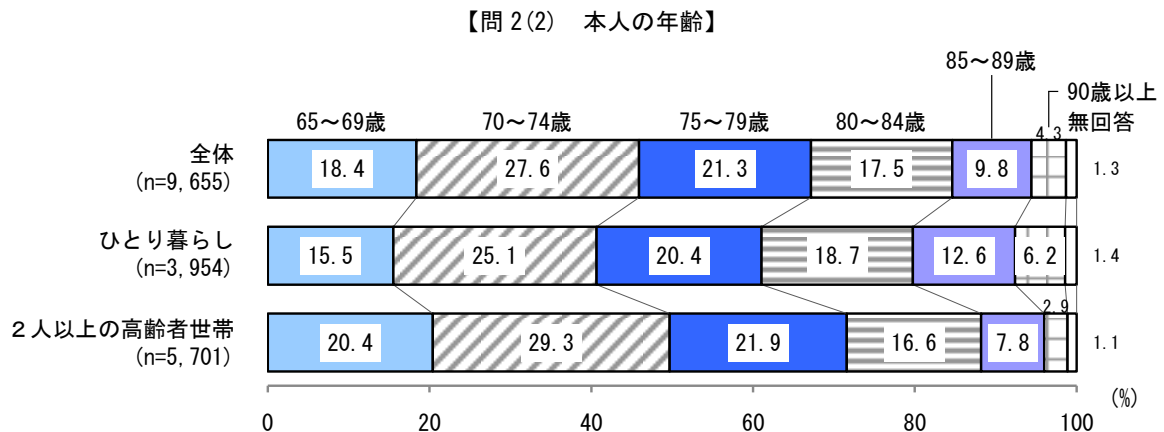
問2(1) 本人の性別

2人以上の高齢者世帯に比べ、ひとり暮らし世帯では「男性」より「女性」のほうが多く
なっている。(問2(1))



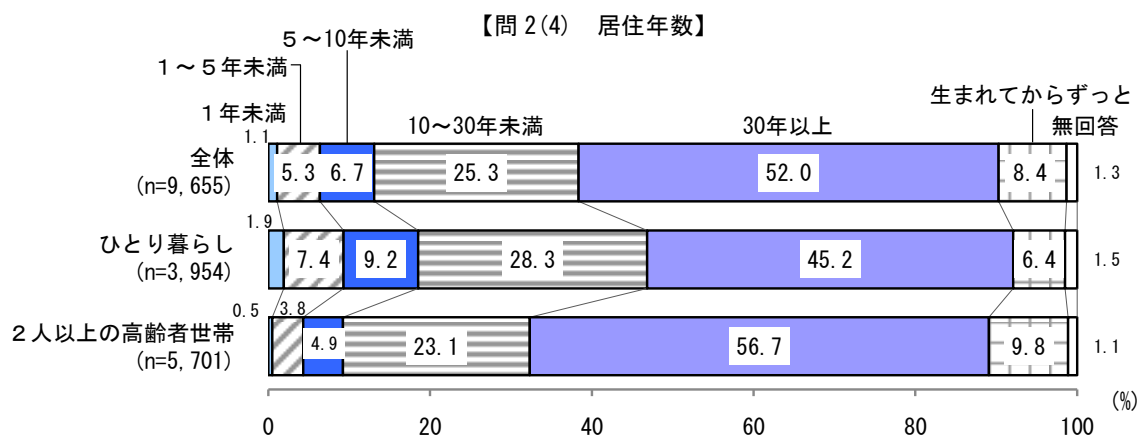
問2(2) 本人の年齢

ひとり暮らし世帯における年齢構成は次のとおりとなっている。(問2(2))



問2（4） 居住年数

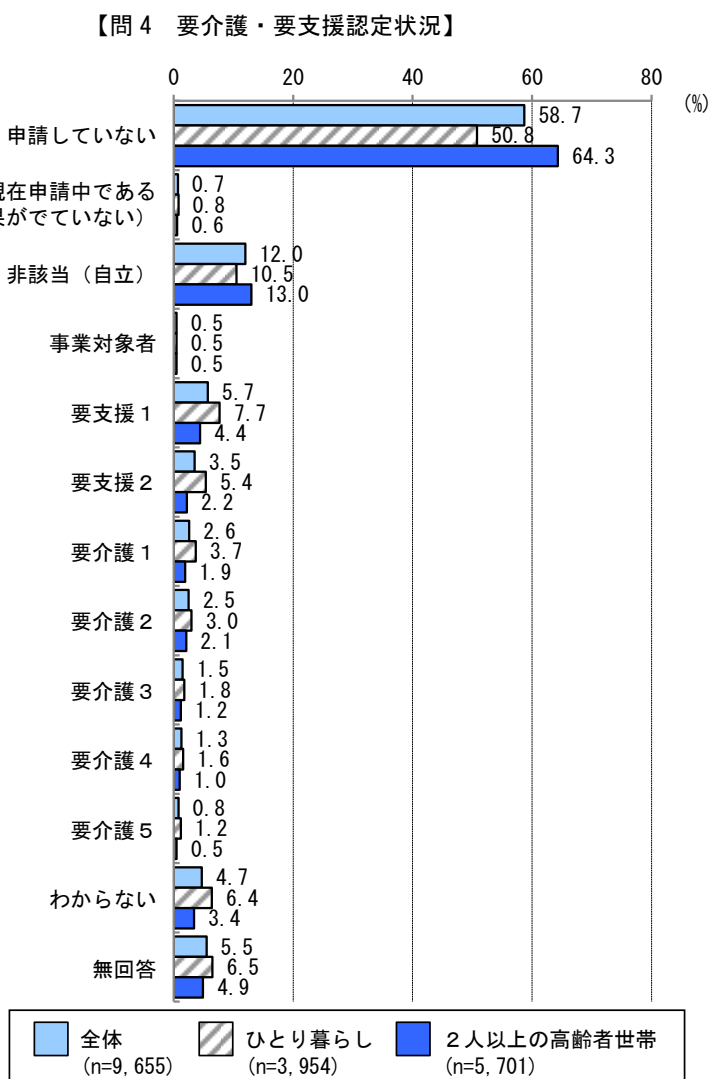
2人以上の高齢者世帯に比べ、ひとり暮らし世帯では10年未満の割合（18.5%）が高く、「30年以上」（45.2%）の割合が低い。（問2(4)）



②健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問4 要介護・要支援認定状況

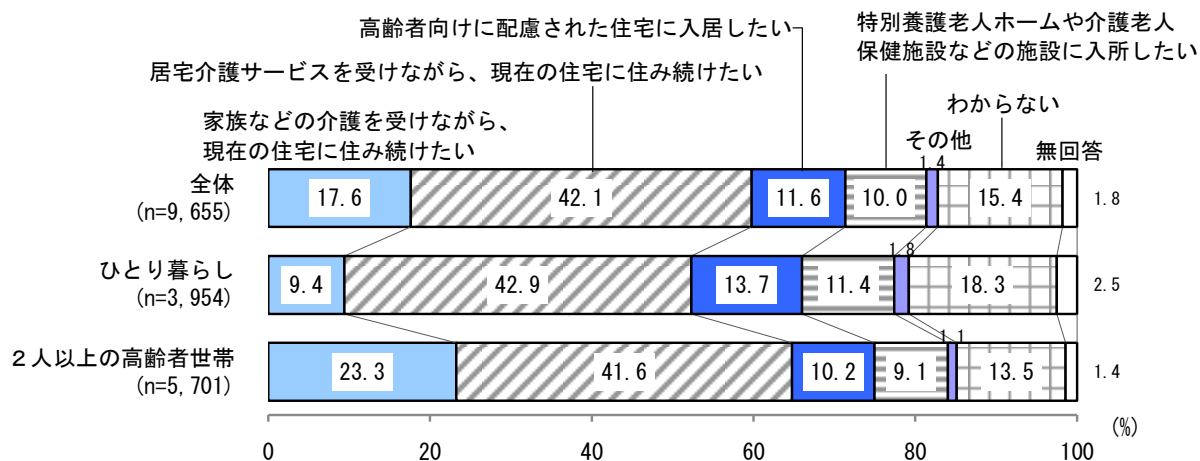
2人以上の高齢者世帯に比べ、ひとり暮らし世帯では申請率が高くなっている。（問4）



問5 介護が必要になった場合の暮らし方

ひとり暮らし世帯では「高齢者向けに配慮された住宅に入所したい」（13.7%）と「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの施設に入所したい」（11.4%）をあわせた入所希望割合が25.1%と、2人以上の高齢者世帯の割合（19.3%）に比べ5.8ポイント高くなっている。（問5）

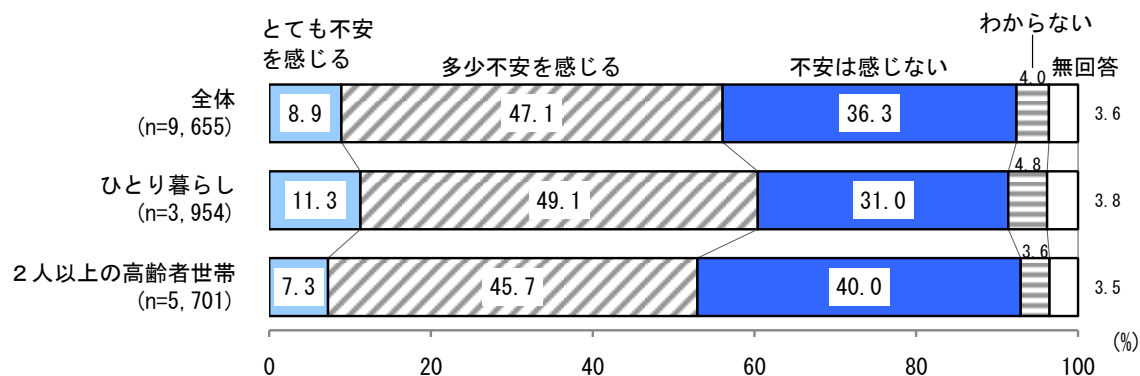
【問5 介護が必要になった場合の暮らし方】



問6 日常生活への不安の有無

ひとり暮らし世帯では『不安を感じる』（「とても不安を感じる」と「多少不安を感じる」をあわせた割合）が60.4%で、2人以上の高齢者世帯の割合（53.0%）に比べ7.4ポイント高くなっている。（問6）

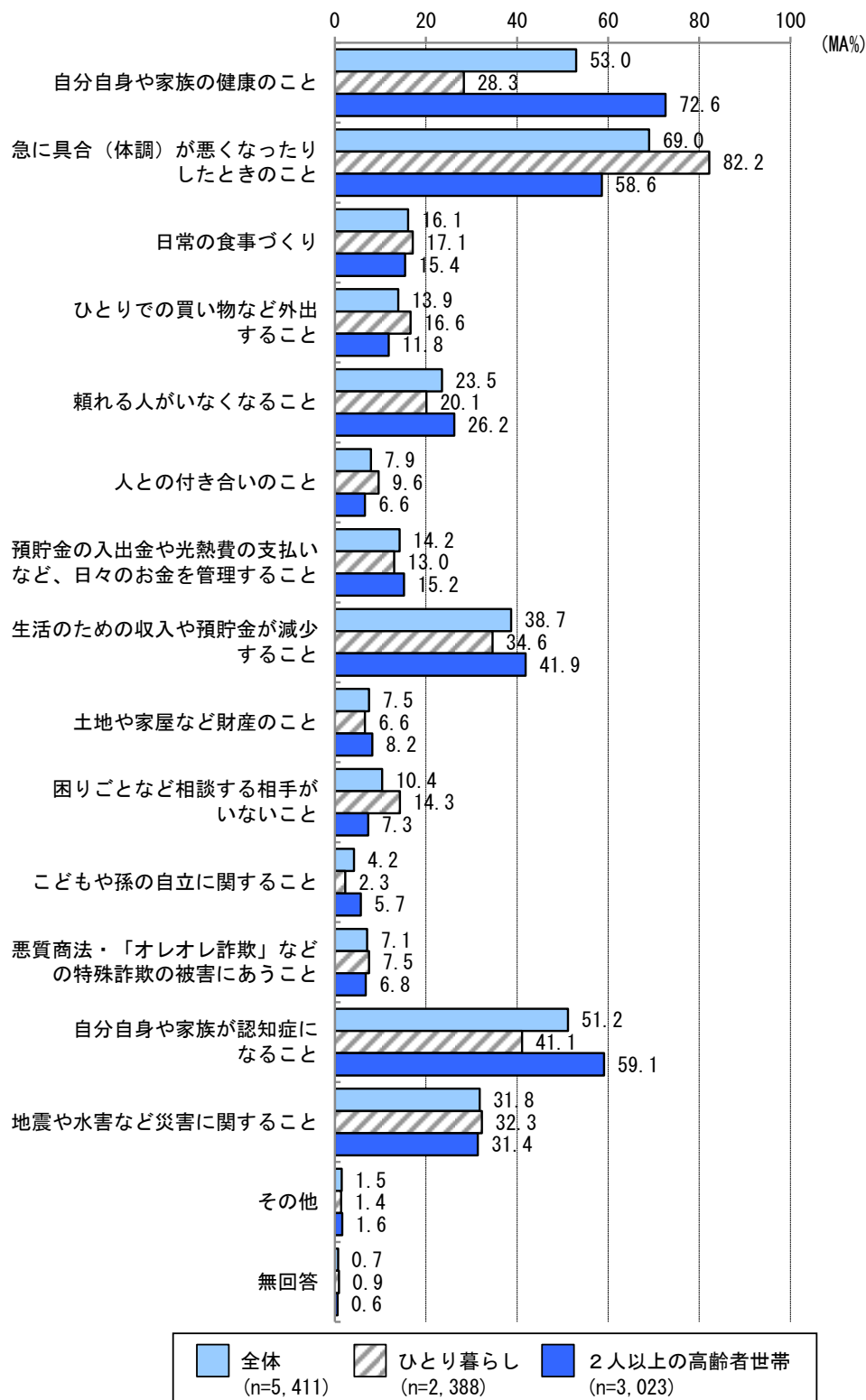
【問6 日常生活への不安の有無】



問6-1 日常生活への不安内容

不安内容は、2人以上の高齢者世帯に比べ、ひとり暮らし世帯で「急に具合（体調）が悪くなったりしたときのこと」の割合が82.2%で高くなっている。（問6-1）

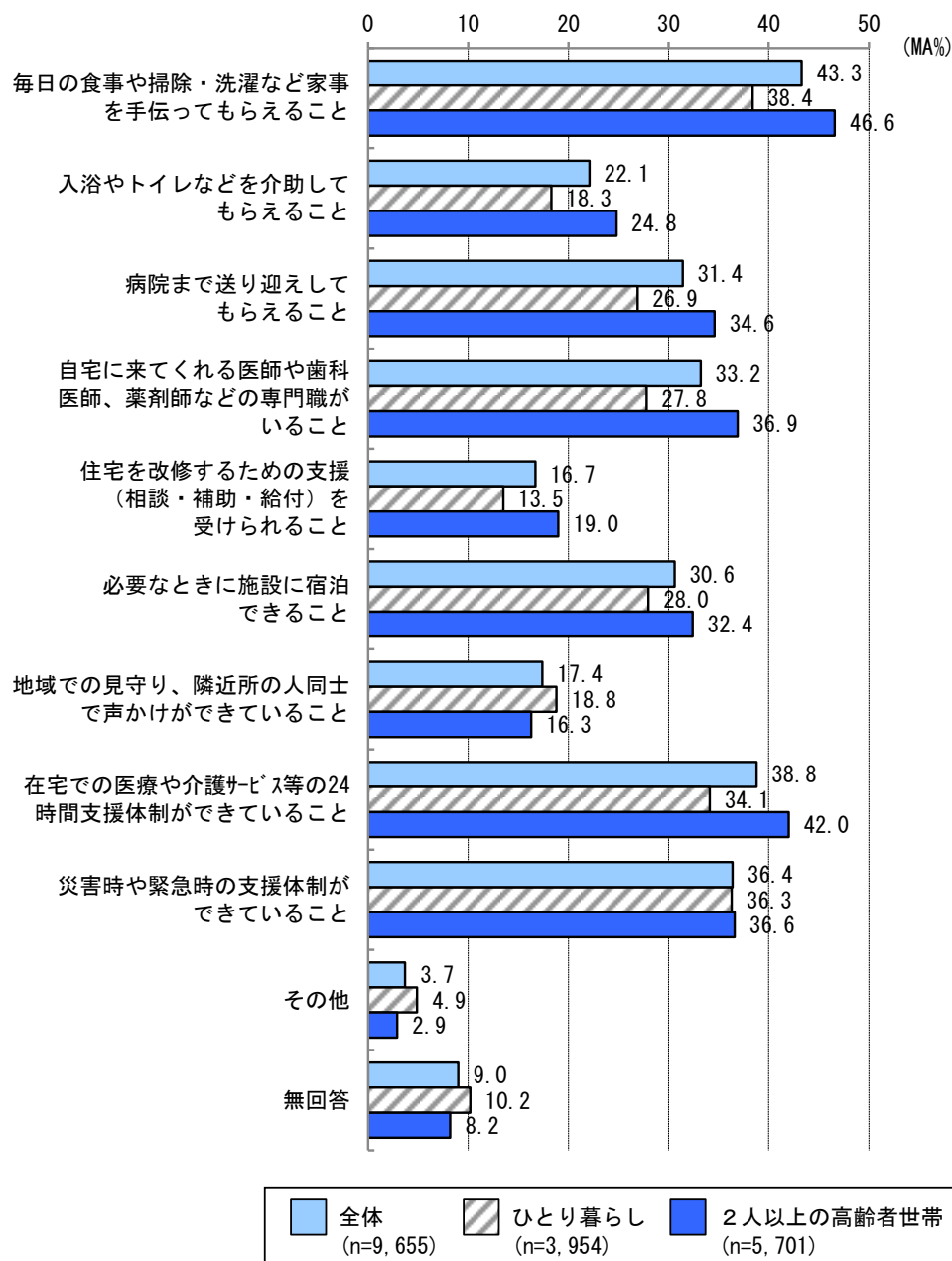
【問6-1 日常生活への不安内容】



問7 在宅生活継続のための支援

ひとり暮らし世帯で「地域での見守り、隣近所の人同士で声かけができていないこと」(18.8%)が2人以上の高齢者世帯(16.3%)に比べ2.5ポイント高くなっている。(問7)

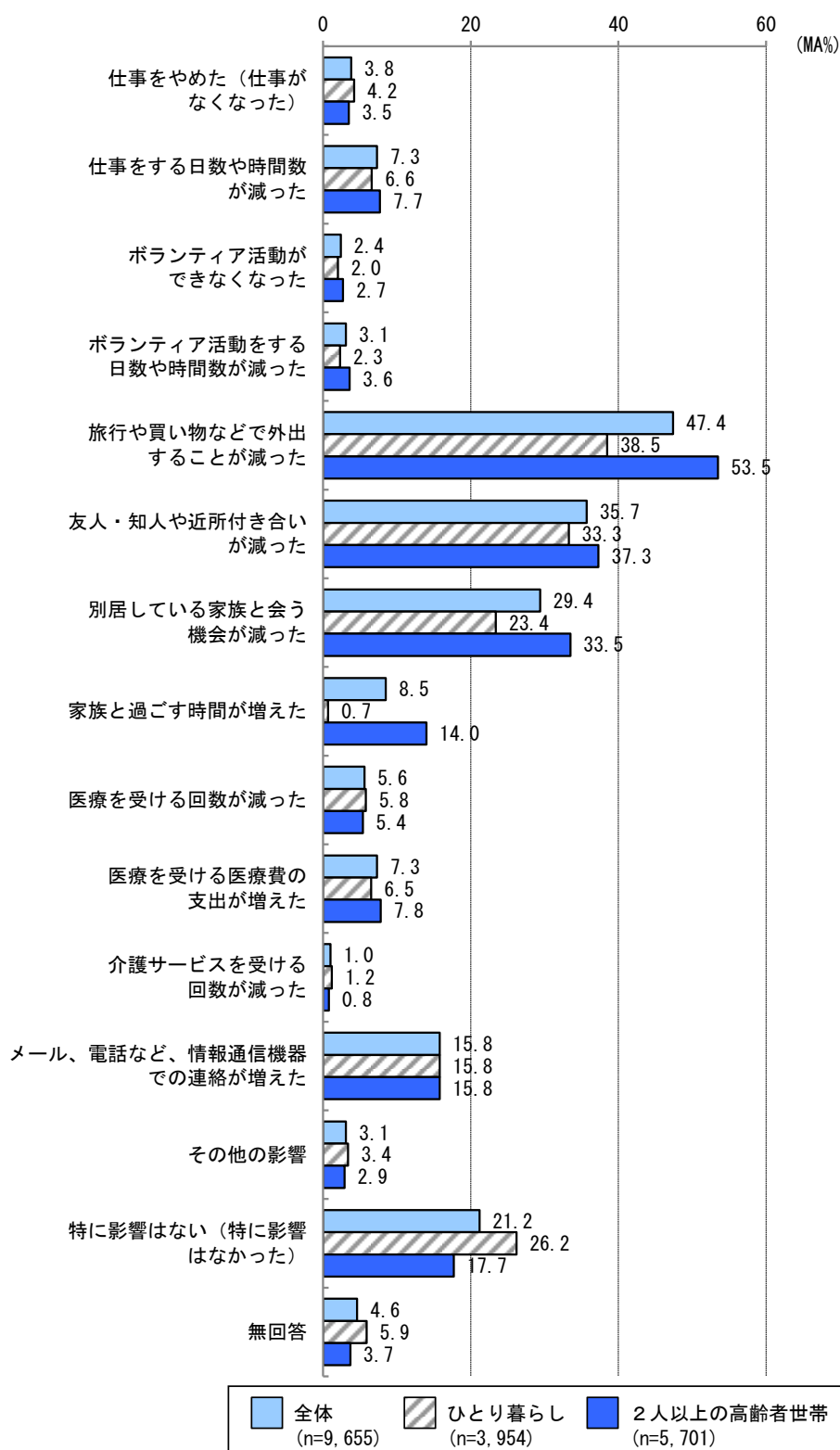
【問7 在宅生活継続のための支援】



問8 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活への影響

ひとり暮らし世帯では、「旅行や買い物などで外出することが減った」(38.5%)が最も高く、次いで「友人・知人や近所付き合いが減った」(33.3%)、「別居している家族と会う機会が減った」(23.4%)が続いている。また、「特に影響はない(特に影響はなかった)」(26.2%)や、「メール、電話など、情報通信機器での連絡が増えた」(15.8%)の割合も高くなっている。(問8)

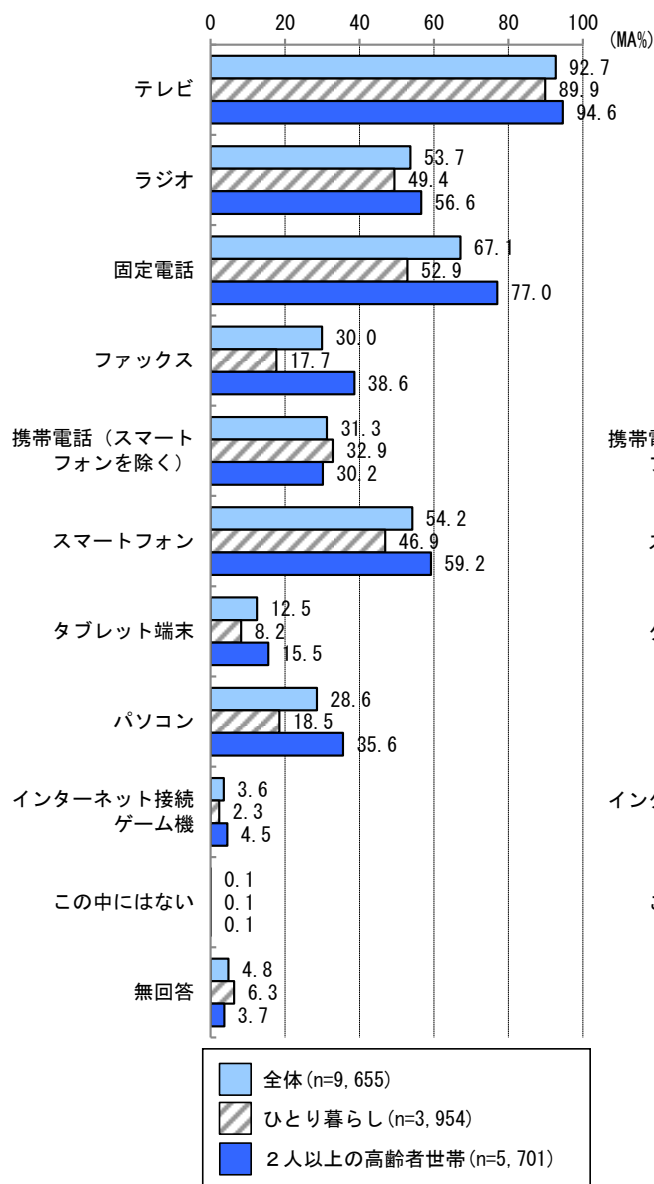
【問8 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活への影響】



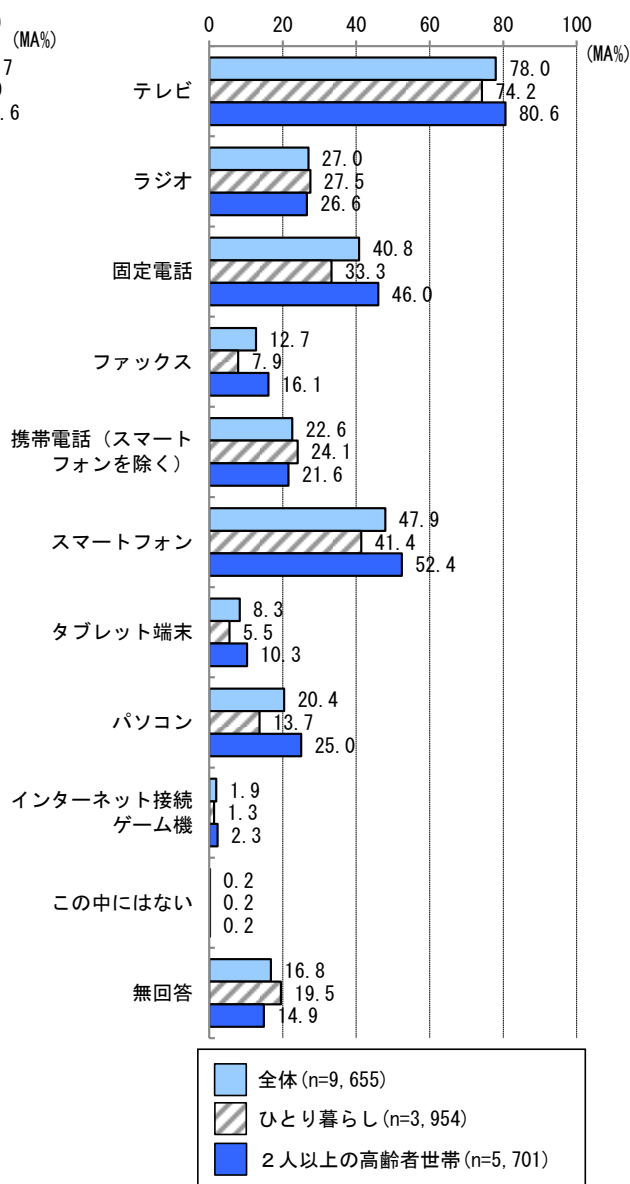
問10 情報通信機器の所有状況と利用状況

情報通信機器の所有について、ひとり暮らし世帯では、「携帯電話（スマートフォンを除く）」（32.9％）を除くいずれの機器も2人以上の高齢者世帯の割合に比べ低くなっている。（問10①）また、ふだん利用している情報通信機器は「テレビ」（74.2％）が多くなっている。（問10②）

【問10① 情報通信機器の所有状況】



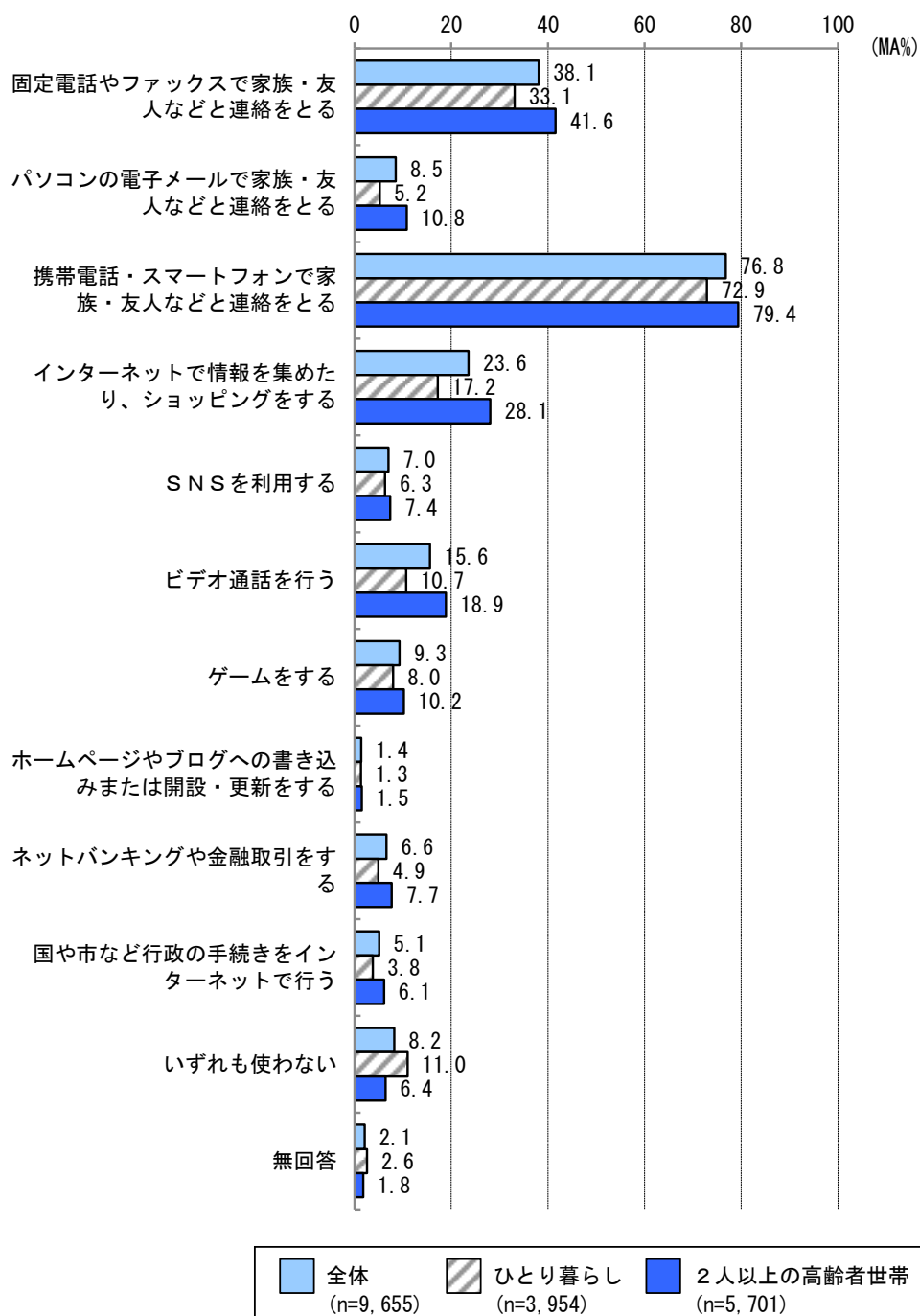
【問10② 情報通信機器の利用状況】



問11 情報通信機器の利用目的

情報通信機器の利用目的は、ひとり暮らし世帯で、2人以上の高齢者世帯同様、「携帯電話・スマートフォンで家族・友人などと連絡をとる」(72.9%) が最も多くなっている。(問11)

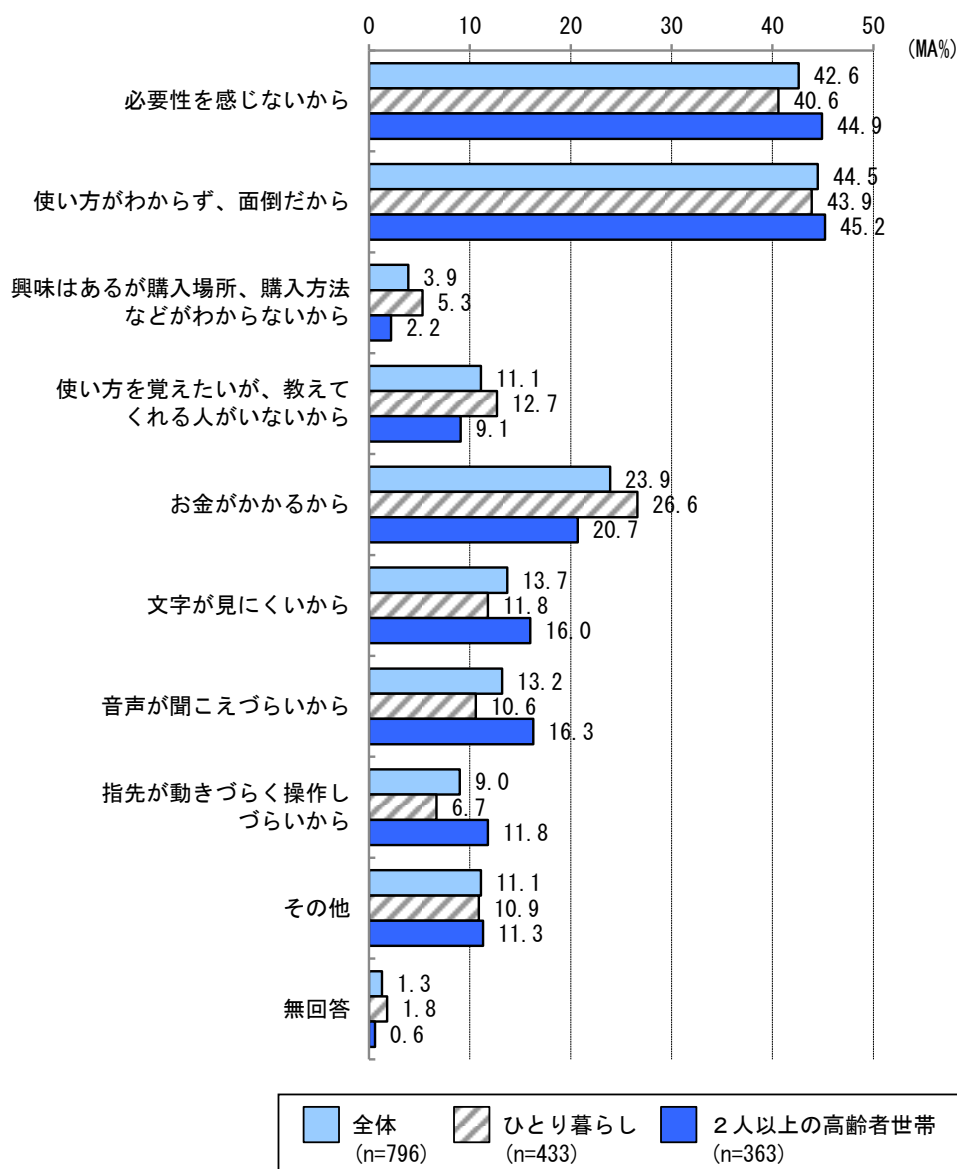
【問11 情報通信機器の利用目的】



問11-1 情報通信機器を利用しない理由

情報通信機器を利用しない理由は、ひとり暮らし世帯で、2人以上の高齢者世帯同様、「使い方がわからず、面倒だから」(43.9%)、「必要性を感じないから」(40.6%)が多くなっている。(問11-1)

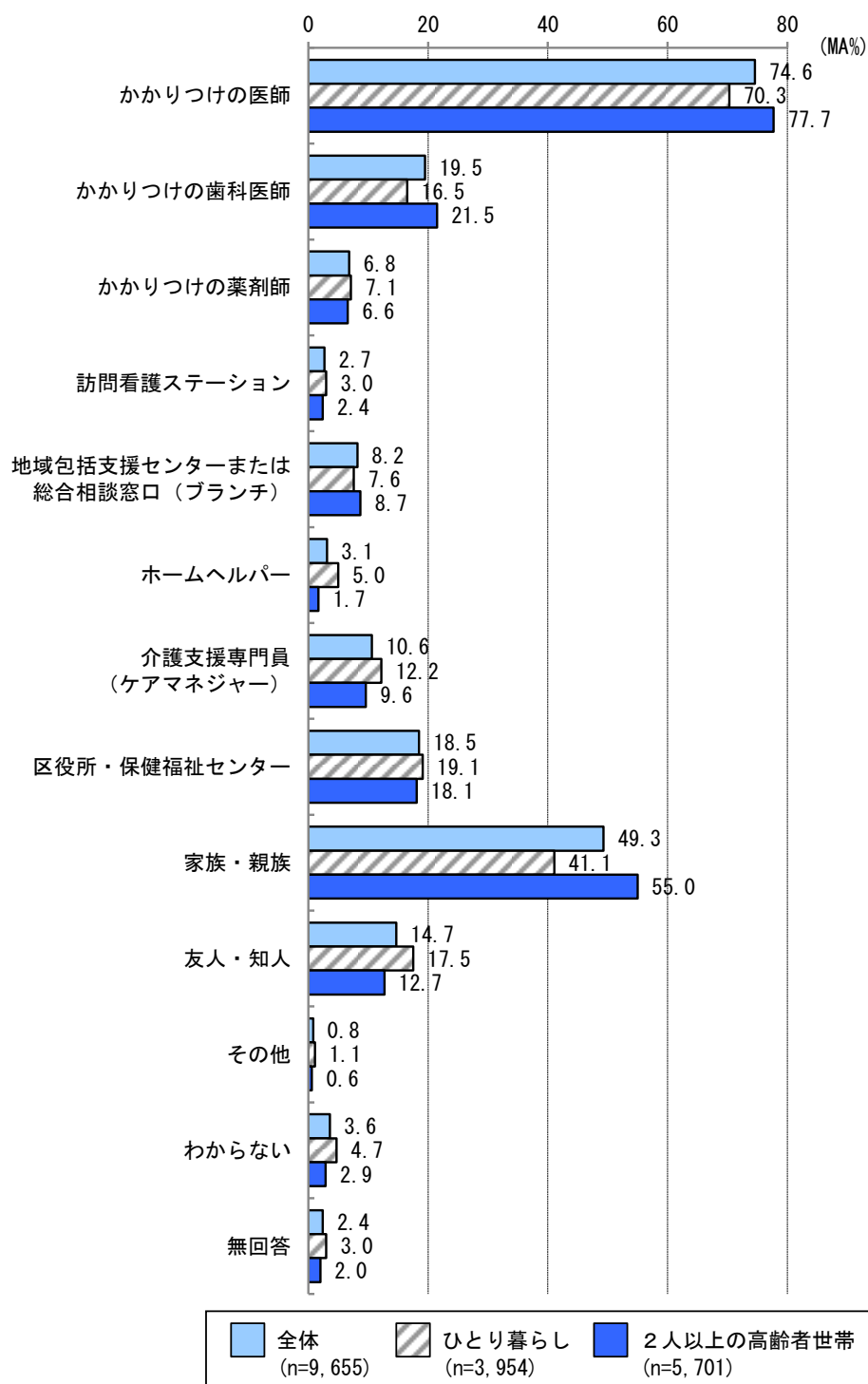
【問11-1 情報通信機器を利用しない理由】



問12 医療の相談先

ひとり暮らし世帯で、2人以上の高齢者世帯同様、「かかりつけの医師」(70.3%)が最も多くなっている。次いで「家族・親族」(41.1%)が続くが、2人以上の高齢者世帯の割合(55.0%)に比べ13.9ポイント低くなっている。(問12)

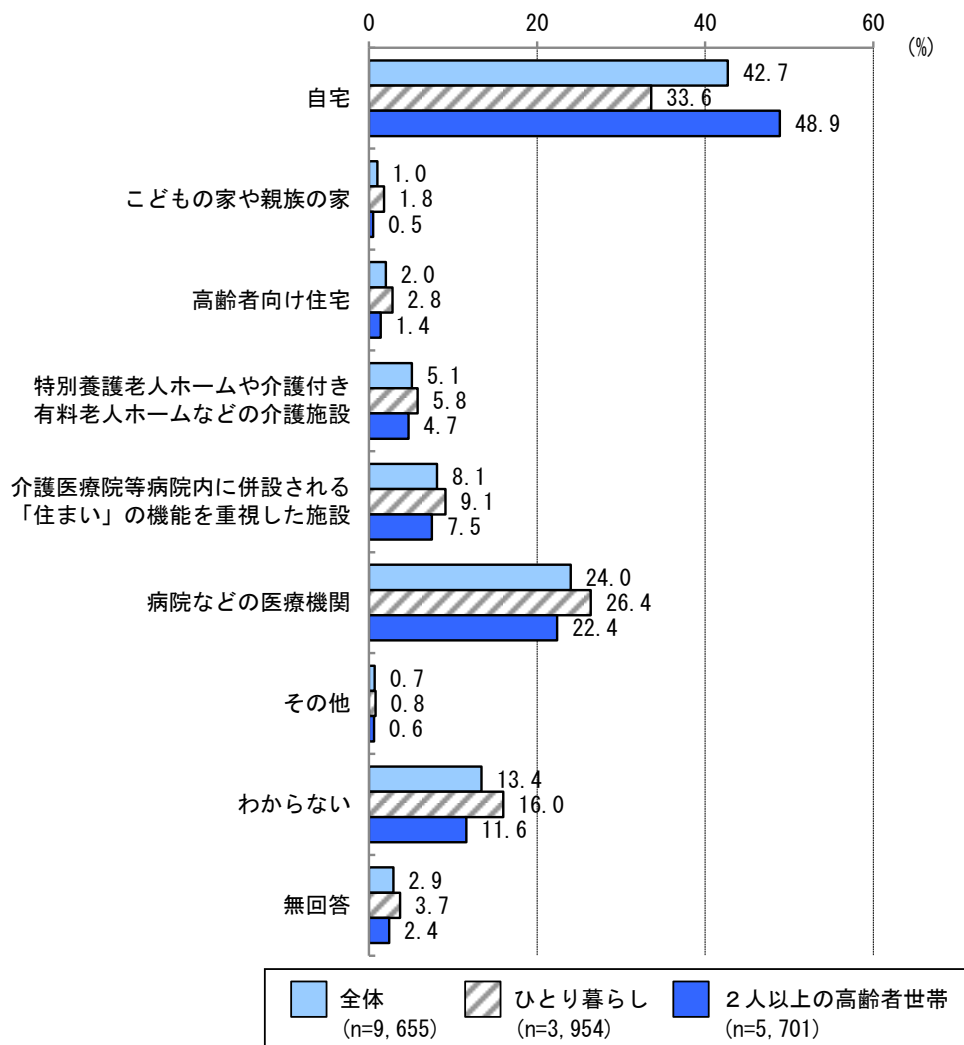
【問12 医療の相談先】



問16 人生の最終段階に過ごしたい場所

ひとり暮らし世帯で「自宅」(33.6%)が最も多いが、2人以上の高齢者世帯の割合に比べ低くなっており、他の住まいや施設の割合がやや高くなっている。(問16)

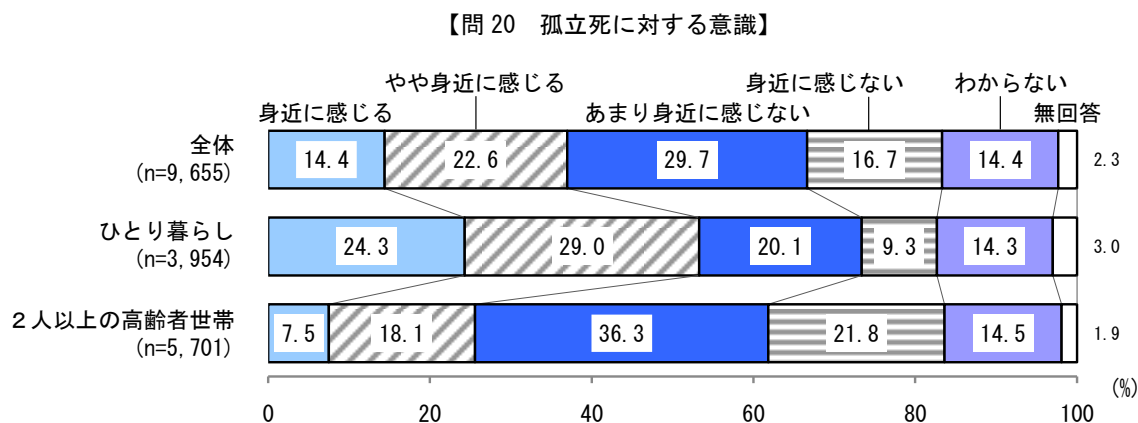
【問16 人生の最終段階に過ごしたい場所】



③地域生活支援

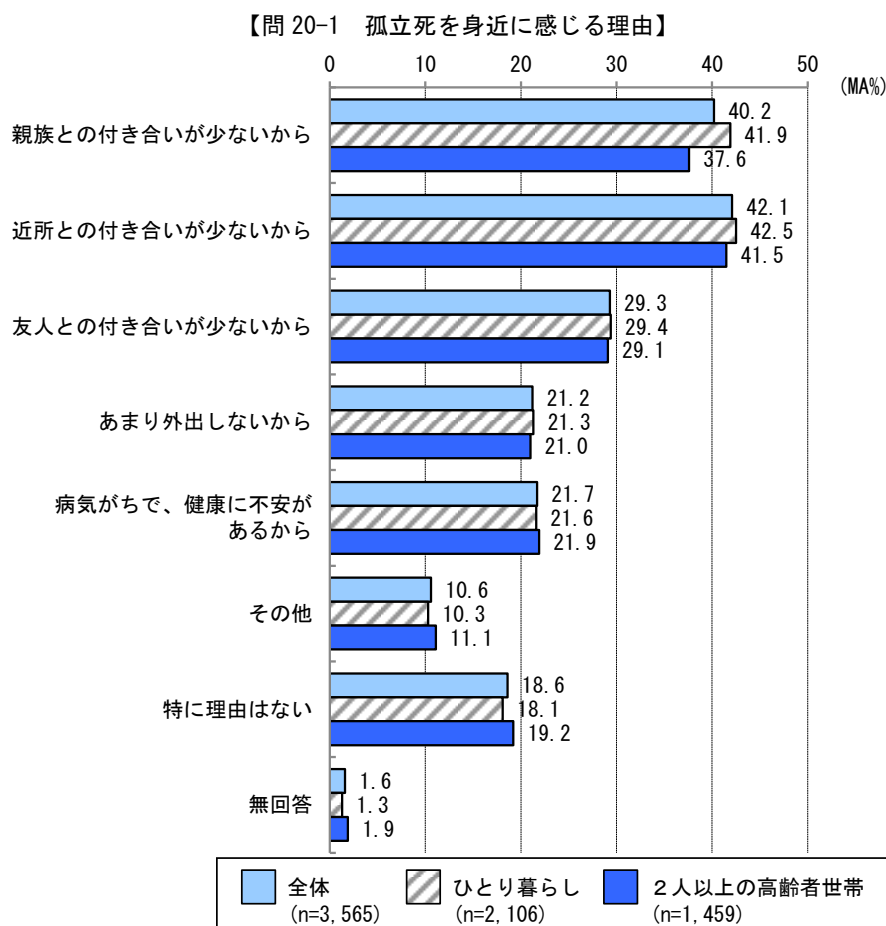
問20 孤立死に対する意識

ひとり暮らし世帯で『身近に感じる』（「身近に感じる」と「やや身近に感じる」をあわせた割合）は53.3%で、2人以上の高齢者世帯の25.6%に比べ、27.7ポイント高くなっている。（問20）



問20-1 孤立死を身近に感じる理由

孤立死が身近に感じる理由は、ひとり暮らし世帯で「近所との付き合いが少ないから」（42.5%）や「親族との付き合いが少ないから」（41.9%）が多くなっている。2人以上の高齢者世帯に比べ、「親族との付き合いが少ないから」の割合がやや高くなっているが、それ以外の理由は2人以上の高齢者世帯の割合とほぼ同程度となっている。（問20-1）

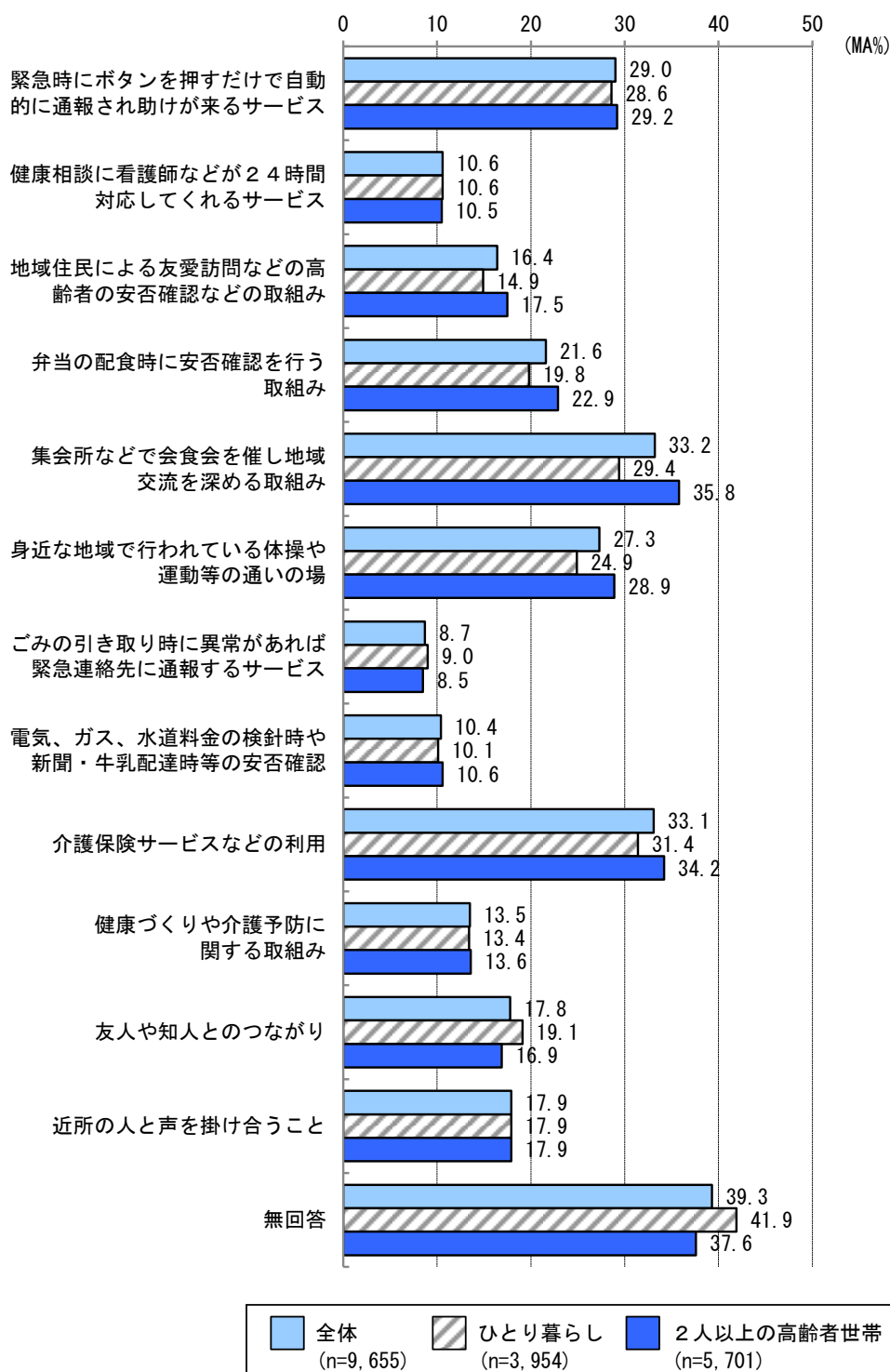


問21 地域での見守り活動の認知度と必要性

(ア) 地域での見守り活動の認知度

ひとり暮らし世帯で「介護保険サービスなどの利用」(31.4%)や「集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み」(29.4%)、「緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス」(28.6%)が多くなっている。「友人や知人とのつながり」の割合は、2人以上の高齢者世帯に比べやや高くなっている。(問21①)

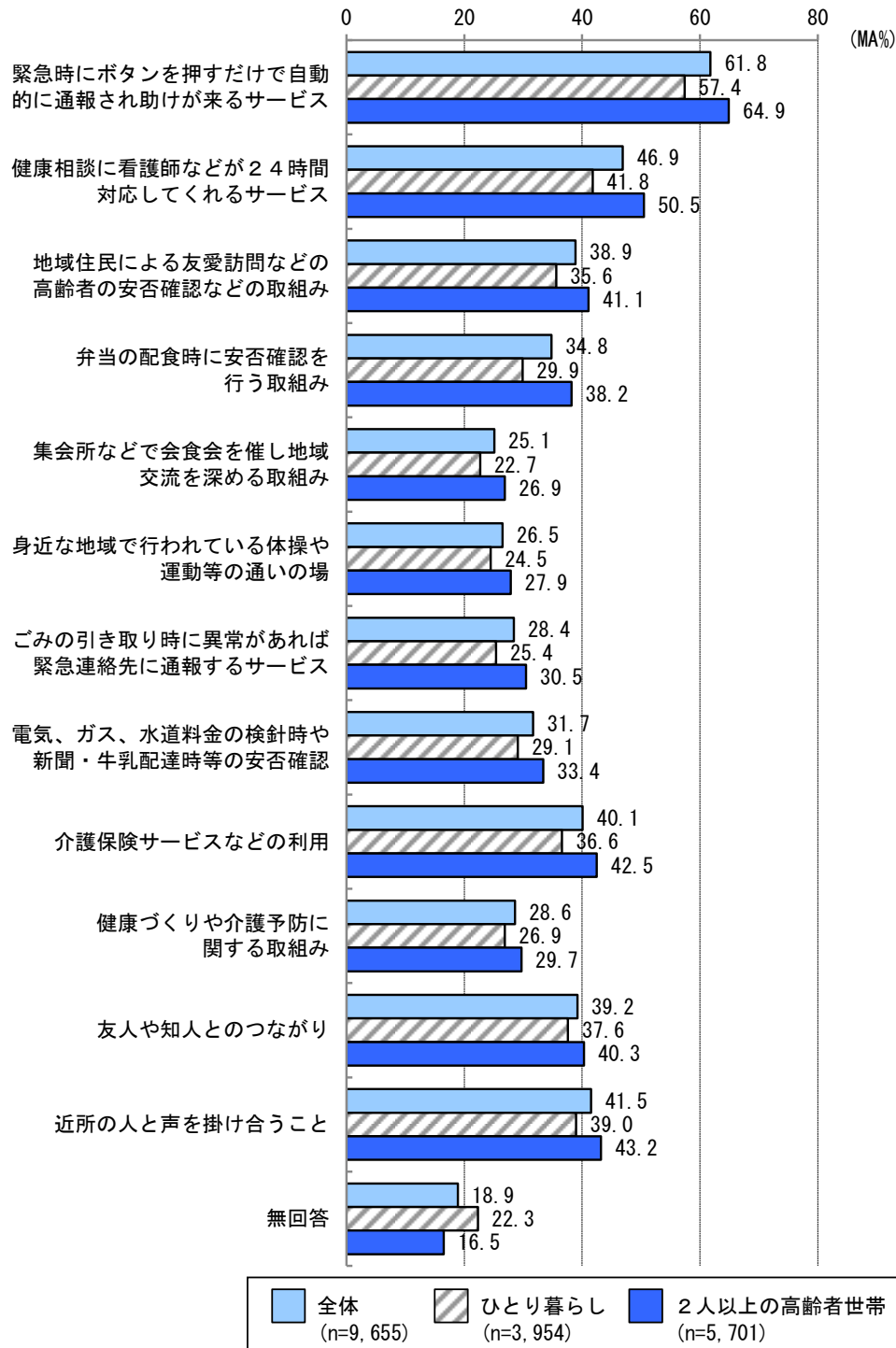
【問 21① 地域での見守り活動の認知度】



(イ) 地域での見守り活動の必要性

ひとり暮らし世帯で「緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス」(57.4%)が最も多く、次いで「健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス」(41.8%)、「近所の人と声を掛け合うこと」(39.0%)となっているが、いずれも2人以上の高齢者世帯の割合に比べ低くなっている。(問21②)

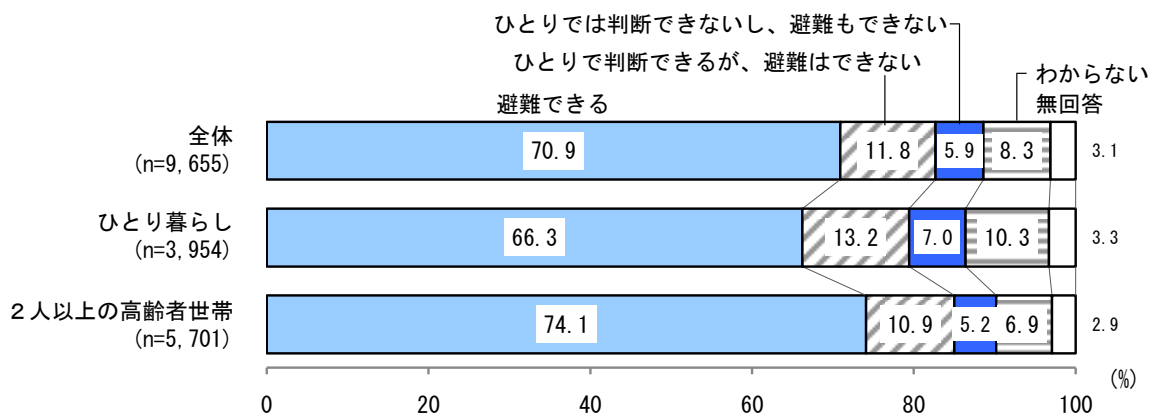
【問 21② 地域での見守り活動の必要性】



問22 災害時・緊急時にひとりでの避難の可否

災害時や緊急時にひとりで避難できるかについては、ひとり暮らし世帯で「避難できる」が66.3%で最も多いが、その割合は2人以上の高齢者世帯に比べ低くなっている。(問22)

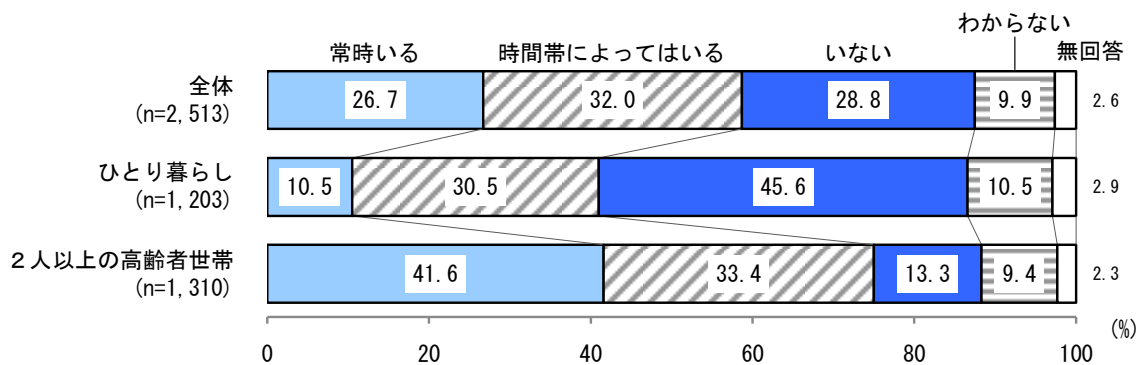
【問 22 災害時・緊急時にひとりでの避難の可否】



問22-1 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無

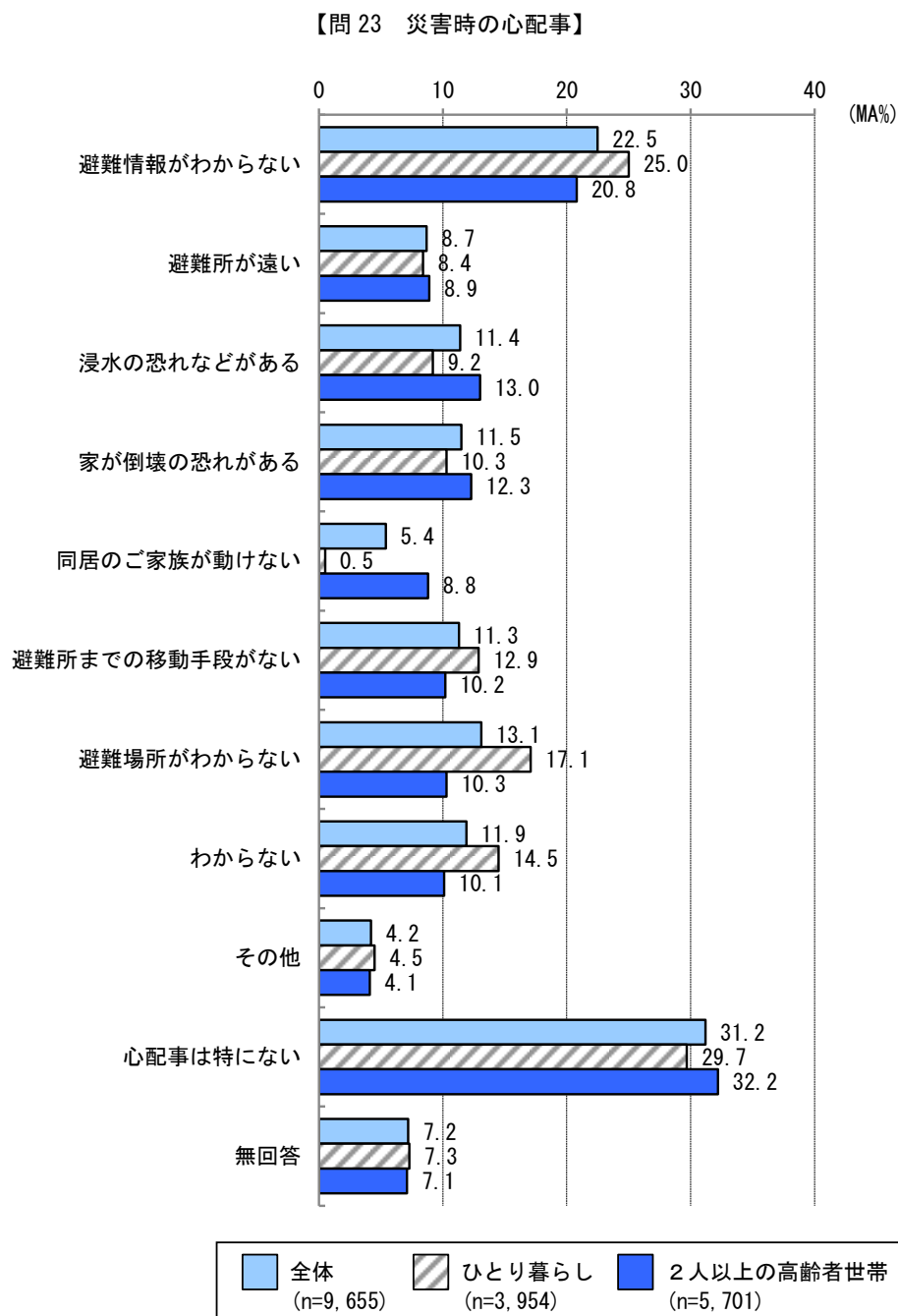
ひとりで避難できない、またはわからないと回答した人で、手助けを頼める人の有無については、ひとり暮らし世帯で「いない」が45.6%となっており、2人以上の高齢者世帯の13.3%に比べ32.3ポイント高くなっている。(問22-1)

【問 22-1 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無】



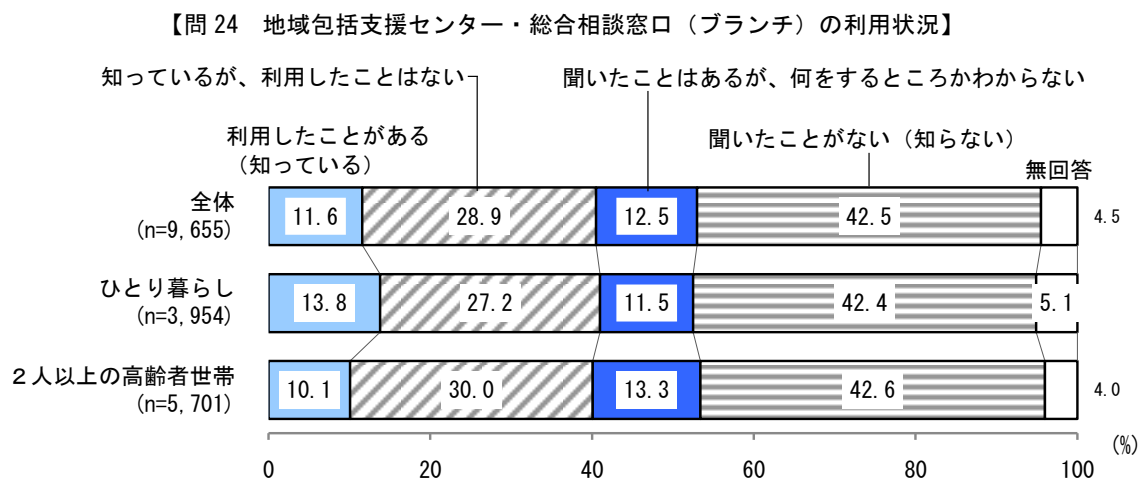
問23 災害時の心配事

ひとり暮らし世帯で「避難情報がわからない」(25.0%)が最も多く、2人以上の高齢者世帯の割合(20.8%)に比べ4.2ポイント高くなっている。また、「避難場所がわからない」がひとり暮らし世帯で17.1%となっており、2人以上の高齢者に比べ6.8ポイント高くなっている。(問23)



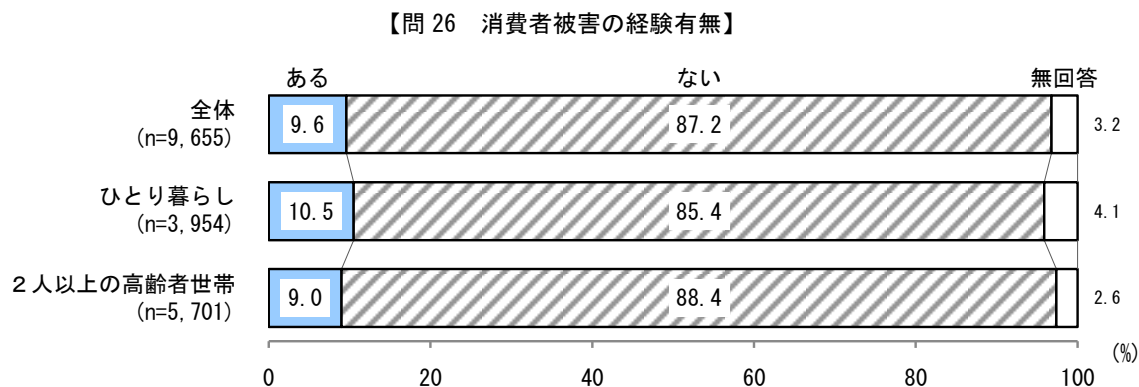
問24 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）の利用状況

ひとり暮らし世帯、2人以上の高齢者世帯とも、地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ブランチ）の利用割合や『知っている』（「利用したことがある（知っている）」と「知っているが、利用したことはない」の合計）割合には大きな差はない。一方、いずれの世帯も4割は「聞いたことがない（知らない）」と回答している。（問24）



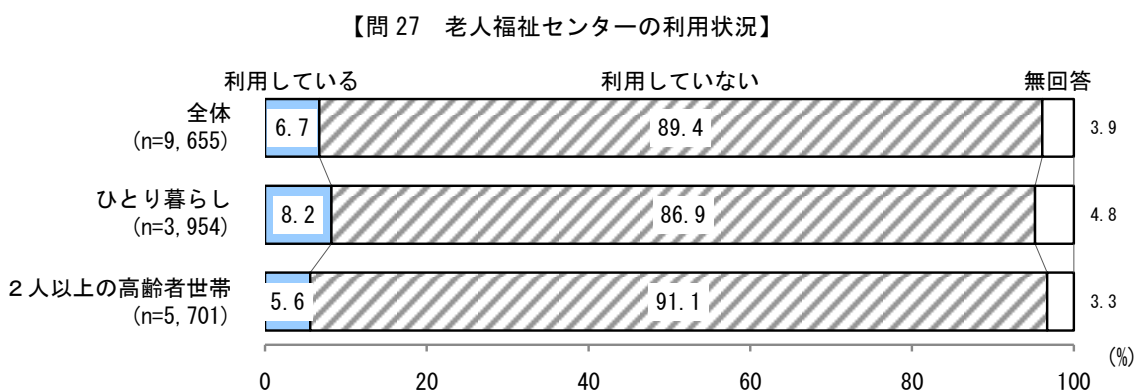
問26 消費者被害の経験有無

ひとり暮らし世帯で消費者被害にあったことや、あいさうになったことがある割合は10.5%となっている。2人以上の高齢者世帯の9.0%と大きな差はない。（問26）



問27 老人福祉センターの利用状況

ひとり暮らし世帯の老人福祉センターの利用割合は8.2%で、2人以上の高齢者世帯に比べやや高くなっている。（問27）



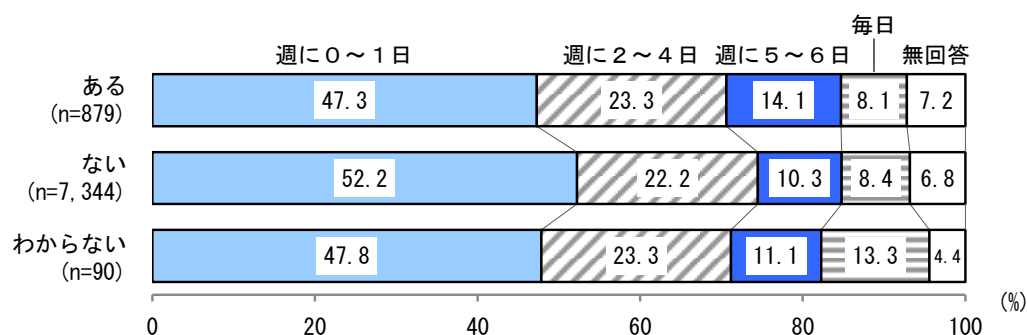
(2) 新型コロナウイルス感染症拡大による高齢者の暮らしへの影響

①世帯の状況

問3-1 昼間の状況

昼間ひとりになる日が「週に2～4日」「週に5～6日」の割合は、感染経験があると回答した高齢者でやや高くなっている。(問3-1)

【問3-1 昼間の状況（新型コロナウイルス感染経験の有無別）】

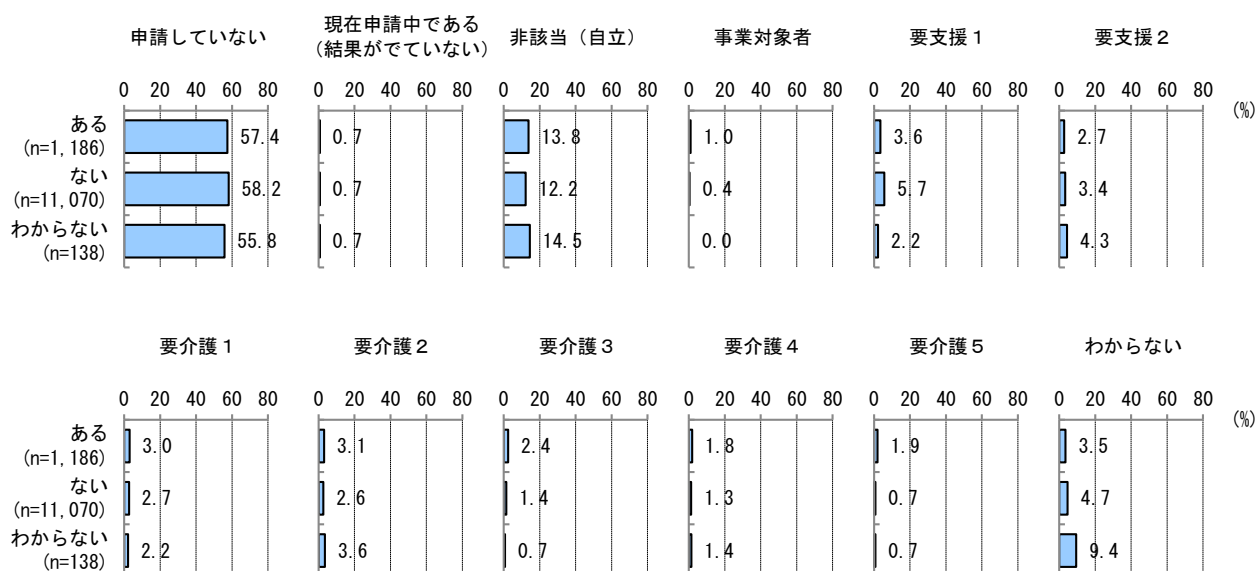


②健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問4 要介護・要支援認定状況

「申請していない」の割合は、感染経験の有無に関わらず、6割弱となっている。(問4)

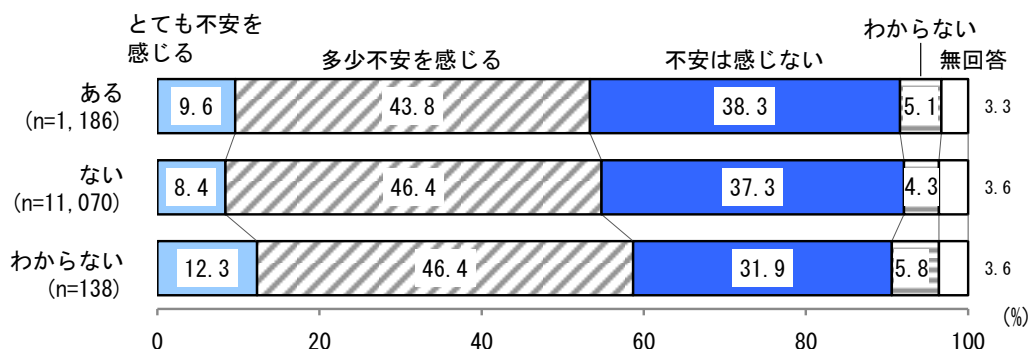
【問4 要介護・要支援認定状況（新型コロナウイルス感染経験の有無別）】



問6 日常生活への不安の有無

『不安を感じている』（「とても不安を感じる」と「多少不安を感じる」の合計）割合は、感染経験があると回答した高齢者が53.4%、感染経験がないと回答した高齢者は54.8%で、感染経験に関わらず過半数を占めている。（問6）

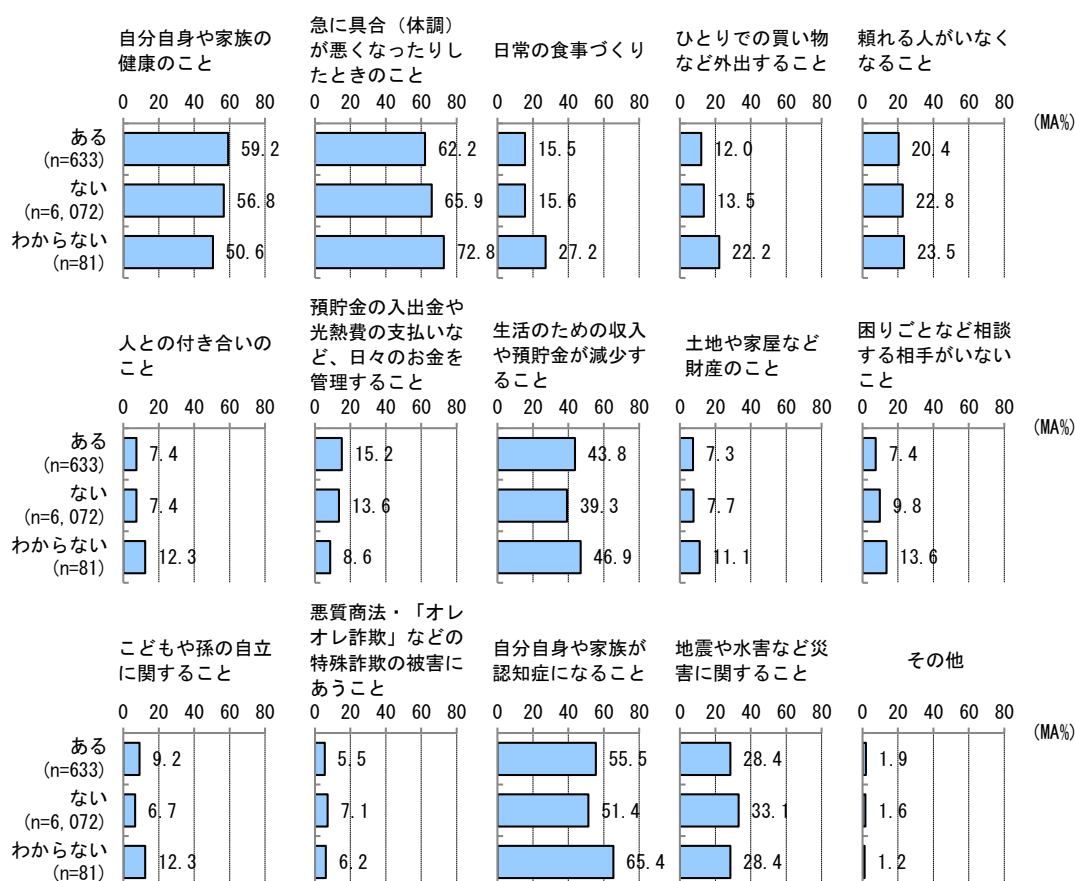
【問6 日常生活への不安の有無（新型コロナウイルス感染経験の有無別）】



問6-1 不安内容

感染経験の有無に関係なく、「自分自身や家族の健康のこと」や「急に具合（体調）が悪くなったりしたときのこと」「生活のための収入や預貯金が減少すること」などが多いが、感染経験の有無での差はみられない。（問6-1）

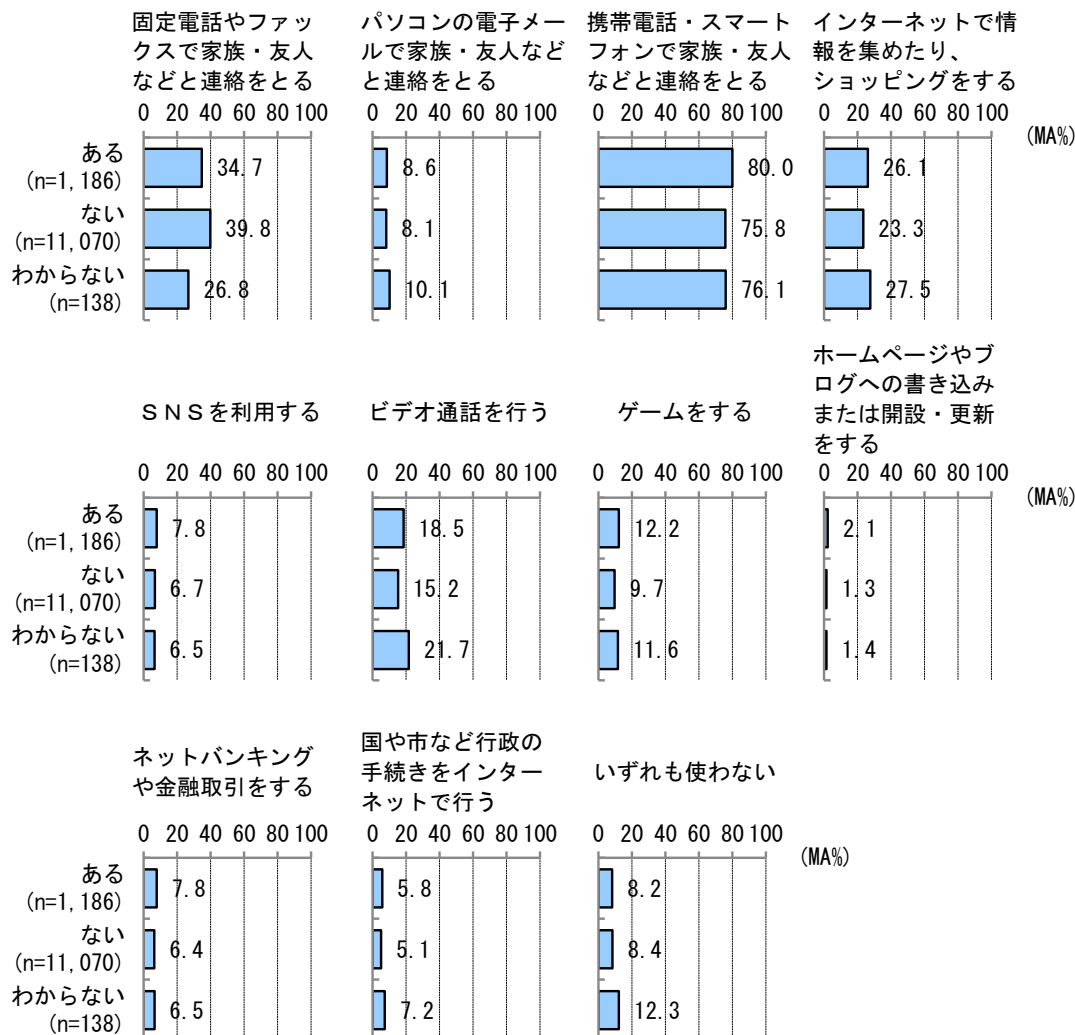
【問6-1 不安内容（新型コロナウイルス感染経験の有無別）】



問11 情報通信機器の利用目的

感染経験の有無に関わらず、「携帯電話・スマートフォンで家族・友人などと連絡をとる」が最も多く、感染経験があると回答した高齢者の割合がやや高くなっている。(問11)

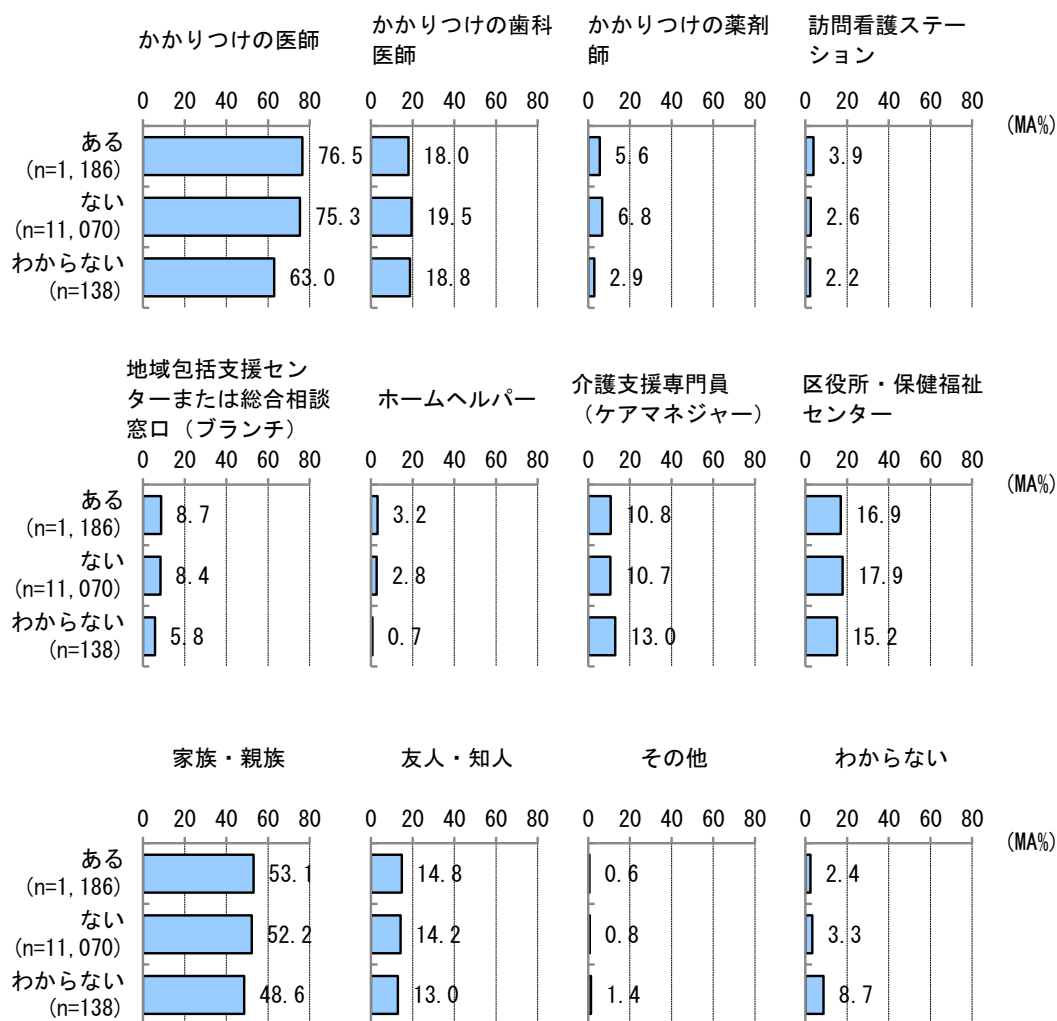
【問11 情報通信機器の利用目的（新型コロナウイルス感染経験の有無別）】



問12 医療の相談先

感染経験に関係なく「かかりつけの医師」が最も多くなっている。(問12)

【問12 医療の相談先（新型コロナウイルス感染経験の有無別）】

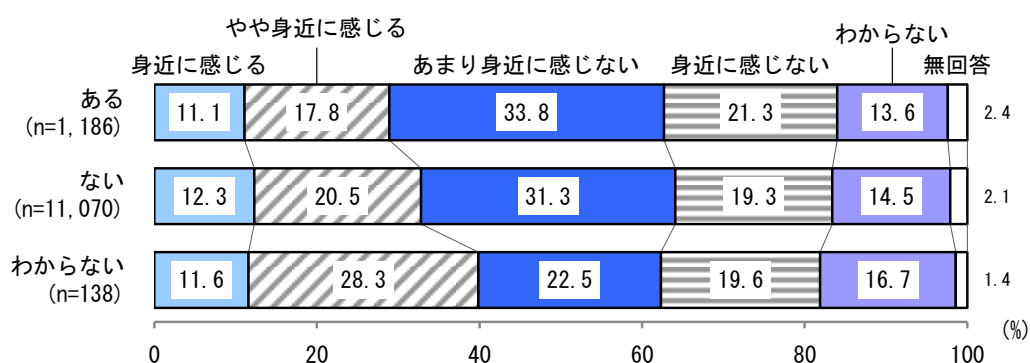


③地域生活支援

問20 孤立死に対する意識

『身近に感じる』（「身近に感じる」と「やや身近に感じる」の合計）の割合は、感染経験がある高齢者が28.9%、感染経験がない高齢者が32.8%となっており、感染経験がないと回答した高齢者でやや高くなっている。（問20）

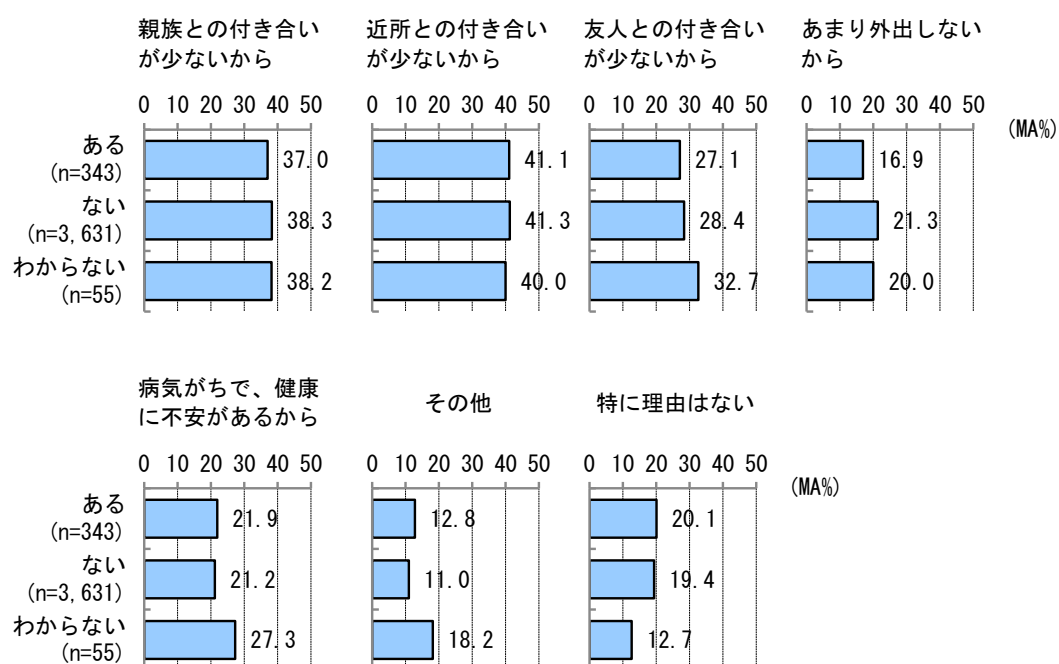
【問 20 孤立死に対する意識（新型コロナウイルス感染経験の有無別）】



問20-1 孤立死を身近に感じる理由

感染経験の有無に関係なく、「近所との付き合いが少ないから」が最も多く、次いで「親族との付き合いが少ないから」となっている。感染経験の有無による差はほとんどない。（問20-1）

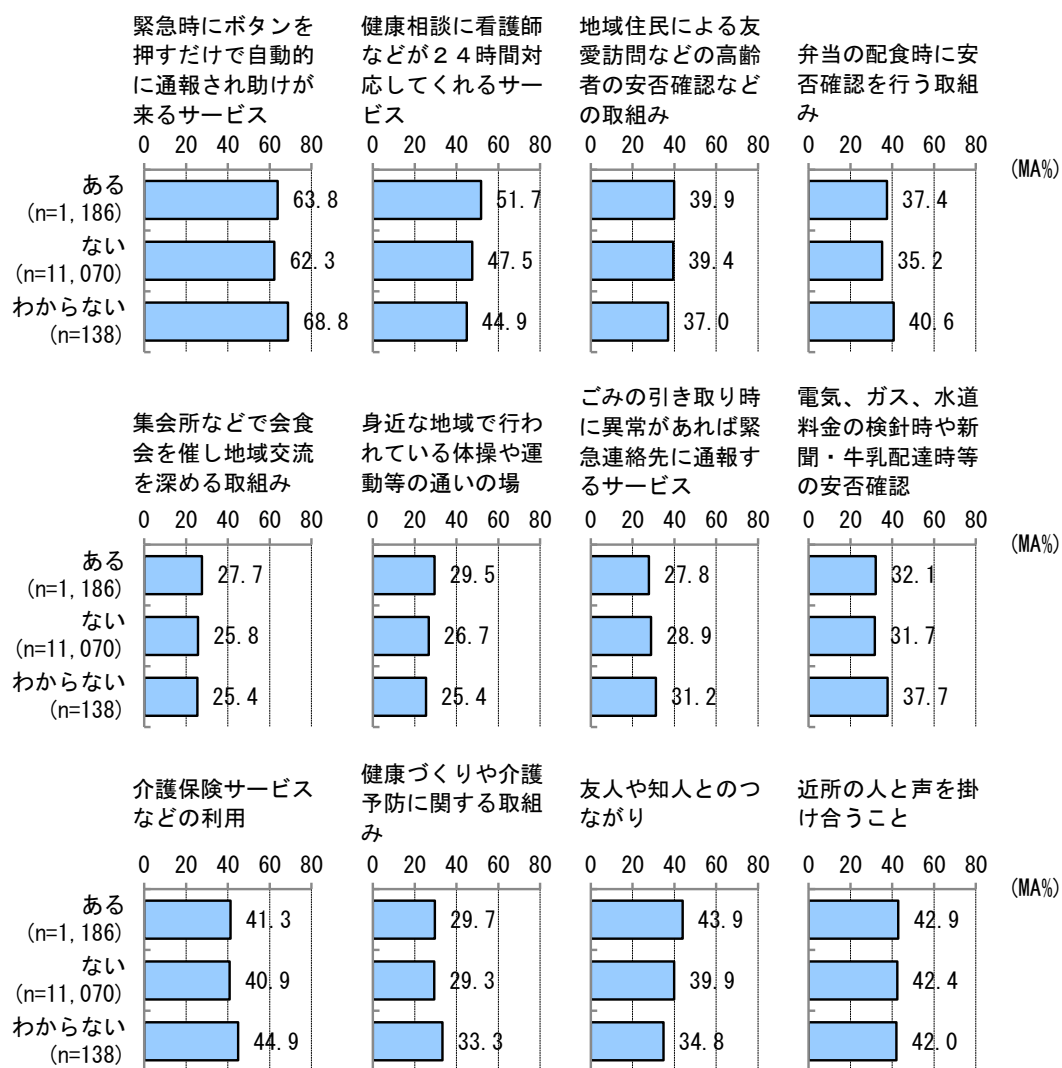
【問 20-1 孤立死を身近に感じる理由（新型コロナウイルス感染経験の有無別）】



問21 地域での見守り活動で必要な取組

「健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス」で、感染経験がないと回答した高齢者に比べ、感染経験があると回答した高齢者の割合がやや高くなっている以外は、いずれの取組も、感染経験の有無で差はみられない。(問21)

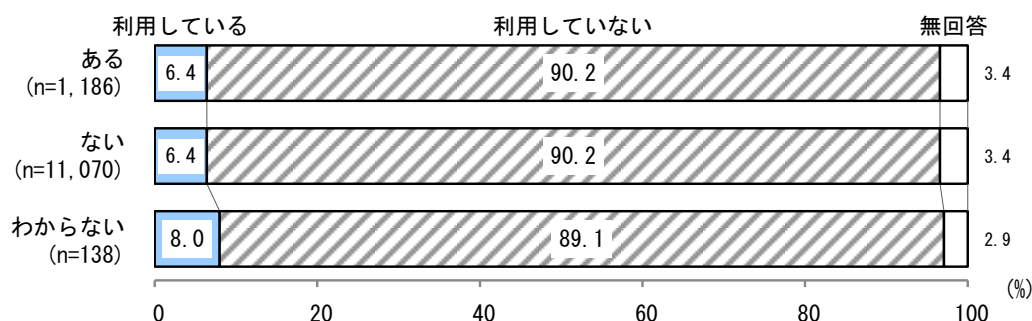
【問21 地域での見守り活動で必要な取組（新型コロナウイルス感染経験の有無別）】



問27 老人福祉センターの利用状況

感染経験の有無に関係なく、「利用している」の割合が6.4%で、「利用していない」が9割を占めている。(問27)

【問 27 老人福祉センターの利用状況（新型コロナウイルス感染経験の有無別）】

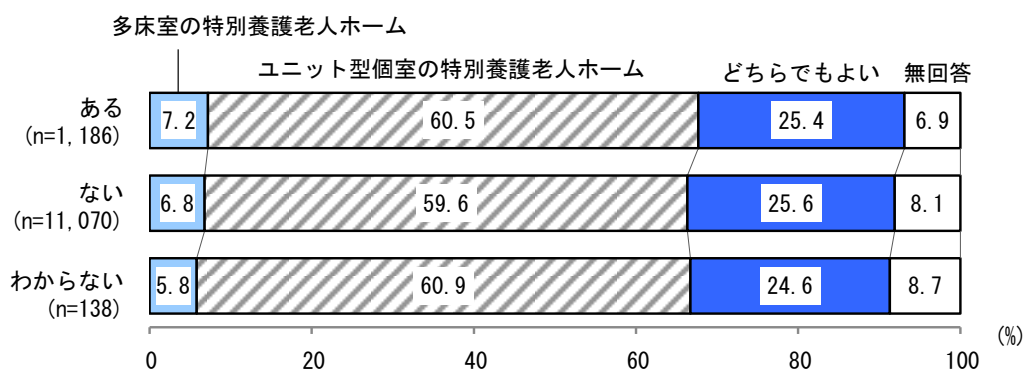


④将来の介護や援護に対する考え

問28 特養入所意向

感染経験の有無に関係なく、「ユニット型個室の特別養護老人ホーム」の割合が6割を占めている。(問28)

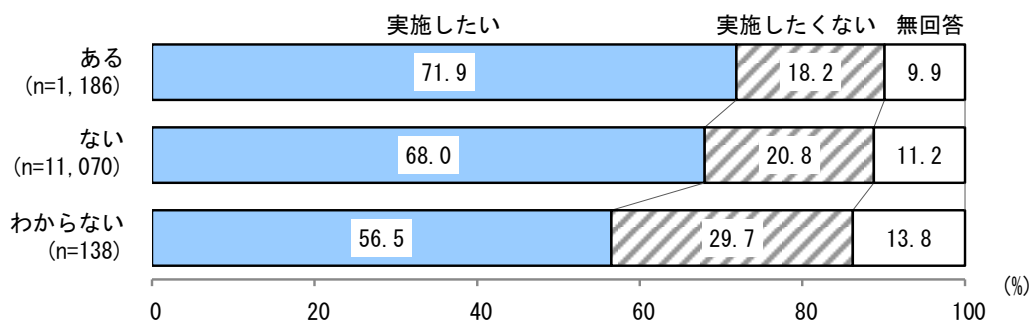
【問 28 特養入所意向（新型コロナウイルス感染経験の有無別）】



問31 自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向

「実施したい」の割合は、感染経験があると回答した高齢者で高くなっている。(問31)

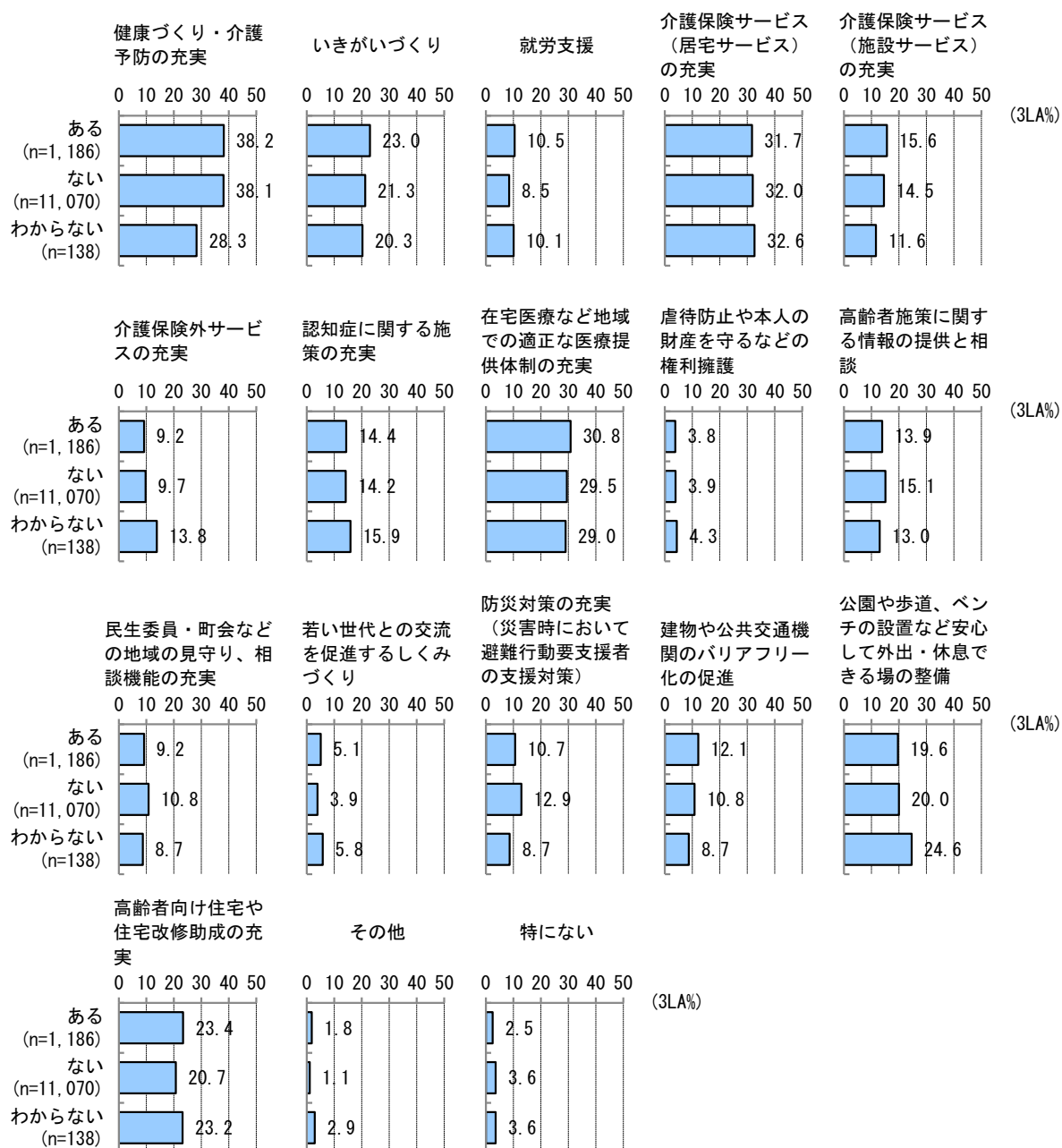
【問 31 自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向（新型コロナウイルス感染経験の有無別）】



問32 重点を置いてほしい高齢者施策

いずれの施策も、感染経験の有無で差はなく、「健康づくり・介護予防の充実」や「介護保険サービス（居宅サービス）の充実」、「在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実」などが多くなっている。（問32）

【問 32 重点を置いてほしい高齢者施策（新型コロナウイルス感染経験の有無別）】



4 調査結果からみえてきた現状と課題

(1) 回答者の世帯の特性

- ・回答者の世帯状況は、「ひとり暮らし」が30.9%、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が36.6%となっており【P12 問3】、性別でみると、ひとり暮らし世帯の割合は、特に女性が35.1%と高くなっております。【P12 問3-a】
- ・ひとり暮らしの割合は高齢になるほど高く、85歳以上での割合は4割近くとなっております。【P13 問3-b】

(2) 高齢者の暮らしぶりや考え方にみる課題

① 介護が必要になった場合の支援ニーズ

介護が必要になった場合、高齢者の多くは、「居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」（40.3%）と回答し、次いで「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」（19.2%）であり、在宅で介護を希望する高齢者は合わせて59.5%であり、前回調査（54.7%）と比較すると4.8ポイント上昇しています。【P20 問5】

② 日常生活を送る上でのニーズ

- ・日常生活全般で何らかの不安を感じている高齢者は、「とても不安を感じる」「多少不安を感じる」を合わせた割合54.6%となっており【P24 問6】、年齢別で見ると、高齢になるほど、「とても不安を感じる」「多少不安を感じる」を合わせた割合高くなっており、85～89歳が62.8%で最も高くなっています。【P25 問6-b】
- ・日常生活への不安内容として多いもののうち、前回調査と比較すると、「急に具合（体調）が悪くなったりしたときのこと」の割合は65.6%で16.8ポイント、「生活のための収入や預貯金が減少すること」の割合は39.7%で11.5ポイント、前回より高くなっています。【P26 問6-1】

③ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活への影響

- ・何らかの影響を受けた高齢者は「特に影響はない（特に影響はなかった）」「無回答」を除く、すべての項目で何らかの影響があったと回答がありました。【P34 問8】
- ・影響内容は、「旅行や買い物などで外出することが減った」（47.1%）や「友人・知人や近所付き合いが減った」（35.4%）、「別居している家族と会う機会が減った」（27.9%）「メール、電話など、情報通信機器での連絡が増えた」（15.4%）などが多くなっています。【P34 問8】
- ・なお、新型コロナウイルス感染症に感染した経験については、「ない」が86.5%で最も多く、「ある」は9.3%となっている状況です。【P37 問9】

④ 高齢者のデジタル・デバイド（情報格差）

- ・所有している情報通信機器については、「テレビ」が92.8%で最も多く、次いで「固定電話」が68.6%、「スマートフォン」が53.4%、「ラジオ」が53.0%となっております。【P37 問10①】
- ・そのうち、普段利用している情報通信機器は、「テレビ」が78.5%で最も多く、次いで「スマートフォン」が47.1%、「固定電話」が41.6%、「ラジオ」が26.5%となっております。【P37 問10②】

- ・情報通信機器の利用状況については、スマートフォンやタブレット端末、パソコンなどのデジタル機器を利用する割合は、低年代層ほど高く、高年代層で低くなっていますが、高年代層は固定電話や携帯電話を利用されていることがうかがえます。【P43 問10】
- ・情報通信機器の利用目的については、「携帯電話・スマートフォンで家族・友人などと連絡をとる」が75.8%で利用目的の第1位である一方【P46 問11】、情報通信機器を利用しない理由は、年代に関係なく、「必要性を感じないから」や「使い方がわからず、面倒だから」が多くなっております。【P51 問11-1-b】

（３）医療と介護連携に関する高齢者の考え方にみる課題

① 在宅医療に対するニーズ

- ・医療が必要になった時の相談先は、「かかりつけの医師」（75.0%）が最も多く、前回調査と比較すると14.5ポイント上昇しています【P52 問12】。かかりつけ医をもつことについて引き続き啓発していく必要があると考えます。
- ・「希望すれば在宅医療を受けられることを知っている」割合は49.0%であり、前回調査と比較すると5.1ポイント上昇しております【P53 問13】。引き続き在宅医療についても周知する必要があると考えます。

② 認知症施策に対するニーズ

認知症の人に必要な支援として、「認知症の早期発見への取組み」（63.0%）や「認知症予防に関する取組みの充実」（55.0%）、「認知症の人を介護するご家族に対する支援」（53.0%）、「認知症に関する介護保険サービスや福祉サービスの充実」（50.1%）などが上位となっており、前回調査と比較すると、「認知症に関する介護保険サービスや福祉サービスの充実」が16.0ポイント、「認知症の人を介護するご家族に対する支援」が9.5ポイントそれぞれ増加しています。【P71 問19】

（４）安心・安全に関する高齢者の考え方にみる課題

① 孤独死への対応

- ・高齢者のうち、「身近に感じる」「やや身近に感じる」を合わせた32.6%が孤立死を身近に感じると回答しています。【P74 問20】
- ・孤立死を身近に感じる理由として多いものは、「近所との付き合いが少ないから」（41.3%）や「親族との付き合いが少ないから」（38.2%）、「友人との付き合いが少ないから」（28.6%）が上位となっています。【P77 問20-1】
- ・地域での見守り活動で必要と思う取り組みについては、前回調査と比較すると、すべての活動・事業で必要と思われる割合が増加しています。特に増加ポイントが高いのは「緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス」（11.4ポイント増）、「健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス」（11.0ポイント増）、「介護保険サービスなどの利用」（12.4ポイント増）となっております。【P83 問21②】
- ・コロナ禍を背景に、健康や緊急時の対応への不安、また社会的なつながりを失った高齢者の増加を踏まえ、高齢者が安心して、生きがいや役割を持って生き生きと暮らさせていけるよう支援していく必要があると考えます。

② 災害時・緊急時の対応

- ・災害時や緊急時にひとりで避難できるかについては、「避難できる」が69.5%で、前回調査より高くなっています。一方、「ひとりで判断できるが、避難はできない」(12.3%)と「ひとりでは判断できないし、避難もできない」(7.0%)をあわせた『避難できない』は19.3%となっており、前回調査より高くなっています。【P88 問22】
- ・災害発生時の心配事として、「避難情報がわからない」(22.3%)が最も多くなっています。一方、心配事は特にないという回答が最も多い状況となっています。【P93 問23】
- ・支援が必要な高齢者に、災害発生時の避難にあたって必要な情報を漏れなく届けるための取組みが重要です。
- ・「避難所までの移動手段がない」の割合は、加齢とともに上昇し、90歳以上で22.4%となっており、5人に1人が避難先まで行くことができないとの調査結果が出ております。【P95 問23-b】
- ・災害発生時の避難支援等につながるよう、要援護者名簿を活用した地域での見守り活動を支援する必要があります。

③ 高齢者の人権を脅かす行為への対応

- ・高齢者虐待を受けた場合の通報・相談先を「知っている」割合は12.8%に対し、「知らない」が82.6%を占め、前回調査と比較すると、「知らない」が6.3ポイント上昇しております。【P107 問25】
- ・認知率は低下しており、高齢者虐待に関する通報・相談先の周知が引き続き重要です。
- ・消費者被害にあったことや、あいさうになったことが「ある」割合は9.4%と、被害にあった経験のある高齢者の割合は増加しています。【P109 問26】
- ・消費者被害に関する情報提供や被害防止に向けた知識の普及・啓発に努めることが重要です。

(5) 市が提供するサービスや施設利用にみる課題

① 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）

- ・地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ブランチ）の利用状況については、「利用したことがある(知っている)」(11.7%)と「知っているが、利用したことはない」(29.2%)をあわせた『知っている』割合が40.9%となっており、前回より2.5ポイント高くなっております。しかし、「聞いたことがない(知らない)」(42.0%)の割合は依然として多くみられます。【P98 問24】
- ・地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ブランチ）を聞いたことがない(知らない)の割合は79歳以下の年代で高く、「利用したことがある(知っている)」割合は、介護の必要な状態になるケースが増える80歳以上の年代(特に90歳以上)で上昇傾向にあります。【P99 問24-b】
- ・地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ブランチ）の認知経路は、「介護支援専門員・ホームヘルパー・施設職員などから聞いた」(25.0%)や「区役所・保健福祉センターから聞いた」(19.5%)が多くなっています。【P102 問24-1】
- ・地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ブランチ）の利用者のセンター等の利用（相談）目的は、「介護や日常生活の困りごと」(62.7%)や「要支援1、要支援2の認定を

- 受けた後のサービス利用について」(53.8%)が多くなっています。【P105 問24-2】
- ・近年、センター等が受ける相談は、課題が複雑化・複合化した内容が増加しており、地域包括支援センターや総合相談窓口（ブランチ）の相談機能の強化が重要です。

② 老人福祉センター

- ・高齢者の89.6%は、老人福祉センターを「利用していない」と回答し、「利用していない」の割合は、前回調査と比較すると4.4ポイント上昇しています。【P111 問27】
- ・前回調査の結果同様、老人福祉センターを利用していない理由としては、「サービス内容を知らない」(40.6%)や「施設がどこにあるか知らない」(18.4%)、「仕事・地域活動等が忙しい」(11.6%)などの回答が多くなっています。【P114 問27-1】
- ・引き続き老人福祉センターに関する周知が必要であると考えます。

③ 特別養護老人ホーム

- ・特別養護老人ホームの整備について、「介護保険料が高くなるのは困るが、ある程度増やす必要があると思う」(53.8%)と「介護保険料がある程度高くなっても、今後も特別養護老人ホームを増やす必要があると思う」(12.3%)を合わせると、6割を超える高齢者が増設の必要性を感じています。【P117 問29】。
- ・特別養護老人ホームの整備については、入所の必要性、緊急性が高い入所申込み者が概ね1年以内に入所が可能となるよう認定者数の伸びを勘案しながら、目標整備数を定めて、整備してきました。
- ・令和6年度以降の目標整備数については、次期（第9期）「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」において定めることとしております。

④ その他の高齢者向け施設・事業

- ・「利用あり」の割合が最も高い事業は、「敬老優待乗車証」(54.5%)で、半数以上の高齢者が利用しています。本事業以外で利用されている事業の割合は1割未満と低く、「知らない」が多くなっています。【P120 問30】
- ・また、「知っており、今後利用したい」の割合が高い事業等は、「市立文化施設等敬老優待」(24.0%)、「緊急通報システム事業（携帯型）」(22.5%)などです。【P120 問30】
- ・「介護予防ポイント事業」をはじめ、「認知症高齢者見守りメール」や「認知症高齢者位置情報探索事業（GPS）」「あんしんさぽーと事業」は、利用者が限定されるため「知らない」割合が高くなっています。【P120 問30】
- ・利用度や認知度が低い事業については、事業の対象となる高齢者や介護者に当該事業に関する情報が的確に伝わるよう情報の提供方法を工夫する必要があると考えます。
- ・重点を置いてほしい高齢者施策は、「健康づくり・介護予防の充実」が37.9%で最も多く、次いで「介護保険サービス（居宅サービス）の充実」が31.6%、「在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実」が29.3%となっております。【P123 問32①】

（6）ひとり暮らし高齢者の暮らしに関する意識と実態にみる課題

- ・ひとり暮らし高齢者は女性の割合が高く【P133 問2(1)】、80歳以上の年代層で割合が高くなっています。【P133 問2(2)】
- ・日常生活への不安の有無ですが、ひとり暮らし世帯では「とても不安を感じる」、「多少不安を感じる」割合が高くなっております。【P133 問6】

- ・介護が必要になった場合の暮らし方では、「特別養護老人ホーム等の施設に入所したい」と「高齢者向けに配慮された住宅に入居したい」の割合も高くなっています。【P135 問5】
- ・ひとり暮らし高齢者の日常生活への不安内容では、「急に具合（体調）が悪くなったりしたときのこと」の割合が82.2%となっており、2人以上の高齢者世帯に比べて高くなっています。【P136 問6-1】
- ・孤立死を身近に感じる理由では、親族や近所との付き合いが少ないことを理由に、孤独死を身近に感じている割合が2人以上の高齢者世帯に比べ高くなっています。【P144 問20-1】
- ・ひとり暮らし高齢者の不安を解消する必要があると考えます。

（7）新型コロナウイルス感染拡大による高齢者の暮らしへの影響にみる課題

新型コロナウイルス感染経験の有無で受けた高齢者の暮らしの影響を比べましたが、各設問において、感染の有無による影響にほとんど、差は見られませんでした。【P150～P157】

※本調査はオミクロン株（B A 5）流行時期に調査したものです。